

消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事

設計図面

令和7年4月

男鹿地区消防一部事務組合 消防本部

設計図面一覧表

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
A0-01	位置図	D3-04	消防本部基地局 局舎内機器配置図	S3-01	北分署 機器撤去図
A0-02	消防救急デジタル無線 機器一覧表	D3-05	消防本部基地局 立面図（新設）	S3-02	北分署 機器配置図
A0-03	高機能消防指令システム 機器一覧表（1）	D4-01	消防本部 屋上既設機器配置図	S3-03	北分署 配線図（1）
A0-04	高機能消防指令システム 機器一覧表（2）	D4-02	消防本部 屋上機器配置図	S3-04	北分署 配線図（2）
A0-05	撤去機器一覧表	D4-03	消防本部 発電設備鉄骨架台参考図	S4-01	東分署 機器撤去図
A0-06	消防救急デジタル無線システム構成図	D5-01	北分署 機器配置図	S4-02	東分署 機器配置図
A0-07	高機能消防指令システム構成図	D6-01	東分署 機器配置図	S4-03	東分署 配線図（1）
A0-08	高機能消防指令システム署所配線系統図	D7-01	若美分署 機器配置図	S5-01	東分署 配線図（2）
A0-09	構内電話機交換設備 機器構成図	D8-01	天王分署 機器配置図	S5-01	若美分署 機器撤去図
D1-01	スカイタワー基地局 1階平面図	D9-01	天王南分署 機器配置図	S5-02	若美分署 機器配置図
D1-02	スカイタワー基地局 立面図	D10-01	大湊分署 機器配置図	S5-03	若美分署 配線図（1）
D1-03	スカイタワー基地局 断面図・屋上平面図（既設）	D11-01	車載型無線装置取付参考図（1）	S6-01	天王分署 機器撤去図
D1-04	スカイタワー基地局 断面図・屋上平面図（新設）	D11-02	車載型無線装置取付参考図（2）	S6-02	天王分署 機器配置図
D1-05	消防無線通信機械室 既設機器配置図	D11-03	車載型無線装置取付参考図（3）	S6-03	天王分署 配線図（1）
D1-06	消防無線通信機械室 機器配置図	D11-04	車載型無線装置取付参考図（4）	S7-01	天王南分署 機器撤去図
D1-07	旧E V機械室機器配置図	S1-01	消防本部増設棟 機器配置図	S7-02	天王南分署 機器配置図
D2-01	北分署基地局 1階平面図（既設）	S1-02	消防本部増設棟 配線系統図（電源）	S7-03	天王南分署 配線図（1）
D2-02	北分署基地局 断面図（既設）	S1-03	消防本部増設棟 配線系統図（通信）	S7-04	天王南分署 配線図（2）
D2-03	北分署基地局 1階平面図（新設）	S1-04	消防本部増設棟 無線分電盤改造図	S8-01	大湊分署 機器撤去図
D2-04	北分署基地局 断面図（新設）	S1-05	消防本部増設棟 UPS分電盤図	S8-02	大湊分署 機器配置図
D2-05	北分署基地局 配線図（新設）	S2-01	消防本部・消防署 1階機器配置図	S8-03	大湊分署 配線図（1）
D3-01	消防本部基地局 平面図（既設）	S2-02	消防本部・消防署 2階機器配置図	S8-04	大湊分署 配線図（2）
D3-02	消防本部基地局 局舎内既設機器配置図	S2-03	消防本部・消防署 1階配線図		
D3-03	消防本部基地局 平面図（新設）	S2-04	消防本部・消防署 2階配線図		



位置図

1 消防救急デジタル無線

- (1) 消防本部基地局 (男鹿市船川港金川字姫ヶ沢 1 6 2 - 1 8)
(2) スカイタワー基地局 (潟上市天王字江川上谷地 1 0 9 - 2)
(3) 北分署基地局 (男鹿市北浦北浦字種田 6 9 - 3)

※無線回線制御装置は消防本部機械室に設置

2 高機能消防指令システム

- (1) 男鹿地区消防本部 (男鹿市船川港船川字海岸通り 2 号 1 2 - 7)
(2) 男鹿地区消防署 (男鹿市船川港船川字海岸通り 2 号 1 2 - 7)
(3) 北分署 (男鹿市北浦北浦字種田 6 9 - 3)
(4) 東分署 (男鹿市脇本脇本字上谷地 1 3 0 - 1)
(5) 若美分署 (男鹿市鶴木字下潟端 2 1 2)
(6) 天王分署 (潟上市天王字蒲沼 9 9 - 5)
(7) 天王南分署 (潟上市天王字北野 1 - 1 8)
(8) 大潟分署 (南秋田郡大潟村字東二丁目 2 - 2)

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	-		
図 面 名	位置図		
作 成 年 月 日	令和 7 年 3 月		
縮 尺	No scale	図面番号	A0-01
事 業 者 名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		

1 統制局・基地局

項	機 器 名	数 量	備 考
1	無線回線制御装置	1台	32ch
2	管理監視制御卓		
	(1)管理監視制御装置	1 式	プリンタ含む
3	高機能遠隔制御装置	2 台	
4	遠隔制御装置	2 台	
5	基地局無線装置 基本架	3 台	統制波3 c h切替
6	基地局無線装置 増設架	3 台	4 T R X実装
7	空中線共用器		
	(1)空中線共用器 (6ch)	3 台	
8	空中線		
	(1)反射素子付コーリニア型	2 基	
	(2)2素子八木型	2 基	
	(3)3素子八木型	2 基	
9	同軸避雷器	6 式	基地局用
10	ネットワーク装置		
	(1) 基地局	3 式	
11	D C／A Cインバータ		
	(1) 基地局	3 式	
12	エアコン (局舎用)	4 式	スカイタワー基地局は2台

2 移動局

項	機 器 名	数 量	備 考
1	車載型無線装置		
	(1)車載型無線機	33式	2 6 0 M H z
	(2)車載型空中線	66式	同軸ケーブルは付属とする。
	(3)空中線共用器 (車載型)	33式	2 6 0 M H z
	(4)ハンドセット	33式	
	(5)外部スピーカ (箱型)	34式	車両用
	(6)外部スピーカ	36式	ポンプ車用
	(トランペット型)		
	(7)副制御器	8 式	
2	卓上型無線機		
	(1)卓上型半固定無線機	7 式	2 6 0 M H z
	(2)無線受令機	13式	2 6 0 M H z
	(2)空中線共用器 (車載型)	7 式	
	(3)同軸避雷器	14台	無線受令機用含む
	(4)空中線 (スリープアンテナ)	14基	無線受令機用含む
	(5)空中線 (ホイップアンテナ)	13基	
3	可搬型無線機	2 式	2 6 0 M H z、付属品・充電器含む
4	携帯型無線機	22式	2 6 0 M H z 充電器、予備BATT、付属品含む

3 署活系無線機

項	機 器 名	数 量	備 考
1	署活系無線機 (シングル)	31台	
2	署活系無線機 (デュアル)	18台	

4 I P無線機

項	機 器 名	数 量	備 考
1	I P無線機 (トランシーバ)	30台	

5 衛星無線機

項	機 器 名	数 量	備 考
1	トランシーバ型	3台	
2	車載型	1台	

6 電源設備

項	機 器 名	数 量	備 考
1	消防救急デジタル無線システム		
	(1) 直 流 電 源 装 置	4 式	48V 50A 消防本部、3 基地局
	パワーユニット交換		
	(2)蓄電池 交換	4 式	長寿命型MSE
	(3)非常用発動発電機	1 式	必要量 (既設70KVA) 消防本部
	(4)油庫	1 式	72時間稼働容量 (既設重油1300L) 消防本部
	(5)変圧トランス	1 式	3 相200V→単相100V-200V
	(6)非常用発動発電機	1式	5. 0KVA 北分署基地局用
	(7)可搬型非常用発電機	6 台	2. 8KVA (既設容量) 分署用

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	-		
図 面 名	消 防 救 急 デ ジ タ ル 無 線 機 器 一 覧 表		
作 成 年 月 日	令和 7 年 3 月		
縮 尺	No scale	図面番号	A0-02
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		

1 消防本部

項	機 器 名	数 量	備 考
1	(1)指令台	2 台	1 席 4 画面構成 (自動出動、地図装置) 通常時：指令台 1 席 4 画面× 2 輻輳時：指令台 1 席 2 画面× 3
	(2)自動出動指定装置		
	ア 制御処理装置	1 式	サーバ2台による二重化構成
	イ ディスプレイ	2 面	タッチディスプレイ
	(3)地図等検索装置		
	ア 地図等検索装置	2 台	
	イ 地図用ディスプレイ	2 面	タッチディスプレイ
	ウ 地図データ	1 式	
	(4)支援情報表示装置		
	ア 制御処理装置	2 台	
	イ 支援情報ディスプレイ	2 面	タッチディスプレイ
	※(5)受付補助装置	2 台	タッチディスプレイ ※メーカーによる
	(6)手書きメモ入力装置	2 台	
	(7)長時間録音装置	1 台	
	(8)非常用指令設備	1 式	光 I P 回線対応
	(9)指令制御装置	1 式	光 I P 回線対応、拡張装置含む
	(10)携帯電話・ I P 電話受信転送装置	1 式	
	(11)プリンタ	1 台	A 3 対応、モノクロレーザー
	(12)カラープリンタ	1 台	A 3 対応レーザー
	(13)スキャナ	1 台	A 3 対応
	(14)拡張台	1 台	指揮台分含む
	(15)データメンテナンス		
	ア 制御処理装置	1 式	
	イ ディスプレイ	1 台	
	表示盤	1 台	設置キャビネット含む
	(1)支援情報表示盤	1 面	65インチ以上 24時間連続使用 マルチ画面分割対応品
	(2)車両運用表示盤	1 面	65インチ以上 24時間連続使用 マルチ画面分割対応品
	(3)多目的情報表示盤	1 面	65インチ以上 24時間連続使用 マルチ画面分割対応品
	(4)情報収集用表示盤	1面	43インチ以上 24時間連続使用
	(5)映像制御装置	1 式	制御装置・操作部・録画再生装置等含む マルチ画面分割制御
	(6)表示盤端末	1 式	
3	指揮台	1 式	1-(1) (2) (3) (4) ※ (5) と同等品
4	指令電送装置		
	(1) 指令情報送信装置	1 式	
5	気象情報収集装置		
	(1)気象情報収集装置	1 式	
	(2)気象情報収集端末	1 式	風向、気温、湿度、雨量

1 消防本部

6	災害状況等自動案内	1 式	
7	順次指令装置	1 式	電話回線対応型
8	音声合成装置	1 式	
9	出動車両運用管理装置		
	(1)出動車両管理装置	1 式	分署用Wi-Fiアクセスポイント含む
	(2)車両運用端末装置 (Ⅱ型)	2 式	
	(2)車両運用端末装置 (Ⅲ型)	32台	
	(3)車外設定端末装置 (2箇所)	24式	
10	システム監視装置	1 式	
11	統合型位置情報通知装置	1 式	
12	Eメール指令装置	1 式	
13	ネットワーク／セキュリティ	1 式	
	(1)ネットワーク装置	1 式	ファイアウォール等含む
	(2)ウィルス対策サーバ	1 式	ソフト含む
	(3)ウィルスソフト	1 式	
	(4)検閲 P C	1 式	
14	高速避雷器 (通信用)	1 式	
15	N E T 1 1 9 等用 P C	3 式	N E T 1 1 9 等用の多目的 P C
16	収容架		
	19インチラック	3 台	制震ラック
17	情報共有システム		
	(1)サーバ	1 式	
	(2)情報共有端末	7 台	
18	リモート指令台	1 式	設置想定：天王南分署
19	付属品及び予備品	1 式	

2 消防署

項	機 器 名	数 量	備 考
1	指令装置		
	(1)署所端末装置	1 式	
2	指令電送装置		
	(1)指令情報出力装置	1 式	
3	機器収容ラック	1 式	O A ラック 幅900mm
4	情報表示設備		
	(1)モニター (車庫)	1 面	50型以上、スタンド・金具含む
	(2)モニター (消防本部・消防署)	3 面	43型以上、天吊りまたは壁掛用金具含む
	(3)表示盤端末	3 式	
5	放送設備		
	アンプ・スピーカセクター	1 式	
6	ミラーリング設備		2 階指令情報出力装置とミラーリング
7	その他備品	1 式	車庫内デスク等含む

3 北分署

項	機 器 名	数 量	備 考
1	指令装置		
	(1)署所端末装置	1 式	
2	指令電送装置		
	(1)指令情報出力装置	1 式	
3	無停電電源装置	1 式	2000VA程度
4	機器収容ラック	1 式	O A ラック 幅900mm
5	情報表示モニタ		
	(1)モニタ	1 面	50型以上、天吊りまたは壁掛用金具含む
	(2)表示盤端末	1 式	
6	駆け付け通報装置	1 式	
7	放送設備		
	アンプ・スピーカセクター	1 式	
8	その他備品	1 式	

4 東分署

項	機 器 名	数 量	備 考
1	指令装置		
	(1)署所端末装置	1 式	
2	指令電送装置		
	(1)指令情報出力装置	1 式	
3	無停電電源装置	1 式	2000VA程度
4	機器収容ラック	1 式	O A ラック 幅900mm
5	情報表示モニタ		
	(1)モニタ	1面	50型以上、天吊りまたは壁掛用金具含む
	(2)表示盤端末	1式	
6	駆け付け通報装置	1 式	
7	放送設備		
	アンプ・スピーカセクター	1 式	
8	その他備品	1 式	

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	-		
図 面 名	高 機 能 消 防 指 令 シ ス テ ム 機 器 一 覧 表 (1)		
作 成 年 月 日	令和 7 年 3 月		
縮 尺	No scale	図 面 番 号	A0-03
事 業 者 名	男 鹿 地 区 消 防 一 部 事 務 組 合 消 防 本 部		

5 天王分署

項	機 器 名	数 量	備 考
1	指令装置		
	(1)署所端末装置	1 式	
2	指令電送装置		
	(1)指令情報出力装置	1 式	
3	無停電電源装置	1 式	2000VA程度
4	機器収容ラック	1 式	〇 A ラック 幅900mm
5	情報表示モニタ		
	(1)モニタ	1 面	43型以上、壁掛け金具含む
	(2)表示盤端末	1 式	
6	駆け付け通報装置	1 式	
7	放送設備		
	アンプ・スピーカセクター	1 式	
8	その他備品	1 式	

6 天王南分署

項	機 器 名	数 量	備 考
1	指令装置		
	(1)署所端末装置	1 式	
2	指令電送装置		
	(1) 指令情報出力装置	1 式	
3	無停電電源装置	1 式	2000VA程度
4	機器収容ラック	1 式	〇 A ラック 幅900mm
5	情報表示モニタ		
	(1)モニタ	1 面	50型以上、天吊りまたは壁掛用金具含む
	(2)表示盤端末	1 式	
6	駆け付け通報装置	1 式	
7	放送設備		
	(1)アンプ・スピーカセクター	1 式	
8	その他備品	1 式	

7 若美分署

項	機 器 名	数 量	備 考
1	指令装置		
	(1)署所端末装置	1 式	
2	指令電送装置		
	(1) 指令情報出力装置	1 式	
3	無停電電源装置	1 式	2000VA程度
4	機器収容ラック	1 式	〇 A ラック 幅900mm
5	情報表示モニタ		
	(1)モニタ	1 面	43型以上、スタンド含む
	(2)表示盤端末	1 式	
6	駆け付け通報装置	1 式	
7	放送設備		
	(1)アンプ・スピーカセクター	1 式	
8	その他備品	1 式	

8 大湊分署

項	機 器 名	数 量	備 考
1	指令装置		
	(1)署所端末装置	1 式	
2	指令電送装置		
	(1) 指令情報出力装置	1 式	
3	無停電電源装置	1 式	2000 V A 程度
4	機器収容ラック	1 式	〇 A ラック 幅900mm
5	情報表示モニタ		
	(1)モニタ	1 面	50型以上、天吊りまたは壁掛用金具含む
	(2)表示盤端末	1 式	
6	駆け付け通報装置	1 式	
7	放送設備		
	(1)アンプ・スピーカセクター	1 式	
8	19インチラック（20U程度）	1 台	指令情報出力装置を収容
9	その他備品	1 式	

9 消防〇 A

項	機 器 名	数 量	備 考
1	消防〇 A 設備		
	(1) サーバ	1 式	
	(2) 端末	11式	
	(3) 立入検査用タブレット	10式	
	(4) プリンタ	7 台	
	(5) パッケージ	1 式	

10 電話交換設備

項	機 器 名	数 量	備 考
1	電話交換設備		
	(1) 交換機（消防本部用）	1 式	
	(2) 多機能電話機	20台	
	(3) 一般電話機	40台	
	(4) 親子電話機	6 式	分署 外線用

11 監視カメラ設備

項	機 器 名	数 量	備 考
1	監視カメラ		
	(1) 屋外ハウジングー体型	18式	
	(2) 屋外ドームカメラ	9式	
	(3) 屋外ドームカメラ（3 眼）	1 式	
2	PoEユニット	28式	
3	ネットワークレコーダ		
	(1) 消防本部用	1 式	
4	映像監視ソフトウェア	1 式	
5	監視カメラ操作用PC	1 式	ディスプレイ含む

12 電源設備

項	機 器 名	数 量	備 考
1	指令システム		
	(1)無停電電源装置	1 式	消防本部用 必要容量（10KVA程度）

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	-		
図 面 名	高 機 能 消 防 指 令 シ ス テ ム 機 器 一 覧 表 （ 2 ）		
作 成 年 月 日	令和 7 年 3 月		
縮 尺	No scale	図面番号	A0-04
事 業 者 名	男 鹿 地 区 消 防 一 部 事 務 組 合 消 防 本 部		

1 消防救急デジタル無線設備 撤去機器

項	品名	単位	数量
1	基地局無線設備（消防本部）		
	(1)無線回線制御装置（CH32）	台	1
	(2)管理監視制御卓	式	1
	(3)遠隔制御装置	台	2
	(4)ネットワーク機器	式	1
2	基地局無線設備（4基地局）		
	(1)基地局無線装置 基本架	台	6
	(2)基地局無線装置 増設架	台	2
	(3)空中線共用器 6ch	台	3
	(4)空中線 反射素子付コーリニア	式	2
	(5)空中線 2素子八木型	式	4
	(6)空中線 3素子八木型	式	2
	(7)同軸避雷器 ショートスタブ型	台	6
	(8)ネットワーク機器	式	1
	(9)DC/ACインバータ	台	3
	(10)エアコン（局舎用）	台	3
3	移動局無線設備		
	(1)車載無線機	式	33
	(2)車載用空中線	基	66
	(3)車載用空中線共用器	台	33
	(4)ハンドセット	式	33
	(5)可搬型無線機	台	2
	(6)携帯型無線機	台	22
	(7)IP無線機	台	10
4	電源設備		
	(1)非常用発動発電機		
	非常用発動発電機	台	1
	油庫	台	1
	変圧トランス	台	1
	非常用発動発電機架台	式	1

2 高機能消防指令システム設備 撤去機器

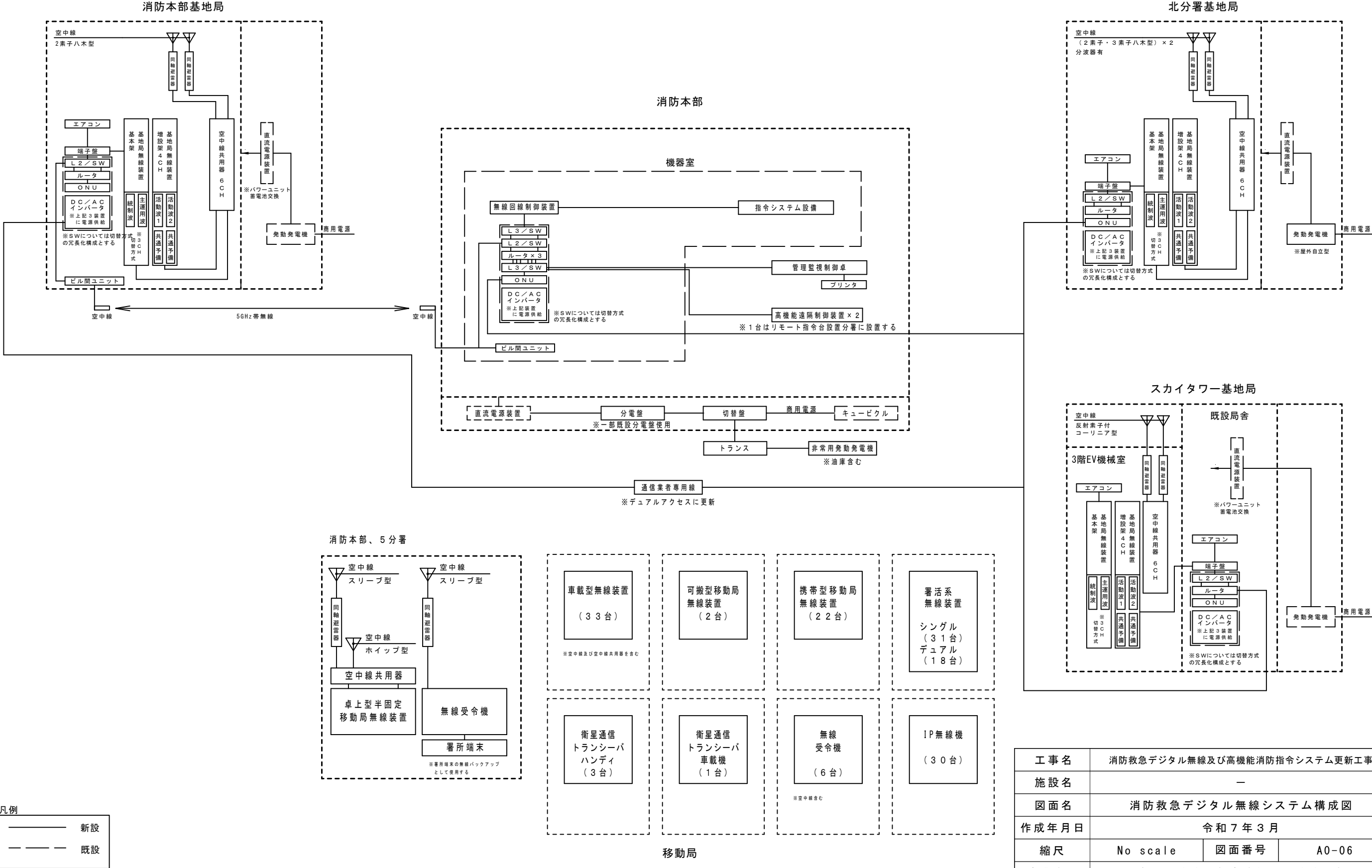
項	機器名	単位	数量
1	指令装置		
	(1)指令台	台	2
	(2)自動出動指定装置		
	制御処理装置	式	1
	ディスプレイ	台	2
	(3)地図等検索装置		
	地図等検索装置	式	1
	地図用ディスプレイ	台	2
	(4)長時間録音装置	台	1
	(5)非常用指令装置	式	1
	(6)指令制御装置	式	1
	(7)携帯電話・IP電話受信転送装置	式	1
	(8)プリンタ	台	1
	(9)カラープリンタ	台	1
	(10)スキャナ	台	1
	(11)A1プロッタ	台	1
	(12)署所端末装置	台	5
	(13)データメンテナンス		
	制御処理装置	式	1
	ディスプレイ	台	1
2	拡張台	台	2
	表示盤		
	(1)表示盤		
	車両運用表示盤	面	1
	支援情報表示盤	面	1
	多目的情報表示盤	面	1
	映像制御装置	式	1
3	無線統制台	式	1
4	指令情報伝送装置		
	(1)指令情報送信装置	式	1
	(2)指令情報出力装置	式	7
5	気象情報収集装置		
	(1)気象情報収集装置	式	1
	(2)気象情報収集端末	式	1
6	災害状況等自動案内装置	式	1
7	順次指令装置	式	1
8	音声合成装置	式	1
9	システム監視装置	式	1
10	統合型位置情報通知装置		1

2 高機能消防指令システム設備 撤去機器

11			
	(1)サーバー	式	1
	(2)端末	台	10
12			
	(3)プリンタ	台	7
	Eメール指令装置	式	1
13	ネットワーク／セキュリティ		
	(1)消防本部（通信指令室・機械室）	式	1
	(2)署所	式	6
	(3)ウイルス対策サーバ	式	1
	(4)検疫PC	式	1
14	FAX119受信装置	式	1
15	電話交換機		
	(1)交換機（消防本部用）	式	1
	(2)多機能電話機	式	16
	(3)一般電話	式	36
16	MDF（端子台のみ）枠は残置	式	1
17	高速避雷器（通信用）	式	1
18	監視カメラ		
	(1)監視カメラ	台	8
	(2)操作装置・モニタ	式	1
19	電源設備		
	(1)無停電電源装置(CVCF)		
	無停電電源装置（消防本部）10KVA	台	1
	無停電電源装置（署所）	台	6
	(2)直流電源装置		
	直流電源装置（DC48V）消防本部	台	1

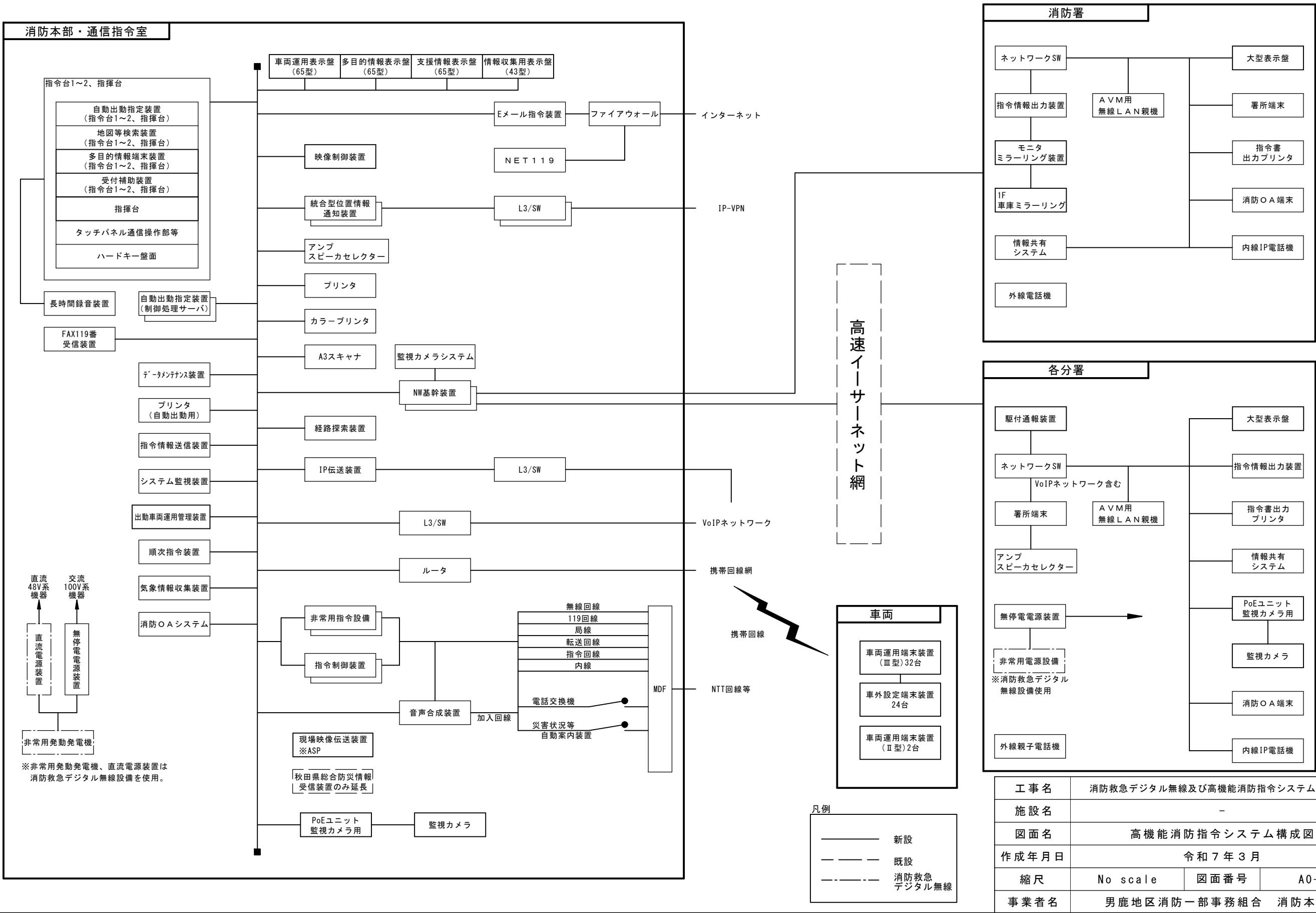
工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	-		
図面名	撤去機器一覧表		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	No scale	図面番号	A0-05
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		

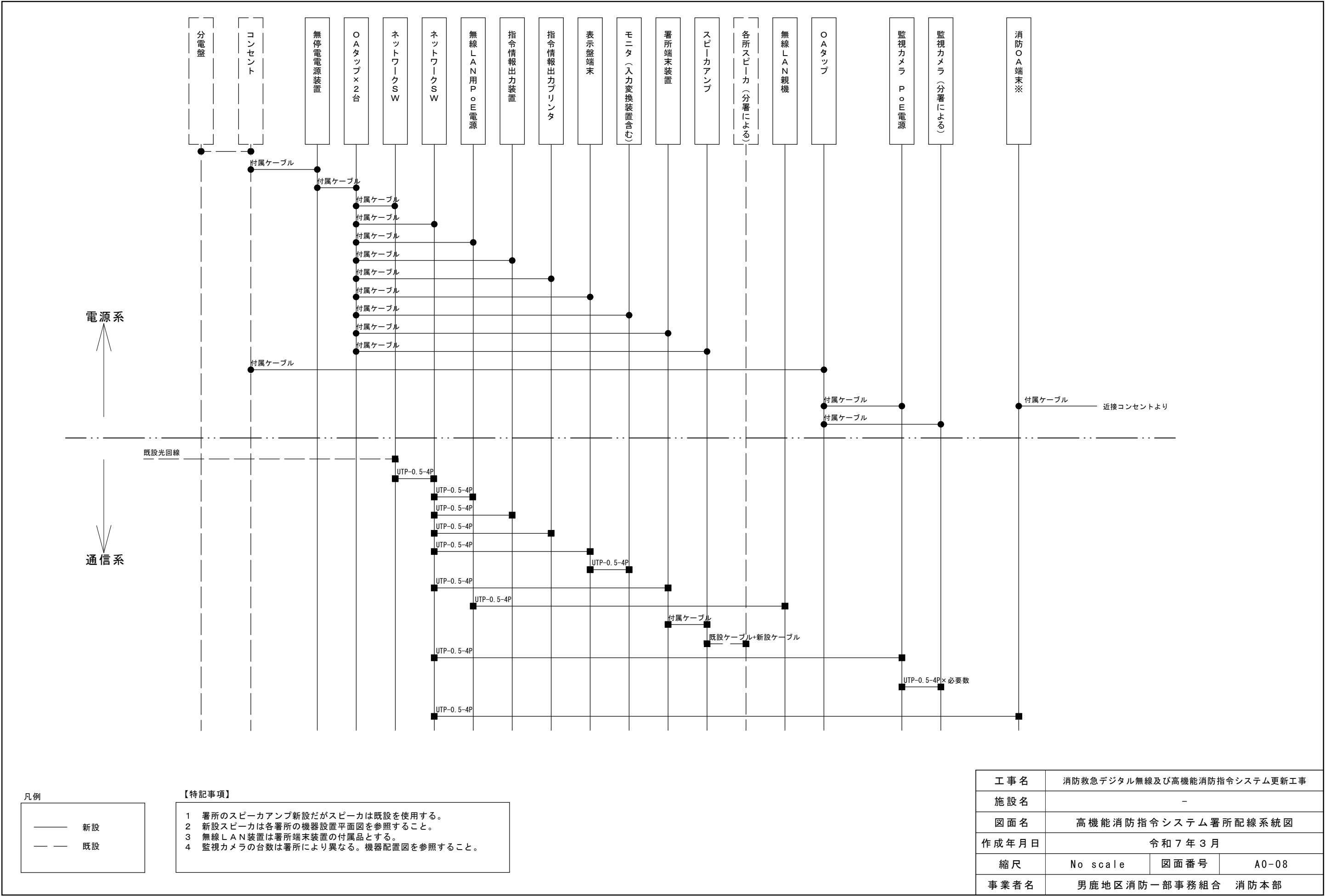
消防救急デジタル無線システム構成図



工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	—		
図面名	消防救急デジタル無線システム構成図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	No scale	図面番号	A0-06
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		

高機能消防指令システム構成図





凡例

——

新設

- -

既設

- 【特記事項】
- 1

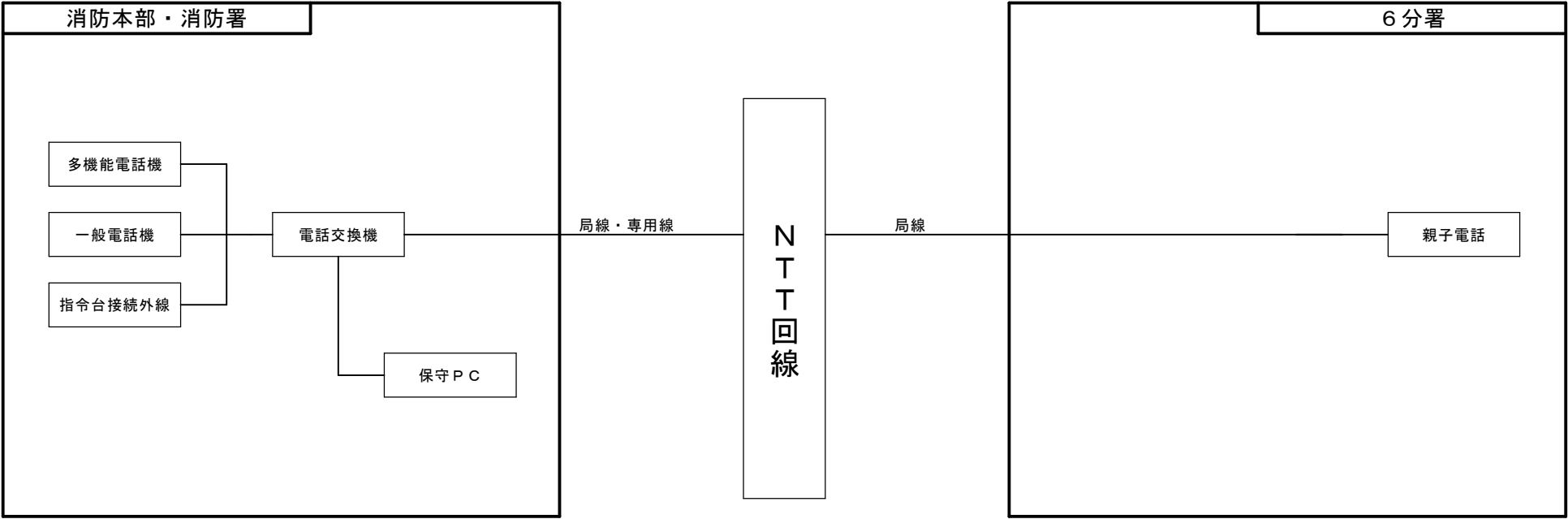
署所のスピーカアンプ新設だがスピーカは既設を使用する。
- 2

新設スピーカは各署所の機器設置平面図を参照すること。
- 3

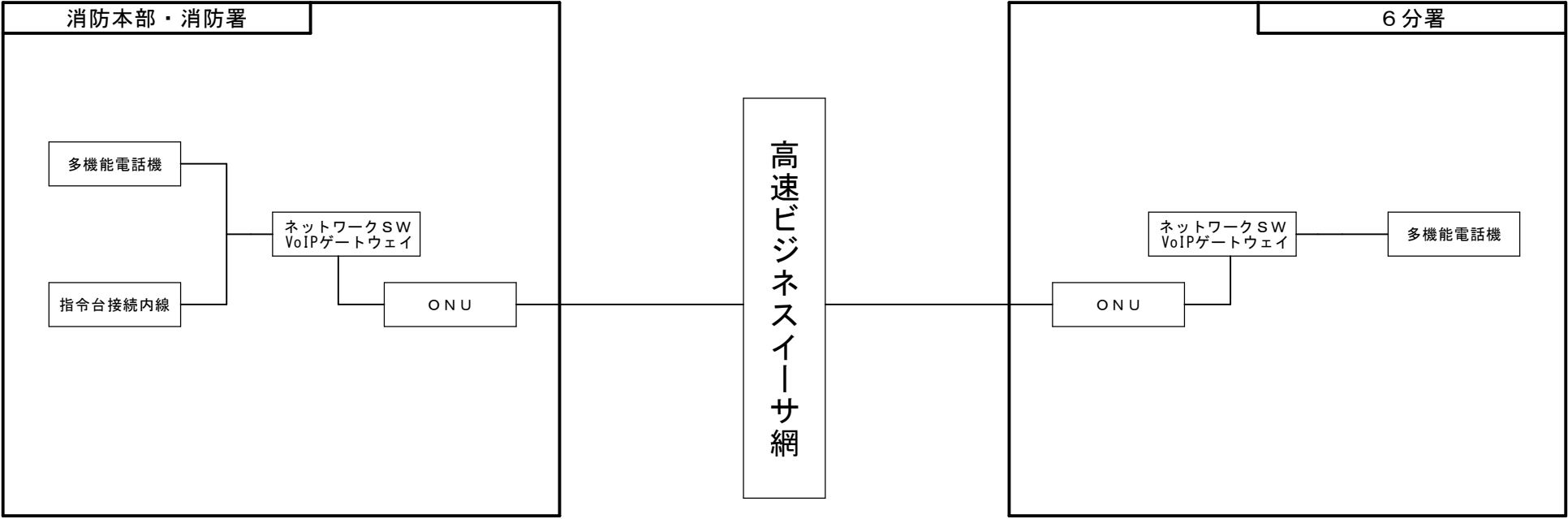
無線LAN装置は署所端末装置の付属品とする。
- 4

監視カメラの台数は署所により異なる。機器配置図を参照すること。

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	-		
図面名	高機能消防指令システム署所配線系統図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	No scale	図面番号	A0-08
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



構内電話機交換設備 機器構成図



構内電話機交換設備（IP電話） 機器構成図

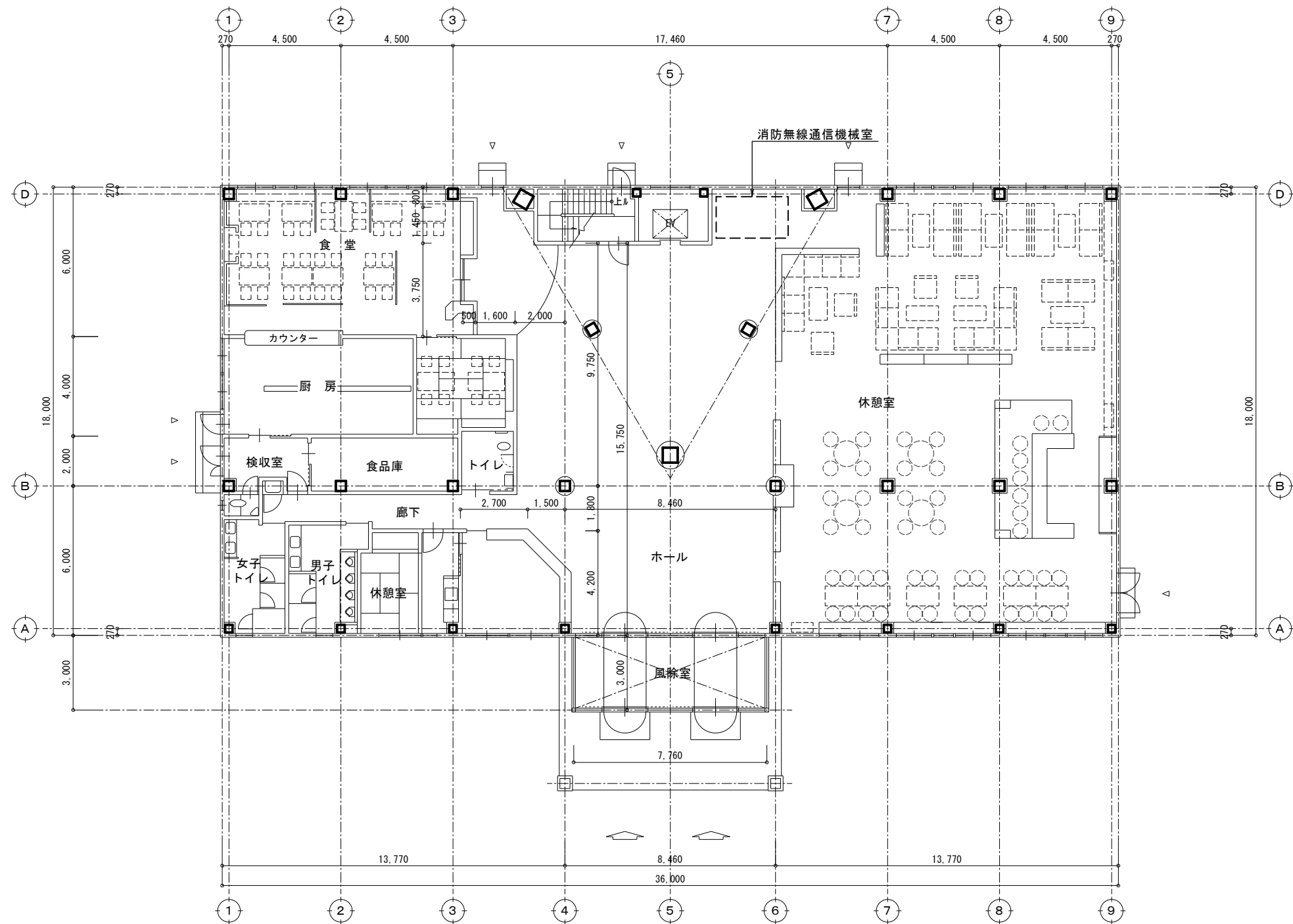
【特記事項】

- 1 消防本部・消防署は新設配線とする。配線工事は本工事で行う。なお、新設配線は電話機の付属ケーブルとする。
- 2 6分署の配線工事は本工事で行う。なお、新設配線は電話機の付属ケーブルとする。
- 3 消防署所に設置する電話設備の台数は設計書を参照すること。
- 4 必要回線数については別途協議とする。
- 5 交換機と各電話機の設置位置については監督職員ならびに各署所担当者と協議を行い決定すること。

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	-		
図面名	構内電話機交換設備 機器構成図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	No scale	図面番号	A0-09
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		

消防救急デジタル無線編

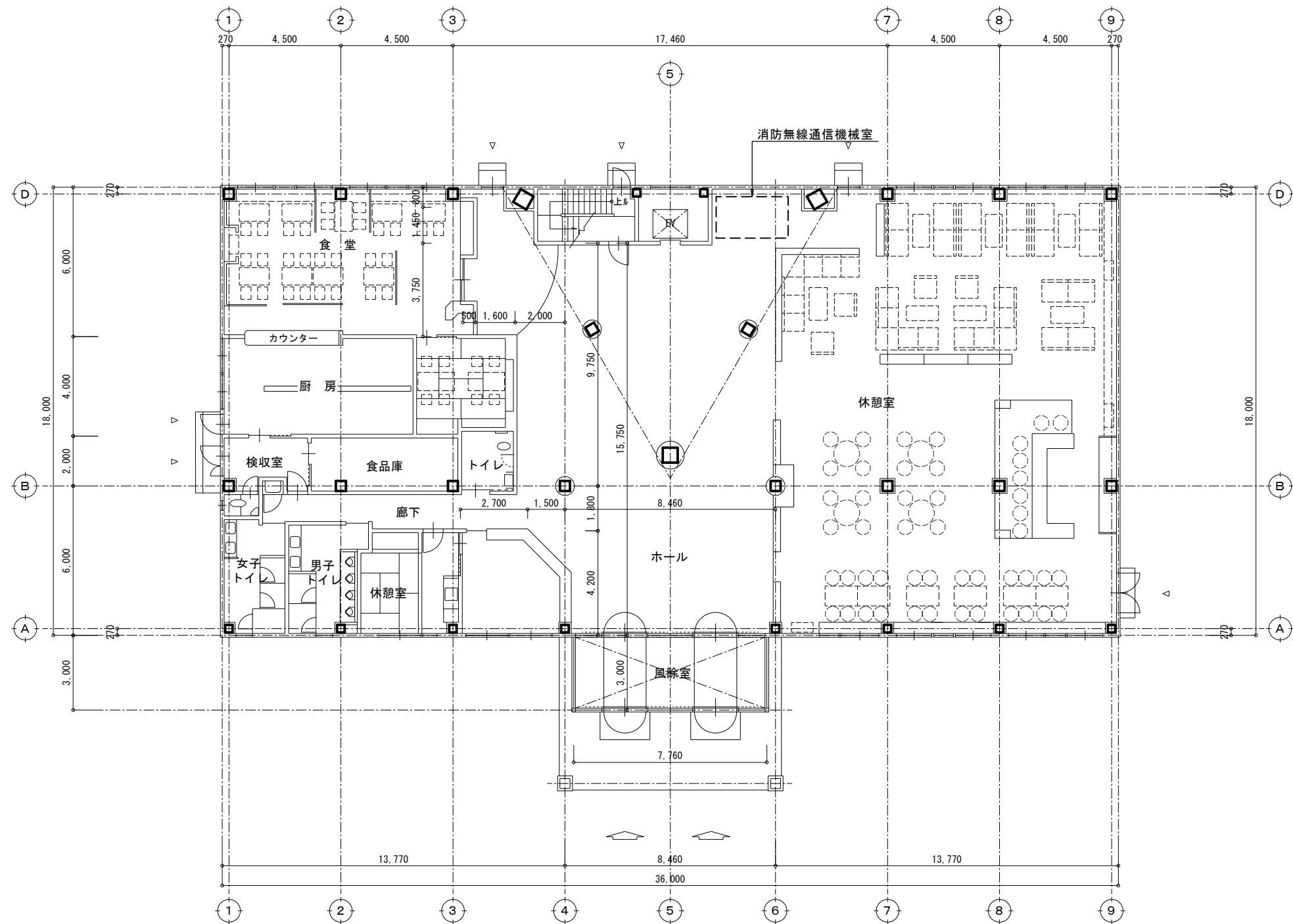
設計図面



【特記事項】

- 1 既設局舎は既設流用すること。
- 2 1次側電源は既設流用すること。
- 3 非常用発動発電機は既設流用すること。
- 4 旧エレベータ室・屋上空中線までの配線ルートは既設と同様とする。
- 5 運用切替時は出来るだけ停波を短時間で行う計画を立案すること。

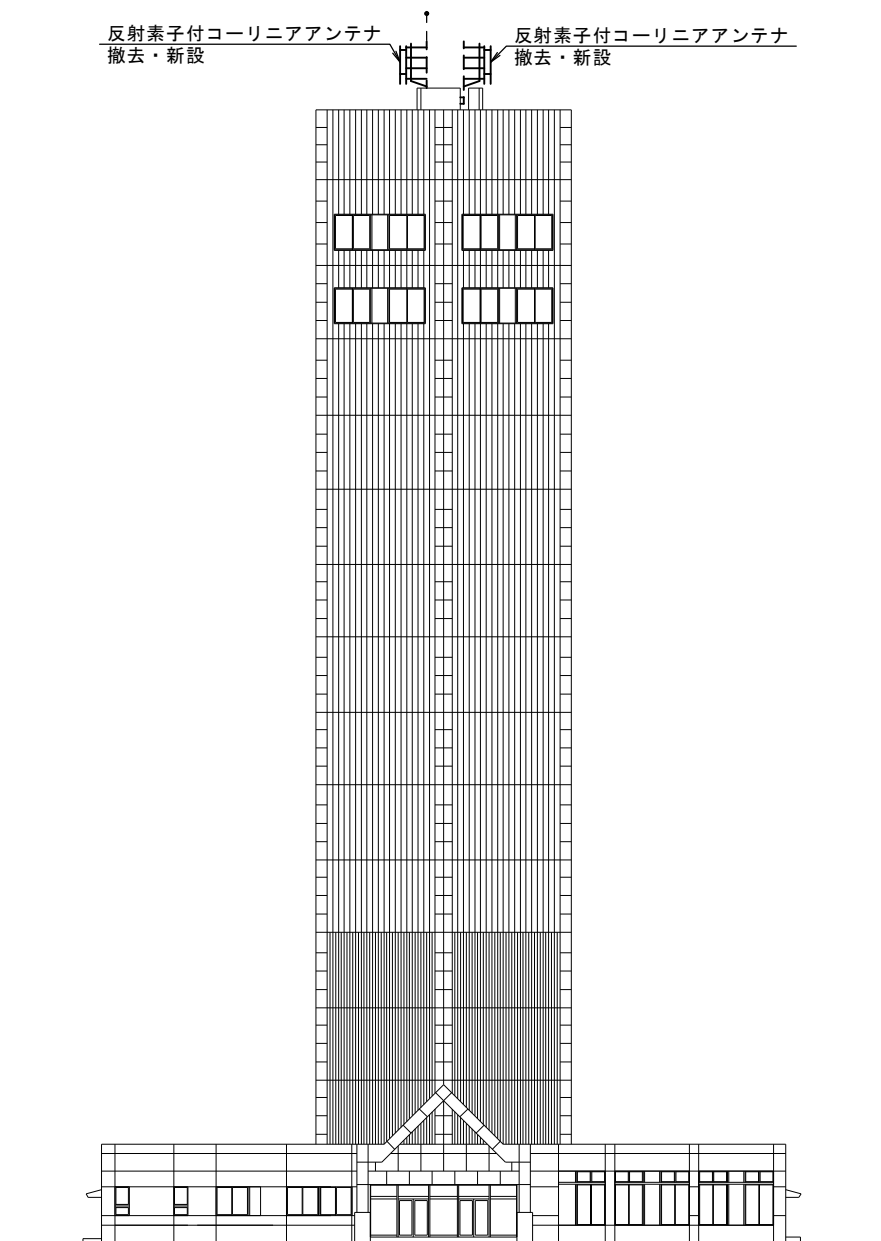
工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	スカイタワー基地局		
図面名	スカイタワー基地局 1階平面図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1 : 200	図面番号	D1-01
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



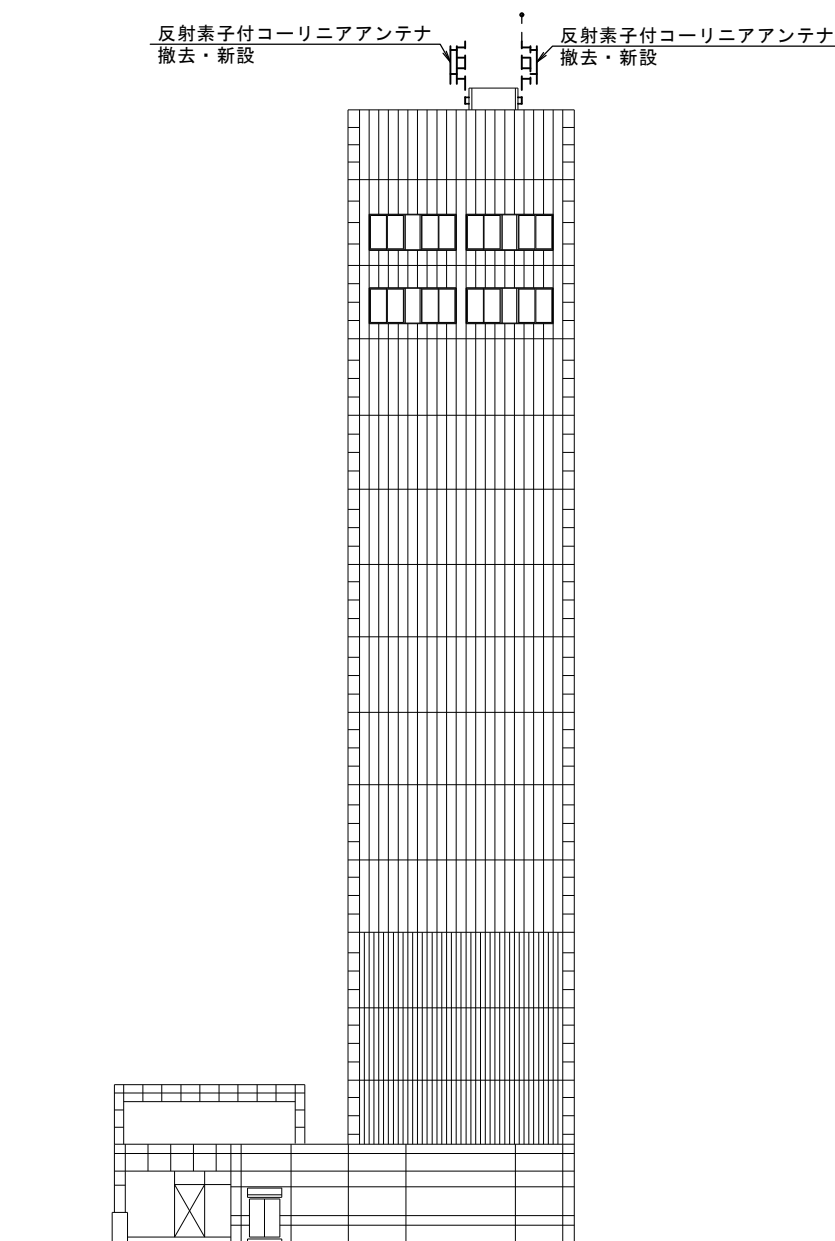
【特記事項】

- 1 既設局舎は既設流用すること。
- 2 1次側電源は既設流用すること。
- 3 非常用発動発電機は既設流用すること。
- 4 旧エレベータ室・屋上空線までの配線ルートは既設と同様とする。
- 5 運用切替時は出来るだけ停波を短時間で行う計画を立案すること。

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	スカイタワー基地局		
図面名	スカイタワー基地局 1階平面図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1 : 200	図面番号	D1-01
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



北面 立面図

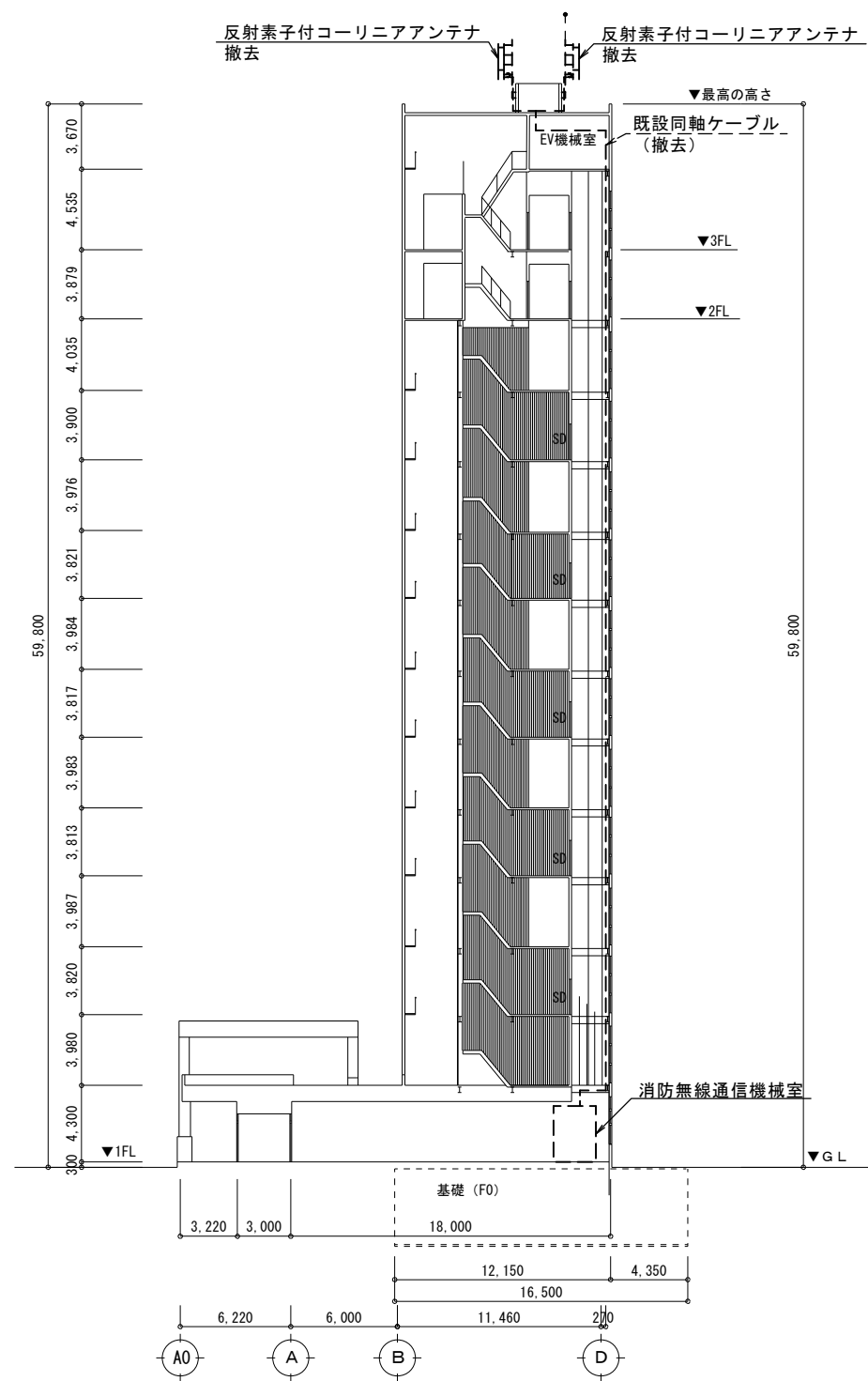


西面 立面図

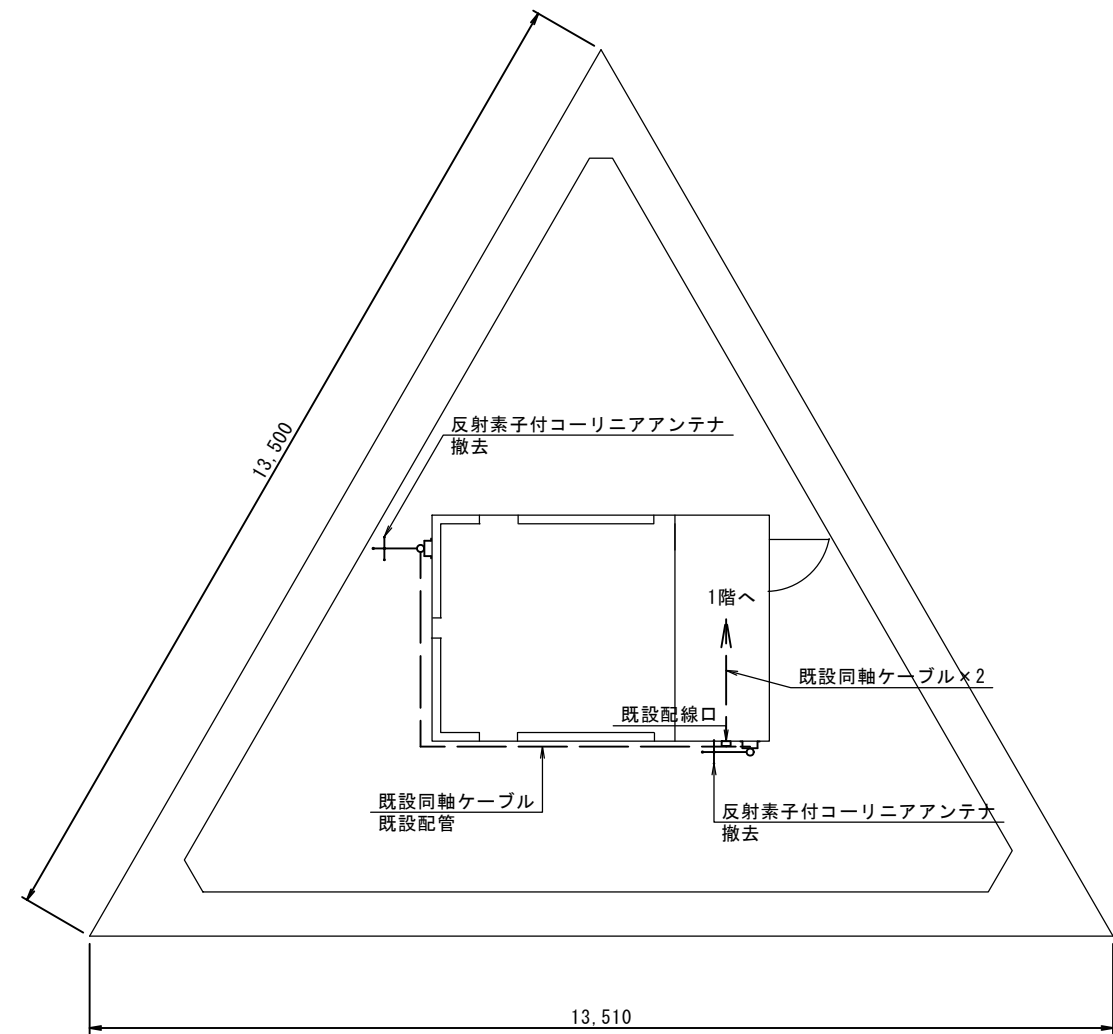
【特記事項】

- 1 空中線ポールは既設流用すること。
- 2 空中線取付金具は既設同等品を新設すること。
- 3 旧エレベータ室から屋上空中線までの配線ルートは既設と同様とする。
- 4 運用切替時は出来るだけ停波を短時間で行う計画を立案すること。

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	スカイタワー基地局		
図面名	スカイタワー基地局 立面図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1 : 400	図面番号	D1-02
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



南-北 断面図 1/400

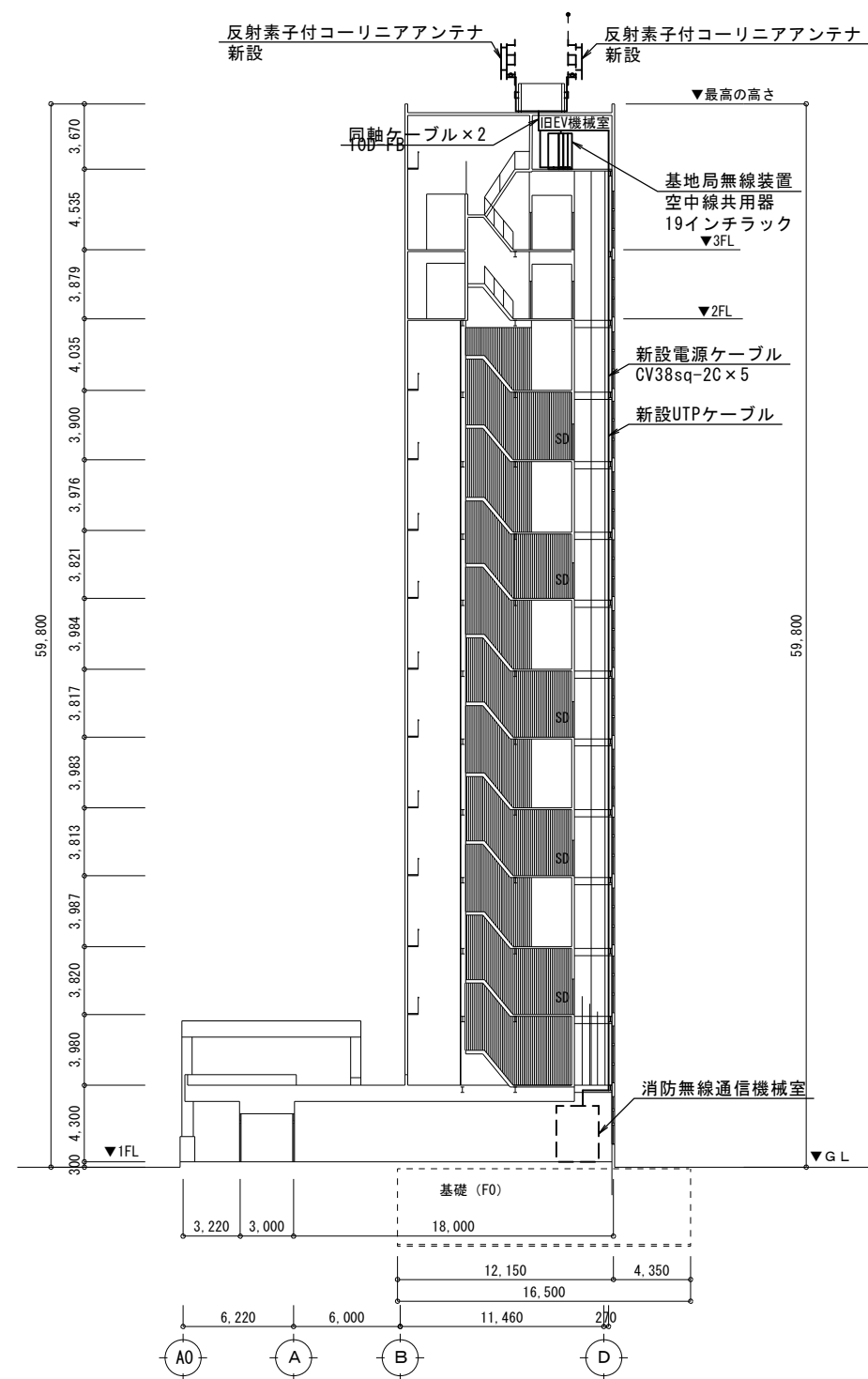


屋上平面図 1/100

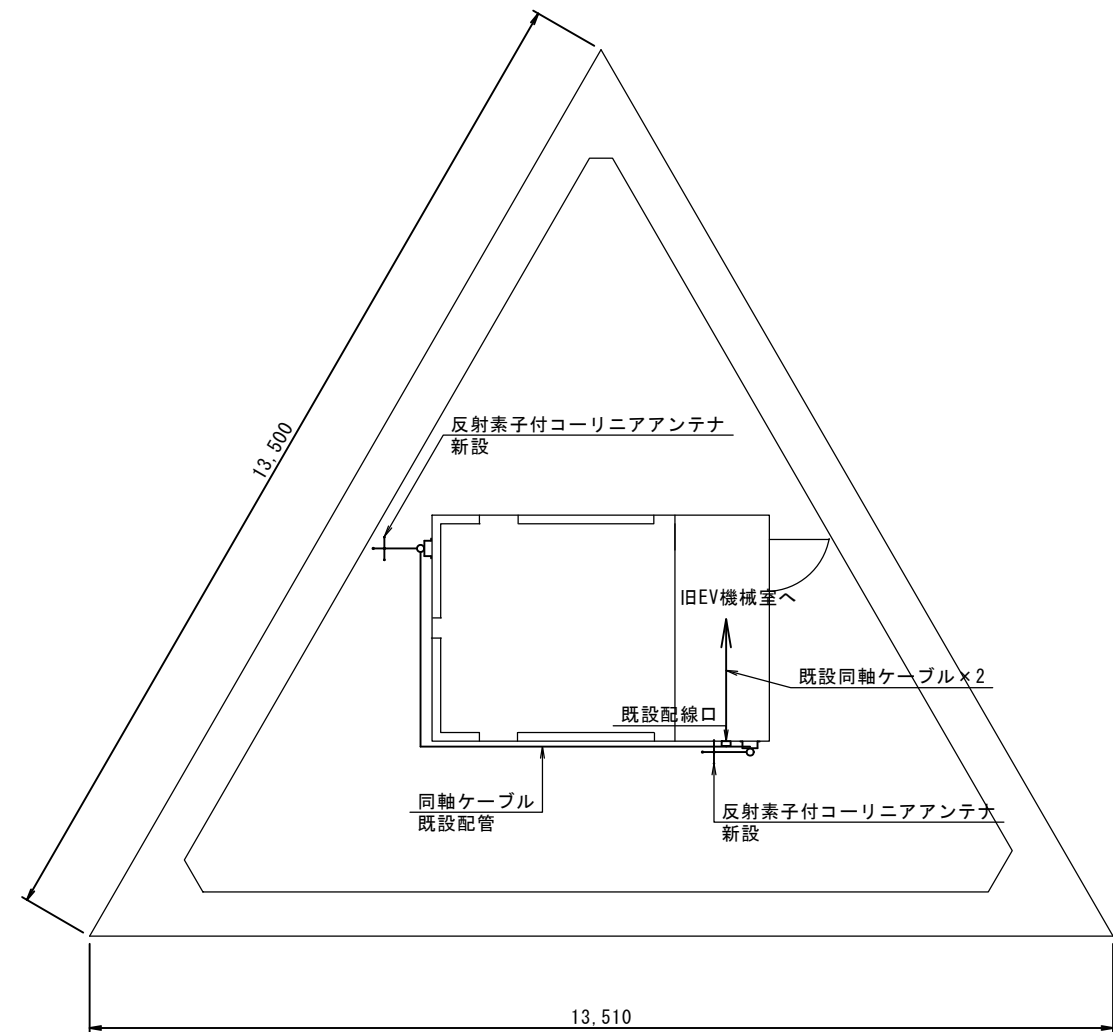
【特記事項】

- 1 空中線ポールは既設流用すること。
- 2 空中線取付金具は既設同等品を新設すること。
- 3 旧エレベータ室から屋上空中線までの配線ルートは既設と同様とする。
- 4 運用切替時は出来るだけ停波を短時間で行う計画を立案すること。

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	スカイタワー基地局		
図面名	断面図・屋上平面図（既設）		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	図示	図面番号	D1-03
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



南-北 断面図 1/400

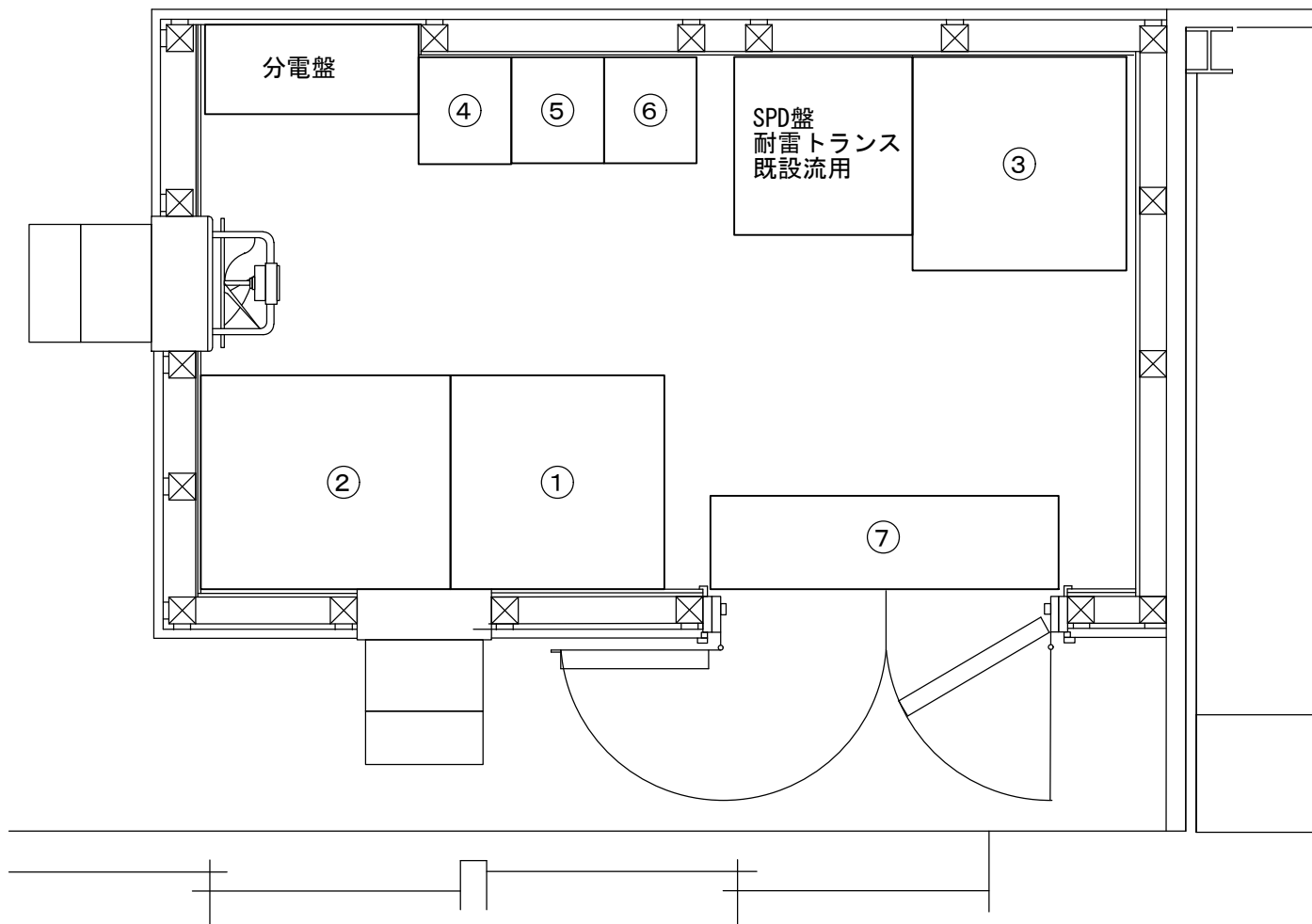


屋上平面図 1/100

【特記事項】

- 1 基地局無線装置・空中線共用器は旧EV機械室に設置する
- 2 旧EV機械室に基地局無線装置・空中線共用器の電源ケーブルを配線すること。
- 3 旧EV機械室まで配線ルートは既設同軸ケーブルと同様とする。
- 4 運用切替時は出来るだけ停波を短時間で行う計画を立案すること。

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	スカイタワー基地局		
図面名	断面図・屋上平面図（新設）		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	図示	図面番号	D1-04
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



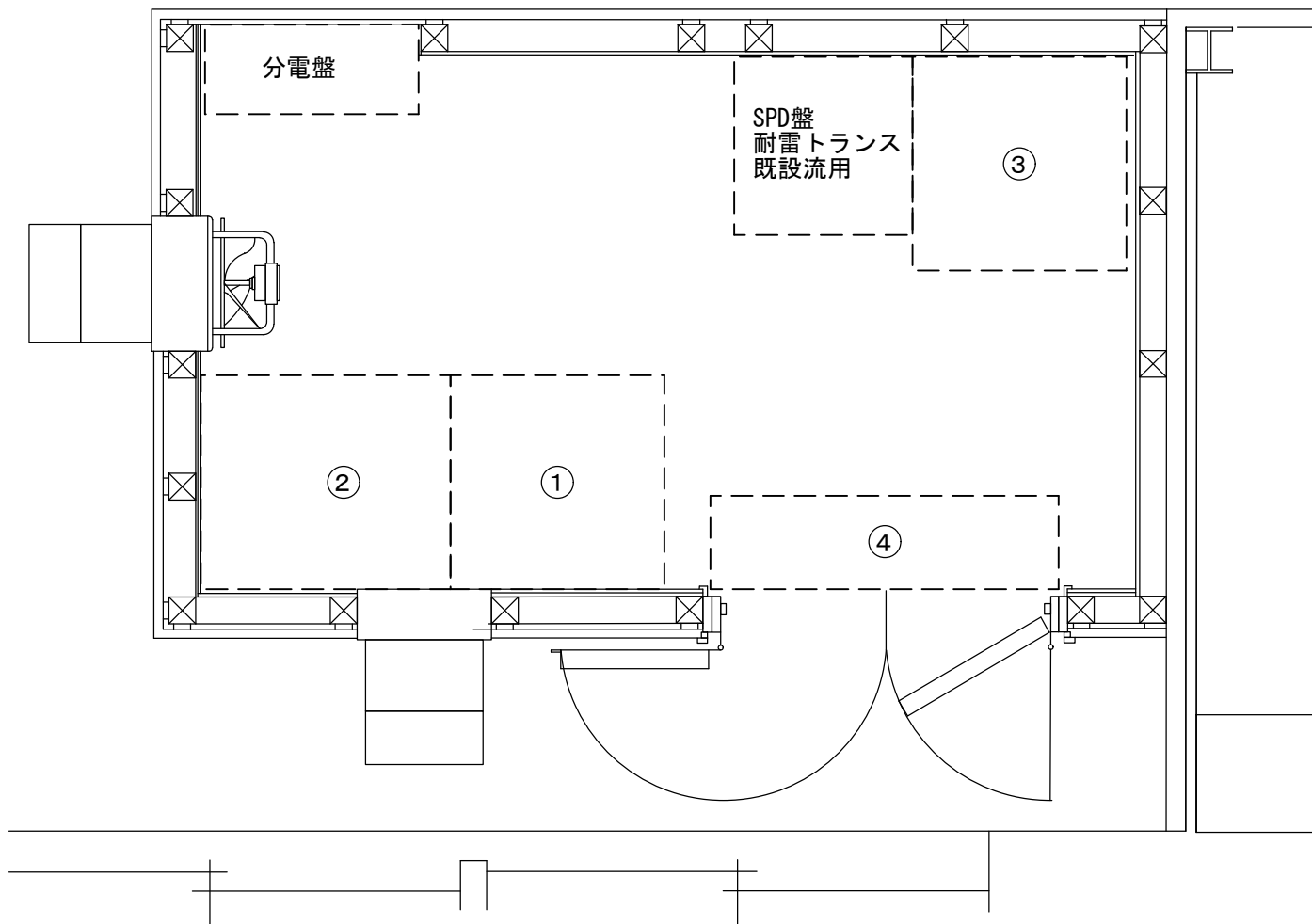
消防無線通信機械室 既設機器配置図

天王スカイタワー基地局既設設備		
①	直流電源装置（整流器）	W600×D600×H1950 パワーユニット交換
②	直流電源装置（蓄電池）	W700×D600×H1950 蓄電池交換
③	機器収容ラック	W600×D600×H2200 既設流用
	MDF	既設流用
	同軸避雷器×2	W104×D34×H135 撤去
	有線接続装置	撤去
	L2-SW	撤去
	インバータ（1500W）	W191×D413×H88 撤去
	UPS	W478×D298×H87 撤去
④	空中線共用装置	W260×D298×H1800 撤去
⑤	基地局無線装置-基本架	W258×D298×H1798 撤去
⑥	基地局無線装置-増設架	W258×D298×H1798 撤去
⑦	エアコン	撤去

【特記事項】

- SPD盤は既設使用すること。
- 耐雷トランスは既設流用すること。
- 分電盤からの配線を天井裏への配線は既設空き配管を使用すること。
- 運用切替時は出来るだけ停波を短時間で行う計画を立案すること。

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	スカイタワー基地局		
図 面 名	消防無線通信機械室 既設機器配置図		
作 成 年 月 日	令和 7 年 3 月		
縮 尺	1 : 20	図 面 番 号	D1-05
事 業 者 名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



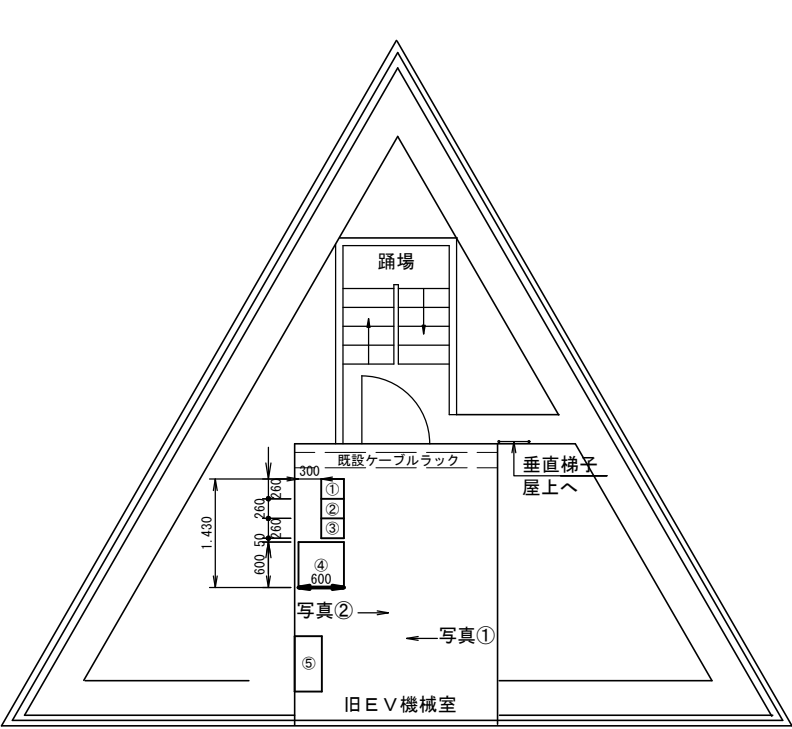
消防無線通信機械室 機器配置図

天王スカイタワー基地局既設設備		
①	直流電源装置（整流器）	W600×D600×H1950 パワーユニット交換
②	直流電源装置（蓄電池）	W700×D600×H1950 蓄電池交換
③	機器収容ラック	W600×D600×H2200 既設流用
	MDF	既設流用
	有線接続装置	新設
	L2-SW	新設
④	エアコン	新設

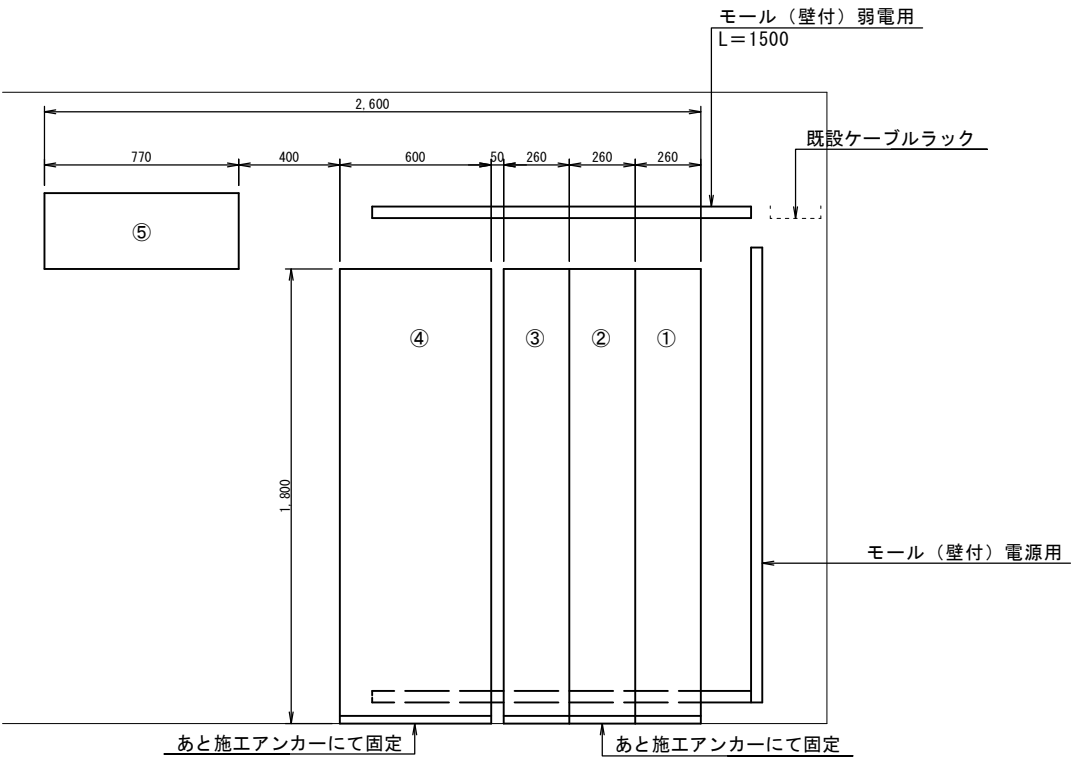
【特記事項】

- SPD盤は既設使用すること。
- 耐雷トランスは既設流用すること。
- 基地局無線装置とのアプローチ回線の接続については最適な方法を提案すること。
- 運用切替時は出来るだけ停波を短時間でを行う計画を立案すること。

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	スカイタワー基地局		
図 面 名	消防無線通信機械室 機器配置図		
作 成 年 月 日	令和 7 年 3 月		
縮 尺	1 : 20	図 面 番 号	D1-06
事 業 者 名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



3階天井平面図 1/100



旧E-V機械室立面図 1/30

新設無線設備諸元表（参考）

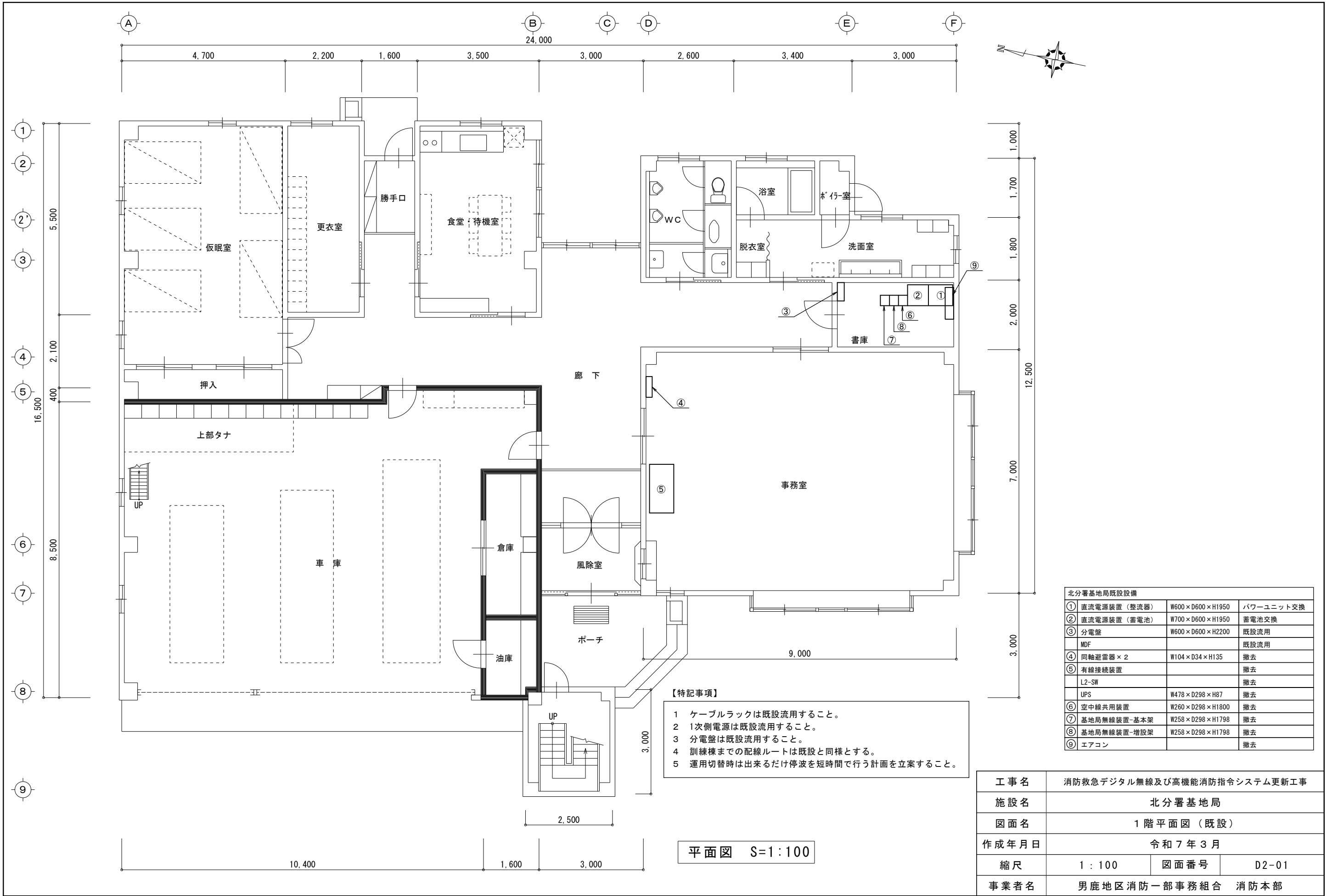
番号	名称	幅 (mm)	奥行 (mm)	高さ (mm)	重量 (kg)
①	基地局無線装置 基本架	260	300	1800	75
②	基地局無線装置 増設架	260	300	1800	90
③	空中線共用器 6ch共用	260	300	1800	75
④	19インチラック	600	600	1800	120
⑤	エアコン（壁付け）	770	220	300	7.5

旧E-V機械室 機器配置図

【特記事項】

- 機器は架台を使用し、あと施工アンカーに固定すること。
- 配線に必要なモール等を設置すること。
- エココンの配管は屋上向けに設置すること。
- 運用切替時は出来るだけ停波を短時間でを行う計画を立案すること。

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	スカイタワー基地局		
図面名	旧E-V機械室機器配置図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	図示	図面番号	D1-07
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		

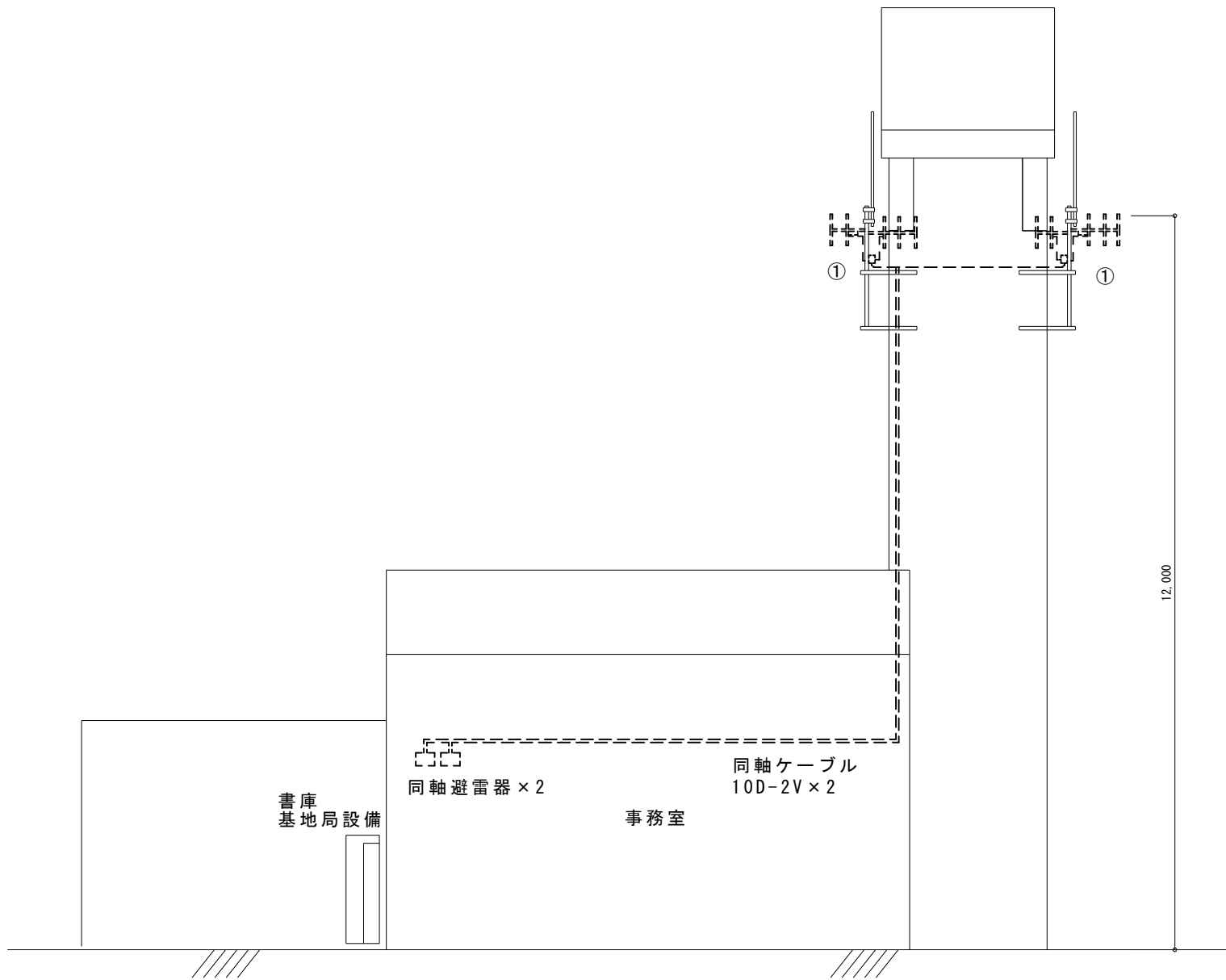


北分署基地局既設設備		
①	直流電源装置（整流器）	W600×D600×H1950 パワーユニット交換
②	直流電源装置（蓄電池）	W700×D600×H1950 蓄電池交換
③	分電盤	W600×D600×H2200 既設流用
	MDF	既設流用
④	同軸避雷器×2	W104×D34×H135 撤去
⑤	有線接続装置	
	L2-SW	撤去
	UPS	W478×D298×H87 撤去
⑥	空中線共用装置	W260×D298×H1800 撤去
⑦	基地局無線装置-基本架	W258×D298×H1798 撤去
⑧	基地局無線装置-増設架	W258×D298×H1798 撤去
⑨	エアコン	撤去

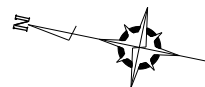
- 【特記事項】
- 1 ケーブルラックは既設流用すること。
 - 2 1次側電源は既設流用すること。
 - 3 分電盤は既設流用すること。
 - 4 訓練棟までの配線ルートは既設と同様とする。
 - 5 運用切替時は出来るだけ停波を短時間で行う計画を立案すること。

平面図 S=1:100

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	北分署基地局		
図面名	1階平面図（既設）		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1:100	図面番号	D2-01
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		

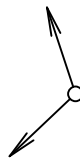
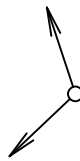


空中線指向性 方角



2素子八木型 N-60°

2素子八木型 N-60°



3素子八木型 N-305°

3素子八木型 N-305°



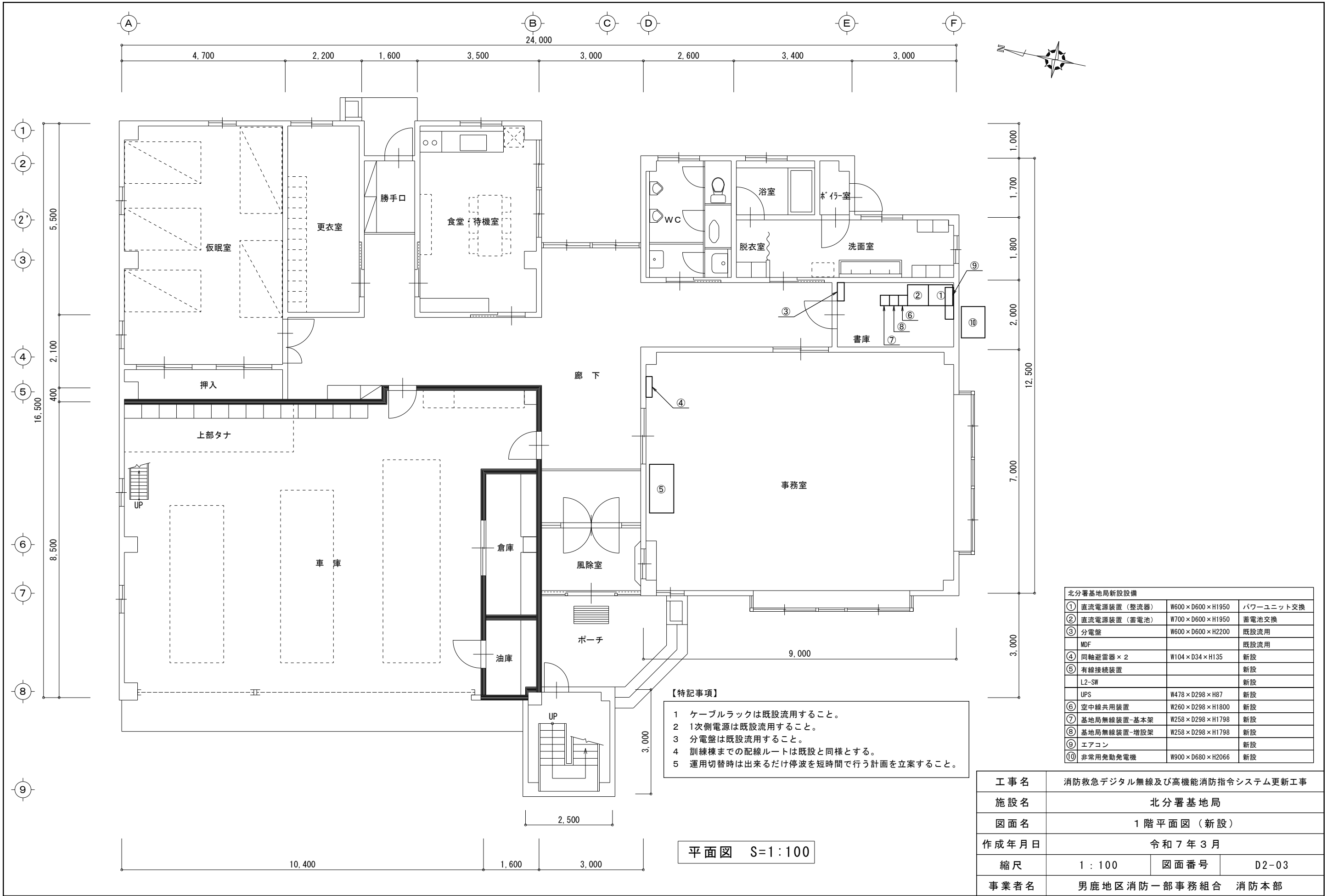
訓練塔断面図 S=1/100

北分署基地局既設設備		
① 空中線		撤去
2素子八木型	2基	撤去
3素子八木型	2基	撤去

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	北分署基地局		
図面名	断面図（既設）		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1：100	図面番号	D2-02
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		

【特記事項】

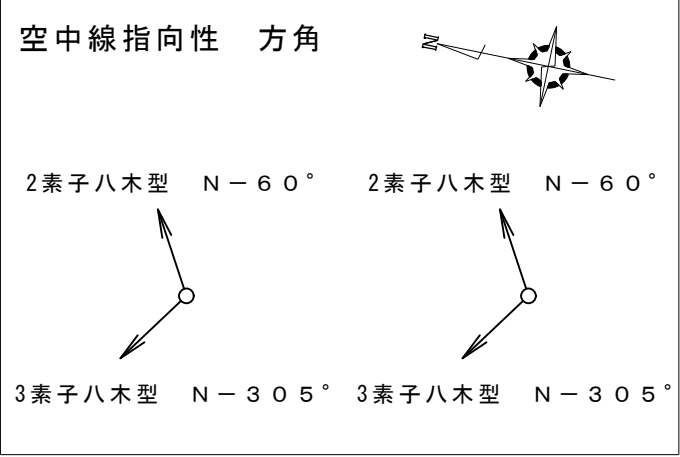
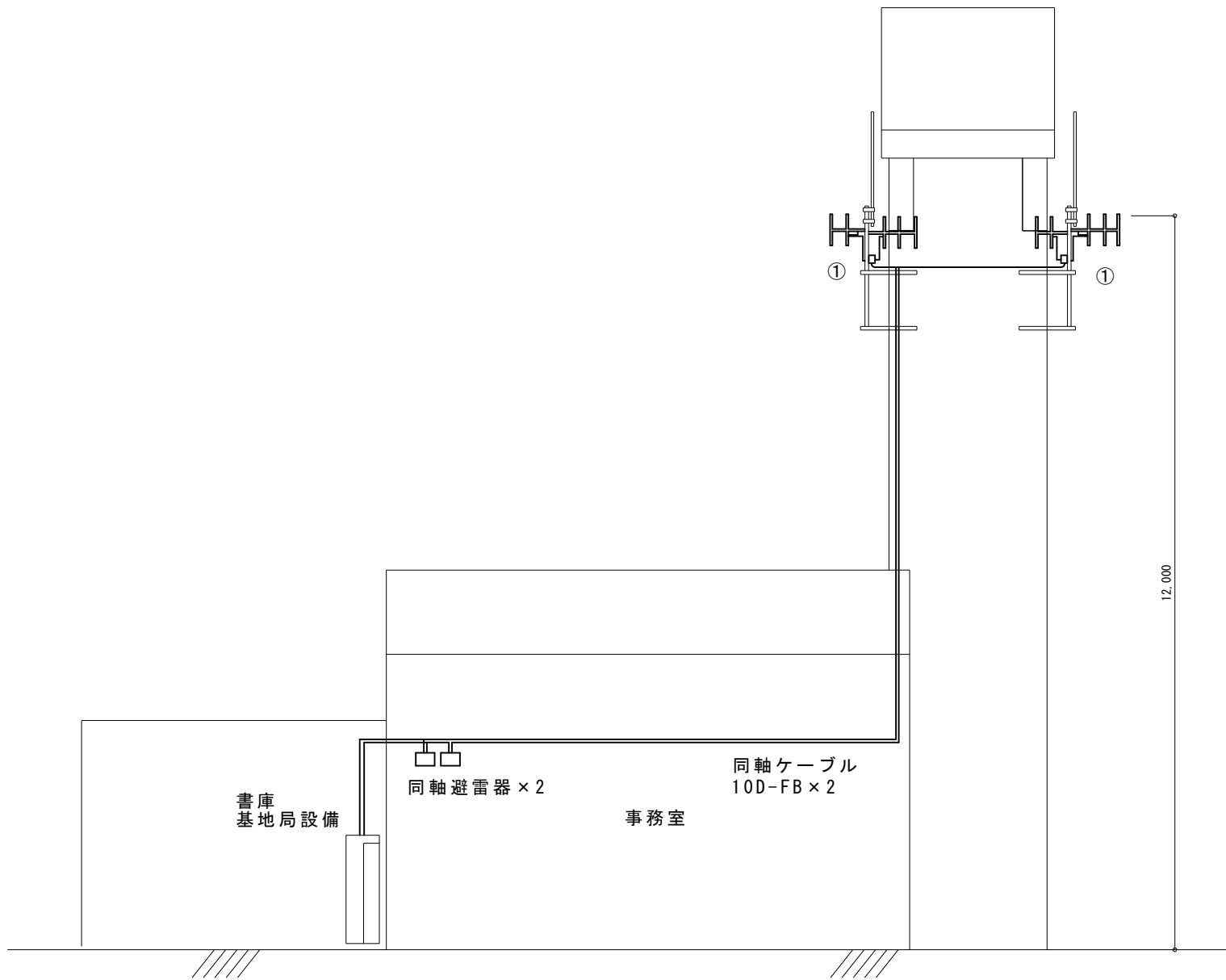
- 空中線ポールは既設流用とすること。
- 運用切替時は出来るだけ停波を短時間で行う計画を立案すること。



【特記事項】

- ケーブルラックは既設流用すること。
- 1次側電源は既設流用すること。
- 分電盤は既設流用すること。
- 訓練棟までの配線ルートは既設と同様とする。
- 運用切替時は出来るだけ停波を短時間で行う計画を立案すること。

平面図 S=1:100



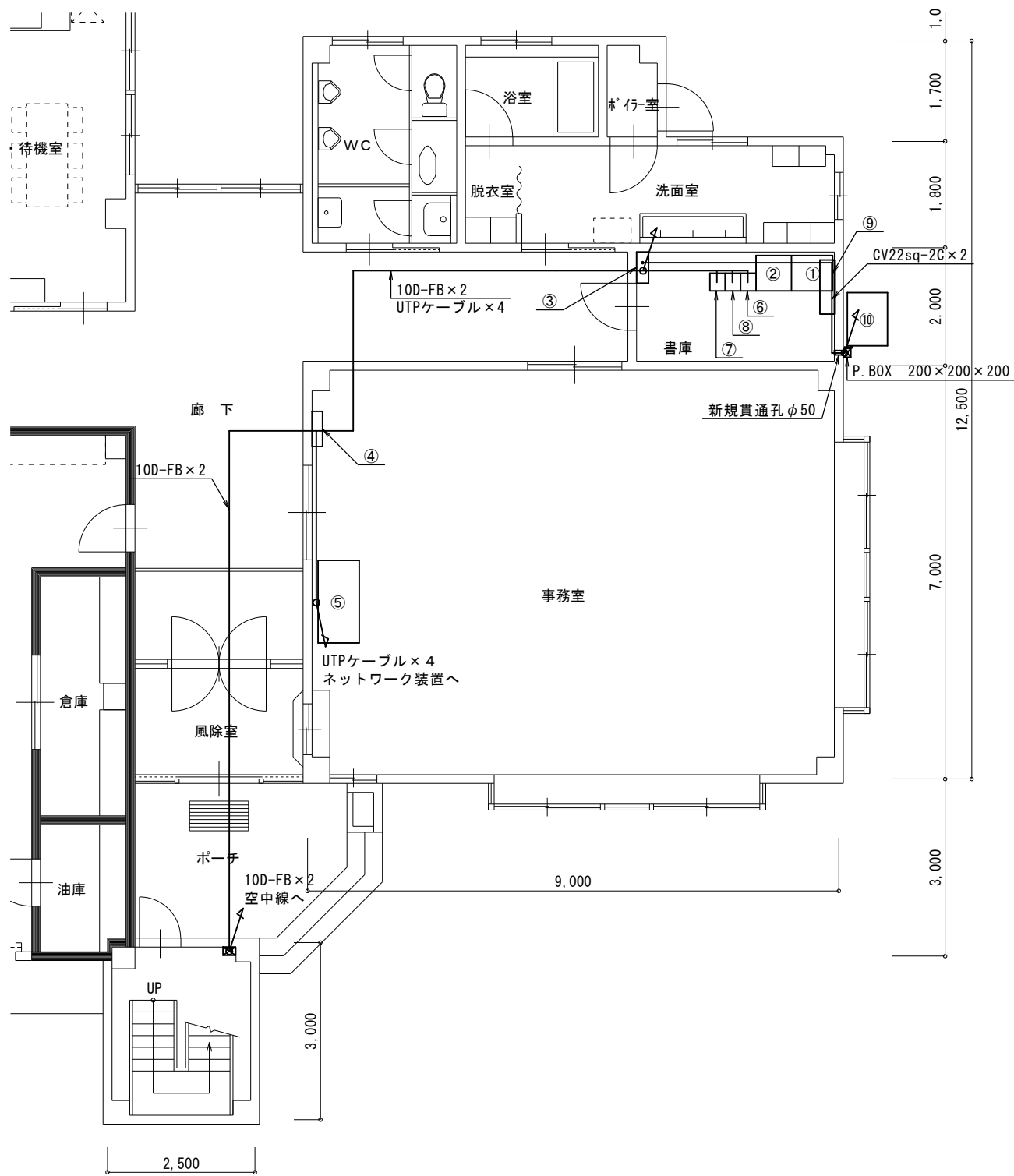
訓練塔断面図 S=1/100

北分署基地局既設設備		
① 空中線		
2素子八木型	2基	新設
3素子八木型	2基	新設

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	北分署基地局		
図面名	断面図（新設）		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1：100	図面番号	D2-04
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		

【特記事項】

- 空中線ポールは既設流用とすること。
- 運用切替時は出来るだけ停波を短時間で行う計画を立案すること。



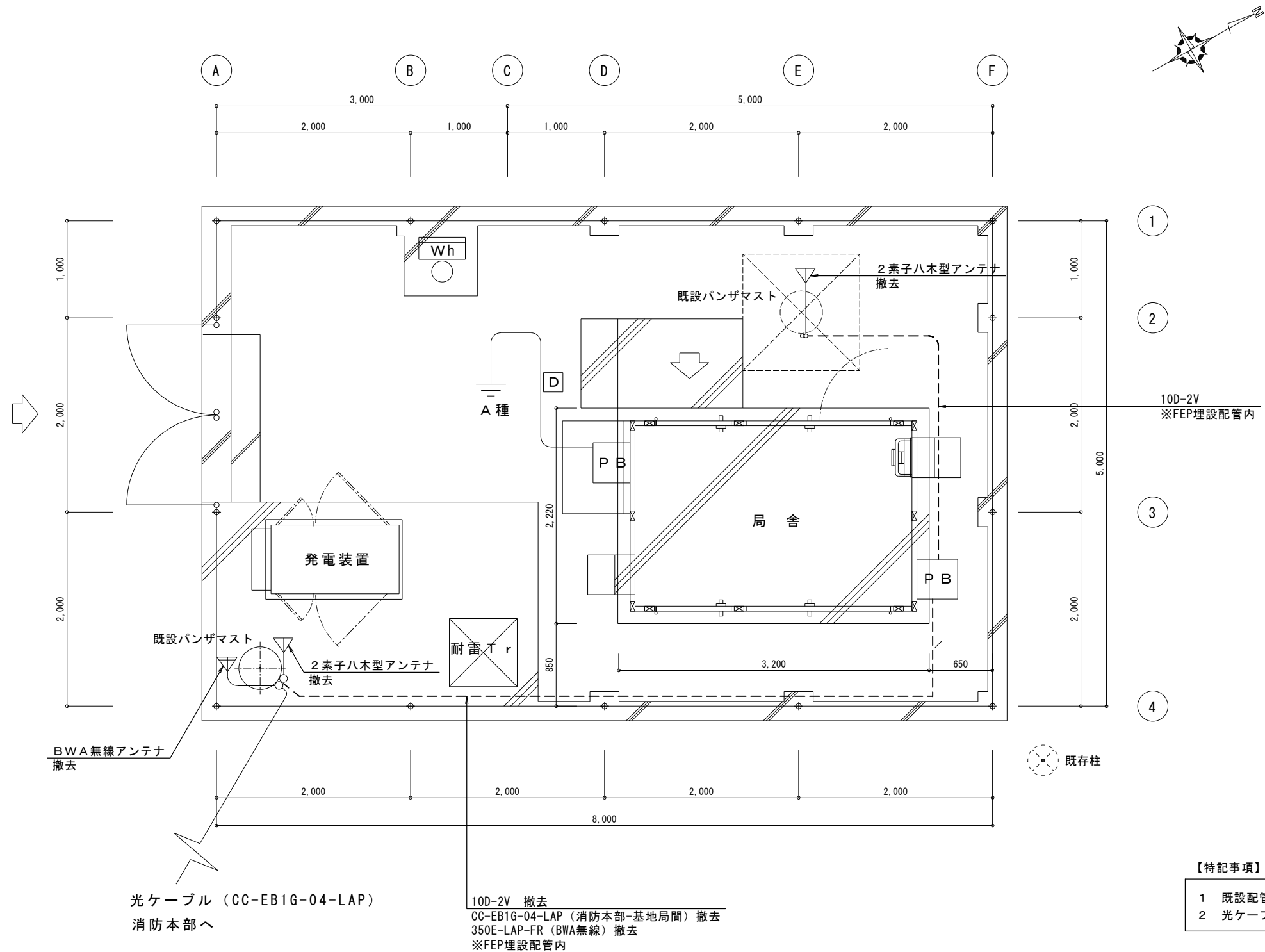
平面図 S=1:100

北分署基地局新設設備		
①	直流電源装置（整流器）	W600×D600×H1950 パワーユニット交換
②	直流電源装置（蓄電池）	W700×D600×H1950 蓄電池交換
③	分電盤	W600×D600×H2200 既設流用
	MDF	既設流用
④	同軸避雷器×2	W104×D34×H135 新設
⑤	有線接続装置	新設
	L2-SW	新設
	UPS	W478×D298×H87 新設
⑥	空中線共用装置	W260×D298×H1800 新設
⑦	基地局無線装置-基本架	W258×D298×H1798 新設
⑧	基地局無線装置-増設架	W258×D298×H1798 新設
⑨	エアコン	新設
⑩	非常用発動発電機	W900×D680×H2066 新設

【特記事項】

- ケーブルラックは既設流用すること。
- 訓練棟までの配線ルートは既設と同様とする。
- 訓練棟の配管は既設流用とすること。
- 非常用発動発電機からの屋内への配線にはG管を使用すること。
- 既設分電盤内のA・B端子台を使用し非常用発動発電機と接続させること。
- 既設分電盤内に接続されている可搬型発電機用ケーブルは撤去すること。
- 運用切替時は出来るだけ停波を短時間でを行う計画を立案すること。

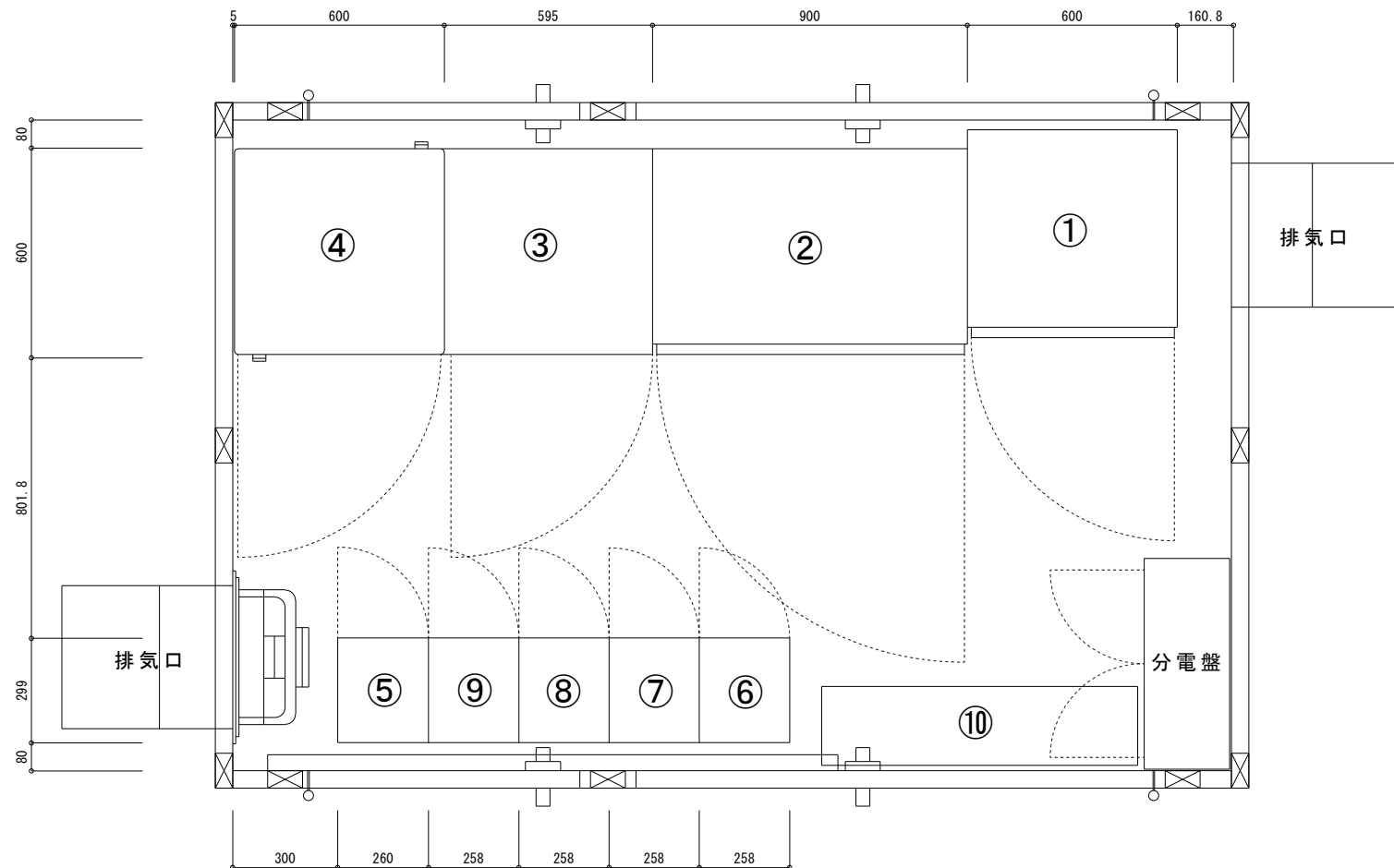
工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	北分署基地局		
図面名	配線図（新設）		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1:100	図面番号	D2-05
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



平面図 S=1/50

- 【特記事項】
- 1 既設配管は既設流用すること。
 - 2 光ケーブルの撤去はJR東日本と協議を実施し、撤去すること。

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	消防本部基地局		
図面名	平面図（既設）		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1：50	図面番号	D3-01
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



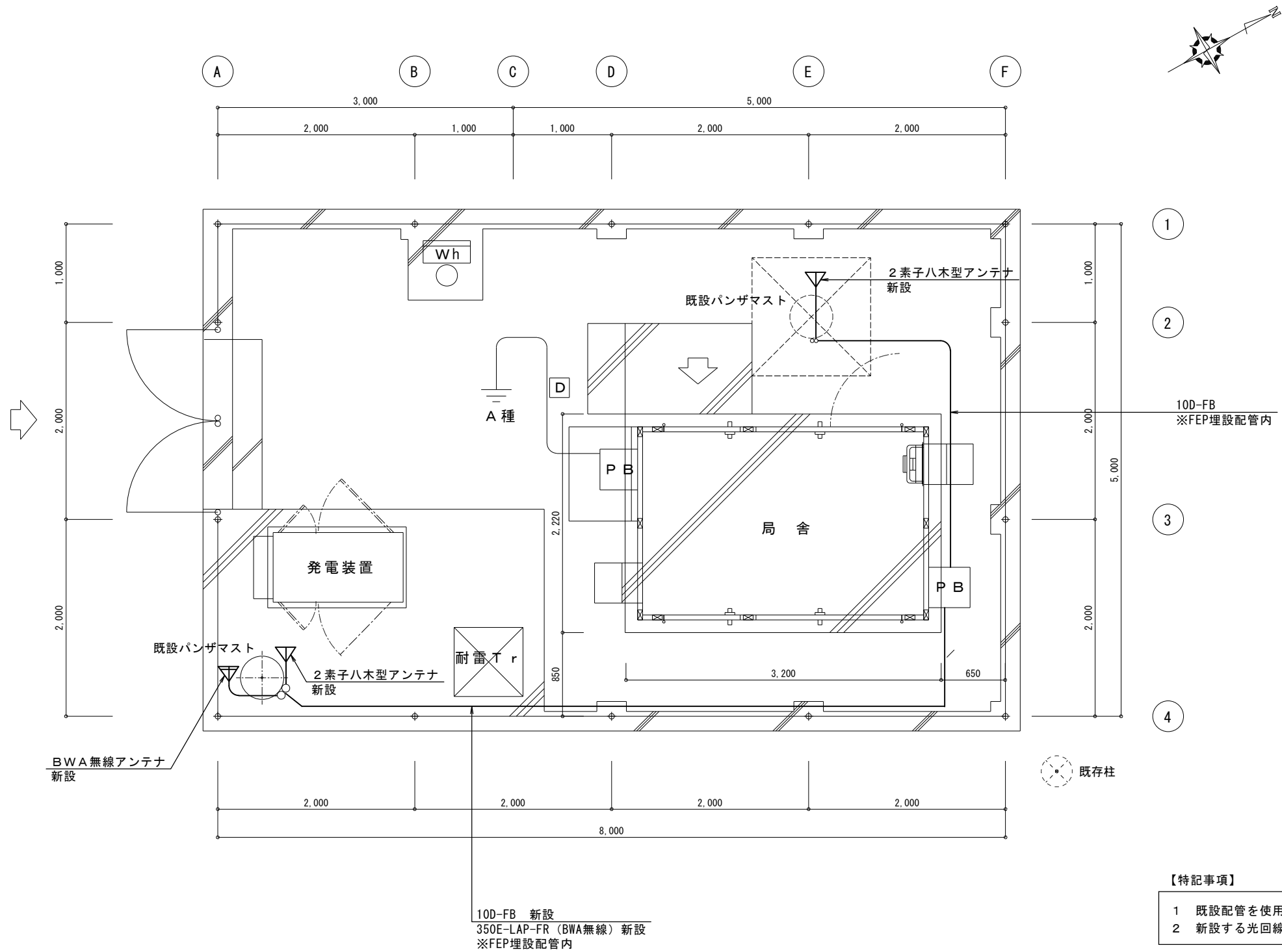
局舎内既設機器配置図 S=1/20

消 防 本 部 中 継 塔			
①	直 流 電 源 装 置（整流器）	W600 x D600 x H1950	パワユニット交換
②	直 流 電 源 装 置（蓄電池）	W900 x D600 x H1950	蓄電池交換
③	M D F		既設流用
④	収納ラック	W600 x D600 x H2200	既設流用
	同軸避雷器 x 2	W104 x D34 x H135	撤去
	BWA装置（電源）		撤去
	有線接続装置 x 2		撤去
	L 2 S W x 2		撤去
	インバーター（1500W）	W191 x D413 x H88	撤去
	UPS	W428 x D414 x H87	撤去
⑤	空中線共用装置	W260 x D298 x H1800	撤去
⑥	基地局無線装置-基本架1	W258 x D298 x H1798	撤去
⑦	基地局無線装置-基本架2	W258 x D298 x H1798	撤去
⑧	基地局無線装置-基本架3	W258 x D298 x H1798	撤去
⑨	基地局無線装置-基本架4	W258 x D298 x H1798	撤去
⑩	エアコン		撤去

【特記事項】

- ケーブルラックは既設流用すること。
- 分電盤は既設流用すること。
- 機器の既設ケーブルは撤去すること。再利用可能な場合は発注者と協議すること。
- 運用切替時は出来るだけ停波を短時間でを行う計画を立案すること。

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	消 防 本 部 基 地 局		
図 面 名	局 舎 内 既 設 機 器 配 置 図		
作 成 年 月 日	令 和 7 年 3 月		
縮 尺	1 : 20	図 面 番 号	D3-02
事 業 者 名	男 鹿 地 区 消 防 一 部 事 務 組 合 消 防 本 部		

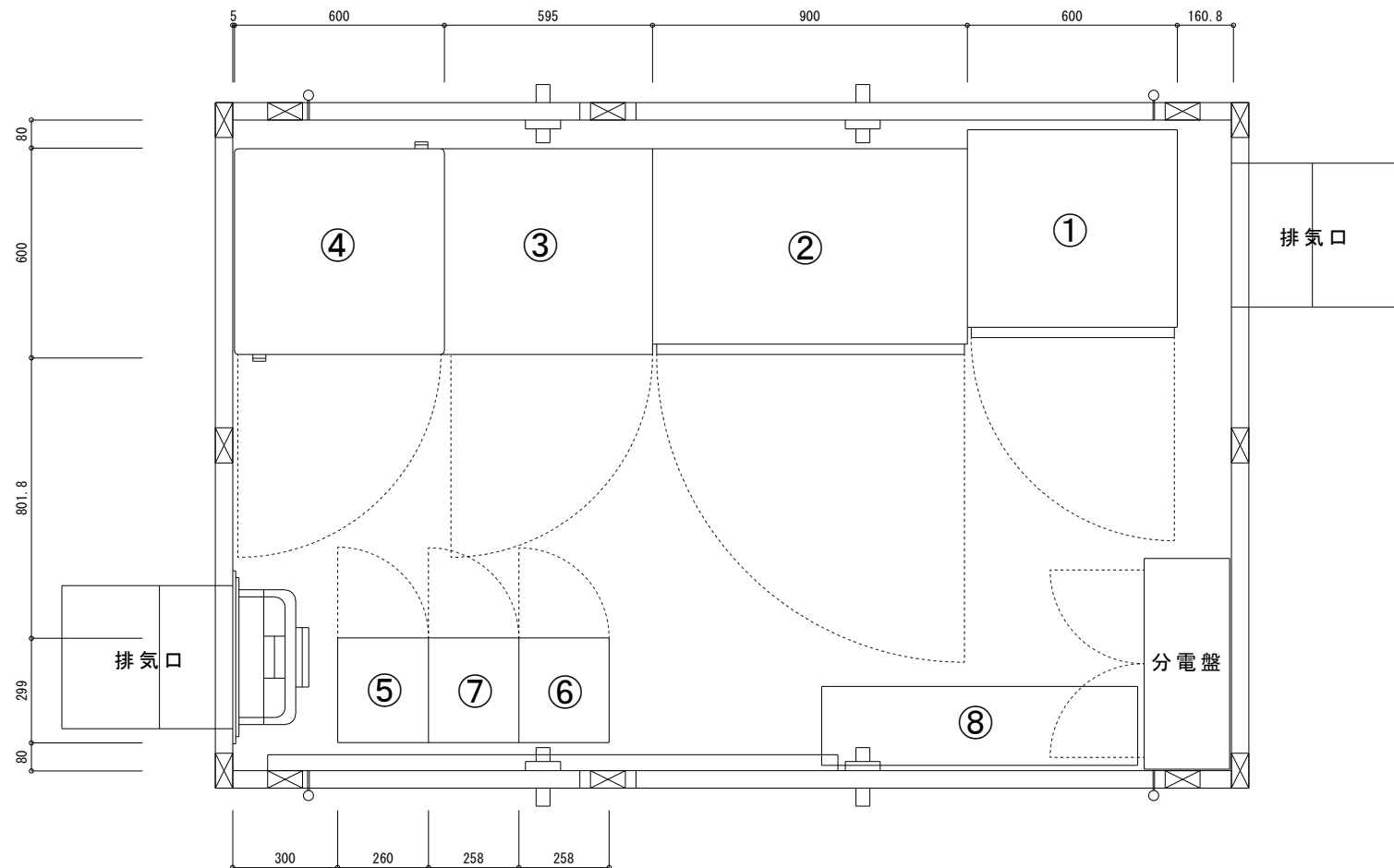


平面図 S=1/50

【特記事項】

- 1 既設配管を使用して配線すること。
- 2 新設する光回線（民間）ケーブルの配線はサービス提供者者と協議を実施すること。

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	消防本部基地局		
図面名	平面図（新設）		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1：50	図面番号	D3-03
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



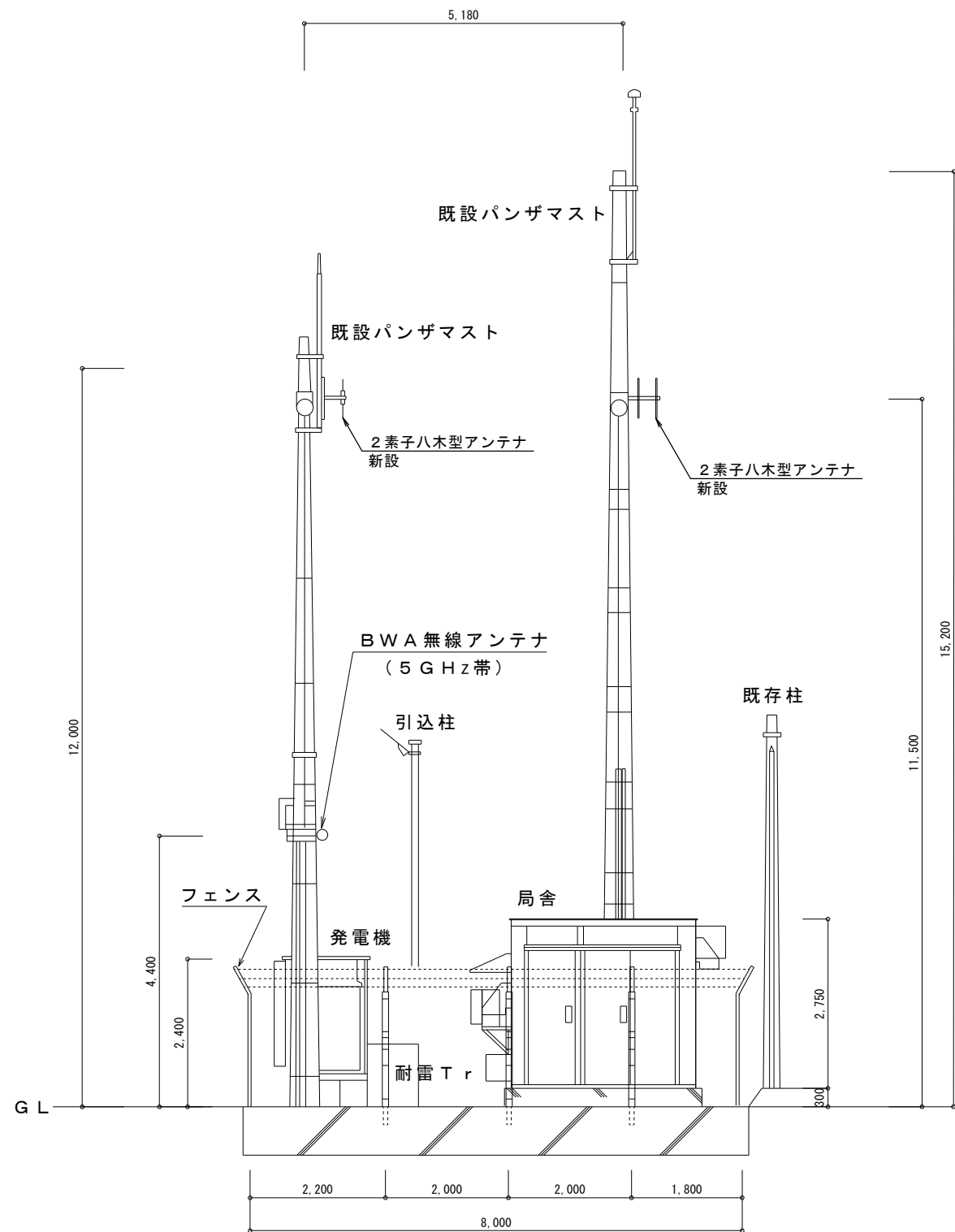
局舎内新設機器配置図 S=1/20

消防本部中継塔			
①	直流電源装置（整流器）	W600×D600×H1950	パワーユニット交換
②	直流電源装置（蓄電池）	W900×D600×H1950	蓄電池交換
③	MDF		既設流用
④	収納ラック	W600×D600×H2200	既設流用
	同軸避雷器×2	W104×D34×H135	新設
	BWA装置（電源）		新設
	有線接続装置×2		新設
	L2SW*2		新設
	インバーター（1500W）	W191×D413×H88	新設
	UPS	W428×D414×H87	新設
⑤	空中線共用装置	W260×D298×H1800	新設
⑥	基地局無線装置-基本架	W258×D298×H1798	新設
⑦	基地局無線装置-増設架	W258×D298×H1798	新設
⑧	エアコン		新設

【特記事項】

- ケーブルラックは既設流用すること。
- 分電盤は既設流用すること。
- 機器のケーブルは新設すること。再利用する場合は発注者と協議をすること。
- 運用切替時は出来るだけ停波を短時間で行う計画を立案すること。

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	消防本部基地局		
図面名	局舎内新設機器配置図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1：20	図面番号	D3-04
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		

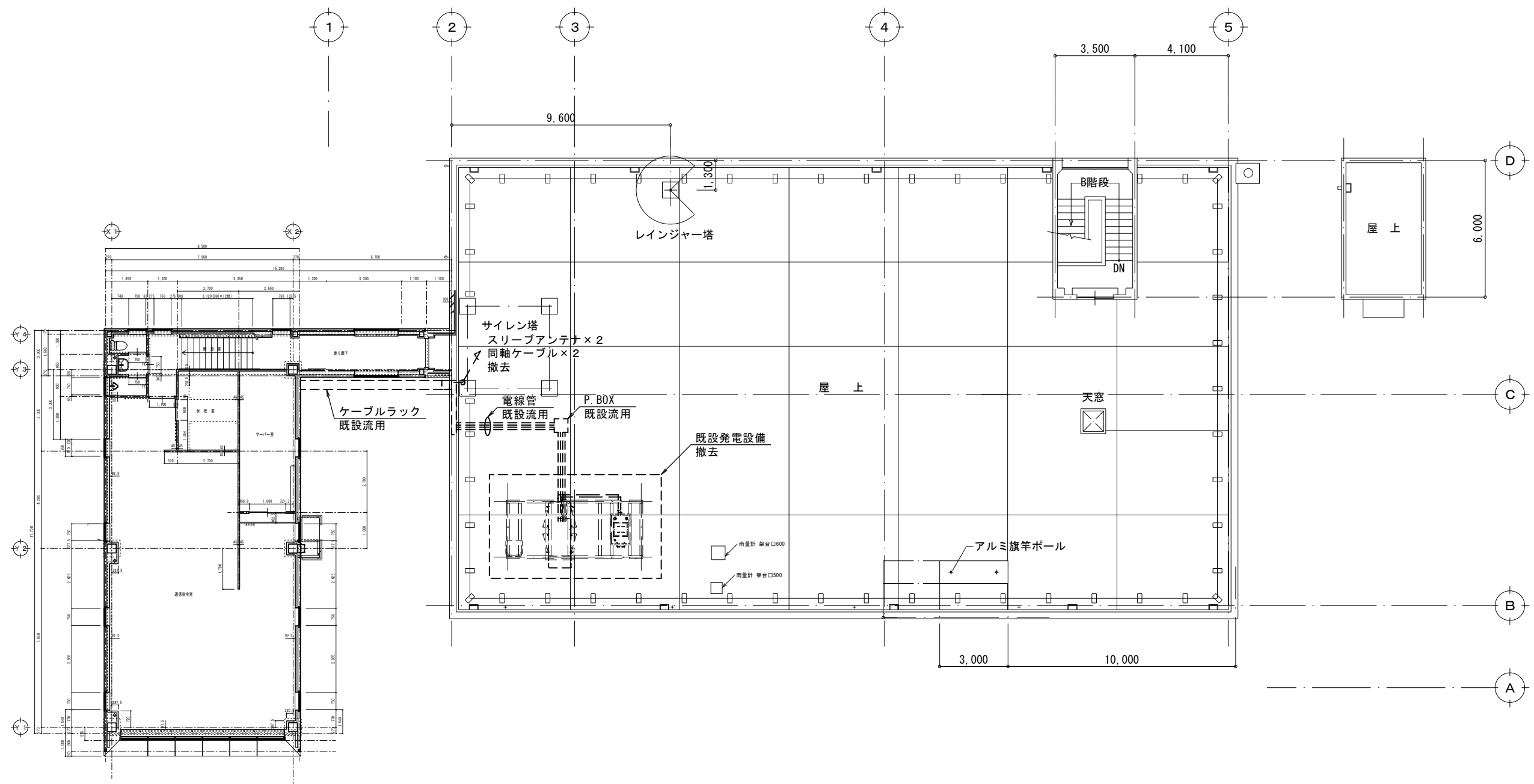


立面図 S=1/200

【特記事項】

- 1 既設配管を使用して配線すること。
- 2 新設する光回線（民間）ケーブルの配線はサービス提供者者と協議を実施すること。

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	消 防 本 部 基 地 局		
図 面 名	立 面 図 （ 新 設 ）		
作 成 年 月 日	令 和 7 年 3 月		
縮 尺	1 : 20	図 面 番 号	D3-05
事 業 者 名	男 鹿 地 区 消 防 一 部 事 務 組 合 消 防 本 部		

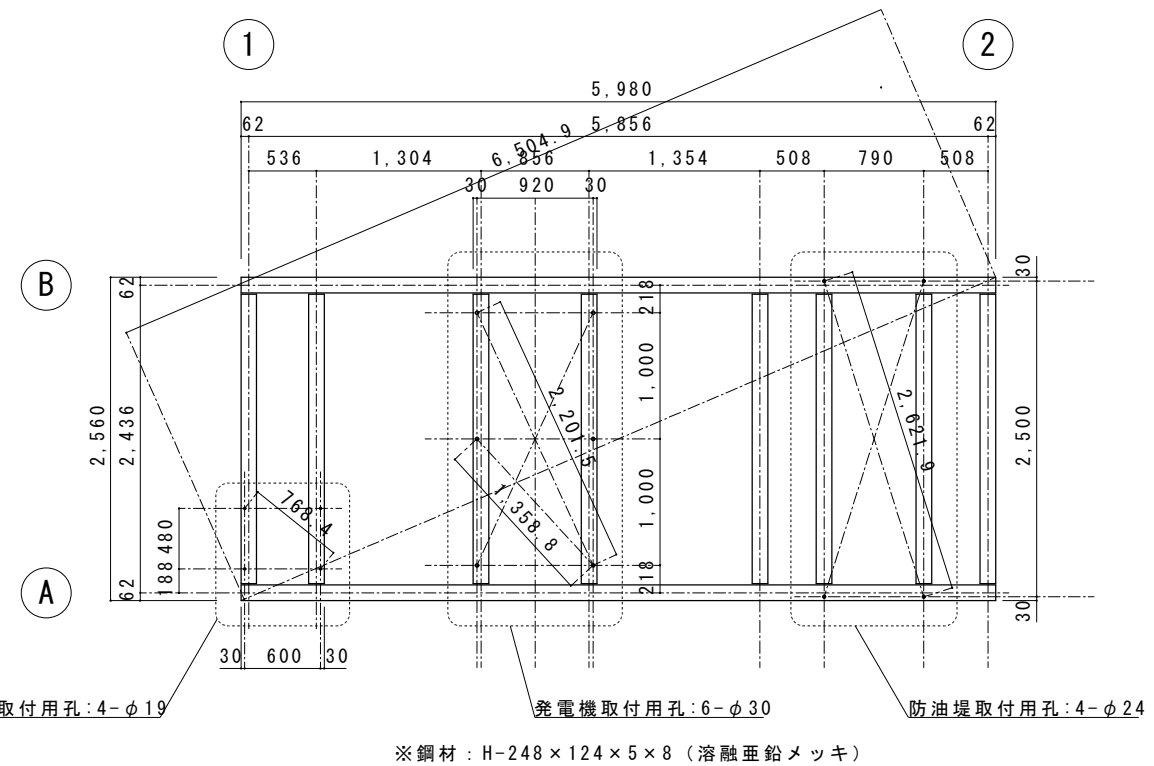
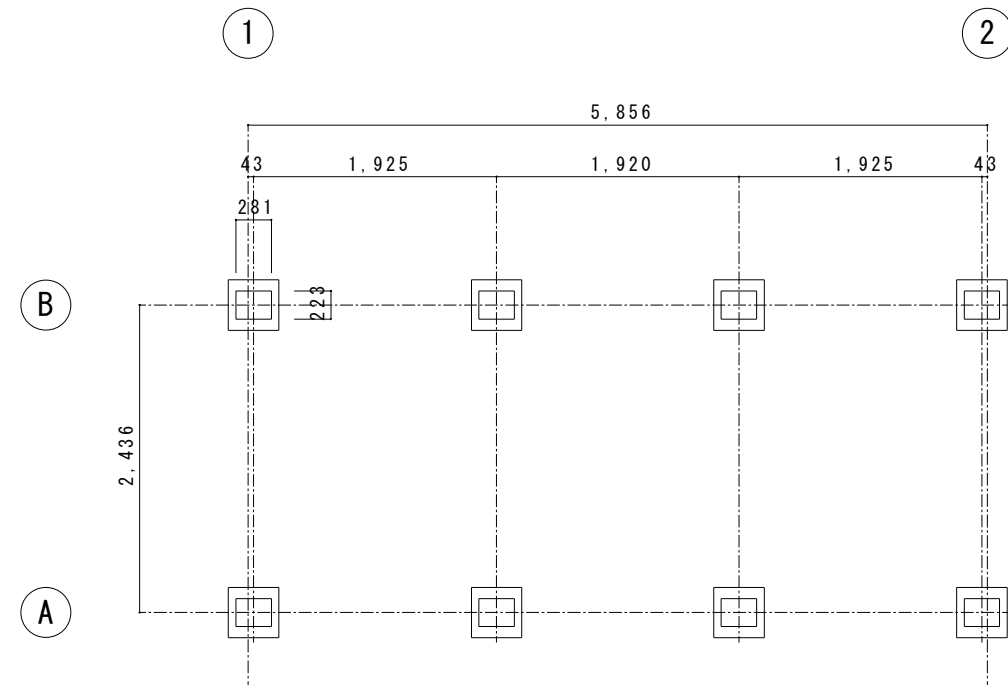
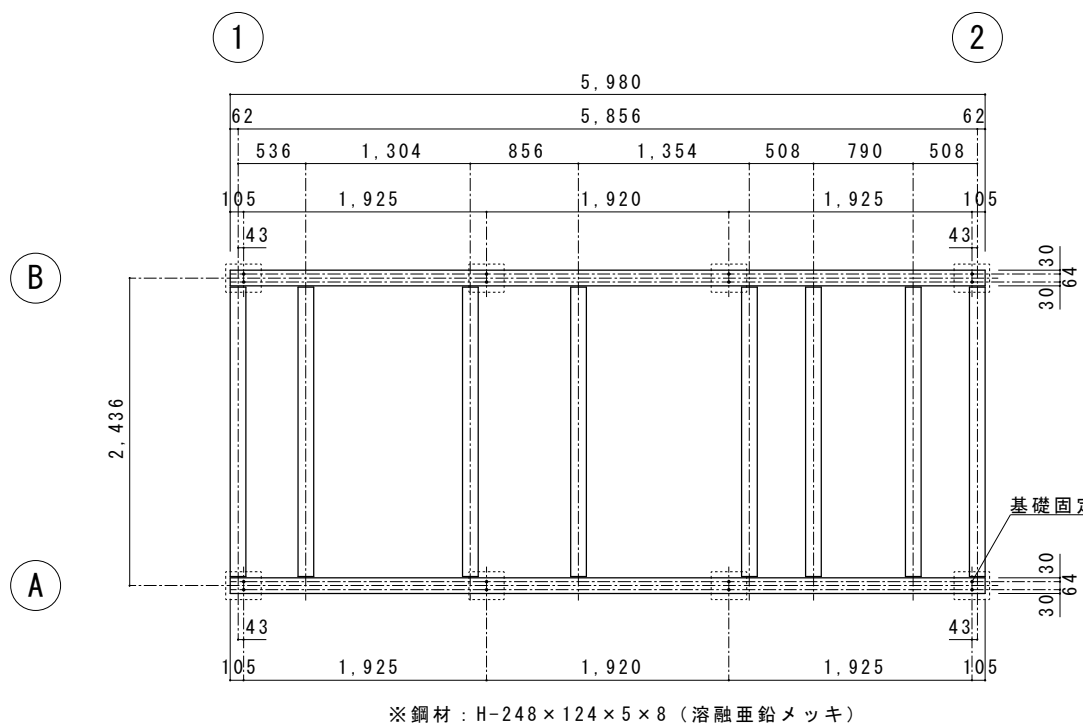
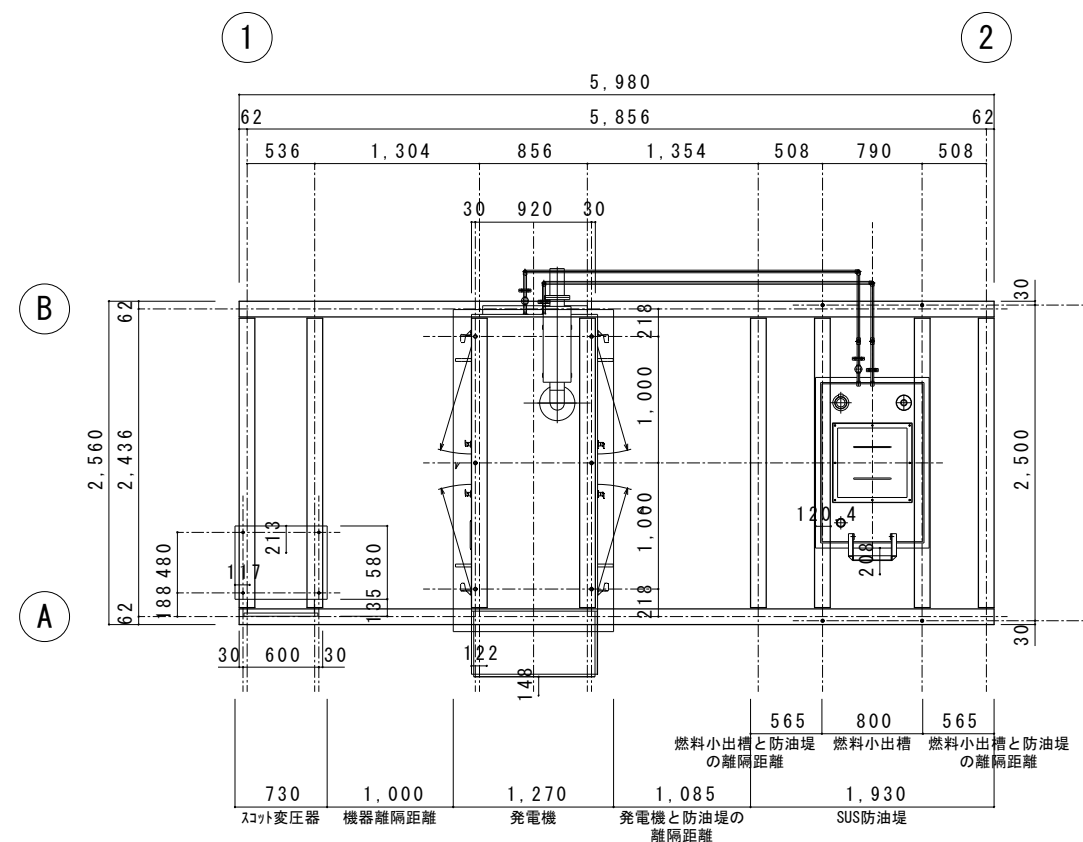


R 階平面図 S=1/200

【特記事項】

- 1 既設発電設備は架台も含めて撤去すること。
- 2 既設発電設備撤去は防水処理施工を実施すること。
- 3 空中線と同軸ケーブルは撤去すること。
- 4 既設電線は撤去すること。
- 5 P. BOXと一部電線管は既設流用すること。
- 6 通信機械室へのケーブルラックは既設流用すること。

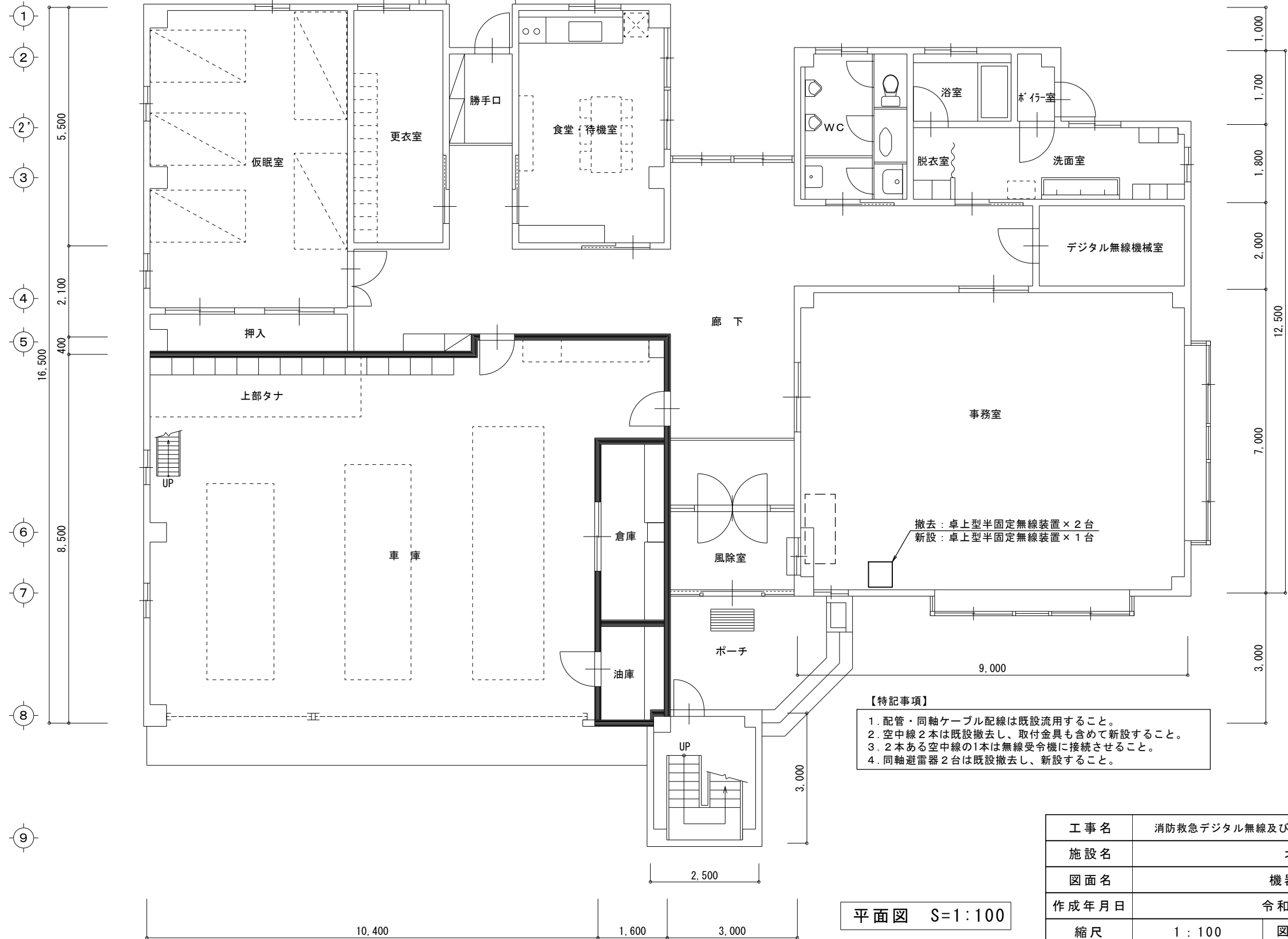
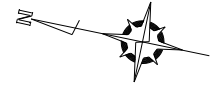
工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	消防本部		
図面名	屋上既設機器配置図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1 : 200	図面番号	D4-01
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



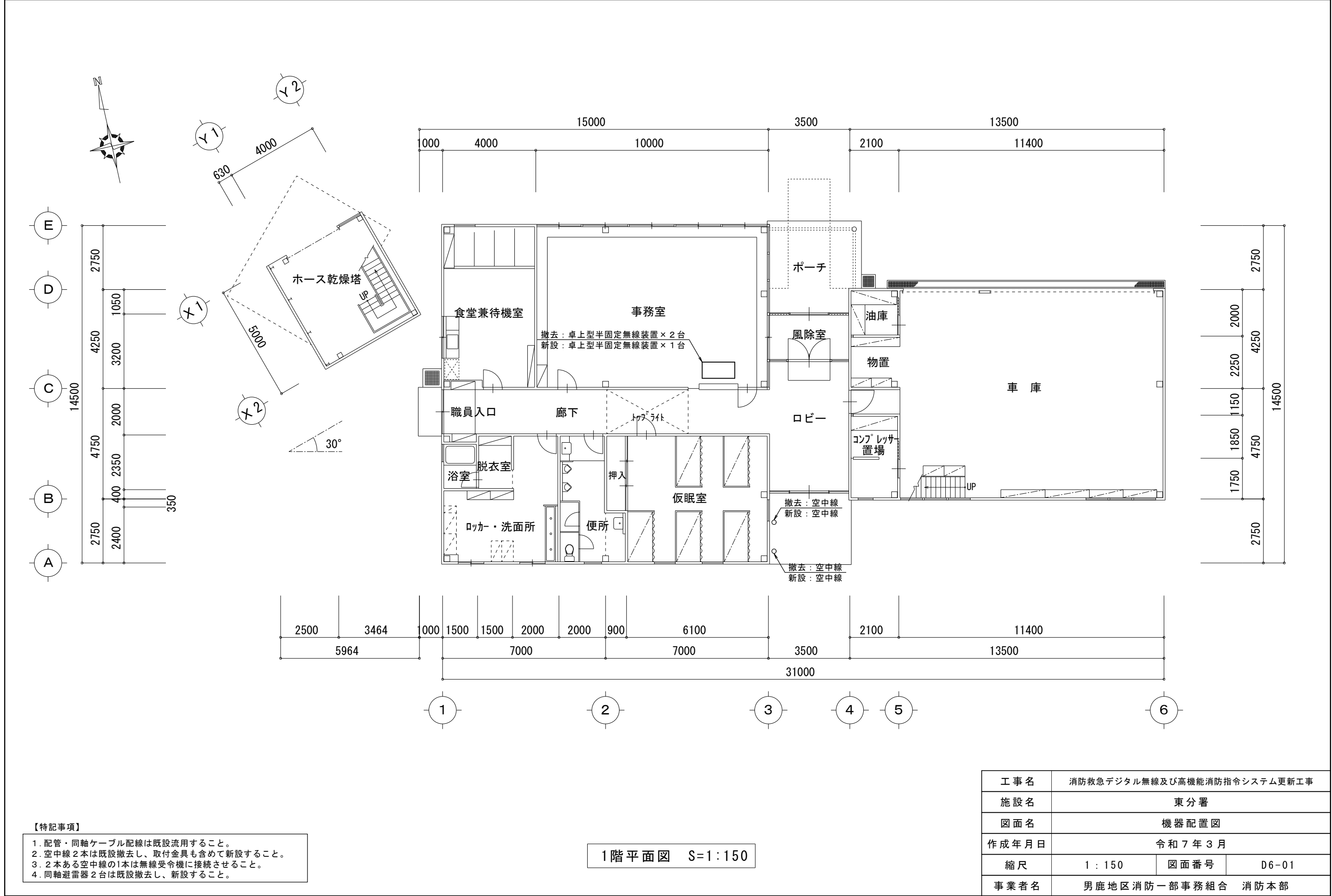
【特記事項】

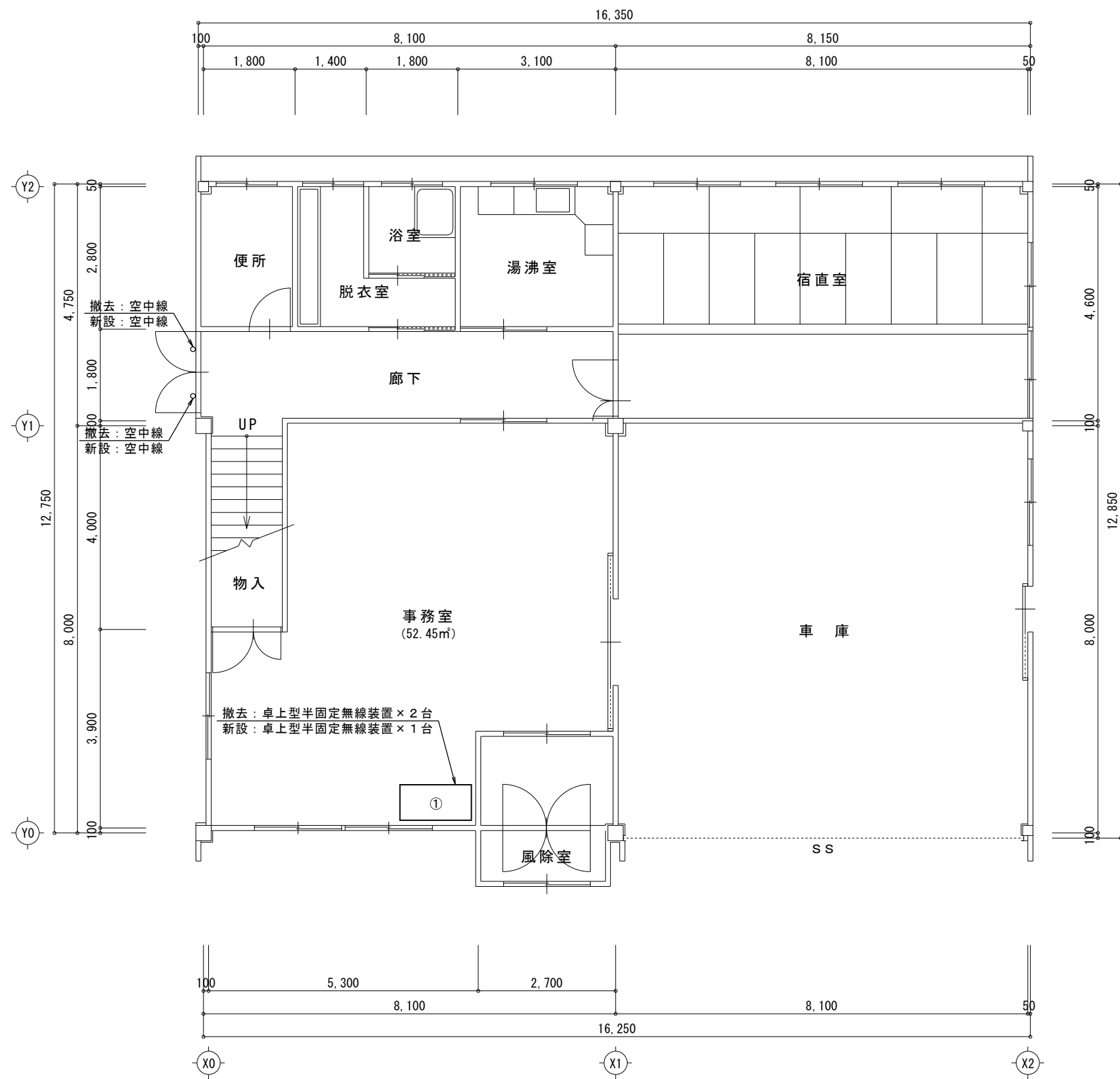
- 1 新設発電設備は参考図である。
- 2 指令システムメーカーの機器消費電力から発電機出力を算出し、発電機を選定すること。
- 3 油庫は発電機が72時間以上稼働可能な容量を選定すること。
- 4 新設発電設備の設置に伴い、屋上の強度検討を実施すること。

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	消 防 本 部		
図 面 名	発電設備鉄骨架台参考図		
作 成 年 月 日	令和 7 年 3 月		
縮 尺	1 : 60	図面番号	D4-03
事 業 者 名	男 鹿 地 区 消 防 一 部 事 務 組 合 消 防 本 部		

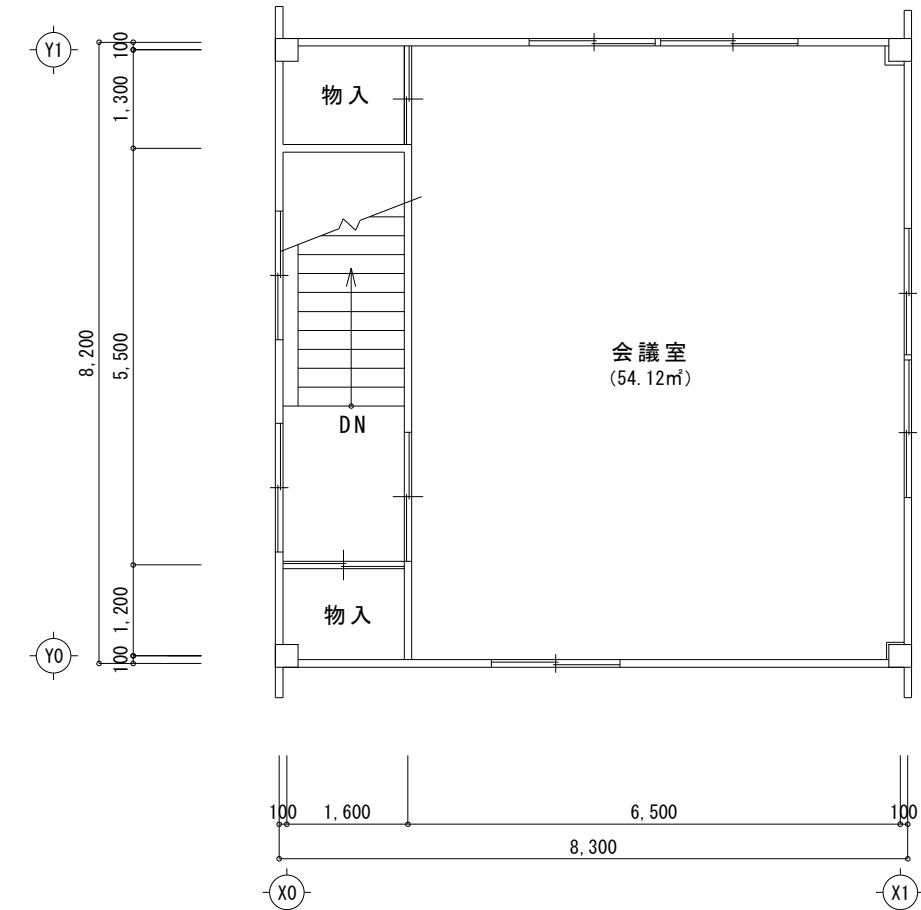


工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	北分署		
図面名	機器配置図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1:100	図面番号	D5-01
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		





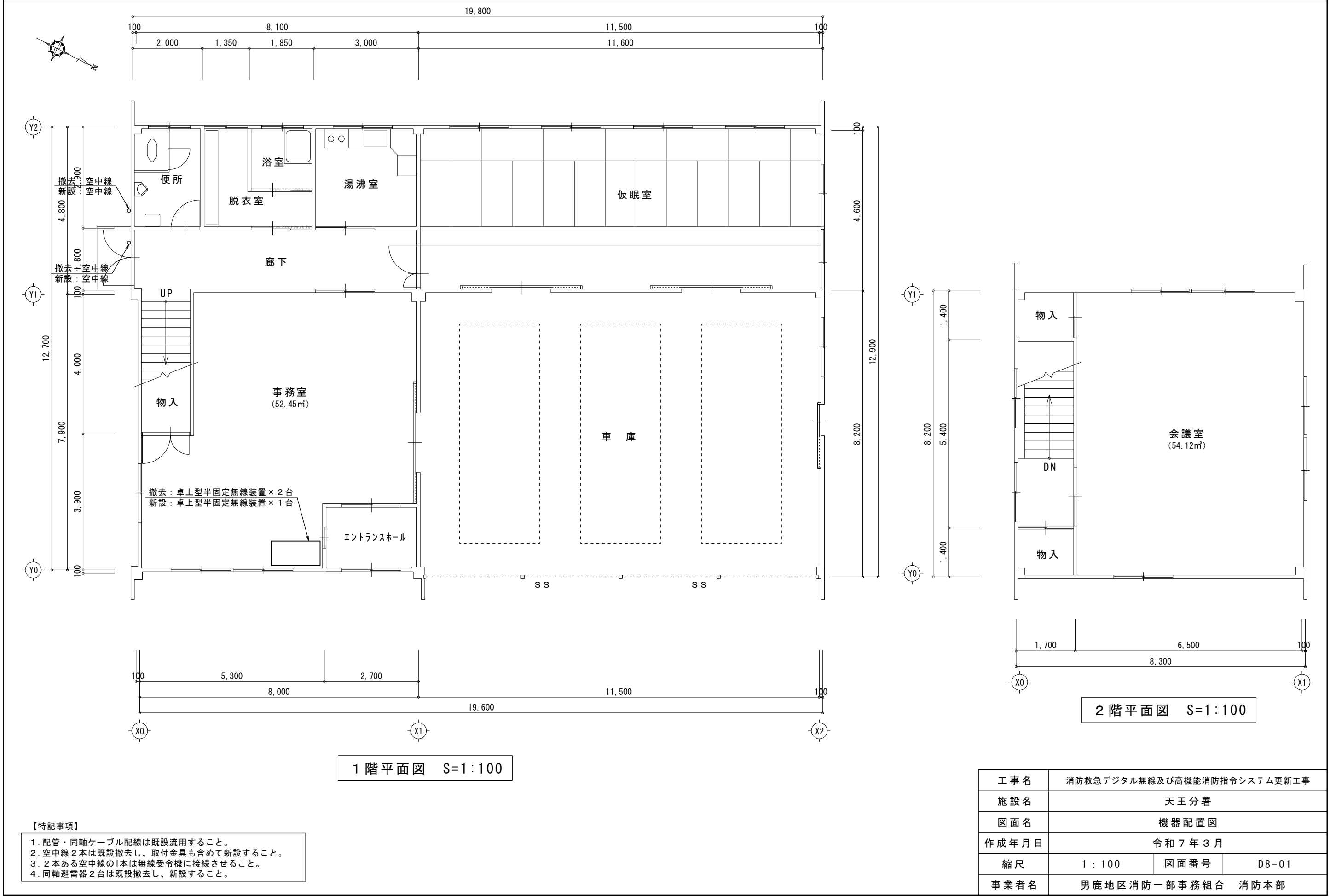
1 階平面図 S=1:100



2 階平面図 S=1:100

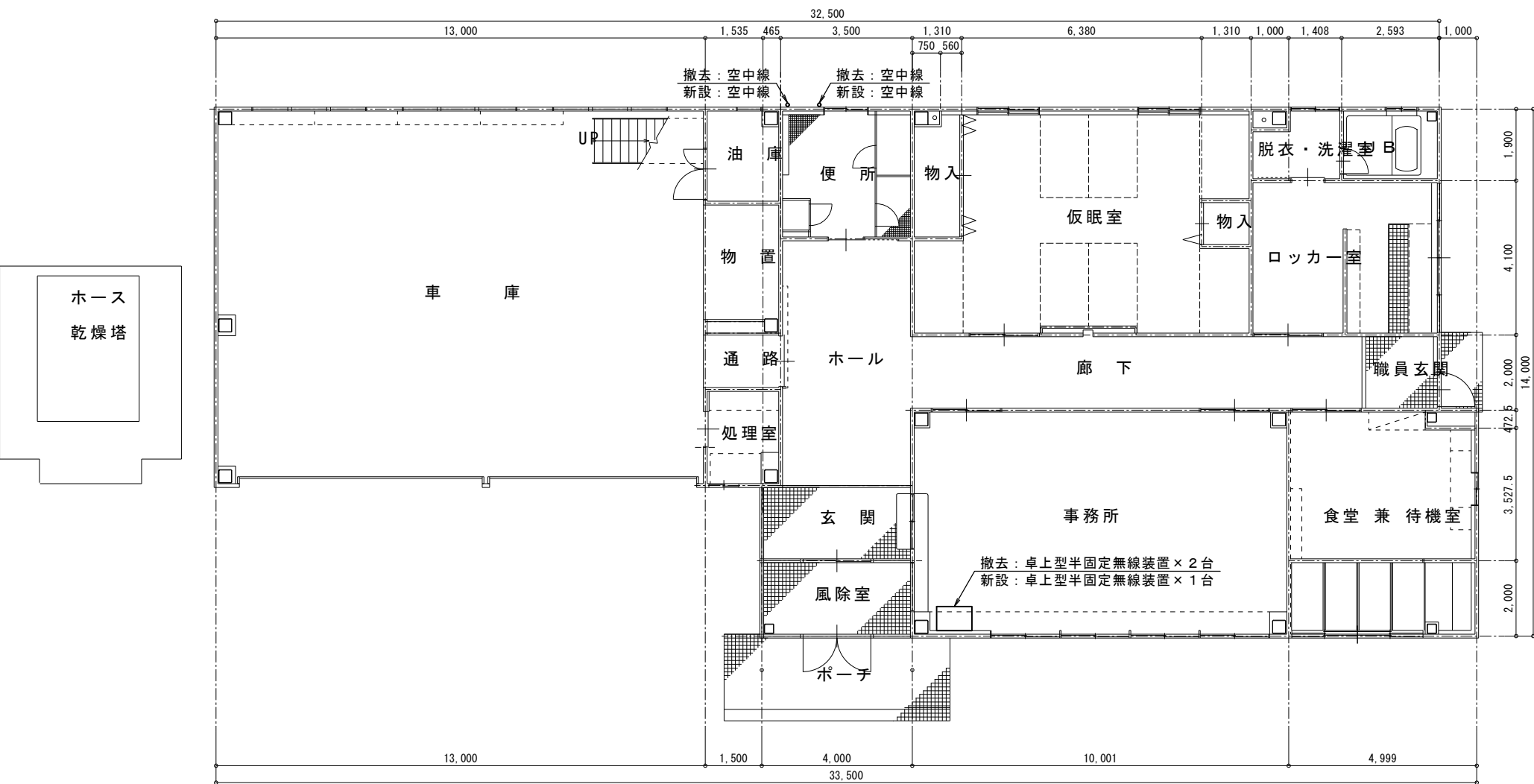
- 【特記事項】
1. 配管・同軸ケーブル配線は既設流用すること。
 2. 空中線 2 本は既設撤去し、取付金具も含めて新設すること。
 3. 2 本ある空中線の 1 本は無線受令機に接続させること。
 4. 同軸避雷器 2 台は既設撤去し、新設すること。

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	若美分署		
図面名	機器配置図		
作成年月日	令和 7 年 3 月		
縮尺	1 : 100	図面番号	D7-01
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



【特記事項】

1. 配管・同軸ケーブル配線は既設流用すること。
2. 空中線2本は既設撤去し、取付金具も含めて新設すること。
3. 2本ある空中線の1本は無線受令機に接続させること。
4. 同軸避雷器2台は既設撤去し、新設すること。

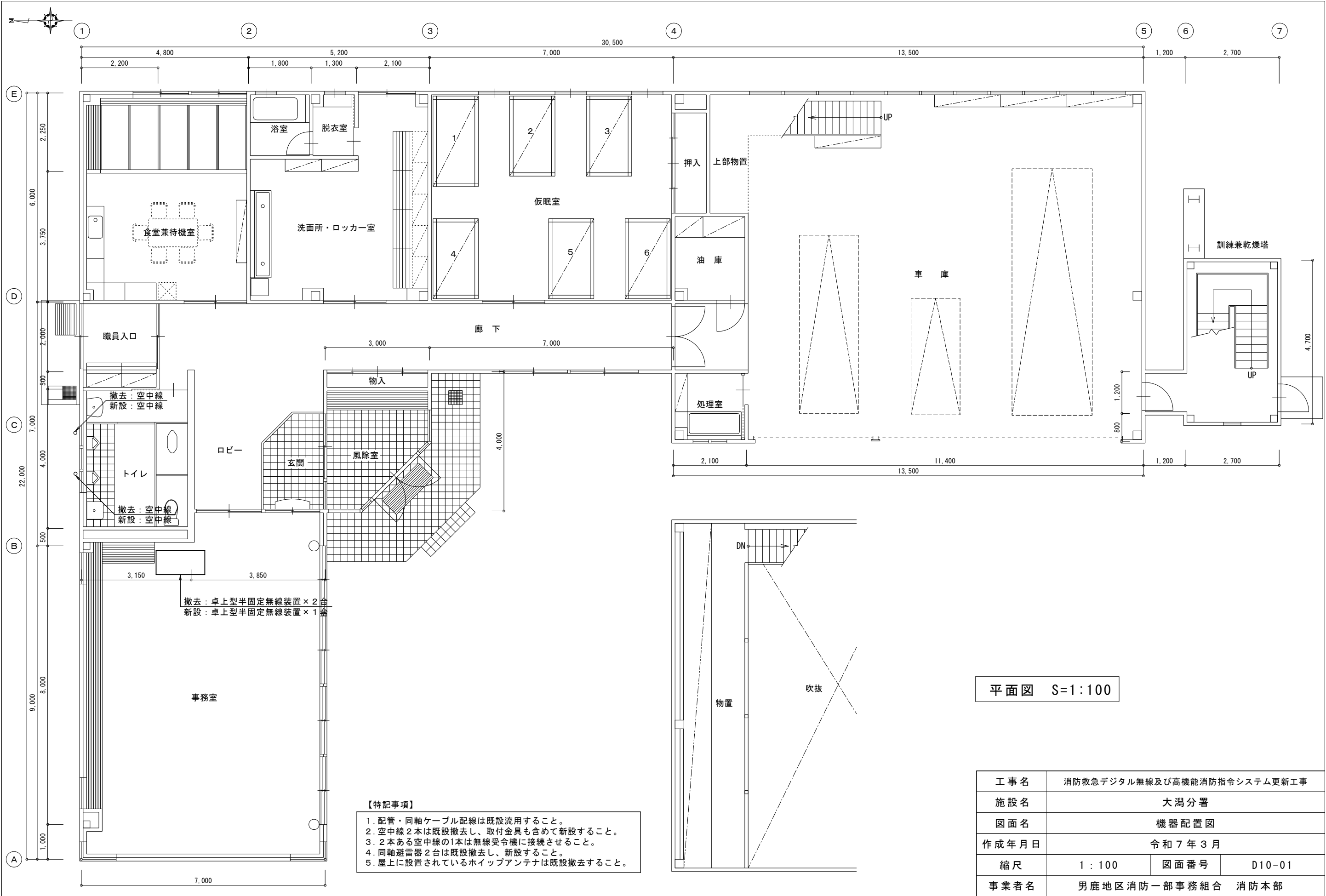


平面図 S=1/100

【特記事項】

- 1. 配管・同軸ケーブル配線は既設流用すること。
- 2. 空中線 2 本は既設撤去し、取付金具も含めて新設すること。
- 3. 2 本ある空中線の 1 本は無線受令機に接続させること。
- 4. 同軸避雷器 2 台は既設撤去し、新設すること。

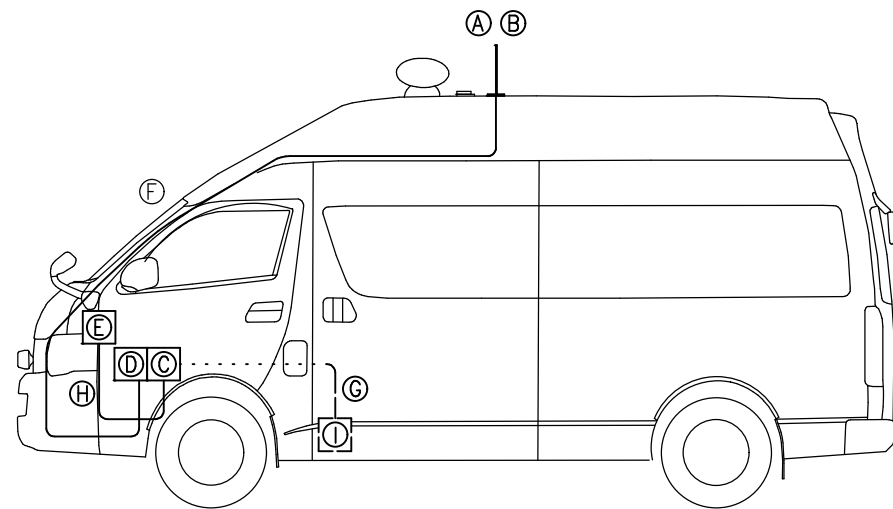
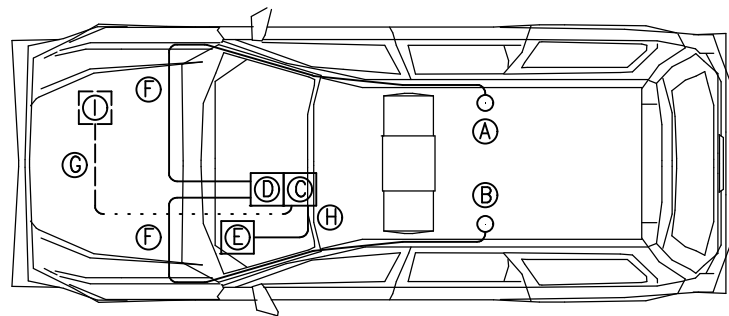
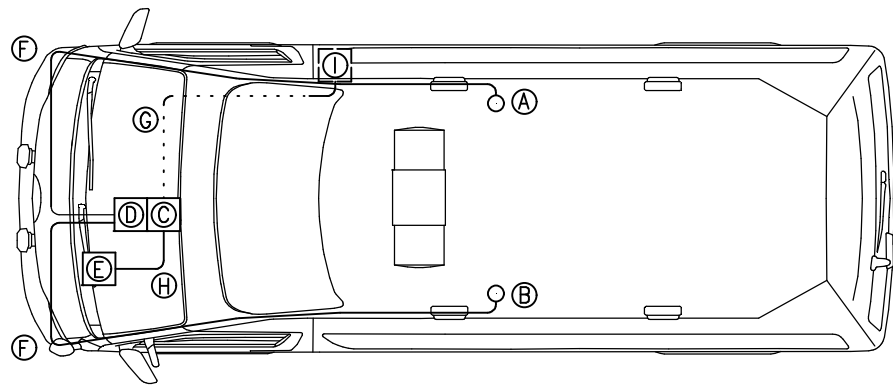
工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	天王南分署		
図面名	機器配置図		
作成年月日	令和 7 年 3 月		
縮尺	1 : 100	図面番号	D9-01
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



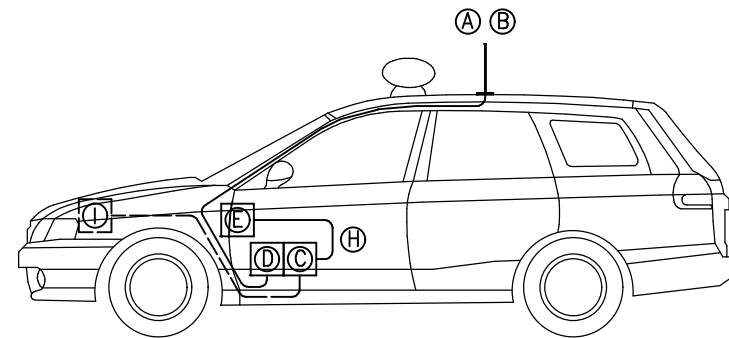
工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	大 湊 分 署		
図 面 名	機 器 配 置 図		
作 成 年 月 日	令 和 7 年 3 月		
縮 尺	1 : 100	図 面 番 号	D10-01
事 業 者 名	男 鹿 地 区 消 防 一 部 事 務 組 合 消 防 本 部		

新設機器

番号	機器名
Ⓐ	アンテナ 1
Ⓑ	アンテナ 2
Ⓒ	車載無線機
Ⓓ	操作部
Ⓔ	制御部
Ⓕ	同軸ケーブル
Ⓖ	電源ケーブル
Ⓗ	制御ケーブル
Ⓘ	バッテリー

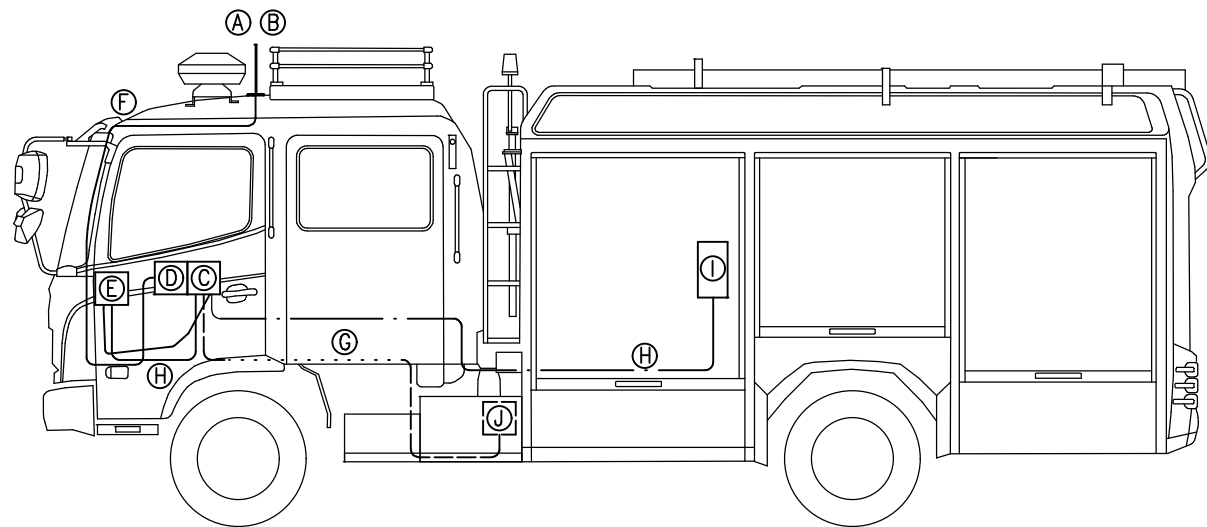
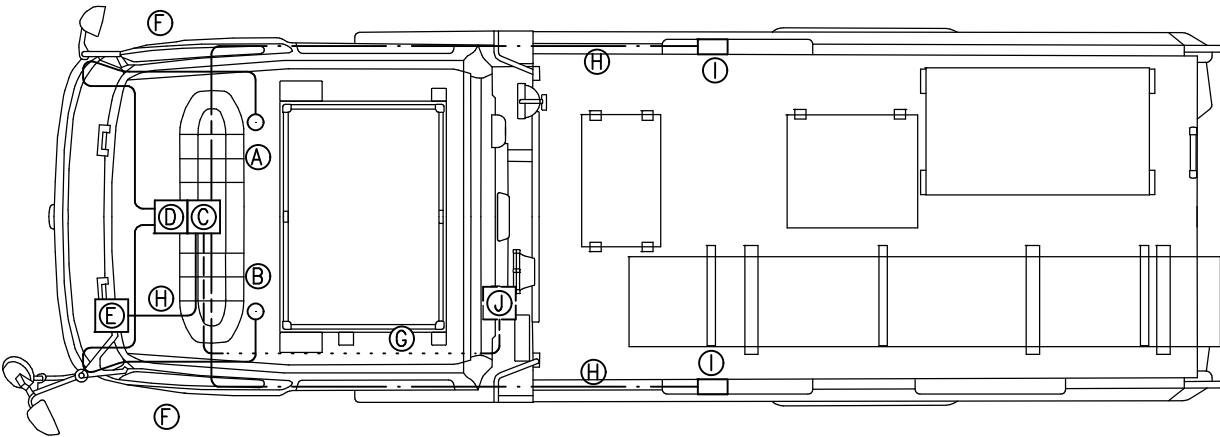


指揮車



指令・広報車

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	—		
図 面 名	車 載 型 無 線 装 置 取 付 参 考 図 (1)		
作 成 年 月 日	令 和 7 年 3 月		
縮 尺	No scale	図 面 番 号	D11-01
事 業 者 名	男 鹿 地 区 消 防 一 部 事 務 組 合 消 防 本 部		

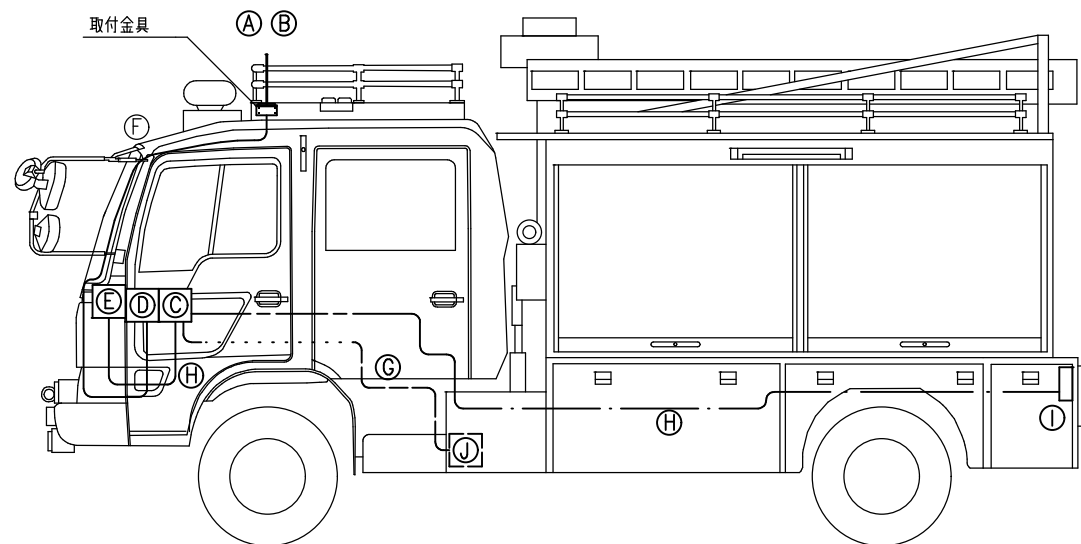
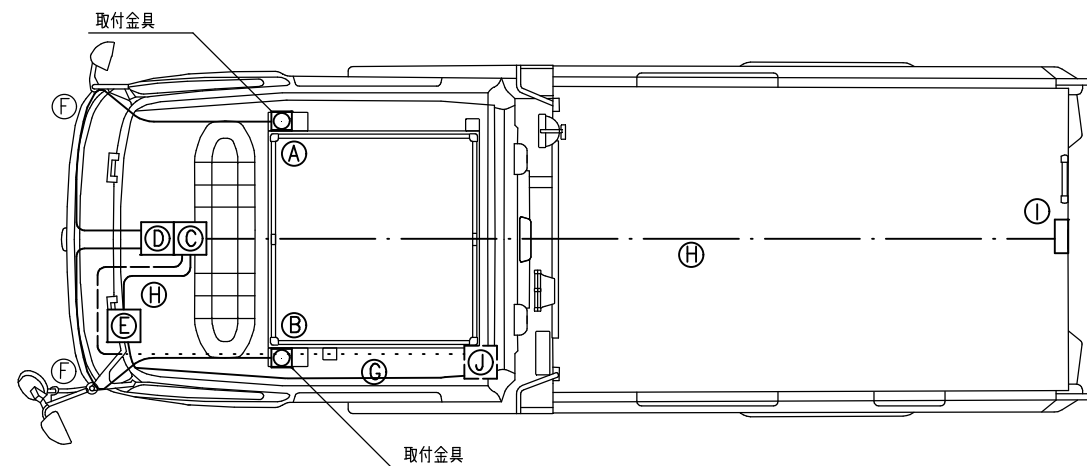


タンク・ポンプ・水槽車

新設機器

番号	機器名
Ⓐ	アンテナ 1
Ⓑ	アンテナ 2
Ⓒ	車載無線機
Ⓓ	操作部
Ⓔ	制御部
Ⓕ	同軸ケーブル
Ⓖ	電源ケーブル
Ⓗ	制御ケーブル
Ⓘ	バッテリー

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	—		
図 面 名	車 載 型 無 線 装 置 取 付 参 考 図 (2)		
作 成 年 月 日	令 和 7 年 3 月		
縮 尺	No scale	図 面 番 号	D11-02
事 業 者 名	男 鹿 地 区 消 防 一 部 事 務 組 合 消 防 本 部		

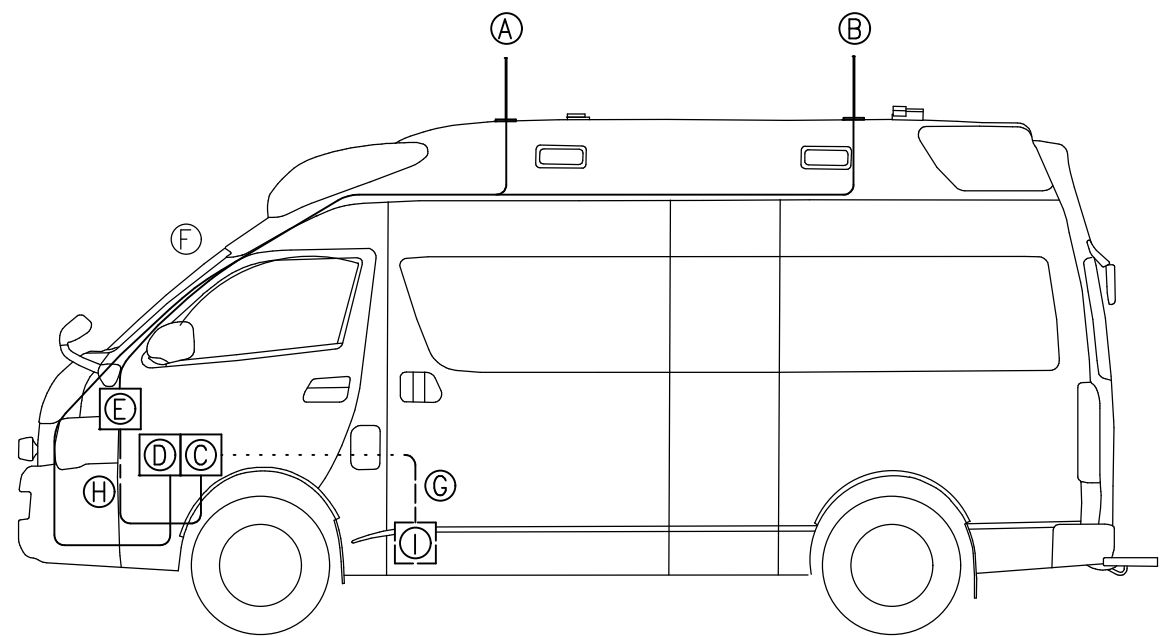
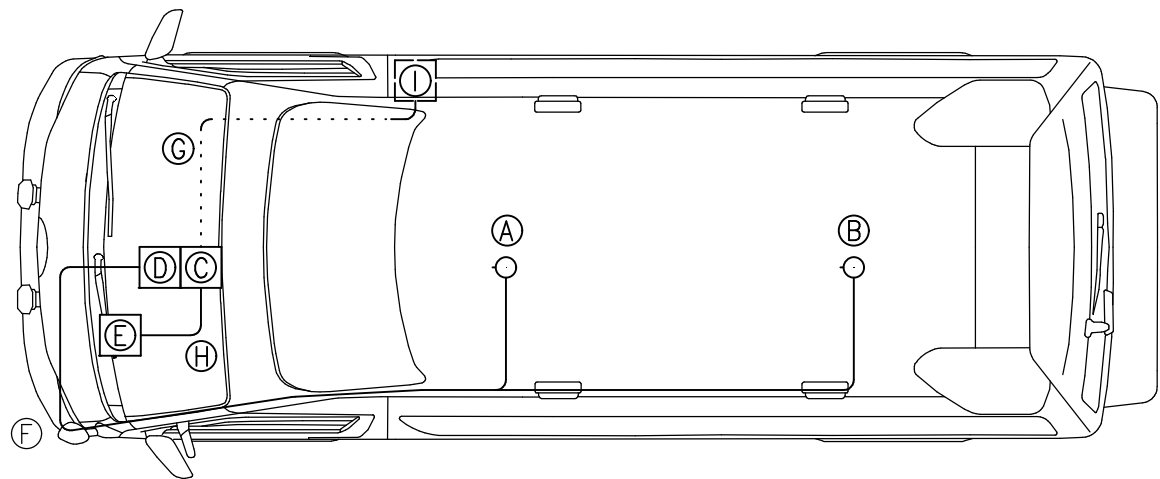


救助工作車

新設機器

番号	機器名
①	アンテナ 1
②	アンテナ 2
③	車載無線機
④	操作部
⑤	制御部
⑥	同軸ケーブル
⑦	電源ケーブル
⑧	制御ケーブル
⑨	バッテリー

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	—		
図 面 名	車 載 型 無 線 装 置 取 付 参 考 図 (3)		
作 成 年 月 日	令 和 7 年 3 月		
縮 尺	No scale	図 面 番 号	D11-03
事 業 者 名	男 鹿 地 区 消 防 一 部 事 務 組 合 消 防 本 部		



救急車

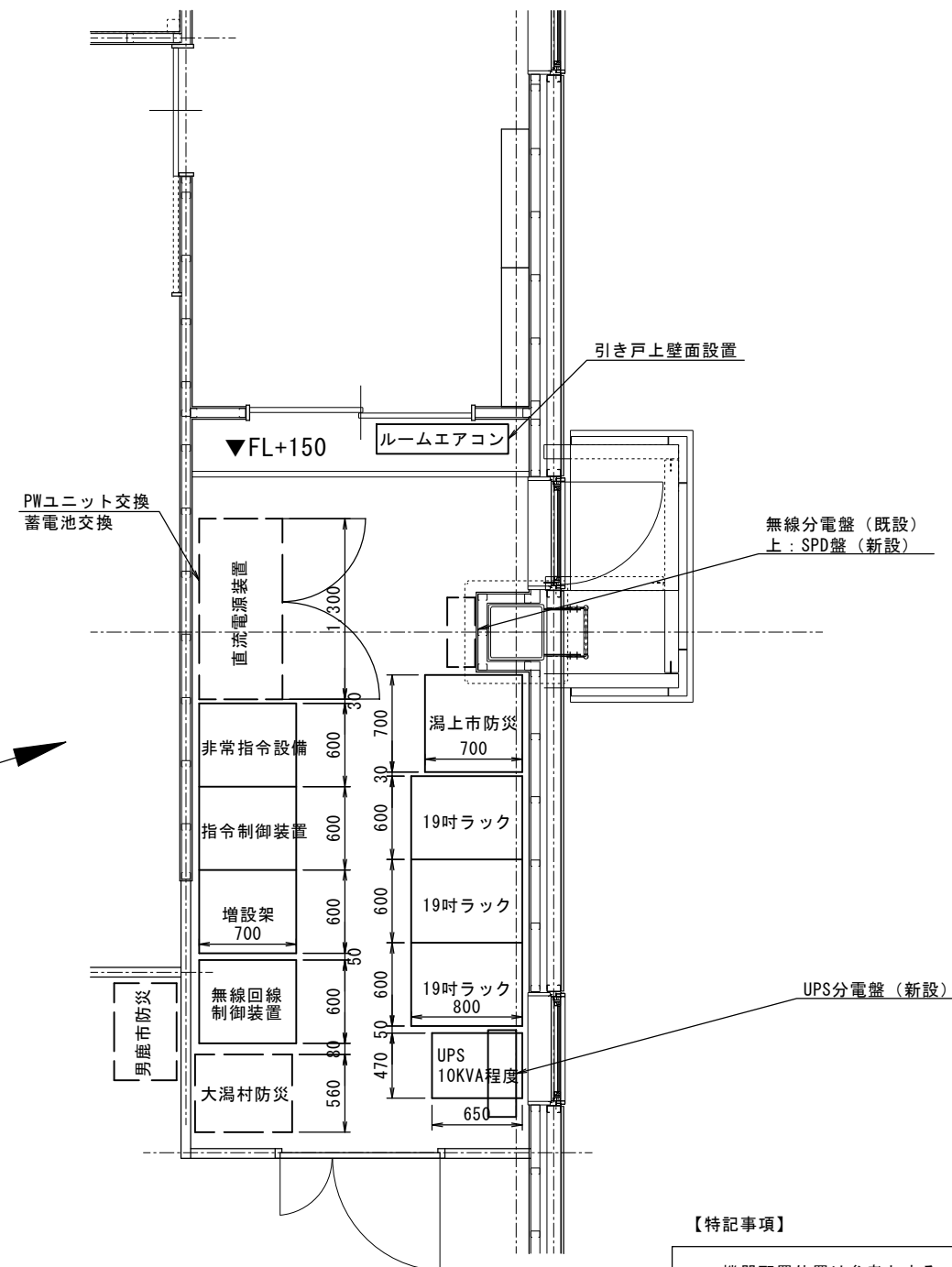
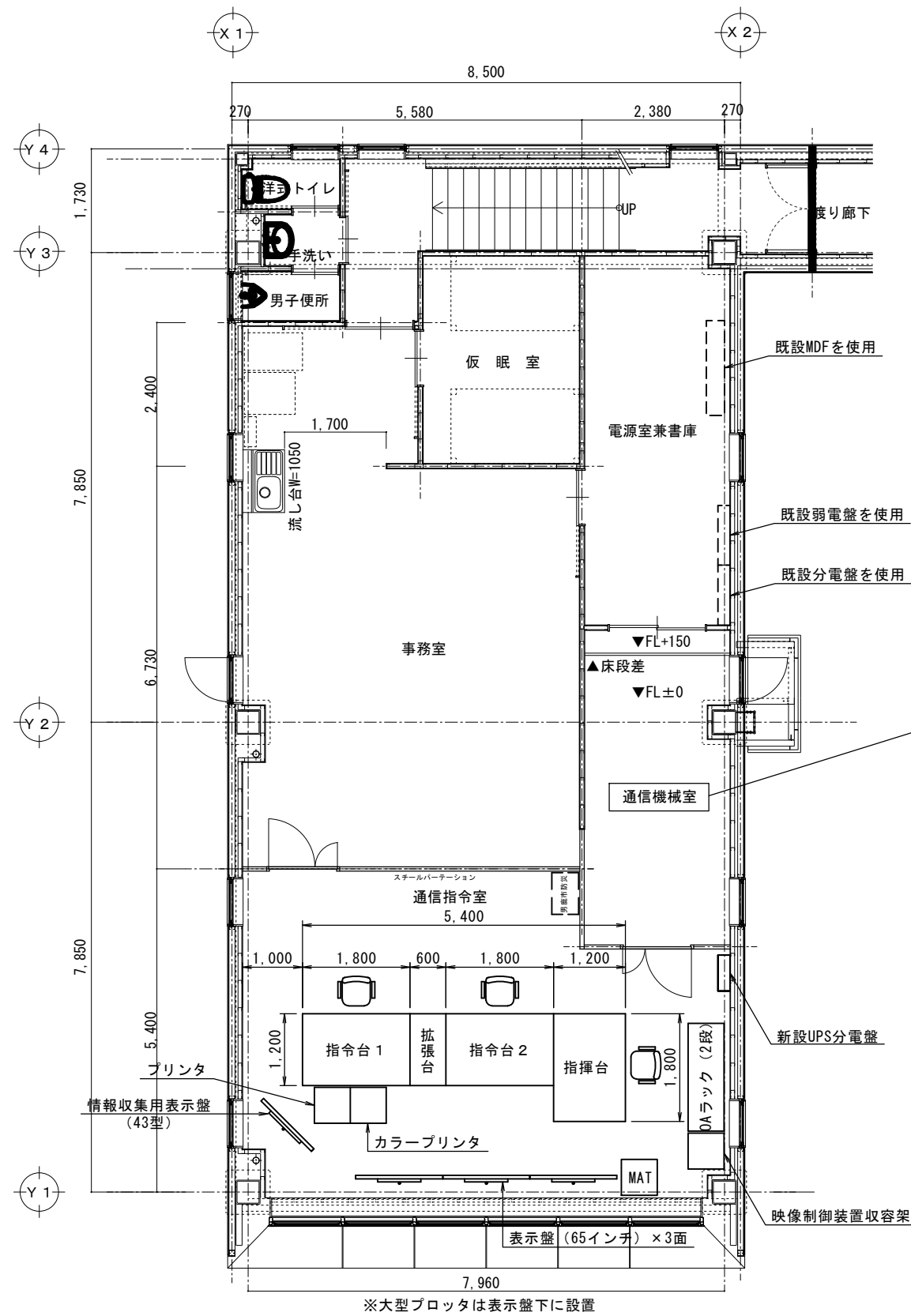
新設機器

番号	機器名
Ⓐ	アンテナ 1
Ⓑ	アンテナ 2
Ⓒ	車載無線機
Ⓓ	操作部
Ⓔ	制御部
Ⓕ	同軸ケーブル
Ⓖ	電源ケーブル
Ⓗ	制御ケーブル
Ⓘ	バッテリー

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	—		
図 面 名	車 載 型 無 線 装 置 取 付 参 考 図 (4)		
作 成 年 月 日	令 和 7 年 3 月		
縮 尺	No scale	図 面 番 号	D11-04
事 業 者 名	男 鹿 地 区 消 防 一 部 事 務 組 合 消 防 本 部		

高機能消防指令システム編

設計図面



- 【特記事項】

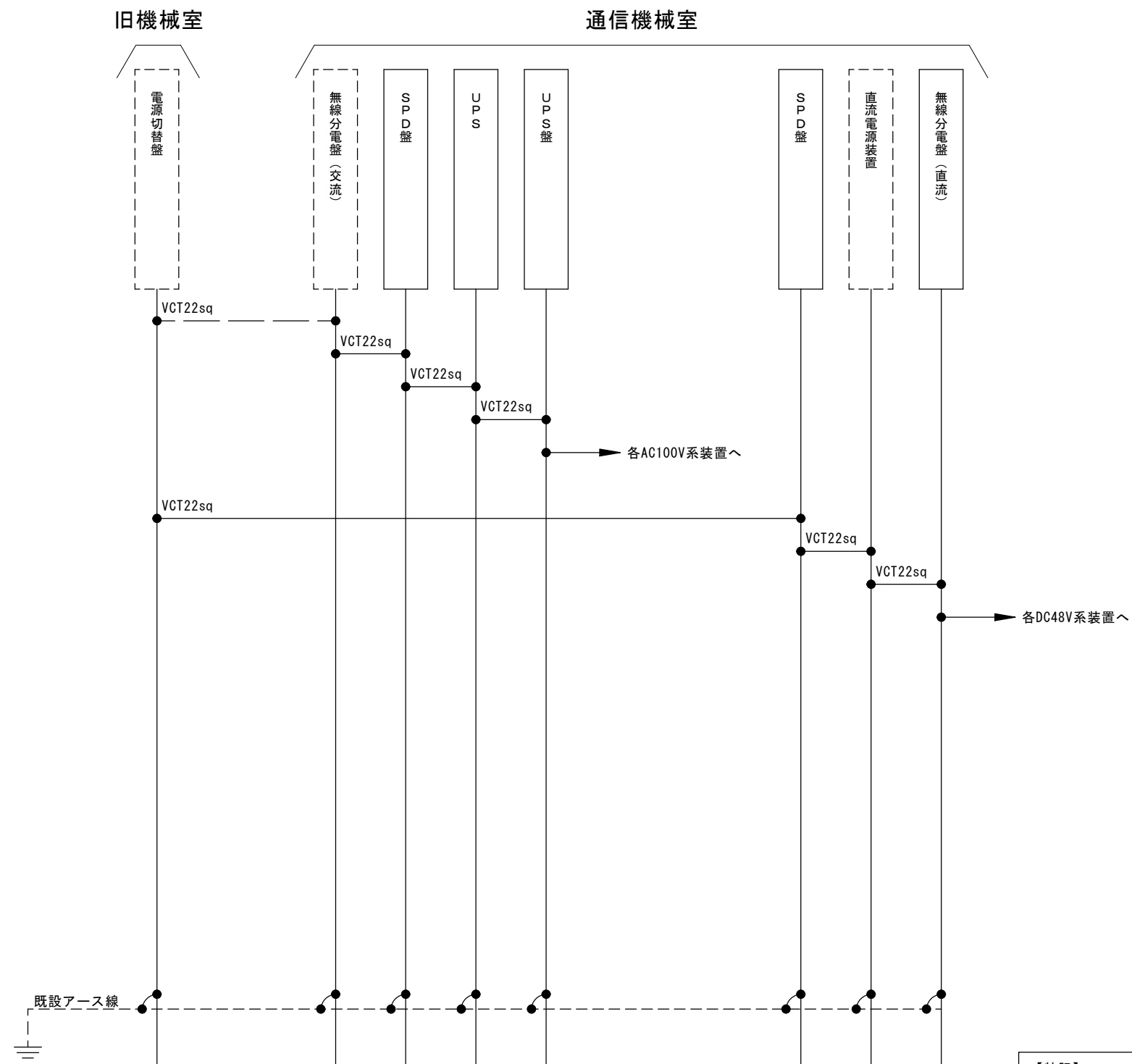
1. 機器配置位置は参考とする。各指令メーカの最適な機器配置計画を提案すること。
2. 電話交換機ならびに電話機の設置位置は工事の際に別途協議し決定する。
3. 通信指令課事務室内の什器レイアウトも別途協議とする。
4. 無線回線制御装置は消防救急デジタル無線設備の機器である。

- _____

- | | |
|--|--|
| | |
|--|--|

- | | |
|-----|-----------------------------|
| 工事名 | 消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事 |
|-----|-----------------------------|

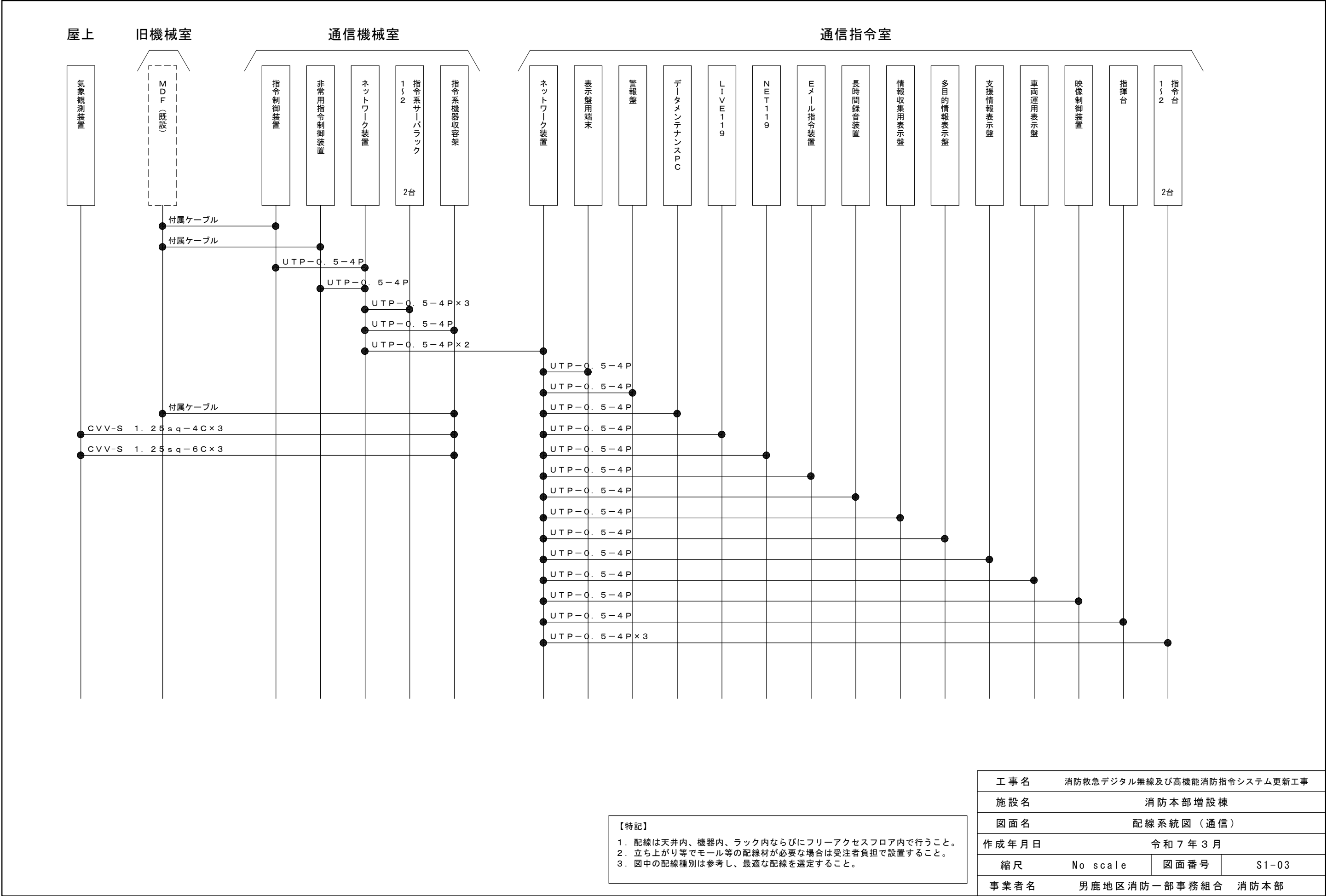
工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	消防本部増設棟		
図面名	機器配置図		
作成年月日	令和 7 年 3 月		
縮 尺	図 示	図面番号	S1-01
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



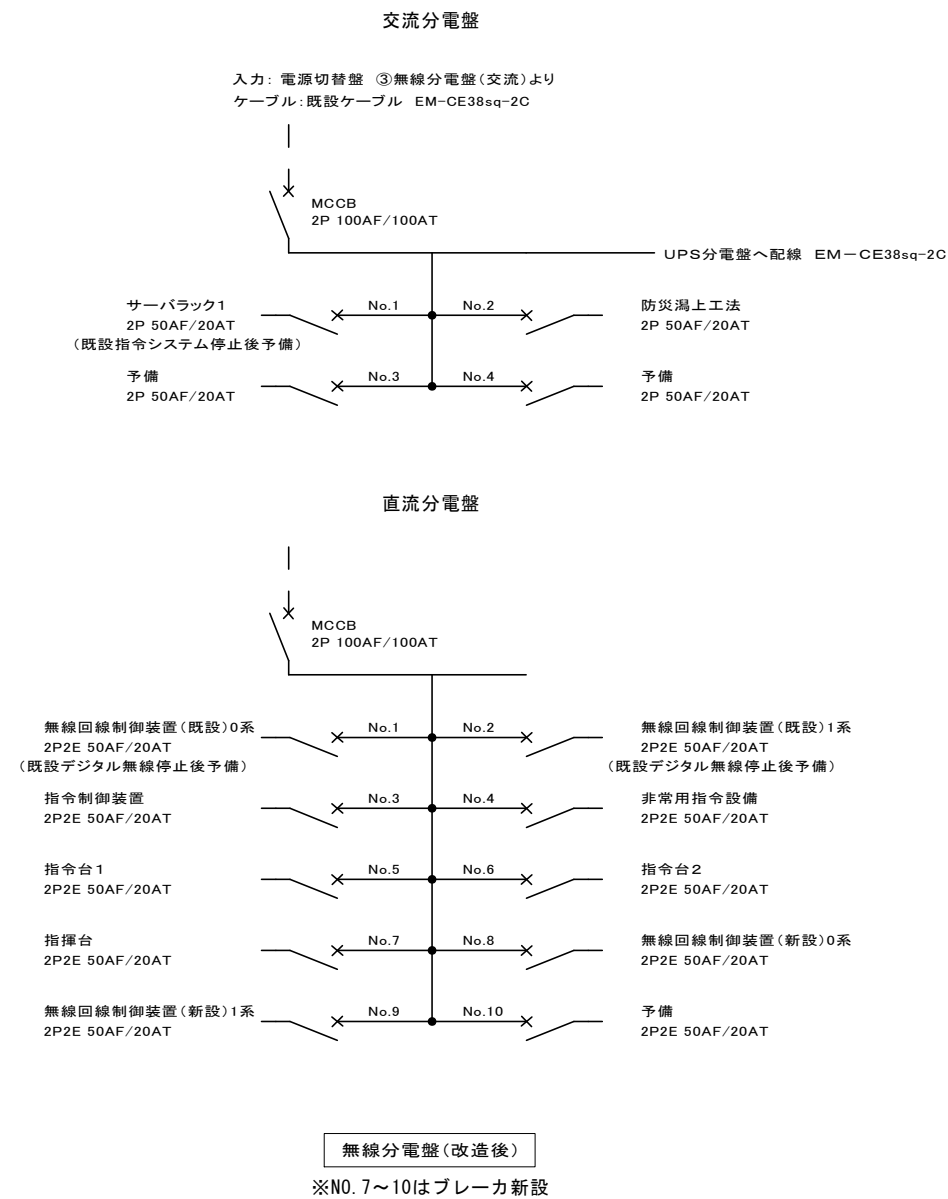
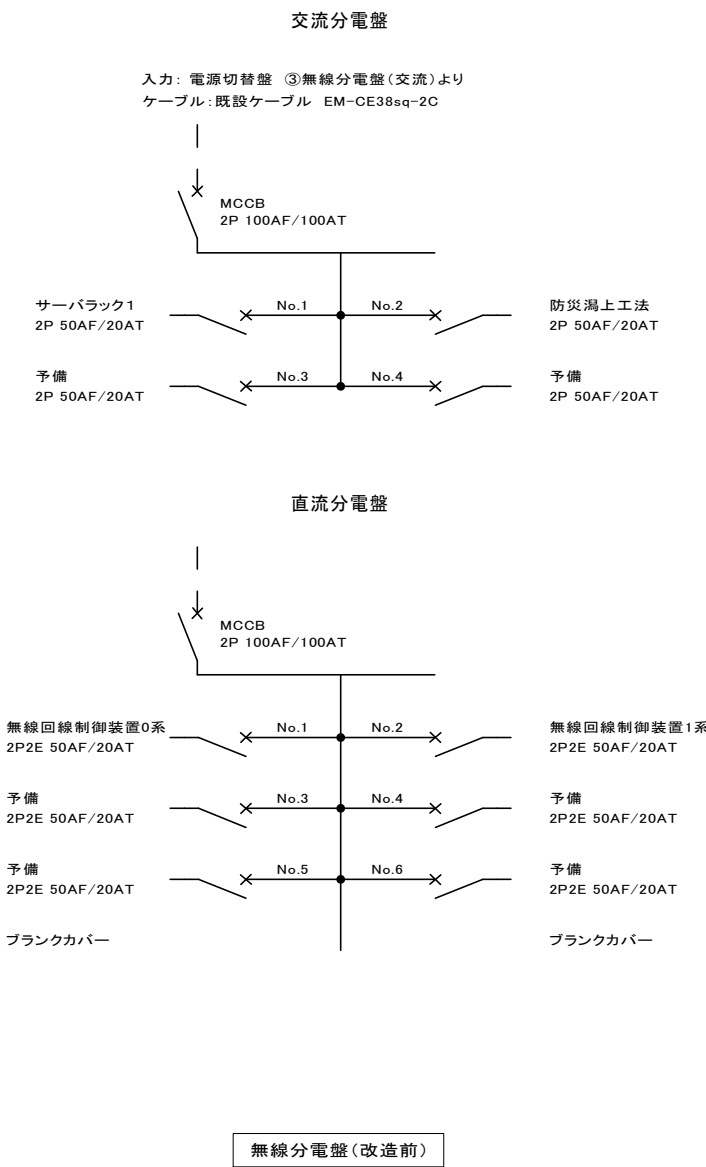
【特記】
1. 配線は原則分電盤内ならびにフリーアクセスフロア内で行うこと。
2. 立ち上がり等でモール等の配線材が必要な場合は受注者負担で設置すること。
3. 図中の配線種別は参考し、最適な配線を選定すること。

（ 凡 例 ）	
●	接続
□	新設
□□	既設
—	新設／引替ケーブル
- - - -	既設ケーブル

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	消 防 本 部 増 設 棟		
図 面 名	配 線 系 統 図 （ 電 源 ）		
作 成 年 月 日	令 和 7 年 3 月		
縮 尺	No scale	図 面 番 号	S1-02
事 業 者 名	男 鹿 地 区 消 防 一 部 事 務 組 合 消 防 本 部		



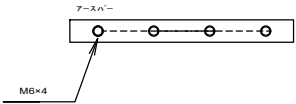
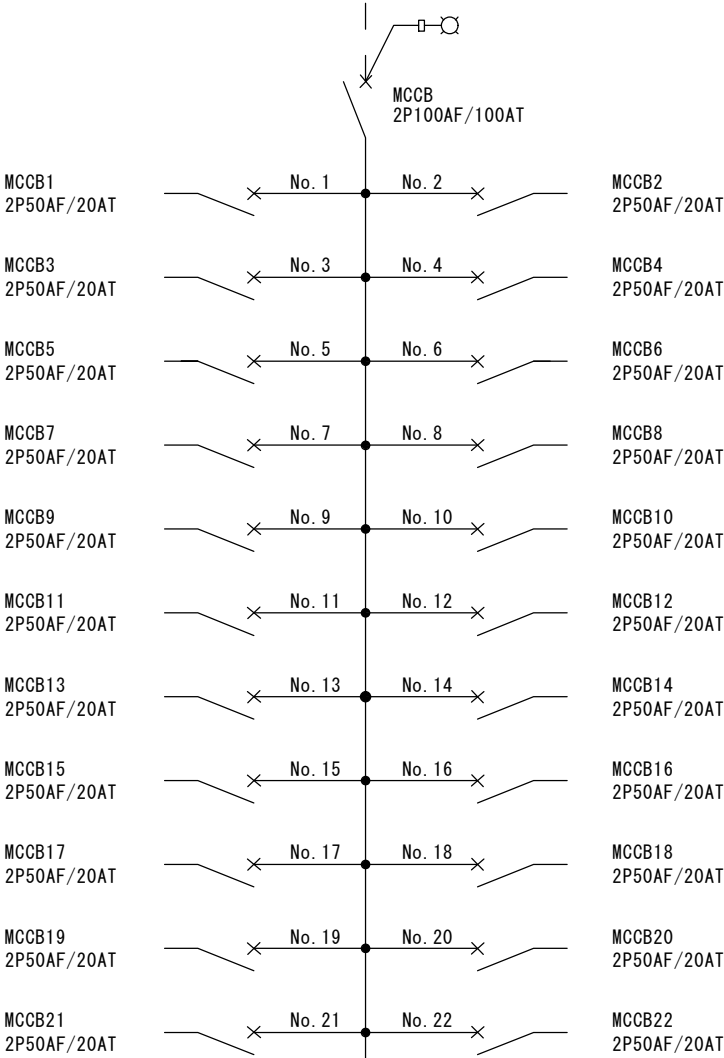
工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	消 防 本 部 増 設 棟		
図 面 名	配 線 系 統 図 （ 通 信 ）		
作 成 年 月 日	令 和 7 年 3 月		
縮 尺	No scale	図 面 番 号	S1-03
事 業 者 名	男 鹿 地 区 消 防 一 部 事 務 組 合 消 防 本 部		



【特記】
1. 既設分電盤に新設ケーブル配線用の配線口を加工すること。
2. 中蓋に新設ブレーカ用の開口部を加工すること。
3. 改造する際は発注者と協議し、承認を得て作業すること。

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	消 防 本 部 増 設 棟		
図 面 名	無 線 分 電 盤 改 造 図		
作 成 年 月 日	令 和 7 年 3 月		
縮 尺	No Scale	図 面 番 号	S1-04
事 業 者 名	男 鹿 地 区 消 防 一 部 事 務 組 合 消 防 本 部		

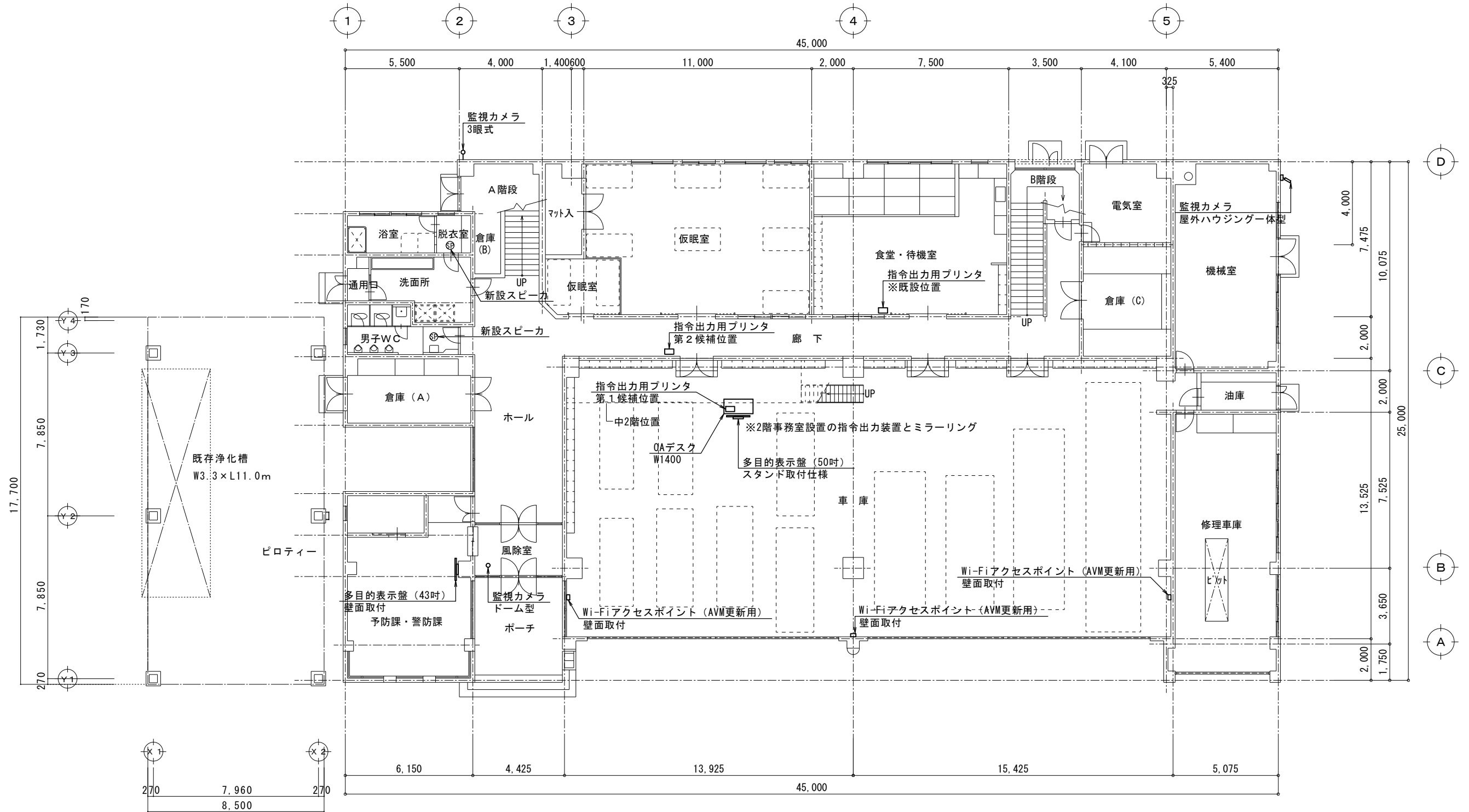
入力：単相2線100V
ケーブル：EM-CE38sq-2C



UPS分電盤

※銅製壁掛型分電盤

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	消 防 本 部 増 設 棟		
図 面 名	UPS 分 電 盤 図		
作 成 年 月 日	令 和 7 年 3 月		
縮 尺	No Scale	図 面 番 号	S1-05
事 業 者 名	男 鹿 地 区 消 防 一 部 事 務 組 合 消 防 本 部		



1 階平面図 S=1/200

既設コンクリート柱

監視カメラ×2台
屋外ハウジング一体型

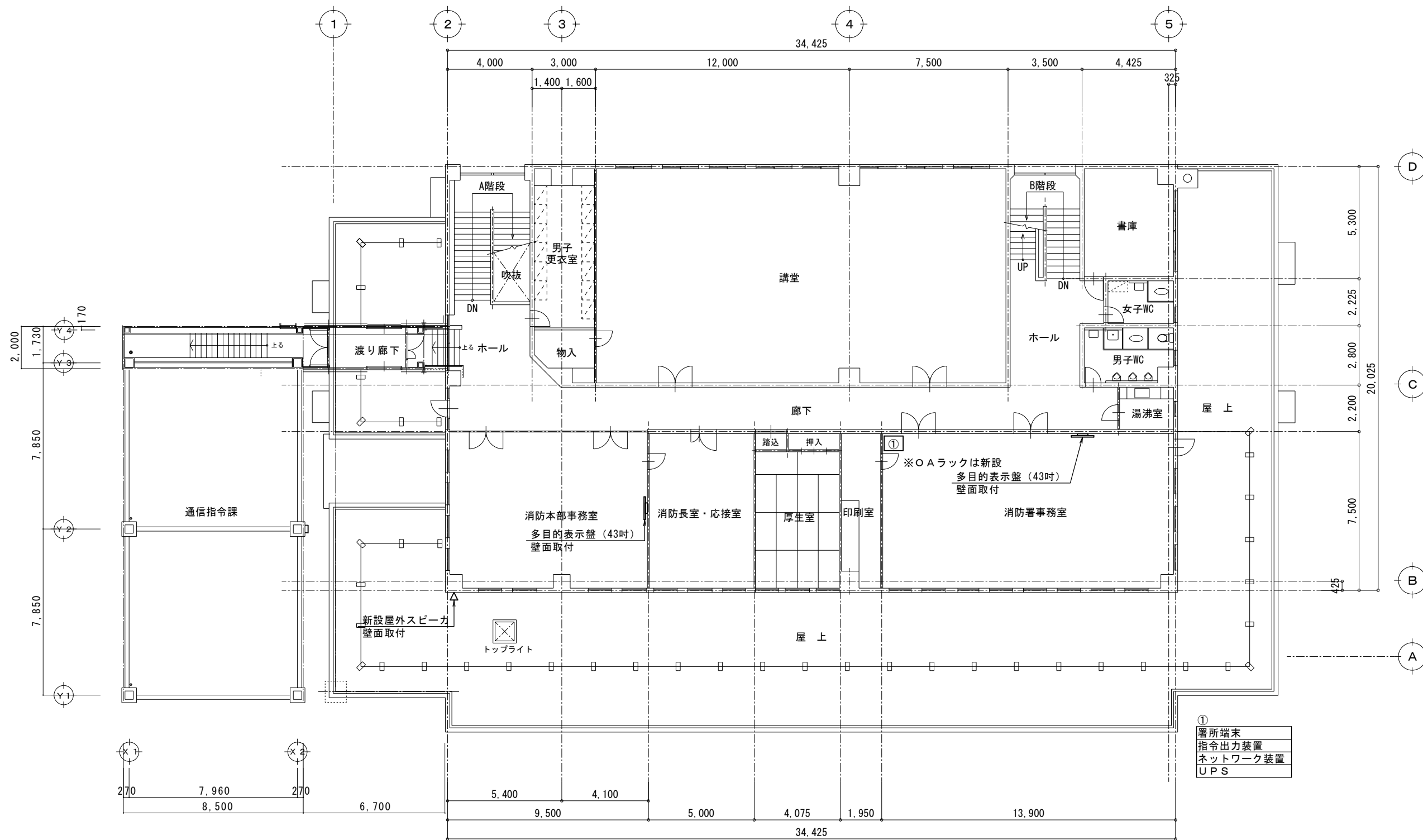
【特記】

1. 指令出力用プリンタ設置位置は参考とする。指令システムメーカーの最適な配置計画を提案すること。

2. Wi-Fiアクセスポイントの設置位置は参考とする。指令システムメーカーの最適な配置計画を提案すること。

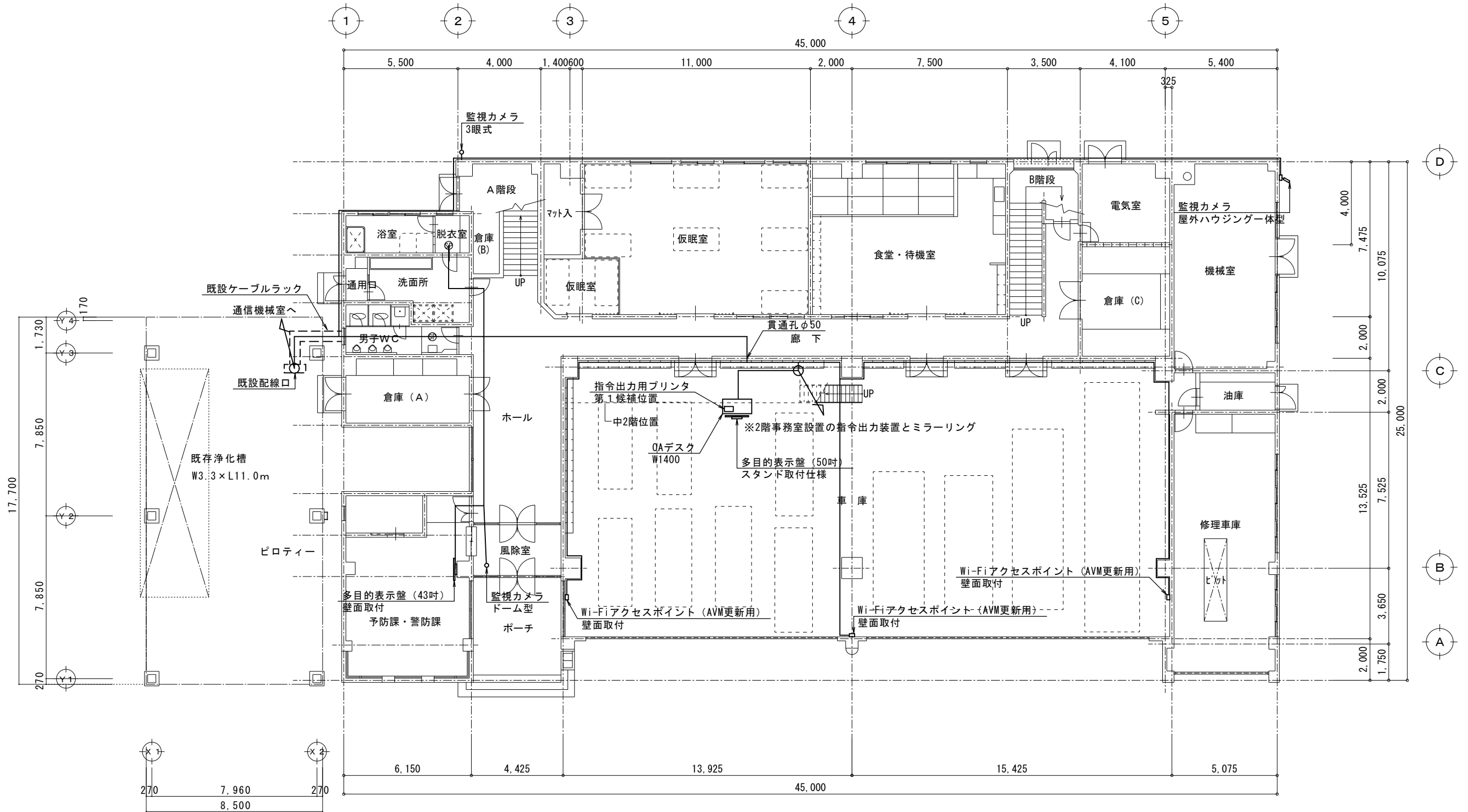
3. 通信指令課事務室内の什器レイアウトも別途協議とする。

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	消防本部・消防署		
図面名	1階機器配置図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	No Scale	図面番号	S2-01
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



2 階平面図 S=1/200

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	消防本部・消防署		
図 面 名	2階機器配置図		
作 成 年 月 日	令和 7 年 3 月		
縮 尺	No Scale	図面番号	S2-02
事 業 者 名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		

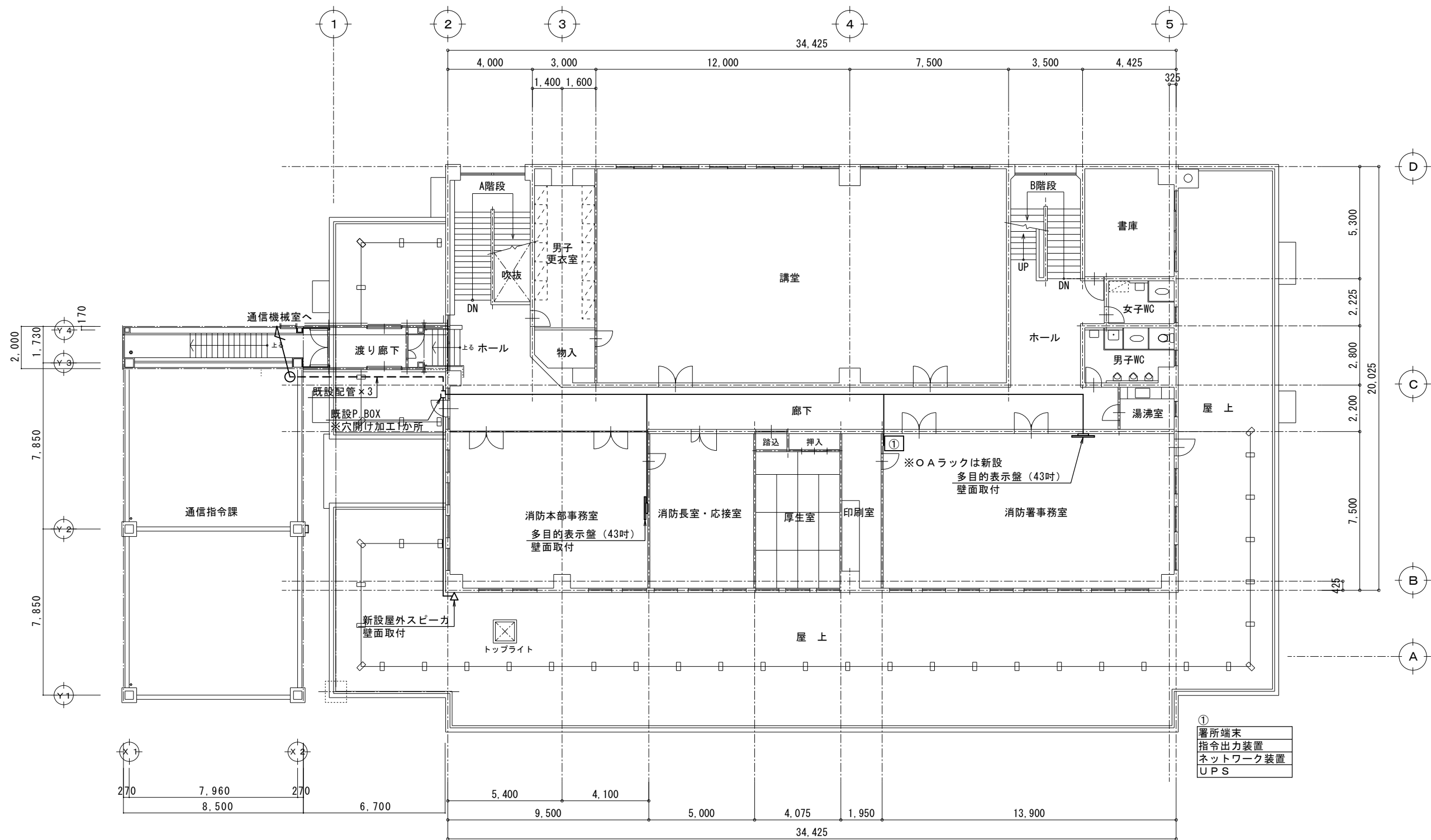


1 階平面図 S=1/200

【特記】

1. 指令出力用プリンタへの配線はU T Pケーブル。
2. Wi-Fiアクセスポイントへの配線はU T Pケーブル。
3. 新規スピーカへの配線はVCT1.25sq-20。
4. 多目的表示盤への配線はU T Pケーブル
5. 監視カメラへの配線はU T Pケーブル
6. 屋内壁面配線はプラスチックモールを使用すること。
7. 屋外壁面配線はG管を使用すること。
8. 車庫内配線は原則、金属製モールを使用すること。
9. 配線ルートは調査を実施し、発注者に承諾を得ること。
10. 配管、モールは配線に最適なサイズを選定し、発注者の承諾を得ること。

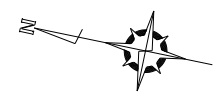
工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	消防本部・消防署		
図面名	1階配線図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1：200	図面番号	S2-03
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



2 階平面図 S=1/200

- 【特記】
- 新規スピーカへの配線はVCT1.25sq-2C。
 - 多目的表示盤への配線はUTPケーブル
 - 署所端末等へ配線はUTPケーブル
 - 屋内壁面配線はプラスチックモールを使用すること。
 - 屋外壁面配線はG管を使用すること。
 - 配線ルートは調査を実施し、発注者に承諾を得ること。
 - 配管、モールは配線に最適なサイズを選定し、発注者の承諾を得ること。

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	消防本部・消防署		
図面名	2階配線図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1/200	図面番号	S2-04
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		

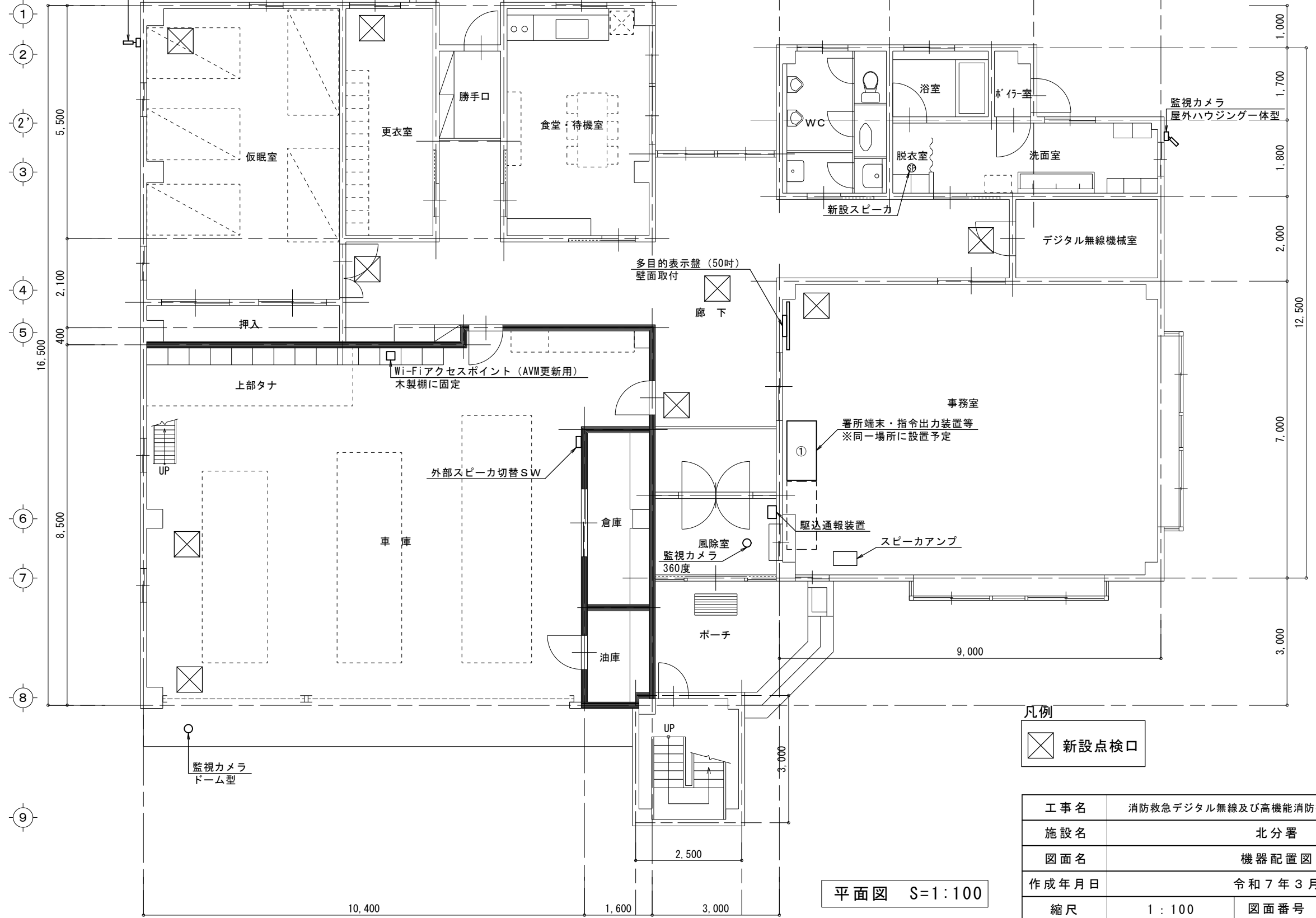


監視カメラ
屋外ハウジング一体型

監視カメラ
ドーム型
軒下設置

監視カメラ
屋外ハウジング一体型

監視カメラ
ドーム型

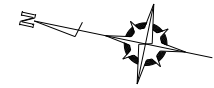


- ① 署所端末
- 指令出力装置
- プリンタ
- 情報共有装置
- OA端末
- ネットワーク装置
- UPS

凡例
新設点検口

平面図 S=1:100

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	北分署		
図面名	機器配置図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1:100	図面番号	S3-02
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



監視カメラ
屋外ハウジング一体型

1
2

2'
3

4
5

6
7

8

9

A B C D E F
24,000

4,700 2,200 1,600 3,500 3,000 2,600 3,400 3,000

貫通孔φ30

5,500

2,100
400
16,500

8,500

UP

監視カメラ
ドーム型

監視カメラ
ドーム型
軒下設置

貫通孔φ80

更衣室

勝手口

食堂 待機室

天井ころがし
UTPケーブル×2

プラスチックモール2号新設
UTPケーブル×2

Wi-Fiアクセスポイント (AVM更新用)
木製棚に固定

貫通孔φ30

外部スピーカー切替SW

車庫

倉庫

油庫

ポーチ

UP

2,500

1,600

3,000

【特記】
1. ①ならびに駆込通報装置のケーブルは
付属ケーブルとし配線すること。
2. 固定金具・天吊器具は機器の付属品と
して支障なく設置すること。
3. 表示盤の電源は最寄りコンセントより
給電すること。給電線の延長が必要な
場合は、適切に配線を延長し施工する
こと。

平面図 S=1:100

凡例

新設点検口

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	北分署		
図面名	配線図 (1)		
作成年月日	令和 7 年 3 月		
縮尺	1 : 100	図面番号	S3-03
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		

監視カメラ
屋外ハウジング一体型

貫通孔φ30

洗面室

デジタル無線機械室

天井ころがし
UTPケーブル

天井裏へ
UTPケーブル×6

署所端末・指令出力装置等
※同一場所に設置予定

駆込通報装置

スピーカーアンプ

9,000

3,000

12,500

7,000

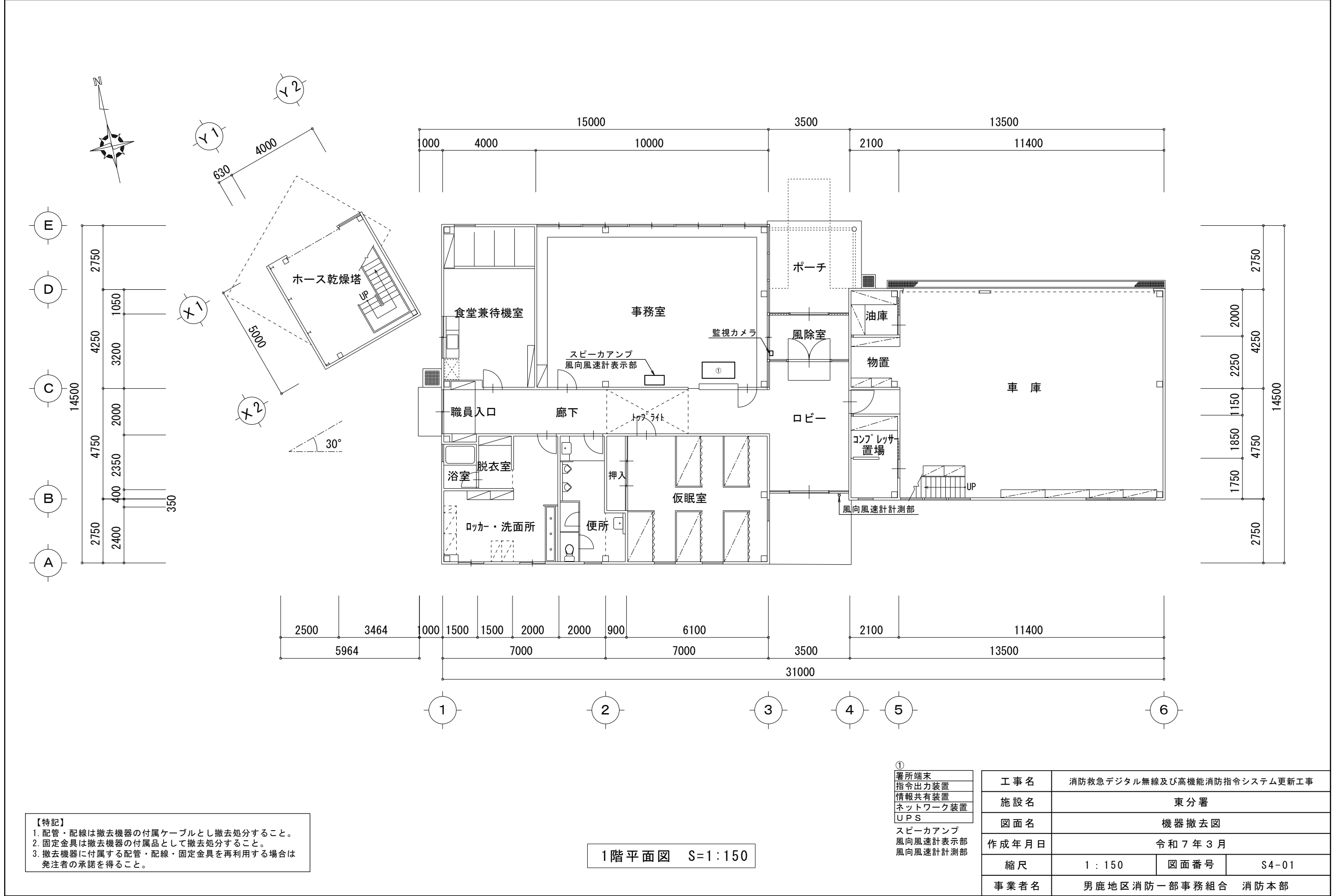
2,000

1,800

1,700

1,000

- ①
署所端末
指令出力装置
プリンタ
情報共有装置
OA端末
ネットワーク装置
UPS

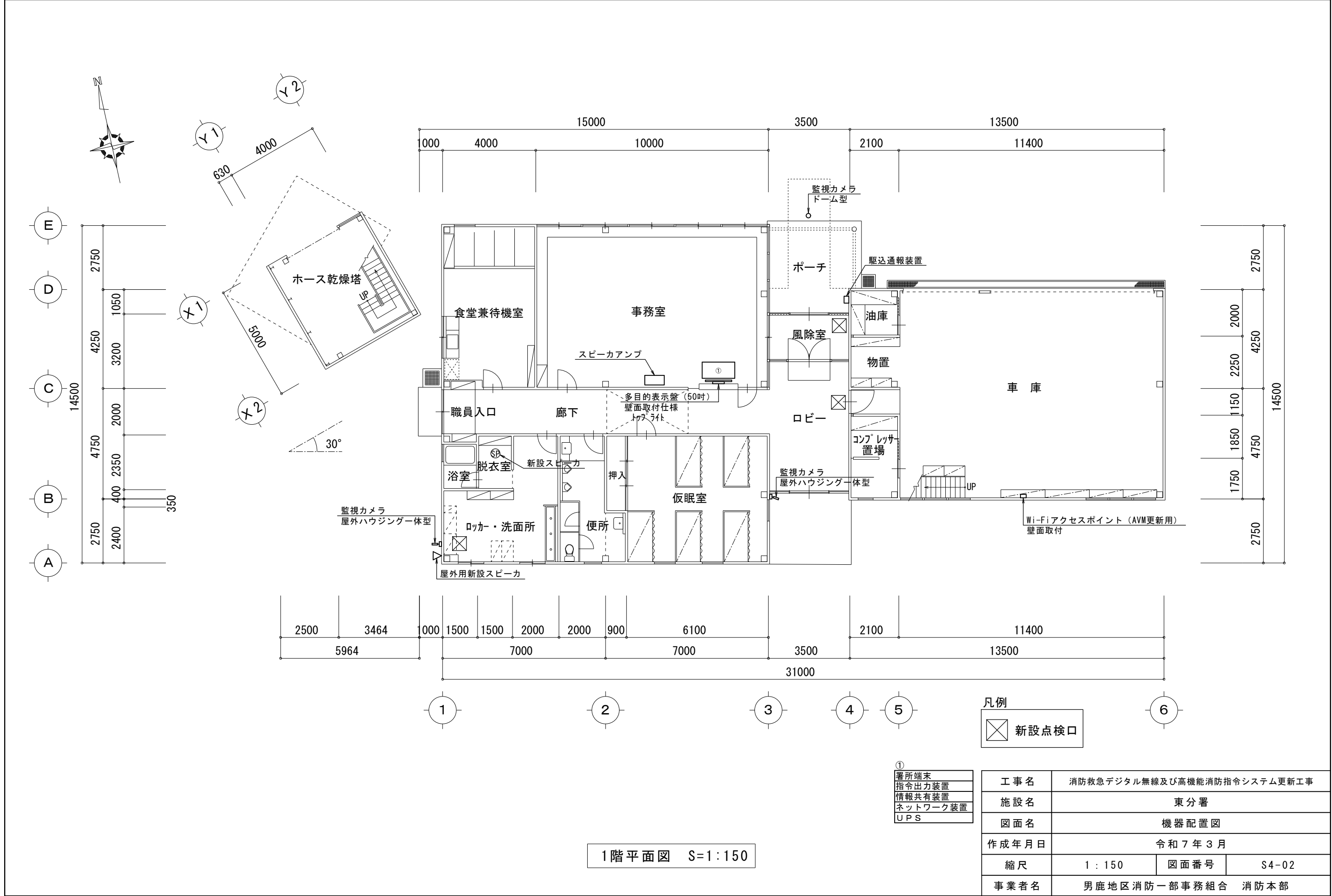


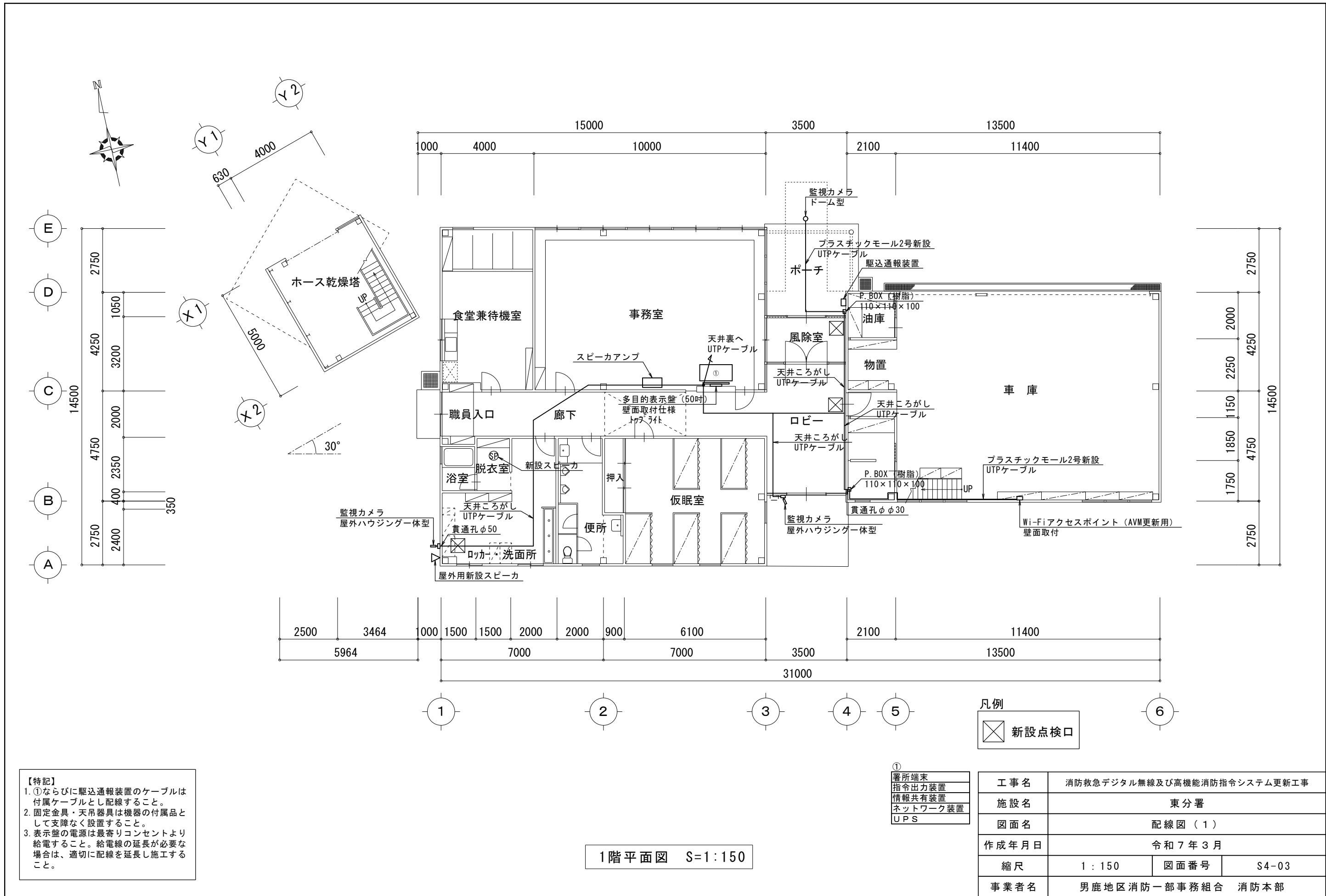
【特記】
1. 配管・配線は撤去機器の付属ケーブルとし撤去処分すること。
2. 固定金具は撤去機器の付属品として撤去処分すること。
3. 撤去機器に付属する配管・配線・固定金具を再利用する場合は発注者の承諾を得ること。

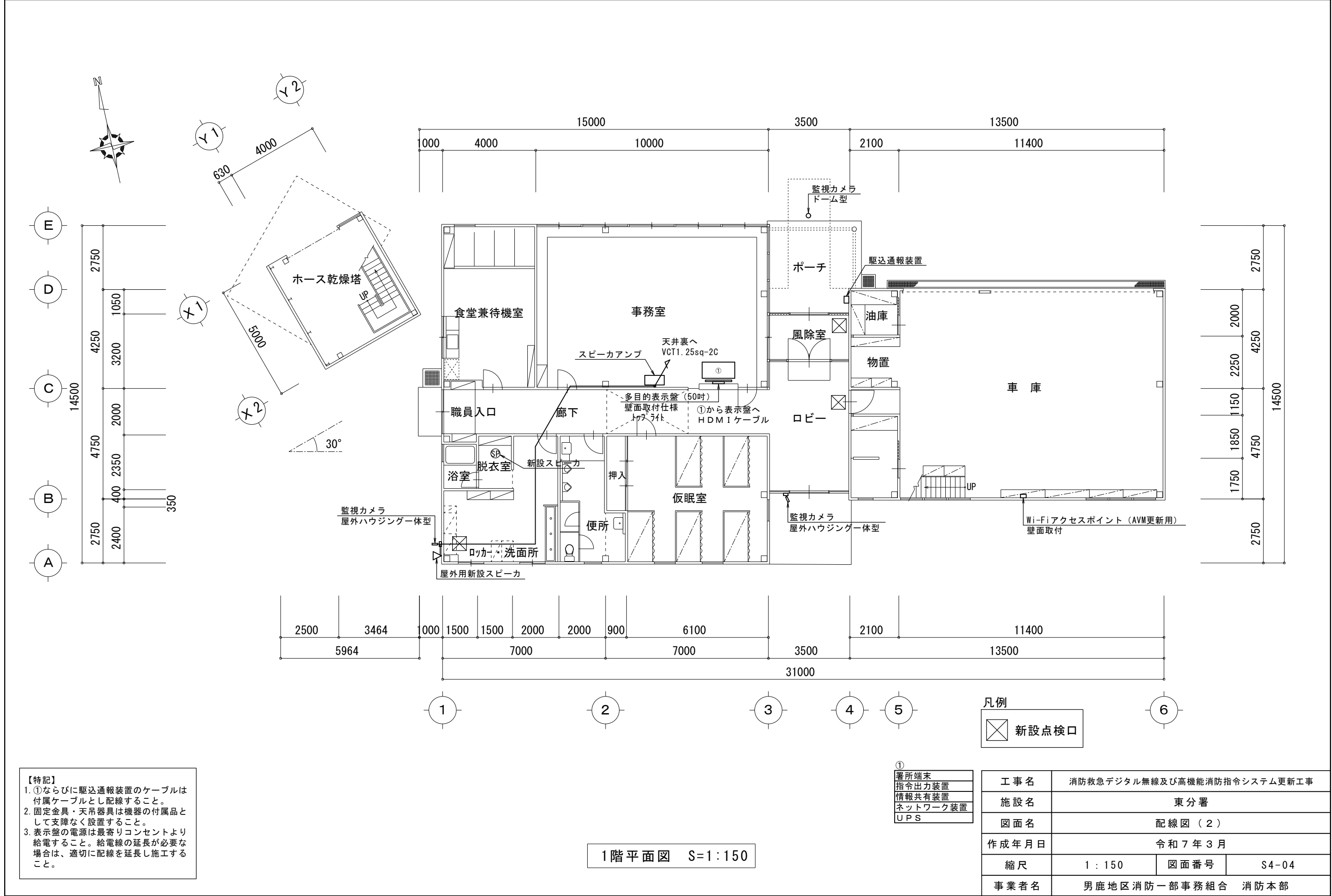
1階平面図 S=1:150

- ① 署所端末
- 指令出力装置
- 情報共有装置
- ネットワーク装置
- UPS
- スピーカアンプ
- 風向風速計表示部
- 風向風速計計測部

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	東分署		
図面名	機器撤去図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1:150	図面番号	S4-01
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		







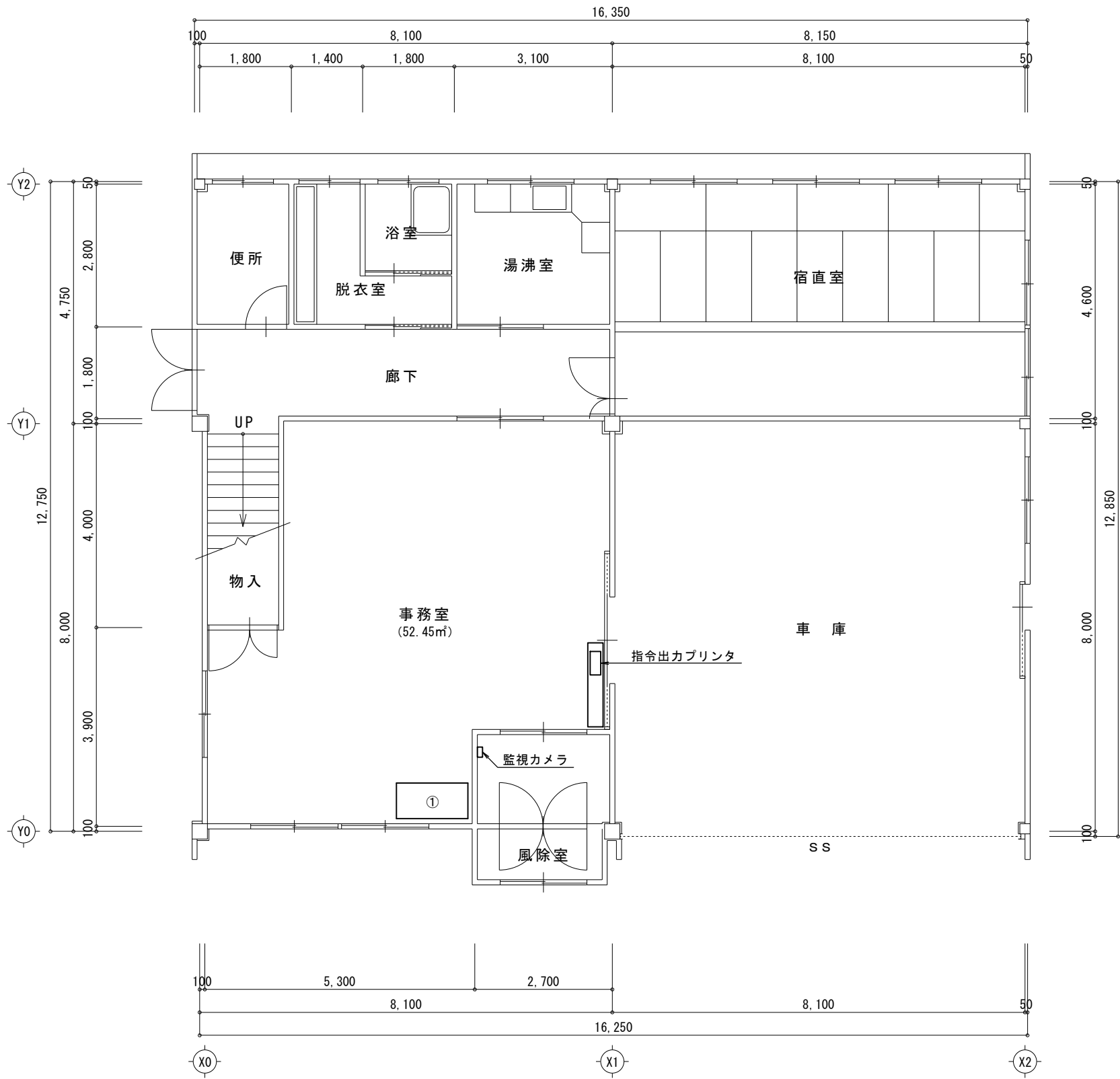
【特記】

- ①ならびに駆込通報装置のケーブルは付属ケーブルとし配線すること。
- 固定金具・天吊器具は機器の付属品として支障なく設置すること。
- 表示盤の電源は最寄りコンセントより給電すること。給電線の延長が必要な場合は、適切に配線を延長し施工すること。

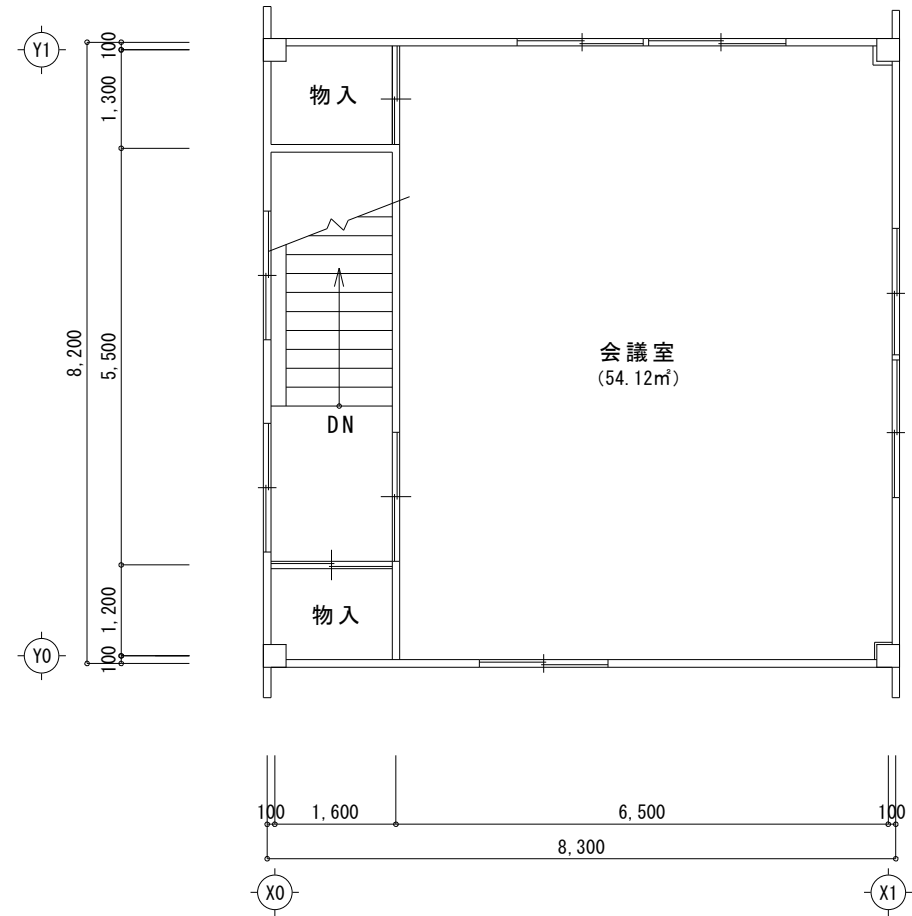
1階平面図 S=1:150

①
署所端末
指令出力装置
情報共有装置
ネットワーク装置
UPS

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	東分署		
図面名	配線図(2)		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1:150	図面番号	S4-04
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



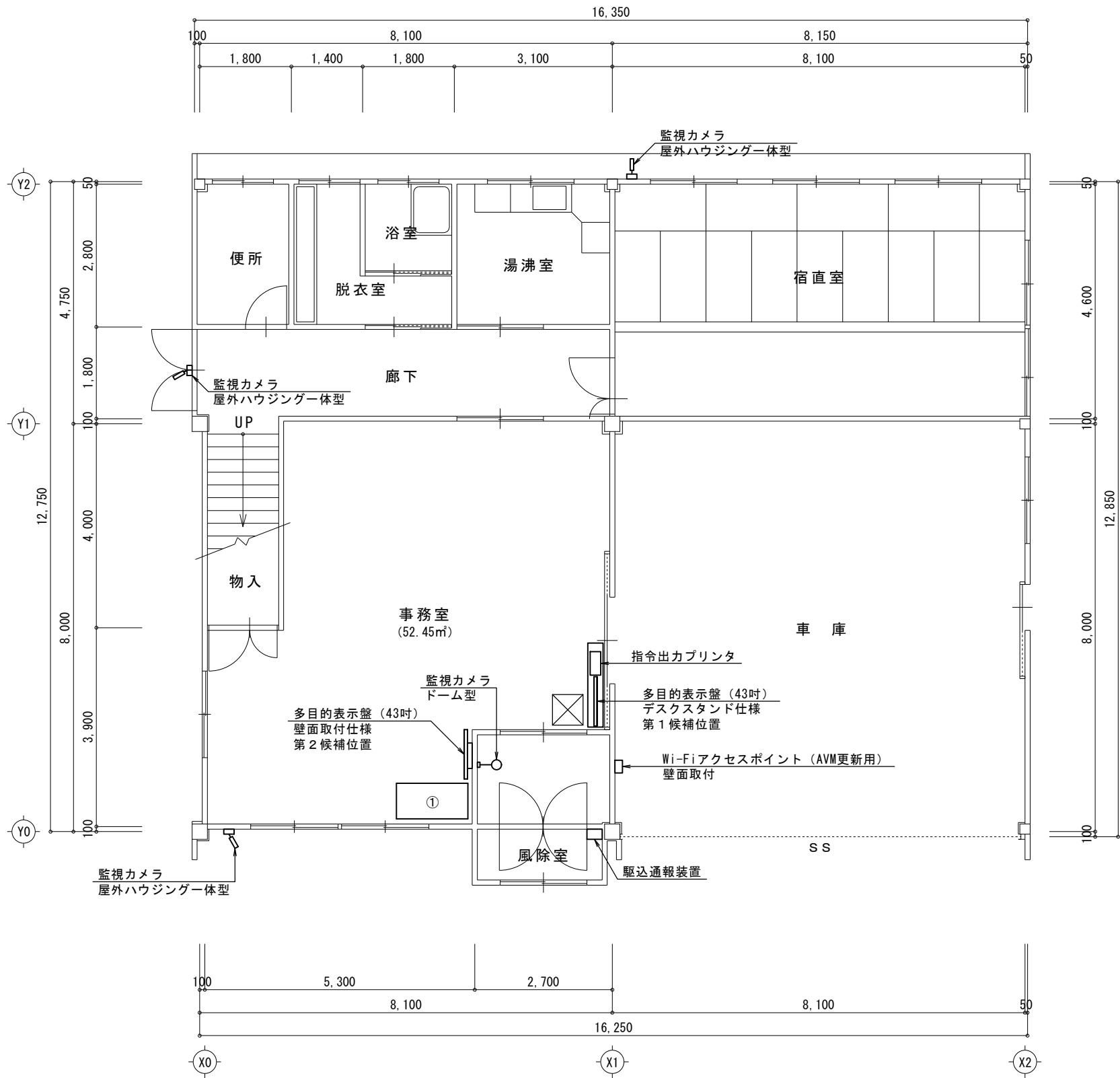
1 階平面図 S=1:100



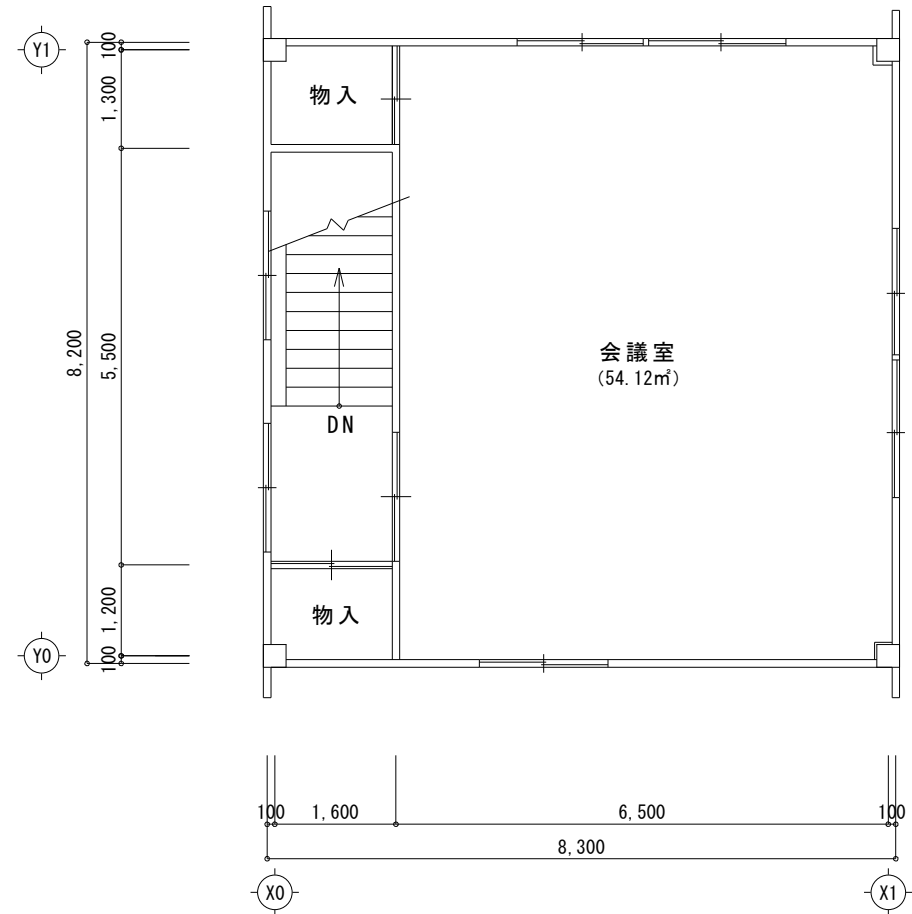
2 階平面図 S=1:100

- ① 署所端末
- 指令出力装置
- 情報共有装置
- ネットワーク装置
- UPS
- スピーカアンプ

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	若美分署		
図面名	機器撤去図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1:100	図面番号	S5-01
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



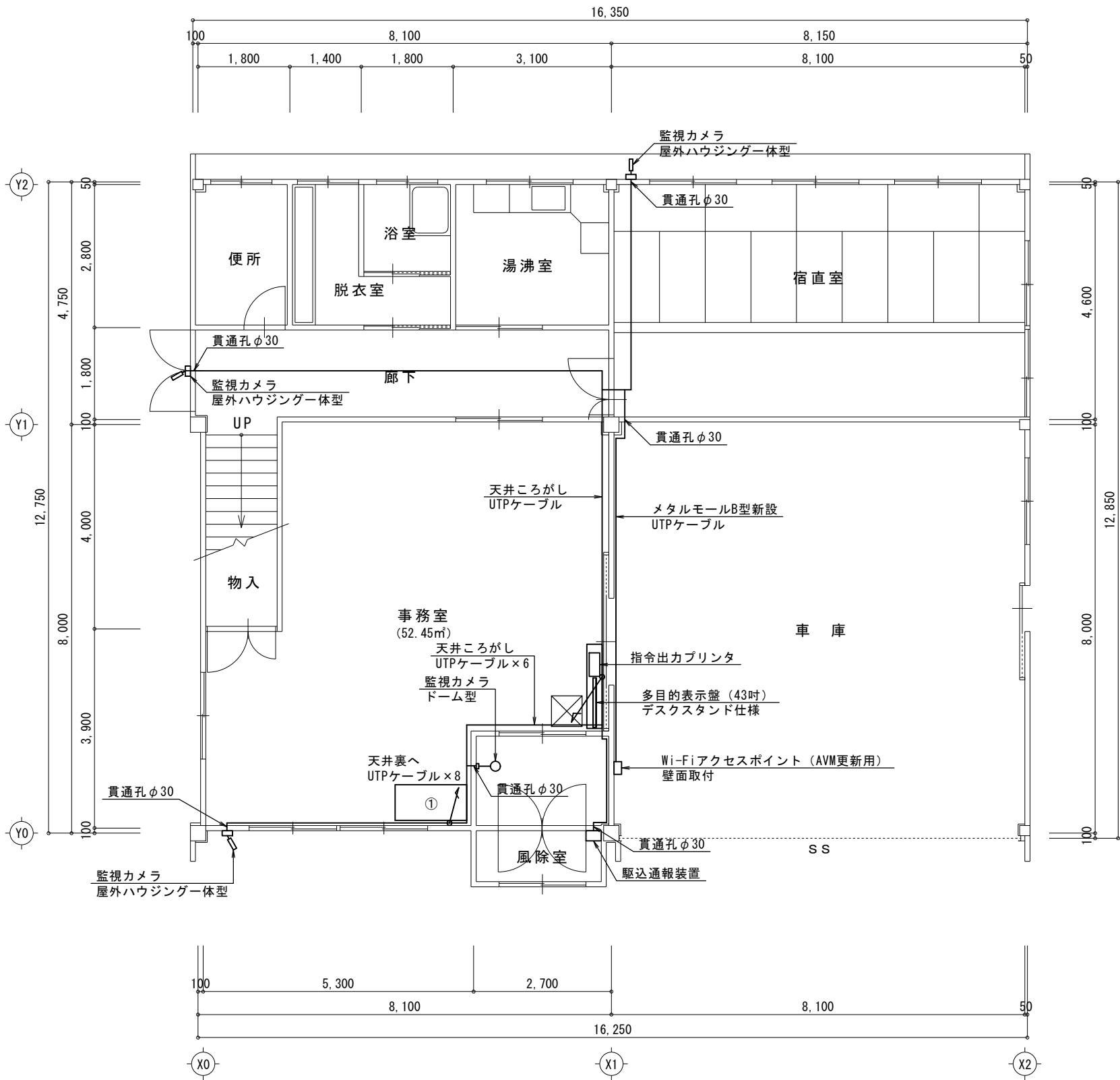
1 階平面図 S=1:100



2 階平面図 S=1:100

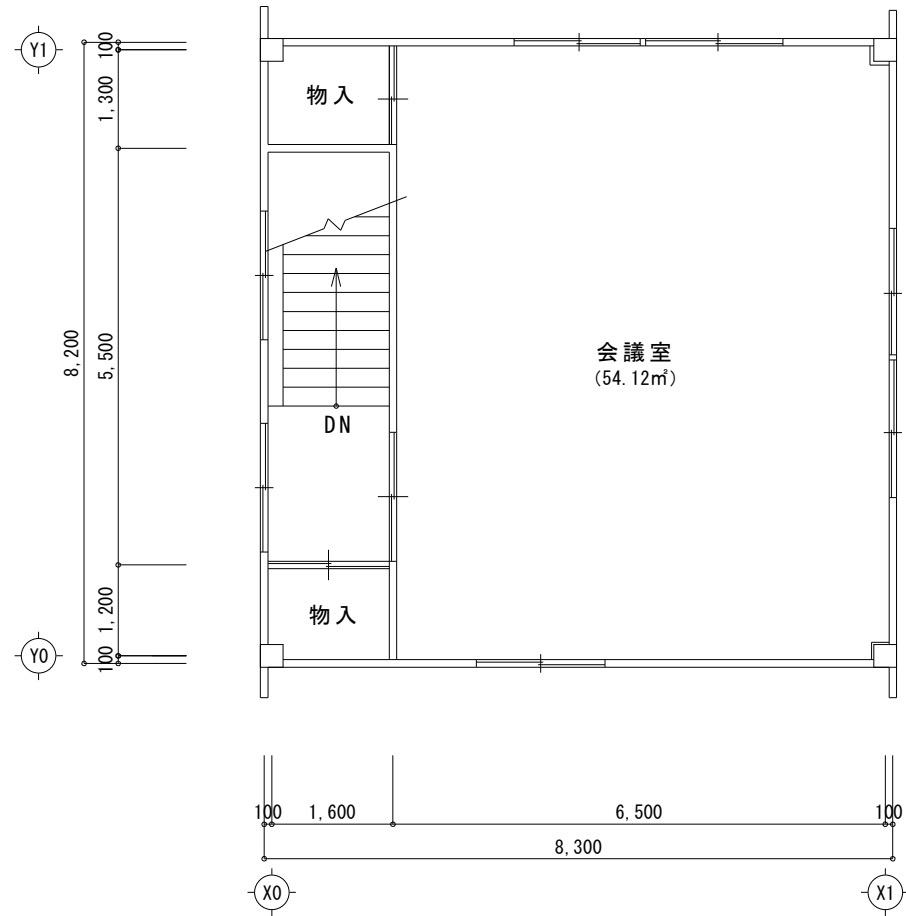
①
署所端末
指令出力装置
情報共有装置
ネットワーク装置
UPS
スピーカアンプ

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	若美分署		
図面名	機器配置図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1:100	図面番号	S5-02
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



1 階平面図 S=1:100

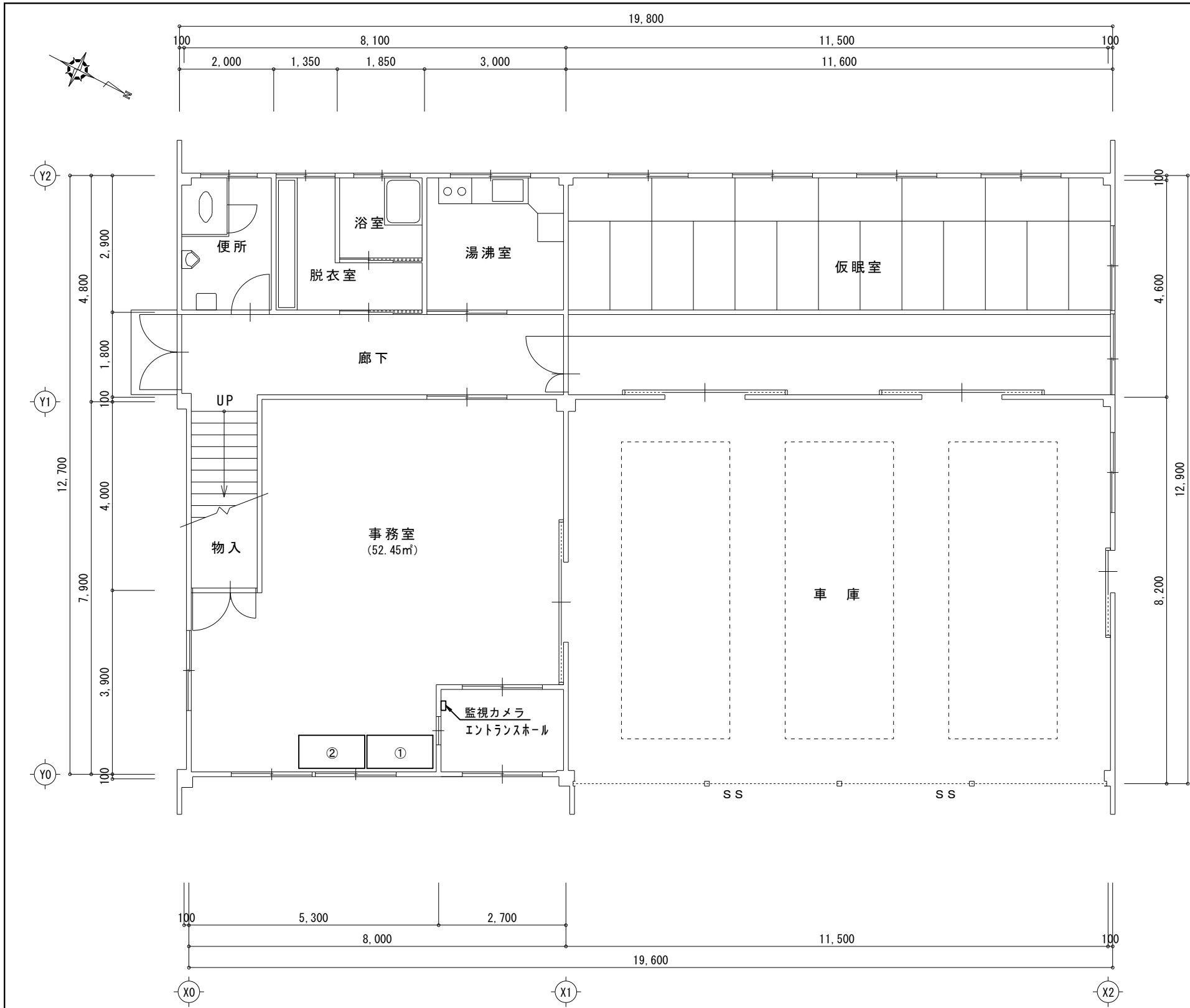
【特記】
1. ①ならびに駆込通報装置のケーブルは付属ケーブルとし配線すること。
2. 固定金具・天吊器具は機器の付属品として支障なく設置すること。
3. 表示盤の電源は最寄りコンセントより給電すること。給電線の延長が必要な場合は、適切に配線を延長し施工すること。



2 階平面図 S=1:100

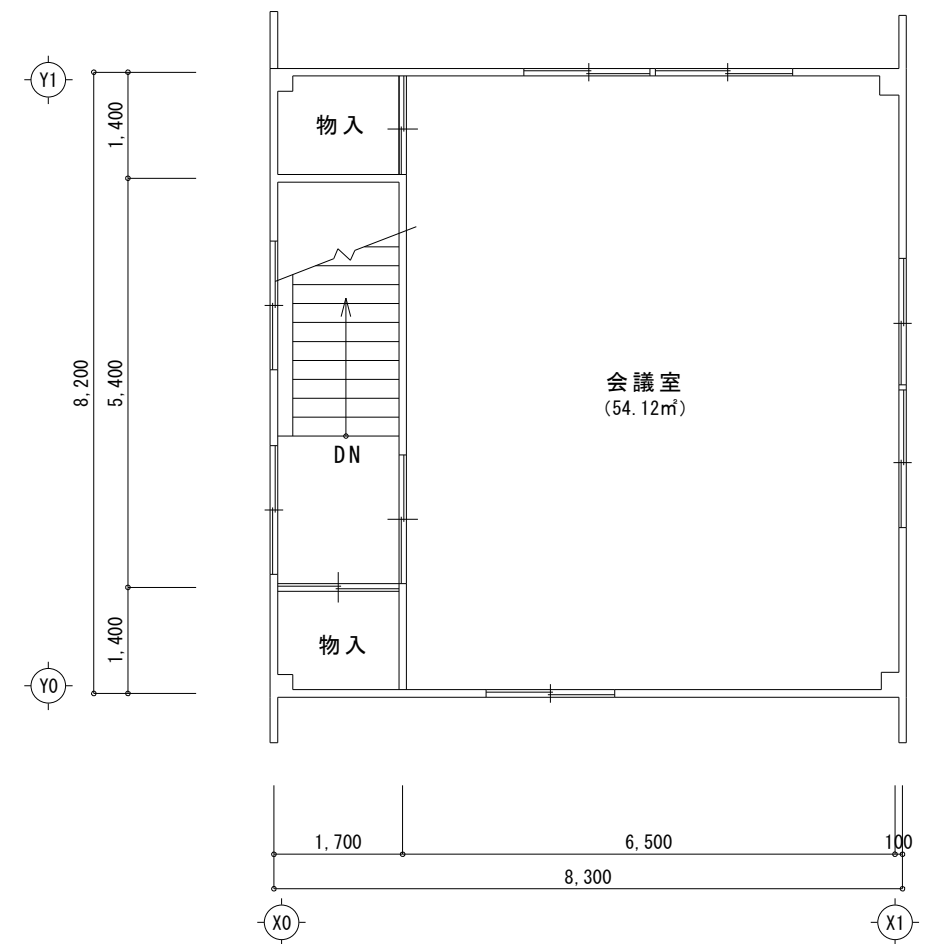
- ①
署所端末
指令出力装置
情報共有装置
ネットワーク装置
UPS
スピーカアンプ

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	若美分署		
図面名	配線図		
作成年月日	令和 7 年 3 月		
縮尺	1 : 100	図面番号	S5-03
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



1 階平面図 S=1:100

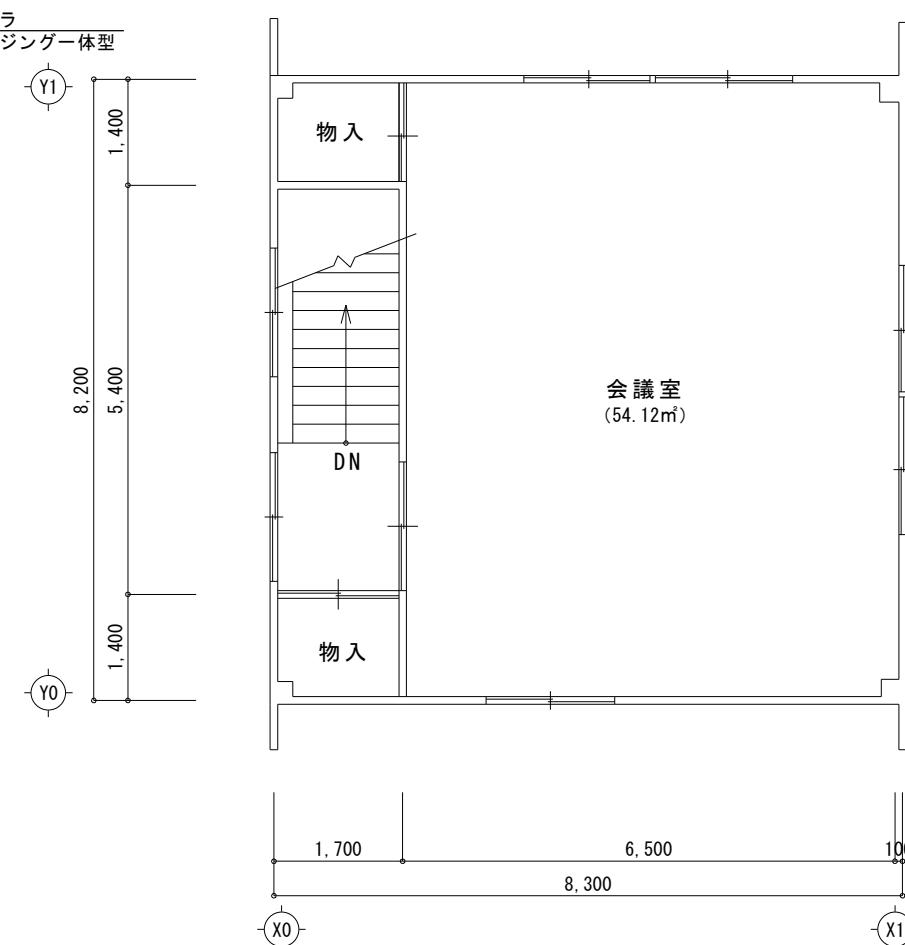
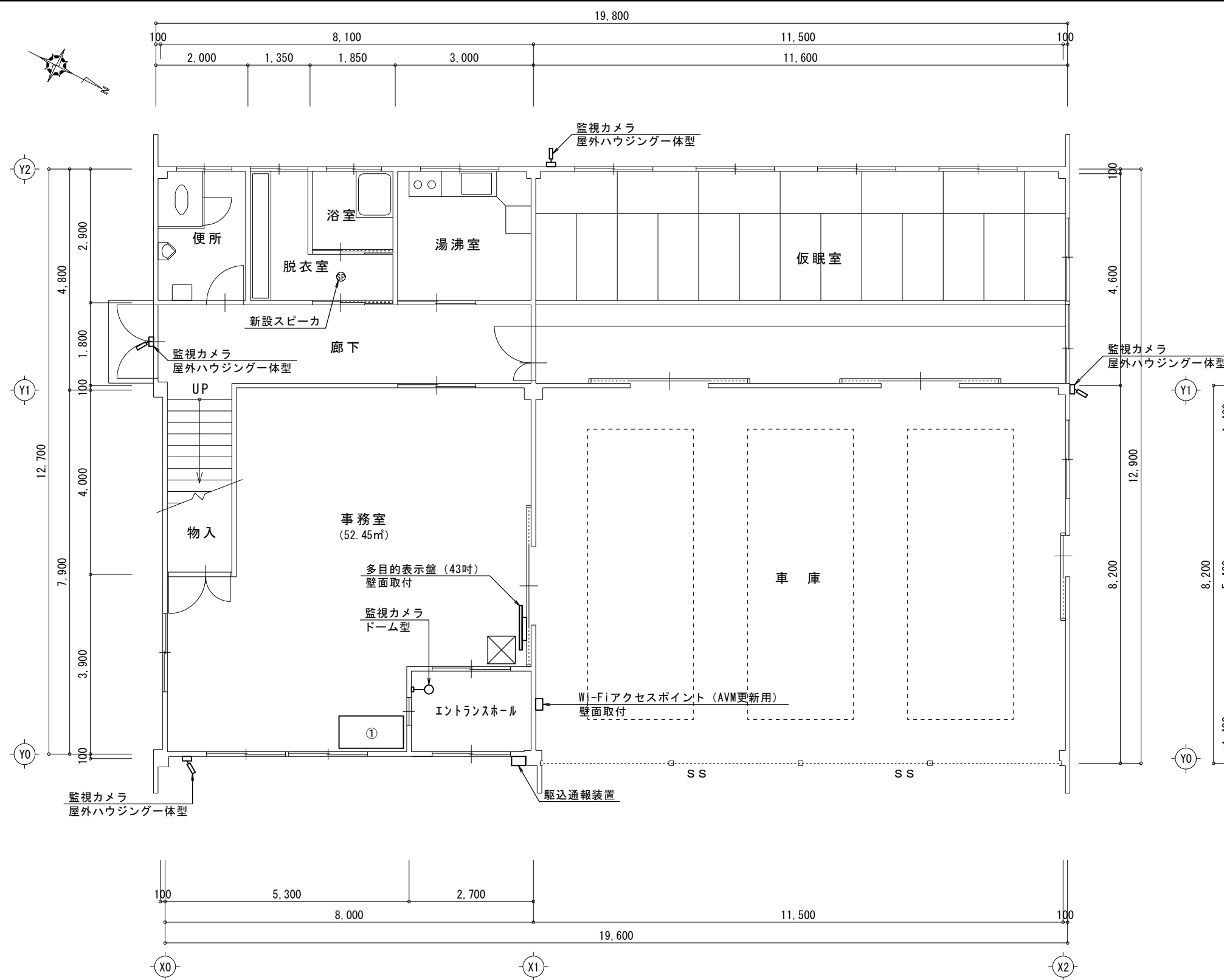
【特記】
1. 配管・配線は撤去機器の付属ケーブルとし撤去処分すること。
2. 固定金具は撤去機器の付属品として撤去処分すること。
3. 撤去機器に付属する配管・配線・固定金具を再利用する場合は
発注者の承諾を得ること。



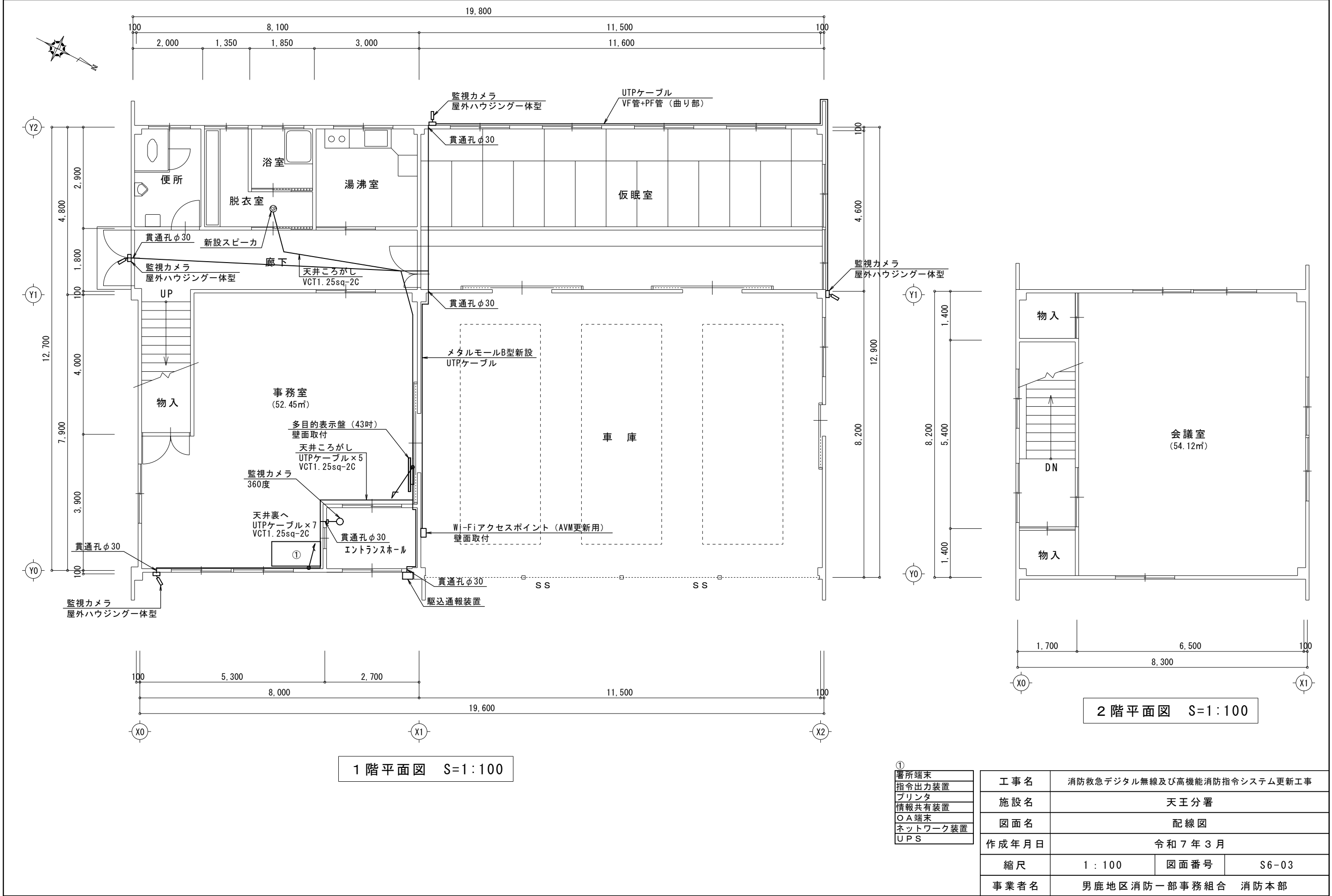
2 階平面図 S=1:100

- ①
指令出力装置
プリンタ
情報共有装置
OA 端末
ネットワーク装置
UPS
②
署所端末

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	天王分署		
図 面 名	機器撤去図		
作 成 年 月 日	令和 7 年 3 月		
縮 尺	1 : 100	図 面 番 号	S6-01
事 業 者 名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



①				
署所端末	工事名 消防救急デジタル無線及び高性能消防指令システム更新工事 施設名 天王分署 図面名 機器配置図 作成年月日 令和 7 年 3 月 縮尺 1 : 100 図面番号 S6-02 事業者名 男鹿地区消防一部事務組合 消防本部			
指令出力装置				
プリンタ				
情報共有装置				
OA 端末				
ネットワーク装置				
UPS				

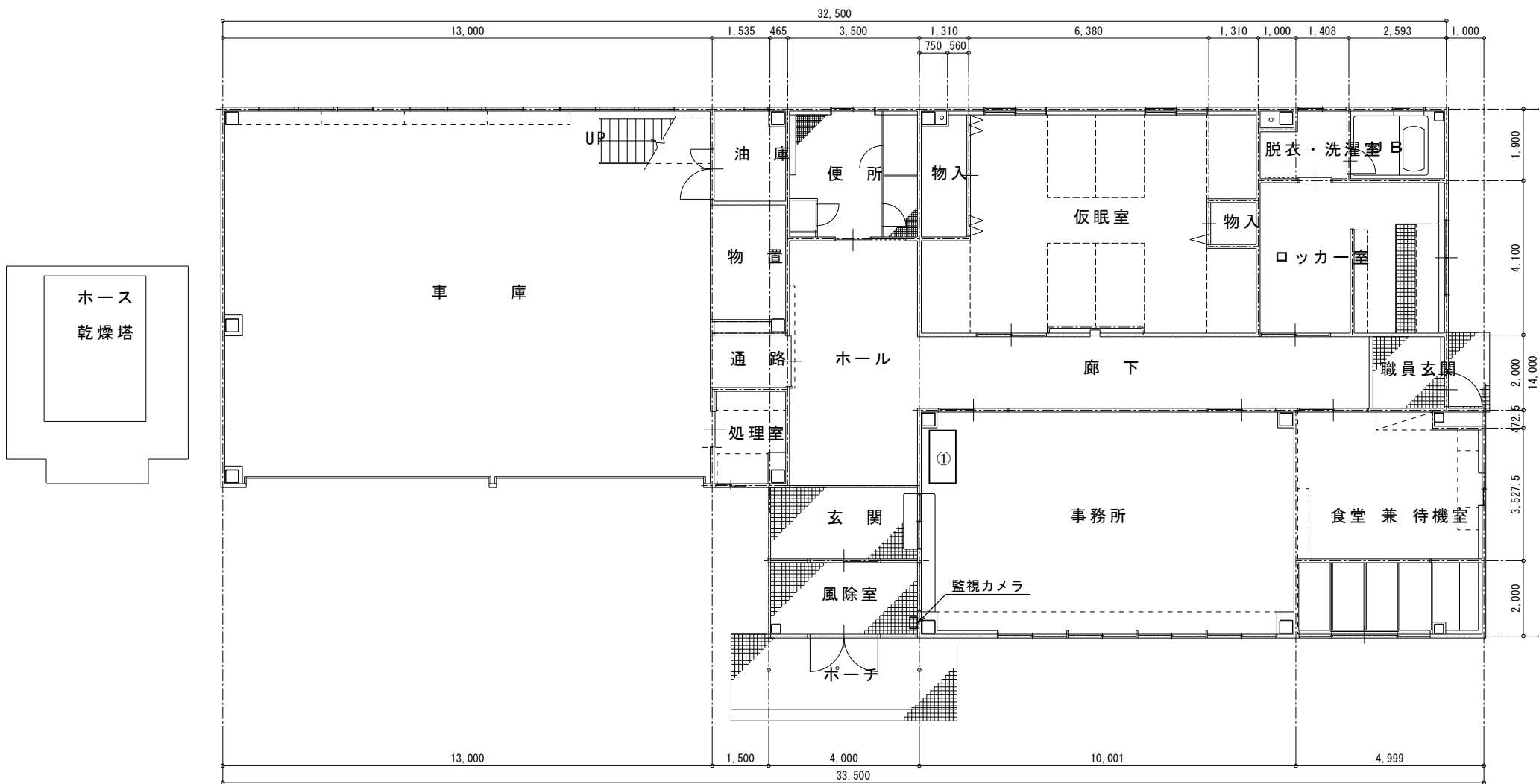


1 階平面図 S=1:100

2 階平面図 S=1:100

①
署所端末
指令出力装置
プリンタ
情報共有装置
OA端末
ネットワーク装置
UPS

工 事 名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	天王分署		
図 面 名	配 線 図		
作 成 年 月 日	令和 7 年 3 月		
縮 尺	1 : 100	図 面 番 号	S6-03
事 業 者 名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



平面図 S=1/100

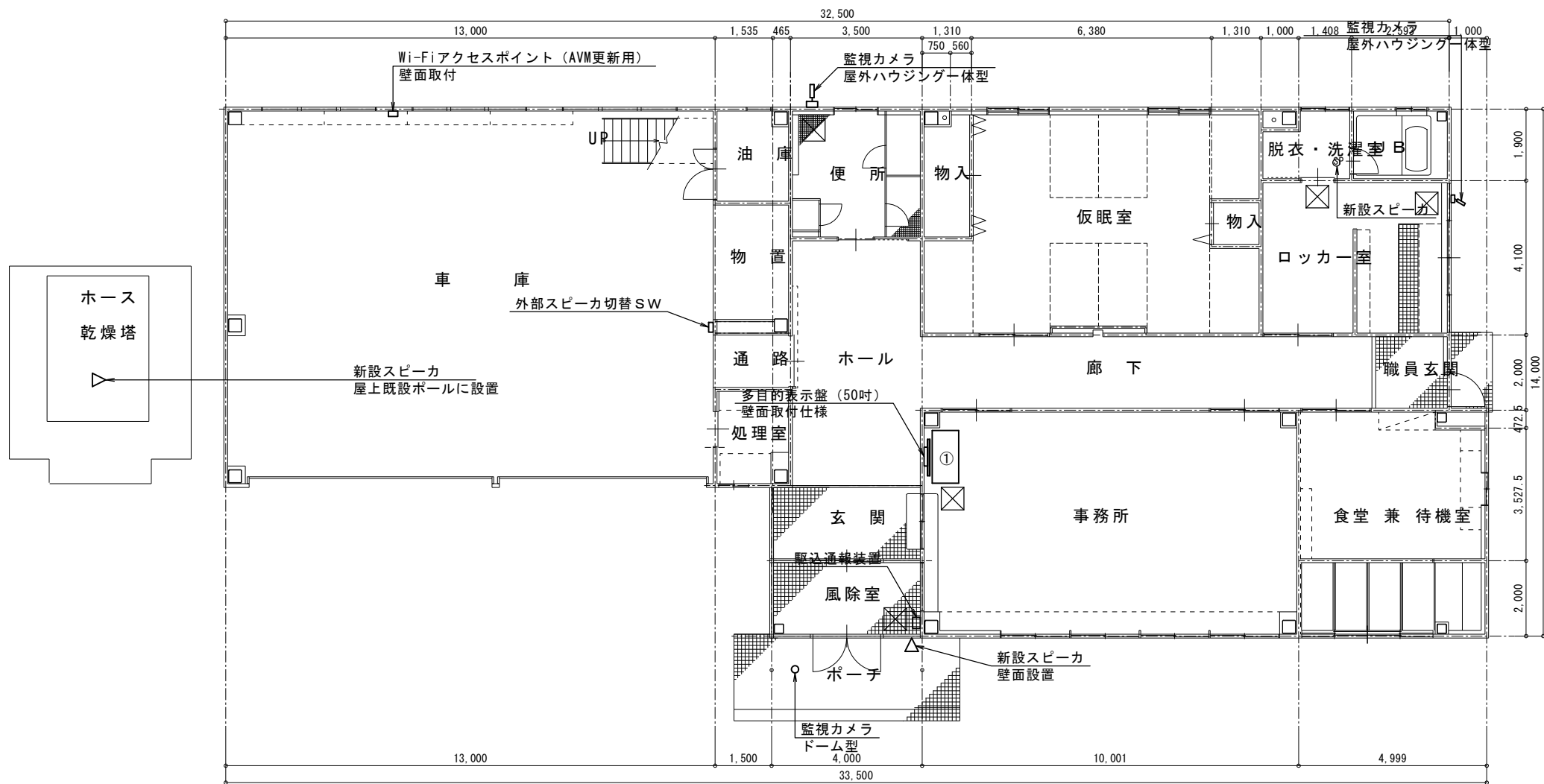
- 【特記】
1. 配管・配線は撤去機器の付属ケーブルとし撤去処分すること。
 2. 固定金具は撤去機器の付属品として撤去処分すること。
 3. 撤去機器に付属する配管・配線・固定金具を再利用する場合は発注者の承諾を得ること。
 4. 風向風速計を使用していない場合は、撤去について発注者と協議し、指示に従うこと。

凡例

新設点検口

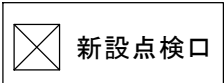
- ①
- 署所端末
- 指令出力装置
- プリンタ
- 情報共有装置
- ネットワーク装置
- UPS
- スピーカアンプ

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	天王南分署		
図面名	機器撤去図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1 : 100	図面番号	S7-01
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



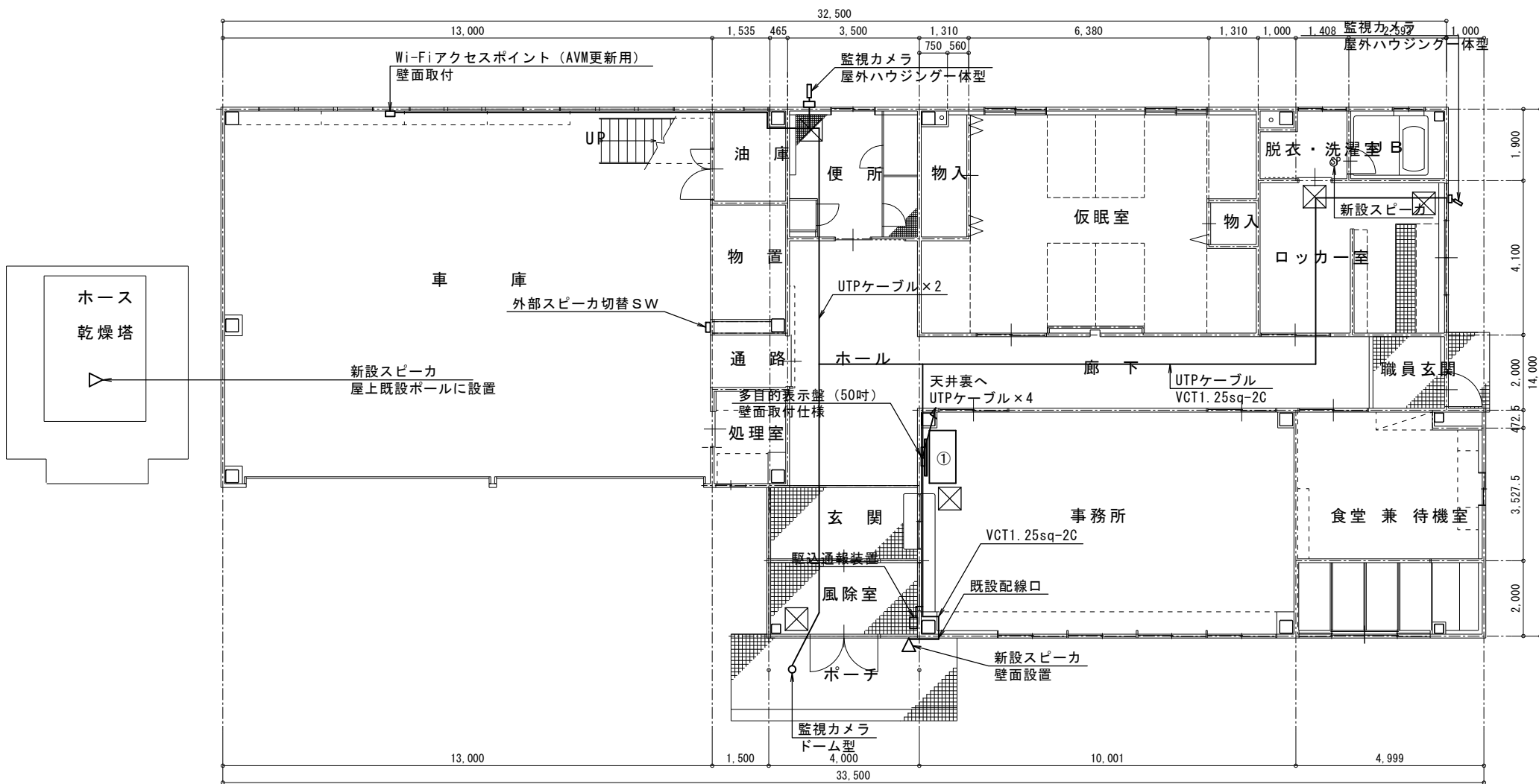
平面図 S=1/100

凡例



- ① 署所端末
- 指令出力装置
- プリンタ
- 情報共有装置
- ネットワーク装置
- UPS
- スピーカアンプ

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	天王南分署		
図面名	機器配置図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1 : 100	図面番号	S7-02
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



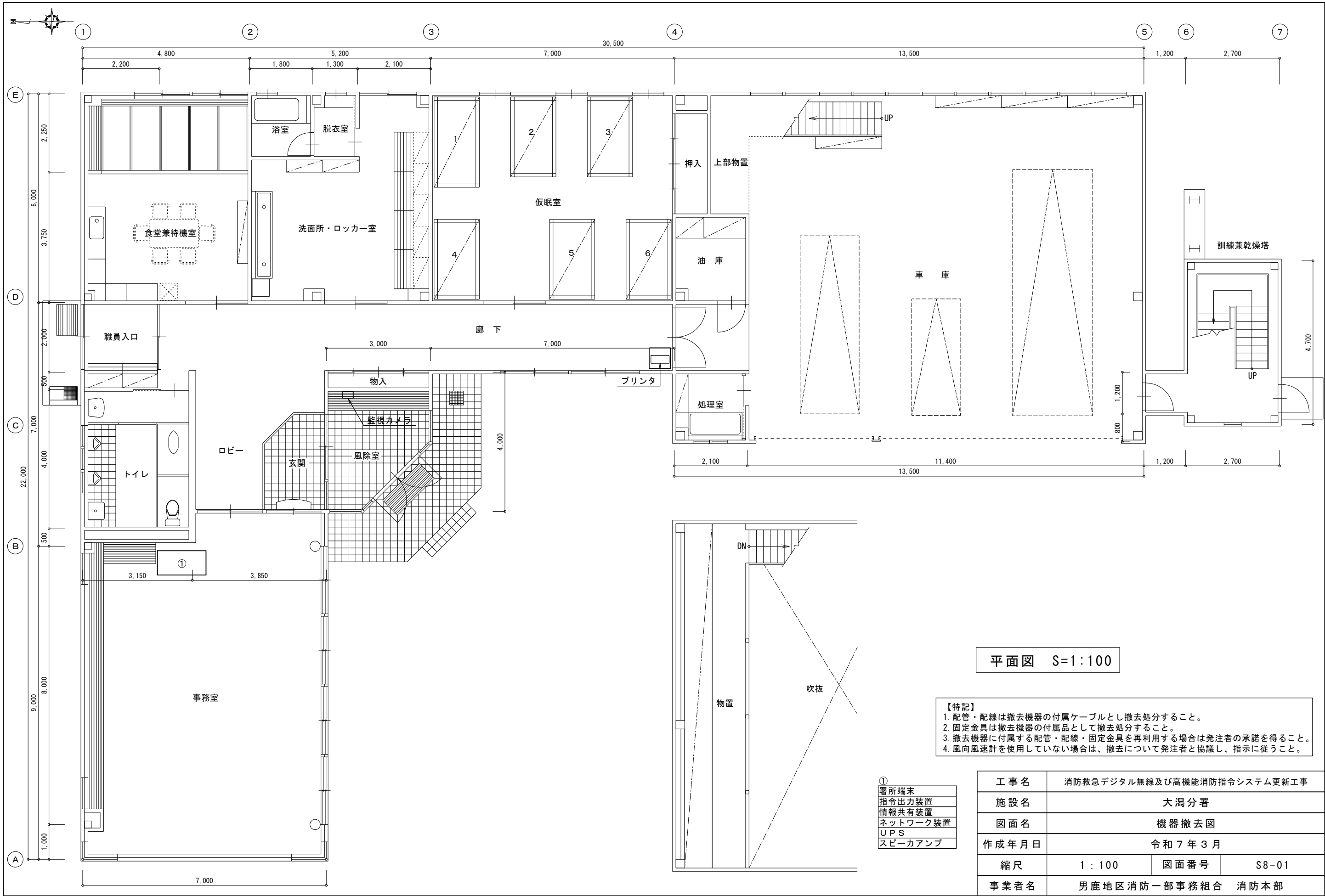
【特記】
1. ①ならびに駆込通報装置のケーブルは
付属ケーブルとし配線すること。
2. 固定金具・天吊器具は機器の付属品と
して支障なく設置すること。
3. 表示盤の電源は最寄りコンセントより
給電すること。給電線の延長が必要な
場合は、適切に配線を延長し施工する
こと。

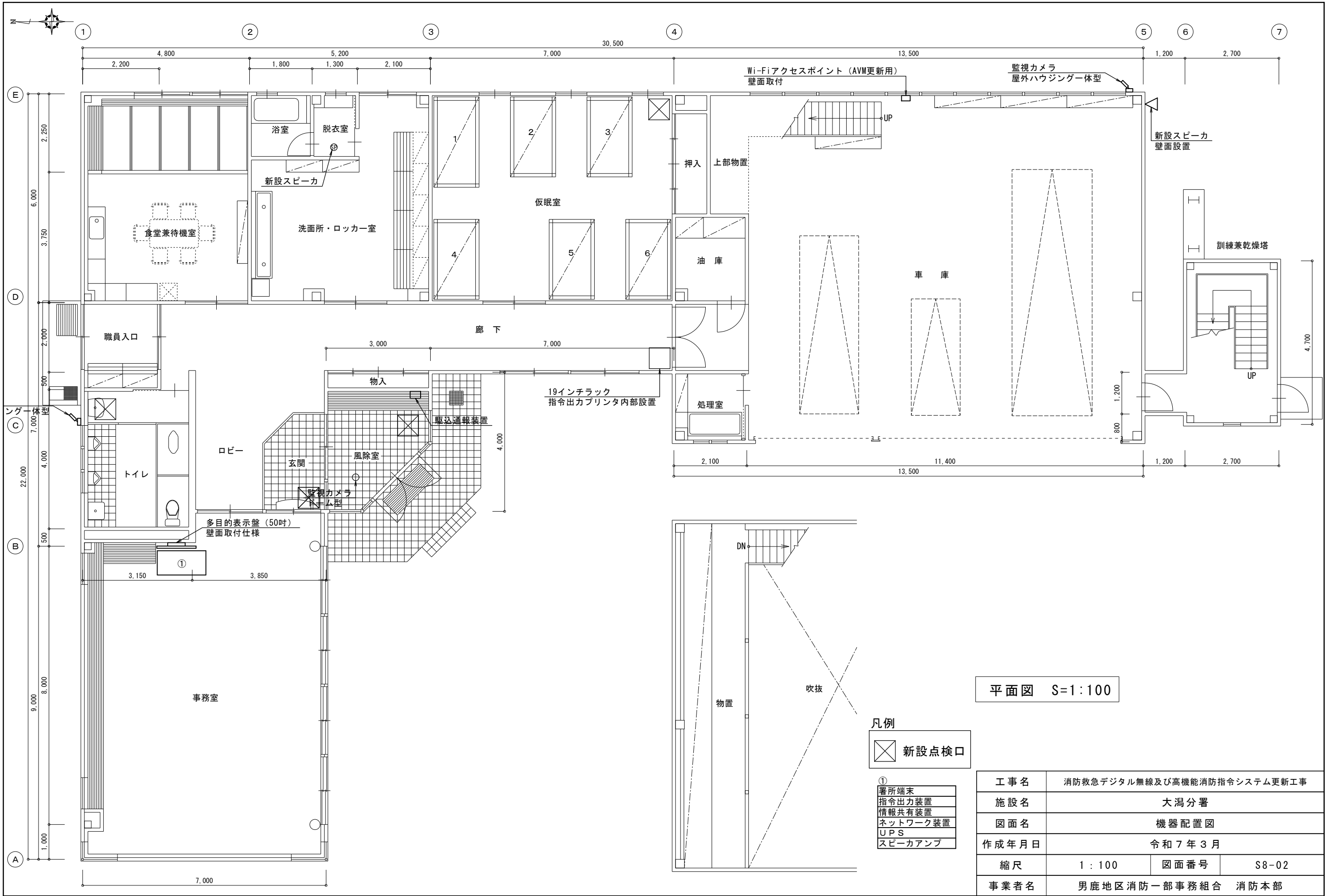
平面図 S=1/100

凡例
[Symbol] 新設点検口

- ① 署所端末
- 指令出力装置
- プリンタ
- 情報共有装置
- ネットワーク装置
- UPS
- スピーカアンプ

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	天王南分署		
図面名	配線図（１）		
作成年月日	令和７年３月		
縮尺	１：１００	図面番号	S7-03
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		

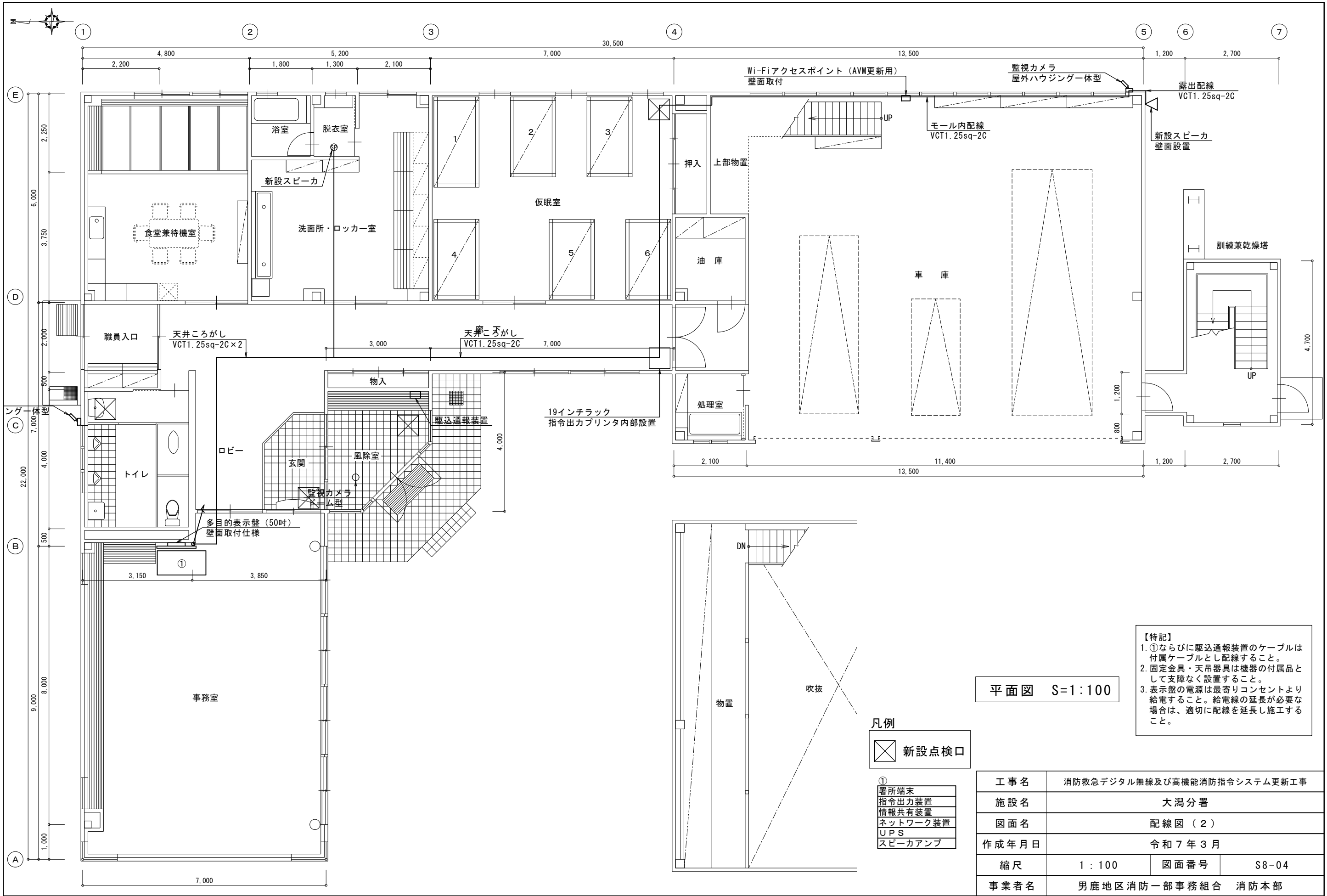




平面図 S=1:100

- 凡例
- 新設点検口
 - ① 署所端末
 - 指令出力装置
 - 情報共有装置
 - ネットワーク装置
 - UPS
 - スピーカアンプ

工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	大湊分署		
図面名	機器配置図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	1:100	図面番号	S8-02
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		



工事名	消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	大湊分署		
図面名	配線図 (2)		
作成年月日	令和 7 年 3 月		
縮尺	1 : 100	図面番号	S8-04
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合 消防本部		

通信指令室改修編

設計図面

図面リスト			
図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
A-01	建築工事 特記仕様書 1	M-01	機械設備工事 特記仕様書 1
A-02	建築工事 特記仕様書 2	M-02	機械設備工事 特記仕様書 2
A-03	建築工事 特記仕様書 3	M-03	機械設備工事 特記仕様書 3
A-04	建築工事 特記仕様書 4	M-04	機器表
A-05	建築工事 特記仕様書 5	M-05	機械設備 改修平面図
A-06	建築工事 特記仕様書 6	M-06	機械設備 既存図
A-07	案内図・配置図		
A-08	改修平面詳細図		
A-09	改修天井伏図		
A-10	改修展開図・改修仕上表		
A-11	改修建具表・ユニット図		
A-12	解体平面図		
A-13	解体天井伏図		
A-14	解体展開図 解体仕上表		
A-15	既存建具表		

令和7年度 消防救急デジタル無線 及び高機能消防指令システム更新工事 工事特記仕様書			5 章 建 具 改 修 工 事	① 適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ・風圧力 風速 (Vo = 32 m/s) 地表面粗度区分 (Ⅲ) ・積雪荷重 平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域別表 (16)	② 改修工法	[5. 1. 3] <table><tr><th>建具の種類</th><th>かぶせ工法</th><th>撤去工法</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>・アルミニウム製建具</td><td>・</td><td>・</td><td>・建具表による</td></tr><tr><td>・樹脂製建具</td><td>－</td><td>・</td><td>・建具表による</td></tr><tr><td>・鋼製建具</td><td>・外部</td><td>・</td><td>・建具表による</td></tr><tr><td></td><td>・内部</td><td>・</td><td>・建具表による</td></tr><tr><td>○鋼製軽量建具</td><td>・</td><td>・</td><td>○建具表による</td></tr><tr><td>・ステンレス製建具</td><td>・</td><td>・</td><td>・建具表による</td></tr></table> 新規に建具を設ける場合 壁部分の開口の開け方 ・ ※図示 新規建具周囲の補修工法及び範囲 ・ ※図示 建具周囲のシーリングは、改修特記仕様書3章 防水改修工事による [5. 1. 4] ・指定する 適用箇所 (・建具表による) ・指定しない ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動 ・連動させる (・建具表による) ・連動させない [5. 1. 5] 建具見本の製作 ・行う (建具符号：) ・行わない 建具見本の程度 ・工事に使用するものとして、あらかじめ製作する ・納まり等が分かる程度のもの ・行う (建具符号：) ・行わない [5. 1. 7] ・適用する 適用箇所 (・建具表による) ・適用しない [5. 2. 2～5] [表5. 2. 2] 性能値等 耐風圧性の等級 () 気密性の等級 () 水密性の等級 () 外部に面する建具の種類 ・A種 (建具符号：・建具表による) ・B種 (建具符号：・建具表による) ・C種 (建具符号：・建具表による) 枠見込みの寸法 ・建具表による 表面処理 外部に面する建具 ・BB－1 ・BB－2 着色 ・標準色 () ・特注色 () 屋内の建具 ・BC－1 ・BC－2 着色 ・標準色 () ・特注色 () ステンレス鋼板 ・ ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 結露水の処理方法 ・図示 水切り板、ぜん板 ・図示 ・網戸等 [5. 2. 3、5. 3. 3] <table><tr><th>種類</th><th>材種</th><th>線径</th><th>網目</th></tr><tr><td>・防虫網</td><td>・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス (SUS316) 製 ※合成樹脂製</td><td>・ ※0.25mm 以上</td><td>※16～18 メッシュ</td></tr><tr><td>・防鳥網</td><td>ステンレス (SUS304) 線材</td><td>1.5mm</td><td>網目寸法 15mm</td></tr></table> 性能値等 耐風圧性の等級 () 気密性の等級 () 水密性の等級 () 外部に面する建具の種類 ・A種 (建具符号：・建具表による) ・B種 (建具符号：・建具表による) ・C種 (建具符号：・建具表による) 枠見込みの寸法 ・建具表による 断熱ドア・断熱サッシ ㊥ 断熱性の等級 表面色 ・標準色 ・特注色 水切り板、ぜん板 ・ ※図示 ガラス ・ ※複層ガラス	建具の種類	かぶせ工法	撤去工法	適用箇所	・アルミニウム製建具	・	・	・建具表による	・樹脂製建具	－	・	・建具表による	・鋼製建具	・外部	・	・建具表による		・内部	・	・建具表による	○鋼製軽量建具	・	・	○建具表による	・ステンレス製建具	・	・	・建具表による	種類	材種	線径	網目	・防虫網	・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス (SUS316) 製 ※合成樹脂製	・ ※0.25mm 以上	※16～18 メッシュ	・防鳥網	ステンレス (SUS304) 線材	1.5mm	網目寸法 15mm	③ 環境への配慮	(1. 4. 1) [1. 4. 1] 1) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④までを満たすものとする。 ① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は、可塑剤 (フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く) が添加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 2) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料指す。 ① 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③ 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④ 建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料	④ 材料の品質等	(1. 4. 2) [1. 4. 2] 1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 2) 備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。 3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。 4) 本工事に使用する材料のうち、5) に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料 (外部機関が発行する証明書の写し等) を監督職員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。 ① 品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ② 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③ 安定的な供給が可能であること。 ④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥ 販売、保守等の営業体制を整えていること。 5) 製造業者等に関する資料の提出を求める材料 ・床型枠用鋼製デッキプレート ・鉄骨柱下無収縮モルタル ・無収縮グラウト材 ・乾式保護材 ・既製調合モルタル (タイル工専用) ・既製調合目地材 ・ルーフドレン ・吸水調整材 ・錠前類 ・クローザ類 ・自動扉機構 ○自閉式上吊り引戸機構 (手動開き式) ・重量シャッター ・軽量シャッター ・オーバーヘッドドア ・防水剤 ・現場発泡断熱材 (特定のフォームによるものを除く) ○フローアセシメント ・可動間仕切り ・移動間仕切り ・トレブレス ・煙突用成形ライニング材 ・天井点検口 ・床点検口 ・グレーチング ・屋上緑化用システム ・トップライト ・エポキシ樹脂 ・ポリマーセメントモルタル ・鋳鉄製ふた	⑤ 鋼製建具	[5. 2. 2] [5. 4. 2～4] [表5. 4. 2] 性能等級 簡易気密型ドアセット・適用する () (建具符号：・建具表による) ・適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 ・S－4 (建具符号：・建具表による) ・S－5 (建具符号：・建具表による) ・S－6 (建具符号：・建具表による) 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 (・) 断熱ドア・断熱サッシ ㊥ 断熱性の等級 (・) 耐震ドア 面内変形追従性の等級 (・) 鋼板の厚さ ・ mm ※改修標準仕様書表5. 4. 2による ステンレス鋼板 ・ ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1	⑥ 鋼製軽量建具	[5. 2. 2] [5. 5. 2～4] 性能等級 簡易気密型ドアセット・適用する () ・適用しない 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 (・) 断熱ドア・断熱サッシ ㊥ 断熱性の等級 (・) 耐震ドア 面内変形追従性の等級 (・) 鋼板の種類 ・亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ○カラー鋼板 ・ステンレス鋼板 鋼板の厚さ ・ mm ※改修標準仕様書表5. 5. 1による ステンレス鋼板 ・ ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 召合せ、縦小口包み板の材質 ・ステンレス鋼板 ・アルミニウム合金の押出形材 ※鋼板	・ステンレス製建具	[5. 2. 2] [5. 4. 2] [5. 6. 2～5] 性能等級 簡易気密型ドアセット ・適用する () ・適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 ・S－4 ・S－5 ・S－6 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 (・) 断熱ドア・断熱サッシ ㊥ 断熱性の等級 (・) 耐震ドア 面内変形追従性の等級 (・) ステンレス鋼板 ・ ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 表面仕上げ ・鏡面仕上げ ・ ※HL ステンレス鋼板の曲げ加工 ・角出し曲げ ※普通曲げ	[5. 7. 1～3] 金物の種類及び見え掛り部の材質等 ※改修標準仕様書表5. 7. 1により適用は建具表による。 金属製建具用丁番の枚数及び大きさ ・建具表による ※改修標準仕様書表5. 7. 2による 樹脂製建具用丁番の枚数及び大きさ ・建具表による ※改修標準仕様書表5. 7. 3による 握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置 ・建具表による	・錠前類 【シリンダ箱錠及びシリンダ本締まり錠】 (品質) デッドボルトの出寸法は17mm以上とする。 鍵付きのものはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。
建具の種類	かぶせ工法	撤去工法		適用箇所																																																							
・アルミニウム製建具	・	・	・建具表による																																																								
・樹脂製建具	－	・	・建具表による																																																								
・鋼製建具	・外部	・	・建具表による																																																								
	・内部	・	・建具表による																																																								
○鋼製軽量建具	・	・	○建具表による																																																								
・ステンレス製建具	・	・	・建具表による																																																								
種類	材種	線径	網目																																																								
・防虫網	・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス (SUS316) 製 ※合成樹脂製	・ ※0.25mm 以上	※16～18 メッシュ																																																								
・防鳥網	ステンレス (SUS304) 線材	1.5mm	網目寸法 15mm																																																								
章	項 目	特 記 事 項		工事名	令和7年度 消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事																																																						
1章 一般共通事項	① 適用基準	1) 図面、本特記仕様書、標準仕様書及び改修標準仕様書に記載のない事項は次の基準による。 ・公共建築改修工事標準仕様書 (最新版) 国土交通省大臣官房官庁営繕部 2) 本設計図書における「標準詳細図」とは、次の基準を指す。 建築工事標準詳細図 (最新版) 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課		施設名	男鹿地区消防本部																																																						
				図面名	建築工事 特記仕様書1																																																						
				作成年月日	令和7年3月																																																						
				縮尺	－	図面番号	A－01																																																				
				事業者名	男鹿地区消防一部事務組合																																																						

章	項 目	特 記 事 項																																																																																																																																																																																																																																																																												
		<table><tr><td></td><td>(性能)</td></tr><tr><td rowspan="5">使用頻度 による 性能</td><td>1) (シリンダ箱錠のみ) ラッチボルトの開閉繰り返し試験 (40万回) を行った後、ハンドルでの開閉操作力及びラッチング力が試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。</td></tr><tr><td>2) キーによるデッドボルトの施錠繰り返し試験 (10万回) を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施錠操作に支障がない。(シリンダ本締り錠のみ) シリンダ単体の施錠繰り返し試験の評価は、シリンダだけの回転トルクが10N・cm以下とする。</td></tr><tr><td>3) キーによる施錠機構の施錠繰り返し試験 (10万回) を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施錠操作に支障がない。</td></tr><tr><td>4) キーの抜き差し繰り返し試験 (10万回) を行った後、キーの抜き差しに要する荷重は10N以下である。また、未使用の合鍵でシリンダが回転でき、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるキーではシリンダが回転しないこと。(キーに加えるトルクは、150N・cmとする)</td></tr><tr><td>5) (シリンダ本締り錠はグレード3以上の彫込錠の場合) ストライクプレートの厚さ1.5mm以上のステンレス鋼製とし、トロヨケは厚さ1.6mm以上の鋼製の一体絞りとする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。</td></tr><tr><td rowspan="5">外力に 対する 性能</td><td>1) デッドボルトの押込み強度試験 (10KN) を行った後、荷重を除いたときのデッドボルトの寸出法は8mm以上であること。</td></tr><tr><td>2) デッドボルトの側圧強度試験 (10KN) を行った際、加圧板がデッドボルトを通過しない。</td></tr><tr><td>3) デッドボルトの押込み強度 (衝撃荷重) 試験 (58.8J) の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態 (デッドボルトの突出量が8mm未満) にならないこと。</td></tr><tr><td>4) デッドボルトの側圧強度 (衝撃荷重) 試験 (58.8J) の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態 (加圧板がデッドボルトを通過した状態) にならないこと。</td></tr><tr><td>5) (シリンダ本締り錠はグレード3以上の彫込錠の場合) ストライクプレートの厚さ1.5mm以上のステンレス鋼製とし、トロヨケは厚さ1.6mm以上の鋼製の一体絞りとする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。</td></tr><tr><td rowspan="5">使用扉の 質量に 対する性能 (シリンダ 箱錠のみ)</td><td>1) ラッチボルトの側圧強度試験 (4KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。</td></tr><tr><td>2) レバーハンドルのねじり強度試験 (3.5KN・cm) を行った後、トルクを除いたときハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。</td></tr><tr><td>3) 握り玉のねじり強度試験 (3KN・cm) を行った後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。</td></tr><tr><td>4) ハンドルの引張強度試験 (2KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。</td></tr><tr><td>5) ハンドルの垂直荷重強度試験 (2KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。</td></tr><tr><td rowspan="2">鍵</td><td>1) かぎ (鍵) 数は、1.5万以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ (鍵) 連い数とみなさないものとする。</td></tr><tr><td>2) 同一タンブラーの使用数は、60%以下とする。また、6本タンブラーにおいては、キーの同一刻みは、最大2連続までとしていること。</td></tr><tr><td colspan="2">試験方法は、JIS A 1541-1 (建築金物一錠一第1部：試験方法) による。</td></tr><tr><td colspan="2">【レバーハンドル】 (性能)</td></tr><tr><td>ねじり 強度</td><td>レバーハンドルのねじり強度試験 (3.5KN・cm) を行った後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。</td></tr><tr><td>引張り 強度</td><td>ハンドルの引張強度試験 (2KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時のハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。</td></tr><tr><td>垂直荷重 強度</td><td>ハンドルの垂直荷重強度試験 (2KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時のハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。</td></tr><tr><td colspan="2">試験方法は、JIS A 1541-1 (建築金物一錠一第1部：試験方法) による。</td></tr></table>		(性能)	使用頻度 による 性能	1) (シリンダ箱錠のみ) ラッチボルトの開閉繰り返し試験 (40万回) を行った後、ハンドルでの開閉操作力及びラッチング力が試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。	2) キーによるデッドボルトの施錠繰り返し試験 (10万回) を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施錠操作に支障がない。(シリンダ本締り錠のみ) シリンダ単体の施錠繰り返し試験の評価は、シリンダだけの回転トルクが10N・cm以下とする。	3) キーによる施錠機構の施錠繰り返し試験 (10万回) を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施錠操作に支障がない。	4) キーの抜き差し繰り返し試験 (10万回) を行った後、キーの抜き差しに要する荷重は10N以下である。また、未使用の合鍵でシリンダが回転でき、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるキーではシリンダが回転しないこと。(キーに加えるトルクは、150N・cmとする)	5) (シリンダ本締り錠はグレード3以上の彫込錠の場合) ストライクプレートの厚さ1.5mm以上のステンレス鋼製とし、トロヨケは厚さ1.6mm以上の鋼製の一体絞りとする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。	外力に 対する 性能	1) デッドボルトの押込み強度試験 (10KN) を行った後、荷重を除いたときのデッドボルトの寸出法は8mm以上であること。	2) デッドボルトの側圧強度試験 (10KN) を行った際、加圧板がデッドボルトを通過しない。	3) デッドボルトの押込み強度 (衝撃荷重) 試験 (58.8J) の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態 (デッドボルトの突出量が8mm未満) にならないこと。	4) デッドボルトの側圧強度 (衝撃荷重) 試験 (58.8J) の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態 (加圧板がデッドボルトを通過した状態) にならないこと。	5) (シリンダ本締り錠はグレード3以上の彫込錠の場合) ストライクプレートの厚さ1.5mm以上のステンレス鋼製とし、トロヨケは厚さ1.6mm以上の鋼製の一体絞りとする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。	使用扉の 質量に 対する性能 (シリンダ 箱錠のみ)	1) ラッチボルトの側圧強度試験 (4KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。	2) レバーハンドルのねじり強度試験 (3.5KN・cm) を行った後、トルクを除いたときハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。	3) 握り玉のねじり強度試験 (3KN・cm) を行った後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。	4) ハンドルの引張強度試験 (2KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。	5) ハンドルの垂直荷重強度試験 (2KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。	鍵	1) かぎ (鍵) 数は、1.5万以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ (鍵) 連い数とみなさないものとする。	2) 同一タンブラーの使用数は、60%以下とする。また、6本タンブラーにおいては、キーの同一刻みは、最大2連続までとしていること。	試験方法は、JIS A 1541-1 (建築金物一錠一第1部：試験方法) による。		【レバーハンドル】 (性能)		ねじり 強度	レバーハンドルのねじり強度試験 (3.5KN・cm) を行った後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。	引張り 強度	ハンドルの引張強度試験 (2KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時のハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。	垂直荷重 強度	ハンドルの垂直荷重強度試験 (2KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時のハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。	試験方法は、JIS A 1541-1 (建築金物一錠一第1部：試験方法) による。																																																																																																																																																																																																																																										
	(性能)																																																																																																																																																																																																																																																																													
使用頻度 による 性能	1) (シリンダ箱錠のみ) ラッチボルトの開閉繰り返し試験 (40万回) を行った後、ハンドルでの開閉操作力及びラッチング力が試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。																																																																																																																																																																																																																																																																													
	2) キーによるデッドボルトの施錠繰り返し試験 (10万回) を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施錠操作に支障がない。(シリンダ本締り錠のみ) シリンダ単体の施錠繰り返し試験の評価は、シリンダだけの回転トルクが10N・cm以下とする。																																																																																																																																																																																																																																																																													
	3) キーによる施錠機構の施錠繰り返し試験 (10万回) を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施錠操作に支障がない。																																																																																																																																																																																																																																																																													
	4) キーの抜き差し繰り返し試験 (10万回) を行った後、キーの抜き差しに要する荷重は10N以下である。また、未使用の合鍵でシリンダが回転でき、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるキーではシリンダが回転しないこと。(キーに加えるトルクは、150N・cmとする)																																																																																																																																																																																																																																																																													
	5) (シリンダ本締り錠はグレード3以上の彫込錠の場合) ストライクプレートの厚さ1.5mm以上のステンレス鋼製とし、トロヨケは厚さ1.6mm以上の鋼製の一体絞りとする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。																																																																																																																																																																																																																																																																													
外力に 対する 性能	1) デッドボルトの押込み強度試験 (10KN) を行った後、荷重を除いたときのデッドボルトの寸出法は8mm以上であること。																																																																																																																																																																																																																																																																													
	2) デッドボルトの側圧強度試験 (10KN) を行った際、加圧板がデッドボルトを通過しない。																																																																																																																																																																																																																																																																													
	3) デッドボルトの押込み強度 (衝撃荷重) 試験 (58.8J) の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態 (デッドボルトの突出量が8mm未満) にならないこと。																																																																																																																																																																																																																																																																													
	4) デッドボルトの側圧強度 (衝撃荷重) 試験 (58.8J) の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態 (加圧板がデッドボルトを通過した状態) にならないこと。																																																																																																																																																																																																																																																																													
	5) (シリンダ本締り錠はグレード3以上の彫込錠の場合) ストライクプレートの厚さ1.5mm以上のステンレス鋼製とし、トロヨケは厚さ1.6mm以上の鋼製の一体絞りとする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。																																																																																																																																																																																																																																																																													
使用扉の 質量に 対する性能 (シリンダ 箱錠のみ)	1) ラッチボルトの側圧強度試験 (4KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。																																																																																																																																																																																																																																																																													
	2) レバーハンドルのねじり強度試験 (3.5KN・cm) を行った後、トルクを除いたときハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。																																																																																																																																																																																																																																																																													
	3) 握り玉のねじり強度試験 (3KN・cm) を行った後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。																																																																																																																																																																																																																																																																													
	4) ハンドルの引張強度試験 (2KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。																																																																																																																																																																																																																																																																													
	5) ハンドルの垂直荷重強度試験 (2KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。																																																																																																																																																																																																																																																																													
鍵	1) かぎ (鍵) 数は、1.5万以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ (鍵) 連い数とみなさないものとする。																																																																																																																																																																																																																																																																													
	2) 同一タンブラーの使用数は、60%以下とする。また、6本タンブラーにおいては、キーの同一刻みは、最大2連続までとしていること。																																																																																																																																																																																																																																																																													
試験方法は、JIS A 1541-1 (建築金物一錠一第1部：試験方法) による。																																																																																																																																																																																																																																																																														
【レバーハンドル】 (性能)																																																																																																																																																																																																																																																																														
ねじり 強度	レバーハンドルのねじり強度試験 (3.5KN・cm) を行った後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。																																																																																																																																																																																																																																																																													
引張り 強度	ハンドルの引張強度試験 (2KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時のハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。																																																																																																																																																																																																																																																																													
垂直荷重 強度	ハンドルの垂直荷重強度試験 (2KN) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時のハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。																																																																																																																																																																																																																																																																													
試験方法は、JIS A 1541-1 (建築金物一錠一第1部：試験方法) による。																																																																																																																																																																																																																																																																														
		<table><tr><td>○</td><td>クローザ類 (品質・性能)</td></tr><tr><td></td><td><table><tr><td></td><td>区分</td><td>①ドアクローザ</td><td>②ヒンジクローザ</td><td>③フロアヒンジ</td></tr><tr><td>性能試験項目</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="7">初期 力及び効 率による 区分 (注1) (注2)</td><td rowspan="7">閉じ モーメント (N・m)</td><td>閉じ モーメント (N・m)</td><td>効率 (%)</td><td>閉じ モーメント (N・m)</td><td>効率 (%)</td><td>閉じ モーメント (N・m)</td><td>効率 (%)</td></tr><tr><td>1</td><td>5以上</td><td>30以上</td><td>5以上</td><td>30以上</td><td>5以上</td><td>30以上</td></tr><tr><td>2</td><td>10以上</td><td>30以上</td><td>10以上</td><td>30以上</td><td>10以上</td><td>30以上</td></tr><tr><td>3</td><td>15以上</td><td>35以上</td><td>15以上</td><td>35以上</td><td>15以上</td><td>35以上</td></tr><tr><td>4</td><td>25以上</td><td>40以上</td><td>25以上</td><td>40以上</td><td>25以上</td><td>40以上</td></tr><tr><td>5</td><td>35以上</td><td>45以上</td><td>35以上</td><td>45以上</td><td>35以上</td><td>45以上</td></tr><tr><td>6</td><td>45以上</td><td>45以上</td><td>45以上</td><td>45以上</td><td>45以上</td><td>45以上</td></tr><tr><td colspan="2">閉じ速度 (秒)</td><td colspan="6">常温 (5～35℃) 無風状態において、開扉 (70°) から全閉 (0°) までの時間を5～8秒に調整できること。</td></tr><tr><td colspan="2">温度依存性 (℃)</td><td colspan="6">緩衝油の流動点は、JIS K 2269 (原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法) により測定し、－15℃以下であること。</td></tr><tr><td rowspan="2">ストッ プ力</td><td>ストッ プ入力</td><td colspan="2">60N・m以下 但し、コンシールド型は 200N・m以下</td><td colspan="2">100N・m以下</td><td colspan="2">100N・m以下</td></tr><tr><td>ストッ プ 解除力</td><td colspan="2">8N・m以上</td><td colspan="2">3N・m以上</td><td colspan="2">10N・m以上</td></tr><tr><td colspan="2">バックチェック 性能 (秒)</td><td colspan="6">ドア開扉方向に荷重60N/m² を開扉50° から負荷する。バックチェック機構のみ適用) バックチェック開始角度 (70～85°) から更に20° まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。</td></tr><tr><td colspan="2">ディレードアクション性能 (秒)</td><td colspan="6">開扉90° の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。</td></tr><tr><td colspan="2">戸の開鎖位置 (中心吊り込み 両自由のみに適用)</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">±3mm以内</td></tr><tr><td rowspan="3">耐久 性</td><td>繰返し開閉後の閉じモーメント (N・m)</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td></tr><tr><td>繰返し開閉後の効率 (%)</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td></tr><tr><td>繰返し開閉後の閉じ速度 (秒)</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">—</td></tr><tr><td colspan="2">繰返し開閉後のバックチェック 性能 (秒)</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">—</td></tr><tr><td colspan="2">繰返し開閉後のディレードアクション性能 (秒)</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">—</td></tr><tr><td colspan="2">繰り返し開閉後の戸開鎖位置 (mm)</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">耐久試験後 ±6mm以内</td></tr><tr><td colspan="2">耐久性の試験回数 (繰り返し開閉回数)</td><td>Grade2</td><td>20万回</td><td>10万回</td><td colspan="3">30万回</td></tr></table></td></tr><tr><td colspan="2">注1. パラレル取付けは、右記の閉じモーメントの70%程度までとする。</td></tr><tr><td colspan="2">注2. コンシールド型は右記の閉じモーメントの50%程度までとする。</td></tr><tr><td colspan="2">Grade1を選定する場合は、図示による。</td></tr></table>	○	クローザ類 (品質・性能)		<table><tr><td></td><td>区分</td><td>①ドアクローザ</td><td>②ヒンジクローザ</td><td>③フロアヒンジ</td></tr><tr><td>性能試験項目</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="7">初期 力及び効 率による 区分 (注1) (注2)</td><td rowspan="7">閉じ モーメント (N・m)</td><td>閉じ モーメント (N・m)</td><td>効率 (%)</td><td>閉じ モーメント (N・m)</td><td>効率 (%)</td><td>閉じ モーメント (N・m)</td><td>効率 (%)</td></tr><tr><td>1</td><td>5以上</td><td>30以上</td><td>5以上</td><td>30以上</td><td>5以上</td><td>30以上</td></tr><tr><td>2</td><td>10以上</td><td>30以上</td><td>10以上</td><td>30以上</td><td>10以上</td><td>30以上</td></tr><tr><td>3</td><td>15以上</td><td>35以上</td><td>15以上</td><td>35以上</td><td>15以上</td><td>35以上</td></tr><tr><td>4</td><td>25以上</td><td>40以上</td><td>25以上</td><td>40以上</td><td>25以上</td><td>40以上</td></tr><tr><td>5</td><td>35以上</td><td>45以上</td><td>35以上</td><td>45以上</td><td>35以上</td><td>45以上</td></tr><tr><td>6</td><td>45以上</td><td>45以上</td><td>45以上</td><td>45以上</td><td>45以上</td><td>45以上</td></tr><tr><td colspan="2">閉じ速度 (秒)</td><td colspan="6">常温 (5～35℃) 無風状態において、開扉 (70°) から全閉 (0°) までの時間を5～8秒に調整できること。</td></tr><tr><td colspan="2">温度依存性 (℃)</td><td colspan="6">緩衝油の流動点は、JIS K 2269 (原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法) により測定し、－15℃以下であること。</td></tr><tr><td rowspan="2">ストッ プ力</td><td>ストッ プ入力</td><td colspan="2">60N・m以下 但し、コンシールド型は 200N・m以下</td><td colspan="2">100N・m以下</td><td colspan="2">100N・m以下</td></tr><tr><td>ストッ プ 解除力</td><td colspan="2">8N・m以上</td><td colspan="2">3N・m以上</td><td colspan="2">10N・m以上</td></tr><tr><td colspan="2">バックチェック 性能 (秒)</td><td colspan="6">ドア開扉方向に荷重60N/m² を開扉50° から負荷する。バックチェック機構のみ適用) バックチェック開始角度 (70～85°) から更に20° まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。</td></tr><tr><td colspan="2">ディレードアクション性能 (秒)</td><td colspan="6">開扉90° の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。</td></tr><tr><td colspan="2">戸の開鎖位置 (中心吊り込み 両自由のみに適用)</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">±3mm以内</td></tr><tr><td rowspan="3">耐久 性</td><td>繰返し開閉後の閉じモーメント (N・m)</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td></tr><tr><td>繰返し開閉後の効率 (%)</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td></tr><tr><td>繰返し開閉後の閉じ速度 (秒)</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">—</td></tr><tr><td colspan="2">繰返し開閉後のバックチェック 性能 (秒)</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">—</td></tr><tr><td colspan="2">繰返し開閉後のディレードアクション性能 (秒)</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">—</td></tr><tr><td colspan="2">繰り返し開閉後の戸開鎖位置 (mm)</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">耐久試験後 ±6mm以内</td></tr><tr><td colspan="2">耐久性の試験回数 (繰り返し開閉回数)</td><td>Grade2</td><td>20万回</td><td>10万回</td><td colspan="3">30万回</td></tr></table>		区分	①ドアクローザ	②ヒンジクローザ	③フロアヒンジ	性能試験項目					初期 力及び効 率による 区分 (注1) (注2)	閉じ モーメント (N・m)	閉じ モーメント (N・m)	効率 (%)	閉じ モーメント (N・m)	効率 (%)	閉じ モーメント (N・m)	効率 (%)	1	5以上	30以上	5以上	30以上	5以上	30以上	2	10以上	30以上	10以上	30以上	10以上	30以上	3	15以上	35以上	15以上	35以上	15以上	35以上	4	25以上	40以上	25以上	40以上	25以上	40以上	5	35以上	45以上	35以上	45以上	35以上	45以上	6	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上	閉じ速度 (秒)		常温 (5～35℃) 無風状態において、開扉 (70°) から全閉 (0°) までの時間を5～8秒に調整できること。						温度依存性 (℃)		緩衝油の流動点は、JIS K 2269 (原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法) により測定し、－15℃以下であること。						ストッ プ力	ストッ プ入力	60N・m以下 但し、コンシールド型は 200N・m以下		100N・m以下		100N・m以下		ストッ プ 解除力	8N・m以上		3N・m以上		10N・m以上		バックチェック 性能 (秒)		ドア開扉方向に荷重60N/m ² を開扉50° から負荷する。バックチェック機構のみ適用) バックチェック開始角度 (70～85°) から更に20° まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。						ディレードアクション性能 (秒)		開扉90° の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。						戸の開鎖位置 (中心吊り込み 両自由のみに適用)		—		—		±3mm以内		耐久 性	繰返し開閉後の閉じモーメント (N・m)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		繰返し開閉後の効率 (%)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		繰返し開閉後の閉じ速度 (秒)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。		—		—		繰返し開閉後のバックチェック 性能 (秒)		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		—		—		繰返し開閉後のディレードアクション性能 (秒)		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		—		—		繰り返し開閉後の戸開鎖位置 (mm)		—		—		耐久試験後 ±6mm以内		耐久性の試験回数 (繰り返し開閉回数)		Grade2	20万回	10万回	30万回			注1. パラレル取付けは、右記の閉じモーメントの70%程度までとする。		注2. コンシールド型は右記の閉じモーメントの50%程度までとする。		Grade1を選定する場合は、図示による。																																																																																										
○	クローザ類 (品質・性能)																																																																																																																																																																																																																																																																													
	<table><tr><td></td><td>区分</td><td>①ドアクローザ</td><td>②ヒンジクローザ</td><td>③フロアヒンジ</td></tr><tr><td>性能試験項目</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="7">初期 力及び効 率による 区分 (注1) (注2)</td><td rowspan="7">閉じ モーメント (N・m)</td><td>閉じ モーメント (N・m)</td><td>効率 (%)</td><td>閉じ モーメント (N・m)</td><td>効率 (%)</td><td>閉じ モーメント (N・m)</td><td>効率 (%)</td></tr><tr><td>1</td><td>5以上</td><td>30以上</td><td>5以上</td><td>30以上</td><td>5以上</td><td>30以上</td></tr><tr><td>2</td><td>10以上</td><td>30以上</td><td>10以上</td><td>30以上</td><td>10以上</td><td>30以上</td></tr><tr><td>3</td><td>15以上</td><td>35以上</td><td>15以上</td><td>35以上</td><td>15以上</td><td>35以上</td></tr><tr><td>4</td><td>25以上</td><td>40以上</td><td>25以上</td><td>40以上</td><td>25以上</td><td>40以上</td></tr><tr><td>5</td><td>35以上</td><td>45以上</td><td>35以上</td><td>45以上</td><td>35以上</td><td>45以上</td></tr><tr><td>6</td><td>45以上</td><td>45以上</td><td>45以上</td><td>45以上</td><td>45以上</td><td>45以上</td></tr><tr><td colspan="2">閉じ速度 (秒)</td><td colspan="6">常温 (5～35℃) 無風状態において、開扉 (70°) から全閉 (0°) までの時間を5～8秒に調整できること。</td></tr><tr><td colspan="2">温度依存性 (℃)</td><td colspan="6">緩衝油の流動点は、JIS K 2269 (原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法) により測定し、－15℃以下であること。</td></tr><tr><td rowspan="2">ストッ プ力</td><td>ストッ プ入力</td><td colspan="2">60N・m以下 但し、コンシールド型は 200N・m以下</td><td colspan="2">100N・m以下</td><td colspan="2">100N・m以下</td></tr><tr><td>ストッ プ 解除力</td><td colspan="2">8N・m以上</td><td colspan="2">3N・m以上</td><td colspan="2">10N・m以上</td></tr><tr><td colspan="2">バックチェック 性能 (秒)</td><td colspan="6">ドア開扉方向に荷重60N/m² を開扉50° から負荷する。バックチェック機構のみ適用) バックチェック開始角度 (70～85°) から更に20° まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。</td></tr><tr><td colspan="2">ディレードアクション性能 (秒)</td><td colspan="6">開扉90° の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。</td></tr><tr><td colspan="2">戸の開鎖位置 (中心吊り込み 両自由のみに適用)</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">±3mm以内</td></tr><tr><td rowspan="3">耐久 性</td><td>繰返し開閉後の閉じモーメント (N・m)</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td></tr><tr><td>繰返し開閉後の効率 (%)</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td></tr><tr><td>繰返し開閉後の閉じ速度 (秒)</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">—</td></tr><tr><td colspan="2">繰返し開閉後のバックチェック 性能 (秒)</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">—</td></tr><tr><td colspan="2">繰返し開閉後のディレードアクション性能 (秒)</td><td colspan="2">耐久試験後も上記初期値を満足していること。</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">—</td></tr><tr><td colspan="2">繰り返し開閉後の戸開鎖位置 (mm)</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">—</td><td colspan="2">耐久試験後 ±6mm以内</td></tr><tr><td colspan="2">耐久性の試験回数 (繰り返し開閉回数)</td><td>Grade2</td><td>20万回</td><td>10万回</td><td colspan="3">30万回</td></tr></table>		区分	①ドアクローザ	②ヒンジクローザ	③フロアヒンジ	性能試験項目					初期 力及び効 率による 区分 (注1) (注2)	閉じ モーメント (N・m)	閉じ モーメント (N・m)	効率 (%)	閉じ モーメント (N・m)			効率 (%)	閉じ モーメント (N・m)	効率 (%)	1	5以上	30以上	5以上	30以上	5以上	30以上	2	10以上	30以上	10以上	30以上	10以上	30以上	3	15以上	35以上	15以上	35以上	15以上	35以上	4	25以上	40以上	25以上	40以上	25以上	40以上	5	35以上	45以上	35以上	45以上	35以上	45以上	6	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上	閉じ速度 (秒)		常温 (5～35℃) 無風状態において、開扉 (70°) から全閉 (0°) までの時間を5～8秒に調整できること。						温度依存性 (℃)		緩衝油の流動点は、JIS K 2269 (原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法) により測定し、－15℃以下であること。						ストッ プ力	ストッ プ入力	60N・m以下 但し、コンシールド型は 200N・m以下		100N・m以下		100N・m以下		ストッ プ 解除力	8N・m以上		3N・m以上		10N・m以上		バックチェック 性能 (秒)		ドア開扉方向に荷重60N/m ² を開扉50° から負荷する。バックチェック機構のみ適用) バックチェック開始角度 (70～85°) から更に20° まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。						ディレードアクション性能 (秒)		開扉90° の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。						戸の開鎖位置 (中心吊り込み 両自由のみに適用)		—		—		±3mm以内		耐久 性	繰返し開閉後の閉じモーメント (N・m)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		繰返し開閉後の効率 (%)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		繰返し開閉後の閉じ速度 (秒)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。		—		—		繰返し開閉後のバックチェック 性能 (秒)		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		—		—		繰返し開閉後のディレードアクション性能 (秒)		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		—		—		繰り返し開閉後の戸開鎖位置 (mm)		—		—		耐久試験後 ±6mm以内		耐久性の試験回数 (繰り返し開閉回数)		Grade2	20万回	10万回	30万回																																																																																																				
	区分	①ドアクローザ	②ヒンジクローザ	③フロアヒンジ																																																																																																																																																																																																																																																																										
性能試験項目																																																																																																																																																																																																																																																																														
初期 力及び効 率による 区分 (注1) (注2)	閉じ モーメント (N・m)	閉じ モーメント (N・m)	効率 (%)	閉じ モーメント (N・m)	効率 (%)	閉じ モーメント (N・m)	効率 (%)																																																																																																																																																																																																																																																																							
		1	5以上	30以上	5以上	30以上	5以上	30以上																																																																																																																																																																																																																																																																						
		2	10以上	30以上	10以上	30以上	10以上	30以上																																																																																																																																																																																																																																																																						
		3	15以上	35以上	15以上	35以上	15以上	35以上																																																																																																																																																																																																																																																																						
		4	25以上	40以上	25以上	40以上	25以上	40以上																																																																																																																																																																																																																																																																						
		5	35以上	45以上	35以上	45以上	35以上	45以上																																																																																																																																																																																																																																																																						
		6	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上																																																																																																																																																																																																																																																																						
閉じ速度 (秒)		常温 (5～35℃) 無風状態において、開扉 (70°) から全閉 (0°) までの時間を5～8秒に調整できること。																																																																																																																																																																																																																																																																												
温度依存性 (℃)		緩衝油の流動点は、JIS K 2269 (原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法) により測定し、－15℃以下であること。																																																																																																																																																																																																																																																																												
ストッ プ力	ストッ プ入力	60N・m以下 但し、コンシールド型は 200N・m以下		100N・m以下		100N・m以下																																																																																																																																																																																																																																																																								
	ストッ プ 解除力	8N・m以上		3N・m以上		10N・m以上																																																																																																																																																																																																																																																																								
バックチェック 性能 (秒)		ドア開扉方向に荷重60N/m ² を開扉50° から負荷する。バックチェック機構のみ適用) バックチェック開始角度 (70～85°) から更に20° まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。																																																																																																																																																																																																																																																																												
ディレードアクション性能 (秒)		開扉90° の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。																																																																																																																																																																																																																																																																												
戸の開鎖位置 (中心吊り込み 両自由のみに適用)		—		—		±3mm以内																																																																																																																																																																																																																																																																								
耐久 性	繰返し開閉後の閉じモーメント (N・m)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。																																																																																																																																																																																																																																																																								
	繰返し開閉後の効率 (%)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。																																																																																																																																																																																																																																																																								
	繰返し開閉後の閉じ速度 (秒)	耐久試験後も上記初期値を満足していること。		—		—																																																																																																																																																																																																																																																																								
繰返し開閉後のバックチェック 性能 (秒)		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		—		—																																																																																																																																																																																																																																																																								
繰返し開閉後のディレードアクション性能 (秒)		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		—		—																																																																																																																																																																																																																																																																								
繰り返し開閉後の戸開鎖位置 (mm)		—		—		耐久試験後 ±6mm以内																																																																																																																																																																																																																																																																								
耐久性の試験回数 (繰り返し開閉回数)		Grade2	20万回	10万回	30万回																																																																																																																																																																																																																																																																									
注1. パラレル取付けは、右記の閉じモーメントの70%程度までとする。																																																																																																																																																																																																																																																																														
注2. コンシールド型は右記の閉じモーメントの50%程度までとする。																																																																																																																																																																																																																																																																														
Grade1を選定する場合は、図示による。																																																																																																																																																																																																																																																																														
		<table><tr><td>○</td><td>鍵</td></tr><tr><td colspan="2">マスターキー</td></tr><tr><td colspan="2">製作する</td></tr><tr><td colspan="2">・既存のマスターキーに合わせる</td></tr><tr><td colspan="2">・監督職員との協議による</td></tr><tr><td colspan="2">製作しない</td></tr><tr><td colspan="2">・有</td></tr><tr><td colspan="2">・無</td></tr><tr><td colspan="2">[5. 7. 4]</td></tr><tr><td colspan="2">その他の鍵の製作本数</td></tr><tr><td colspan="2">・各室3本1組</td></tr><tr><td colspan="2">鍵箱</td></tr><tr><td colspan="2">・有</td></tr><tr><td colspan="2">・無</td></tr><tr><td colspan="2">[5. 8. 2、3]</td></tr><tr><td colspan="2">・自動ドア開閉装置</td></tr><tr><td colspan="2">・引き戸用駆動装置</td></tr><tr><td colspan="2">性能値</td></tr><tr><td colspan="2">・種類・開閉方式</td></tr><tr><td colspan="2">・耐電圧</td></tr><tr><td colspan="2">・温度上昇</td></tr><tr><td colspan="2">・耐久性 (サイクル)</td></tr><tr><td colspan="2">・防錆</td></tr><tr><td colspan="2">・防滴</td></tr><tr><td colspan="2">・電源</td></tr><tr><td colspan="2">※改修標準仕様書表5. 8. 1による</td></tr><tr><td colspan="2">・引き戸用検出装置</td></tr><tr><td colspan="2">性能値</td></tr><tr><td colspan="2">・放射無線周波数電磁界耐性</td></tr><tr><td colspan="2">・耐電圧</td></tr><tr><td colspan="2">・防錆</td></tr><tr><td colspan="2">・防滴</td></tr><tr><td colspan="2">・電源</td></tr><tr><td colspan="2">※改修標準仕様書表5. 8. 3による</td></tr><tr><td colspan="2">戸の開閉方式</td></tr><tr><td colspan="2">・建具表による</td></tr><tr><td colspan="2">引き戸検出装置の種類</td></tr><tr><td colspan="2">改修標準仕様書表5. 8. 4による</td></tr><tr><td colspan="2">・建具表による</td></tr><tr><td colspan="2">凍結防止措置</td></tr><tr><td colspan="2">・適用する</td></tr><tr><td colspan="2">・適用しない</td></tr><tr><td colspan="2">○</td></tr><tr><td colspan="2">自閉式上吊り引戸装置</td></tr><tr><td colspan="2">性能値等</td></tr><tr><td colspan="2">※改修標準仕様書表5. 9. 1による</td></tr><tr><td colspan="2">○</td></tr><tr><td colspan="2">手動開き力</td></tr><tr><td colspan="2">・手動閉じ力</td></tr><tr><td colspan="2">・閉じ速度の調整</td></tr><tr><td colspan="2">・制動区間</td></tr><tr><td colspan="2">・開閉繰返し</td></tr><tr><td colspan="2">・耐衝撃性</td></tr><tr><td colspan="2">※標準仕様書表5. 9. 1による</td></tr><tr><td colspan="2">(試験方法)</td></tr><tr><td colspan="2">(1) 耐久性 (開閉繰り返し) 試験</td></tr><tr><td colspan="2">閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸を開端位置から閉端位置までの作動を確認できる試験を行う。</td></tr><tr><td colspan="2">同試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。</td></tr><tr><td colspan="2">適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはメーカーの耐久性能試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認することで、試験に代えることができるものとする。</td></tr><tr><td colspan="2">(2) 耐衝撃性試験</td></tr><tr><td colspan="2">落下高さ17cmにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。</td></tr><tr><td colspan="2">(3) 気密性能試験</td></tr><tr><td colspan="2">JIS A 1516「建具の気密性試験方法」による。</td></tr><tr><td colspan="2">○</td></tr><tr><td colspan="2">ガラス</td></tr><tr><td colspan="2">性能値等</td></tr><tr><td colspan="2">※改修標準仕様書表5. 9. 1による</td></tr><tr><td colspan="2">○</td></tr><tr><td colspan="2">フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類</td></tr><tr><td colspan="2">・建具表による</td></tr><tr><td colspan="2">・型板ガラスの厚さによる種類</td></tr><tr><td colspan="2">・建具表による</td></tr><tr><td colspan="2">・網入り板ガラス及び線入り板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類</td></tr><tr><td colspan="2">・建具表による</td></tr><tr><td colspan="2">○</td></tr><tr><td colspan="2">合わせガラス</td></tr><tr><td colspan="2">1) 性能試験は、JIS A 1510-3 (建築用ドア金物の試験方法—第3部：フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ) に規定する試験方法による。</td></tr><tr><td colspan="2">2) 試験ドアの質量は、1番手は25kg、2番手は40kg、3番手は60kg、4番手は80kg、5番手は100kg、6番手は120kgとする。</td></tr><tr><td colspan="2">○</td></tr><tr><td colspan="2">合わせガラス</td></tr><tr><td colspan="2">材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びにガラスの合計厚さによる種類</td></tr><tr><td colspan="2">・建具表による</td></tr><tr><td colspan="2">形状による種類</td></tr><tr><td colspan="2">・平面合わせガラス</td></tr><tr><td colspan="2">・曲面合わせガラス</td></tr><tr><td colspan="2">落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類</td></tr><tr><td colspan="2">・Ⅰ類</td></tr><tr><td colspan="2">・Ⅱ類—1</td></tr><tr><td colspan="2">・Ⅱ類—2</td></tr><tr><td colspan="2">・Ⅲ類</td></tr><tr><td colspan="2">・強化ガラス</td></tr><tr><td colspan="2">形状による種類及び材料板ガラスの種類による名称</td></tr><tr><td colspan="2">・建具表による</td></tr><tr><td colspan="2">破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類</td></tr><tr><td colspan="2">・Ⅰ類</td></tr><tr><td colspan="2">・Ⅲ類</td></tr><tr><td colspan="2">・熱線吸収板ガラス</td></tr><tr><td colspan="2">板ガラスによる種類及び厚さによる種類</td></tr><tr><td colspan="2">・建具表による</td></tr><tr><td colspan="2">性能による種類</td></tr><tr><td colspan="2">・1種</td></tr><tr><td colspan="2">・2種</td></tr><tr><td colspan="2">・複層ガラス</td></tr><tr><td colspan="2">材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ</td></tr><tr><td colspan="2">・建具表による</td></tr><tr><td colspan="2">断熱性による区分</td></tr><tr><td colspan="2">・T1</td></tr><tr><td colspan="2">・T2</td></tr><tr><td colspan="2">・T3</td></tr><tr><td colspan="2">・T4</td></tr><tr><td colspan="2">・T5</td></tr><tr><td colspan="2">・T6</td></tr><tr><td colspan="2">日射取得性、日射遮蔽性による区分</td></tr><tr><td colspan="2">・G</td></tr><tr><td colspan="2">・S</td></tr><tr><td colspan="2">乾燥気体の種類</td></tr><tr><td colspan="2">・空気</td></tr><tr><td colspan="2">・アルゴン</td></tr><tr><td colspan="2">・熱線反射ガラス</td></tr><tr><td colspan="2">材料板ガラスの種類及び厚さによる種類</td></tr><tr><td colspan="2">・建具表による</td></tr><tr><td colspan="2">日射遮へい性による区分</td></tr><tr><td colspan="2">・1種</td></tr><tr><td colspan="2">・2種</td></tr><tr><td colspan="2">・3種</td></tr><tr><td colspan="2">耐久性による区分 (日射熱遮蔽性による区分が2種の場合)</td></tr><tr><td colspan="2">・A種</td></tr><tr><td colspan="2">・B種</td></tr><tr><td colspan="2">映像調整</td></tr><tr><td colspan="2">・行わない</td></tr><tr><td colspan="2">・行う</td></tr><tr><td colspan="2">・倍強度ガラス</td></tr><tr><td colspan="2">材料板ガラスの種類及び厚さによる種類</td></tr><tr><td colspan="2">・建具表による</td></tr></table>	○	鍵	マスターキー		製作する		・既存のマスターキーに合わせる		・監督職員との協議による		製作しない		・有		・無		[5. 7. 4]		その他の鍵の製作本数		・各室3本1組		鍵箱		・有		・無		[5. 8. 2、3]		・自動ドア開閉装置		・引き戸用駆動装置		性能値		・種類・開閉方式		・耐電圧		・温度上昇		・耐久性 (サイクル)		・防錆		・防滴		・電源		※改修標準仕様書表5. 8. 1による		・引き戸用検出装置		性能値		・放射無線周波数電磁界耐性		・耐電圧		・防錆		・防滴		・電源		※改修標準仕様書表5. 8. 3による		戸の開閉方式		・建具表による		引き戸検出装置の種類		改修標準仕様書表5. 8. 4による		・建具表による		凍結防止措置		・適用する		・適用しない		○		自閉式上吊り引戸装置		性能値等		※改修標準仕様書表5. 9. 1による		○		手動開き力		・手動閉じ力		・閉じ速度の調整		・制動区間		・開閉繰返し		・耐衝撃性		※標準仕様書表5. 9. 1による		(試験方法)		(1) 耐久性 (開閉繰り返し) 試験		閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸を開端位置から閉端位置までの作動を確認できる試験を行う。		同試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。		適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはメーカーの耐久性能試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認することで、試験に代えることができるものとする。		(2) 耐衝撃性試験		落下高さ17cmにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。		(3) 気密性能試験		JIS A 1516「建具の気密性試験方法」による。		○		ガラス		性能値等		※改修標準仕様書表5. 9. 1による		○		フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類		・建具表による		・型板ガラスの厚さによる種類		・建具表による		・網入り板ガラス及び線入り板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類		・建具表による		○		合わせガラス		1) 性能試験は、JIS A 1510-3 (建築用ドア金物の試験方法—第3部：フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ) に規定する試験方法による。		2) 試験ドアの質量は、1番手は25kg、2番手は40kg、3番手は60kg、4番手は80kg、5番手は100kg、6番手は120kgとする。		○		合わせガラス		材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びにガラスの合計厚さによる種類		・建具表による		形状による種類		・平面合わせガラス		・曲面合わせガラス		落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類		・Ⅰ類		・Ⅱ類—1		・Ⅱ類—2		・Ⅲ類		・強化ガラス		形状による種類及び材料板ガラスの種類による名称		・建具表による		破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類		・Ⅰ類		・Ⅲ類		・熱線吸収板ガラス		板ガラスによる種類及び厚さによる種類		・建具表による		性能による種類		・1種		・2種		・複層ガラス		材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ		・建具表による		断熱性による区分		・T1		・T2		・T3		・T4		・T5		・T6		日射取得性、日射遮蔽性による区分		・G		・S		乾燥気体の種類		・空気		・アルゴン		・熱線反射ガラス		材料板ガラスの種類及び厚さによる種類		・建具表による		日射遮へい性による区分		・1種		・2種		・3種		耐久性による区分 (日射熱遮蔽性による区分が2種の場合)		・A種		・B種		映像調整		・行わない		・行う		・倍強度ガラス		材料板ガラスの種類及び厚さによる種類		・建具表による	
○	鍵																																																																																																																																																																																																																																																																													
マスターキー																																																																																																																																																																																																																																																																														
製作する																																																																																																																																																																																																																																																																														
・既存のマスターキーに合わせる																																																																																																																																																																																																																																																																														
・監督職員との協議による																																																																																																																																																																																																																																																																														
製作しない																																																																																																																																																																																																																																																																														
・有																																																																																																																																																																																																																																																																														
・無																																																																																																																																																																																																																																																																														
[5. 7. 4]																																																																																																																																																																																																																																																																														
その他の鍵の製作本数																																																																																																																																																																																																																																																																														
・各室3本1組																																																																																																																																																																																																																																																																														
鍵箱																																																																																																																																																																																																																																																																														
・有																																																																																																																																																																																																																																																																														
・無																																																																																																																																																																																																																																																																														
[5. 8. 2、3]																																																																																																																																																																																																																																																																														
・自動ドア開閉装置																																																																																																																																																																																																																																																																														
・引き戸用駆動装置																																																																																																																																																																																																																																																																														
性能値																																																																																																																																																																																																																																																																														
・種類・開閉方式																																																																																																																																																																																																																																																																														
・耐電圧																																																																																																																																																																																																																																																																														
・温度上昇																																																																																																																																																																																																																																																																														
・耐久性 (サイクル)																																																																																																																																																																																																																																																																														
・防錆																																																																																																																																																																																																																																																																														
・防滴																																																																																																																																																																																																																																																																														
・電源																																																																																																																																																																																																																																																																														
※改修標準仕様書表5. 8. 1による																																																																																																																																																																																																																																																																														
・引き戸用検出装置																																																																																																																																																																																																																																																																														
性能値																																																																																																																																																																																																																																																																														
・放射無線周波数電磁界耐性																																																																																																																																																																																																																																																																														
・耐電圧																																																																																																																																																																																																																																																																														
・防錆																																																																																																																																																																																																																																																																														
・防滴																																																																																																																																																																																																																																																																														
・電源																																																																																																																																																																																																																																																																														
※改修標準仕様書表5. 8. 3による																																																																																																																																																																																																																																																																														
戸の開閉方式																																																																																																																																																																																																																																																																														
・建具表による																																																																																																																																																																																																																																																																														
引き戸検出装置の種類																																																																																																																																																																																																																																																																														
改修標準仕様書表5. 8. 4による																																																																																																																																																																																																																																																																														
・建具表による																																																																																																																																																																																																																																																																														
凍結防止措置																																																																																																																																																																																																																																																																														
・適用する																																																																																																																																																																																																																																																																														
・適用しない																																																																																																																																																																																																																																																																														
○																																																																																																																																																																																																																																																																														
自閉式上吊り引戸装置																																																																																																																																																																																																																																																																														
性能値等																																																																																																																																																																																																																																																																														
※改修標準仕様書表5. 9. 1による																																																																																																																																																																																																																																																																														
○																																																																																																																																																																																																																																																																														
手動開き力																																																																																																																																																																																																																																																																														
・手動閉じ力																																																																																																																																																																																																																																																																														
・閉じ速度の調整																																																																																																																																																																																																																																																																														
・制動区間																																																																																																																																																																																																																																																																														
・開閉繰返し																																																																																																																																																																																																																																																																														
・耐衝撃性																																																																																																																																																																																																																																																																														
※標準仕様書表5. 9. 1による																																																																																																																																																																																																																																																																														
(試験方法)																																																																																																																																																																																																																																																																														
(1) 耐久性 (開閉繰り返し) 試験																																																																																																																																																																																																																																																																														
閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸を開端位置から閉端位置までの作動を確認できる試験を行う。																																																																																																																																																																																																																																																																														
同試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。																																																																																																																																																																																																																																																																														
適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはメーカーの耐久性能試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認することで、試験に代えることができるものとする。																																																																																																																																																																																																																																																																														
(2) 耐衝撃性試験																																																																																																																																																																																																																																																																														
落下高さ17cmにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。																																																																																																																																																																																																																																																																														
(3) 気密性能試験																																																																																																																																																																																																																																																																														
JIS A 1516「建具の気密性試験方法」による。																																																																																																																																																																																																																																																																														
○																																																																																																																																																																																																																																																																														
ガラス																																																																																																																																																																																																																																																																														
性能値等																																																																																																																																																																																																																																																																														
※改修標準仕様書表5. 9. 1による																																																																																																																																																																																																																																																																														
○																																																																																																																																																																																																																																																																														
フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類																																																																																																																																																																																																																																																																														
・建具表による																																																																																																																																																																																																																																																																														
・型板ガラスの厚さによる種類																																																																																																																																																																																																																																																																														
・建具表による																																																																																																																																																																																																																																																																														
・網入り板ガラス及び線入り板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類																																																																																																																																																																																																																																																																														
・建具表による																																																																																																																																																																																																																																																																														
○																																																																																																																																																																																																																																																																														
合わせガラス																																																																																																																																																																																																																																																																														
1) 性能試験は、JIS A 1510-3 (建築用ドア金物の試験方法—第3部：フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ) に規定する試験方法による。																																																																																																																																																																																																																																																																														
2) 試験ドアの質量は、1番手は25kg、2番手は40kg、3番手は60kg、4番手は80kg、5番手は100kg、6番手は120kgとする。																																																																																																																																																																																																																																																																														
○																																																																																																																																																																																																																																																																														
合わせガラス																																																																																																																																																																																																																																																																														
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びにガラスの合計厚さによる種類																																																																																																																																																																																																																																																																														
・建具表による																																																																																																																																																																																																																																																																														
形状による種類																																																																																																																																																																																																																																																																														
・平面合わせガラス																																																																																																																																																																																																																																																																														
・曲面合わせガラス																																																																																																																																																																																																																																																																														
落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類																																																																																																																																																																																																																																																																														
・Ⅰ類																																																																																																																																																																																																																																																																														
・Ⅱ類—1																																																																																																																																																																																																																																																																														
・Ⅱ類—2																																																																																																																																																																																																																																																																														
・Ⅲ類																																																																																																																																																																																																																																																																														
・強化ガラス																																																																																																																																																																																																																																																																														
形状による種類及び材料板ガラスの種類による名称																																																																																																																																																																																																																																																																														
・建具表による																																																																																																																																																																																																																																																																														
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類																																																																																																																																																																																																																																																																														
・Ⅰ類																																																																																																																																																																																																																																																																														
・Ⅲ類																																																																																																																																																																																																																																																																														
・熱線吸収板ガラス																																																																																																																																																																																																																																																																														
板ガラスによる種類及び厚さによる種類																																																																																																																																																																																																																																																																														
・建具表による																																																																																																																																																																																																																																																																														
性能による種類																																																																																																																																																																																																																																																																														
・1種																																																																																																																																																																																																																																																																														
・2種																																																																																																																																																																																																																																																																														
・複層ガラス																																																																																																																																																																																																																																																																														
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ																																																																																																																																																																																																																																																																														
・建具表による																																																																																																																																																																																																																																																																														
断熱性による区分																																																																																																																																																																																																																																																																														
・T1																																																																																																																																																																																																																																																																														
・T2																																																																																																																																																																																																																																																																														
・T3																																																																																																																																																																																																																																																																														
・T4																																																																																																																																																																																																																																																																														
・T5																																																																																																																																																																																																																																																																														
・T6																																																																																																																																																																																																																																																																														
日射取得性、日射遮蔽性による区分																																																																																																																																																																																																																																																																														
・G																																																																																																																																																																																																																																																																														
・S																																																																																																																																																																																																																																																																														
乾燥気体の種類																																																																																																																																																																																																																																																																														
・空気																																																																																																																																																																																																																																																																														
・アルゴン																																																																																																																																																																																																																																																																														
・熱線反射ガラス																																																																																																																																																																																																																																																																														
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類																																																																																																																																																																																																																																																																														
・建具表による																																																																																																																																																																																																																																																																														
日射遮へい性による区分																																																																																																																																																																																																																																																																														
・1種																																																																																																																																																																																																																																																																														
・2種																																																																																																																																																																																																																																																																														
・3種																																																																																																																																																																																																																																																																														
耐久性による区分 (日射熱遮蔽性による区分が2種の場合)																																																																																																																																																																																																																																																																														
・A種																																																																																																																																																																																																																																																																														
・B種																																																																																																																																																																																																																																																																														
映像調整																																																																																																																																																																																																																																																																														
・行わない																																																																																																																																																																																																																																																																														
・行う																																																																																																																																																																																																																																																																														
・倍強度ガラス																																																																																																																																																																																																																																																																														
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類																																																																																																																																																																																																																																																																														
・建具表による																																																																																																																																																																																																																																																																														
ガラスの留め材及び溝の大きさ																																																																																																																																																																																																																																																																														
<table><tr><th>建具の種類</th><th>ガラス留め材</th><th>ガラス溝の大きさ (mm)</th></tr><tr><td>アルミニウム製</td><td>・シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形</td><td>・図示 ※建具製造所の仕様による</td></tr><tr><td>鋼製及び 鋼製軽量</td><td>・シーリング材</td><td>・図示 ※建具製造所の仕様による</td></tr><tr><td>ステンレス製</td><td>・シーリング材</td><td>・図示 ※建具製造所の仕様による</td></tr></table>		建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ (mm)	アルミニウム製	・シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形	・図示 ※建具製造所の仕様による	鋼製及び 鋼製軽量	・シーリング材	・図示 ※建具製造所の仕様による	ステンレス製	・シーリング材	・図示 ※建具製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																																																																	
建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ (mm)																																																																																																																																																																																																																																																																												
アルミニウム製	・シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形	・図示 ※建具製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																																																																												
鋼製及び 鋼製軽量	・シーリング材	・図示 ※建具製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																																																																												
ステンレス製	・シーリング材	・図示 ※建具製造所の仕様による																																																																																																																																																																																																																																																																												
種 類																																																																																																																																																																																																																																																																														
記 号																																																																																																																																																																																																																																																																														
内貼り用 外貼り用																																																																																																																																																																																																																																																																														
その他の性能等																																																																																																																																																																																																																																																																														
・日射調整フィルム																																																																																																																																																																																																																																																																														
・SC-1																																																																																																																																																																																																																																																																														
・SC-2																																																																																																																																																																																																																																																																														
・低放射フィルム																																																																																																																																																																																																																																																																														
・LE																																																																																																																																																																																																																																																																														
・衝撃破壊対応ガラス 飛散防止フィルム																																																																																																																																																																																																																																																																														
・GI-1																																																																																																																																																																																																																																																																														
・GI-2																																																																																																																																																																																																																																																																														
・層間変位破壊対応ガラス 飛散防止フィルム																																																																																																																																																																																																																																																																														
・GD-1																																																																																																																																																																																																																																																																														
・ガラス貫通防止フィルム																																																																																																																																																																																																																																																																														
・SF																																																																																																																																																																																																																																																																														
品質 JIS A 5759による。																																																																																																																																																																																																																																																																														

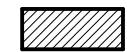
工 事 名	令和7年度 消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施 設 名	男 鹿 地 区 消 防 本 部		
図 面 名	建 築 工 事 特 記 仕 様 書 2		
作 成 年 月 日	令 和 7 年 3 月		
縮 尺	—	図 面 番 号	A -02
事 業 者 名	男 鹿 地 区 消 防 一 部 事 務 組 合		

[illegible]

[illegible]

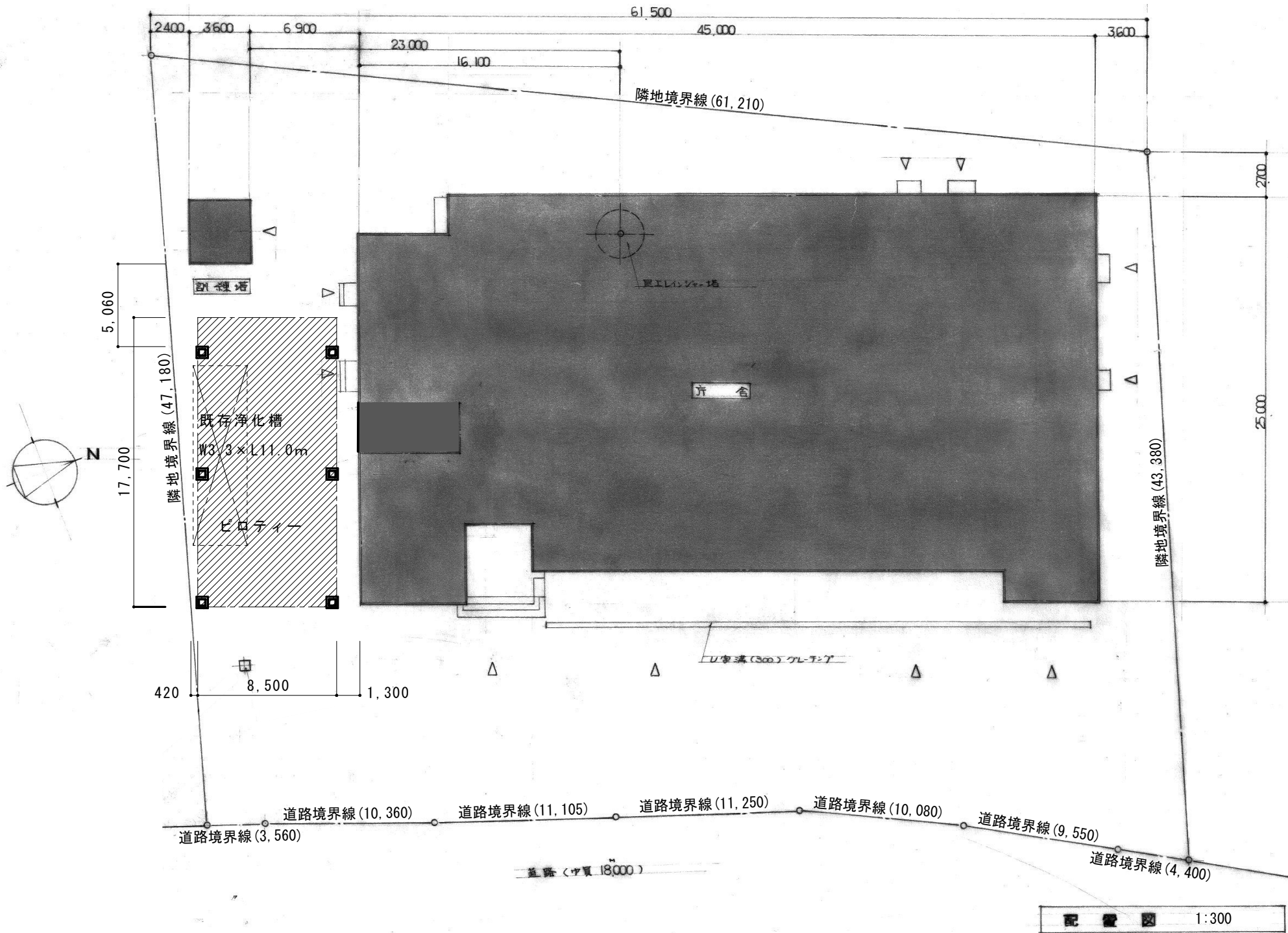
[illegible]

[illegible]

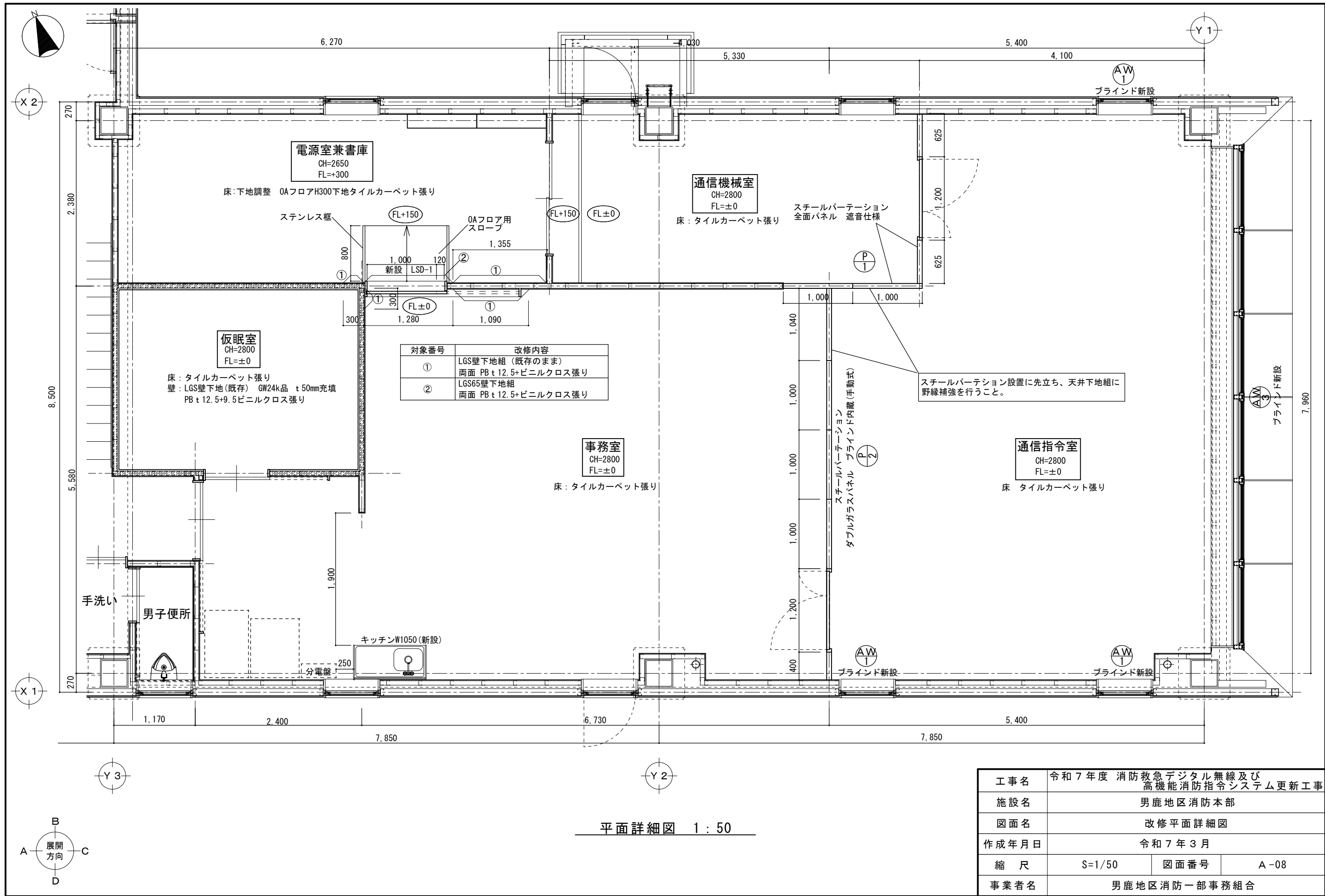


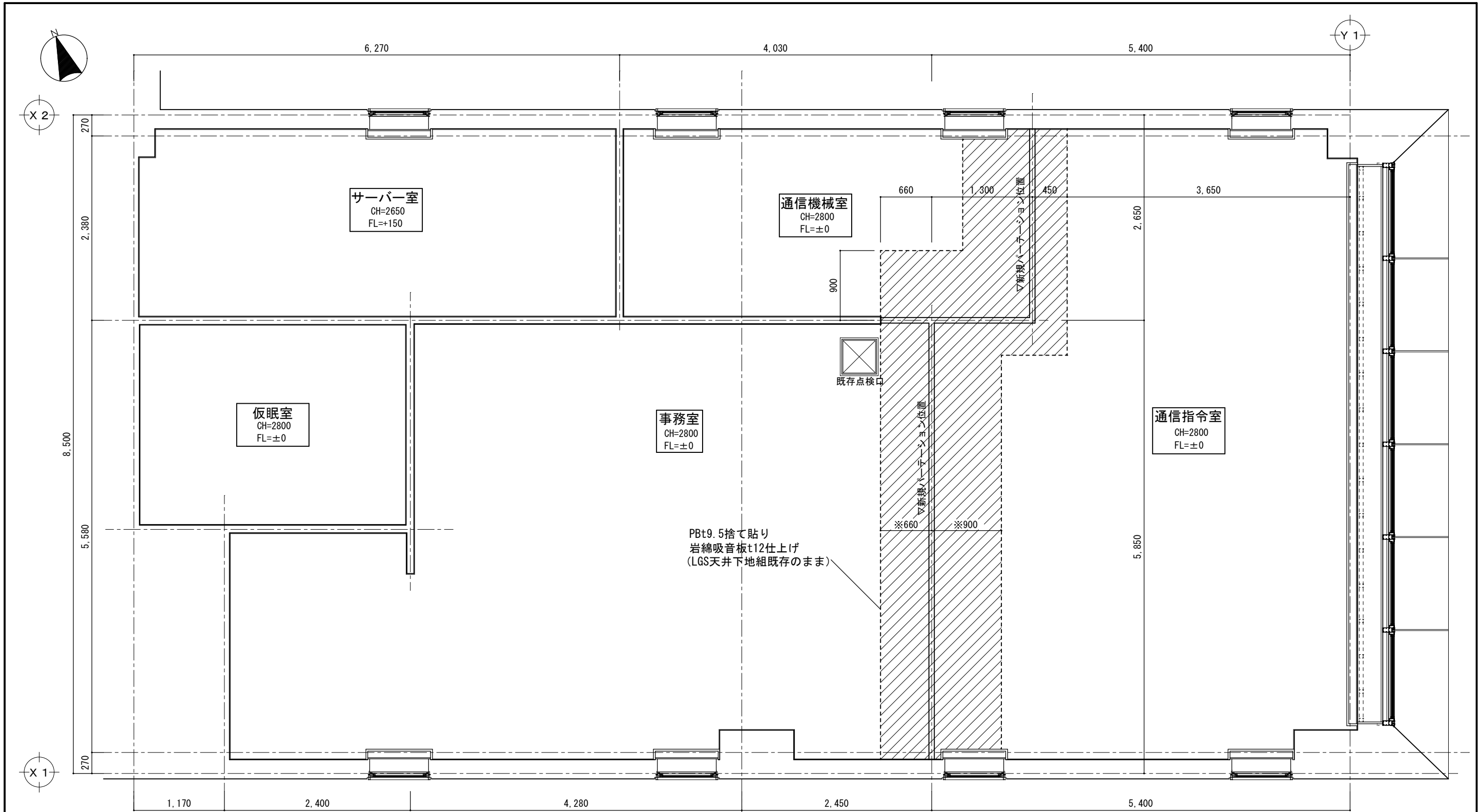
通信指令室改修工事部分

1階床面積：0.00㎡
2階床面積：30.40㎡
3階床面積：150.45㎡
計 180.85㎡



工事名	令和7年度 消防救急デジタル無線及び 高機能消防指令システム更新工事		
施設名	男鹿地区消防本部		
図面名	案内図・配置図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	S=1/300	図面番号	A-07
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合		





Y 3

天井開口補強リスト

室名	工事	名称	開口寸法	数量
事務室	機械	天井点検口	450×450	1
通信機械室	機械	天井点検口	450×450	1

※天井点検口（450×450）の位置は現場指示による
参考位置は、機械設備平面図による

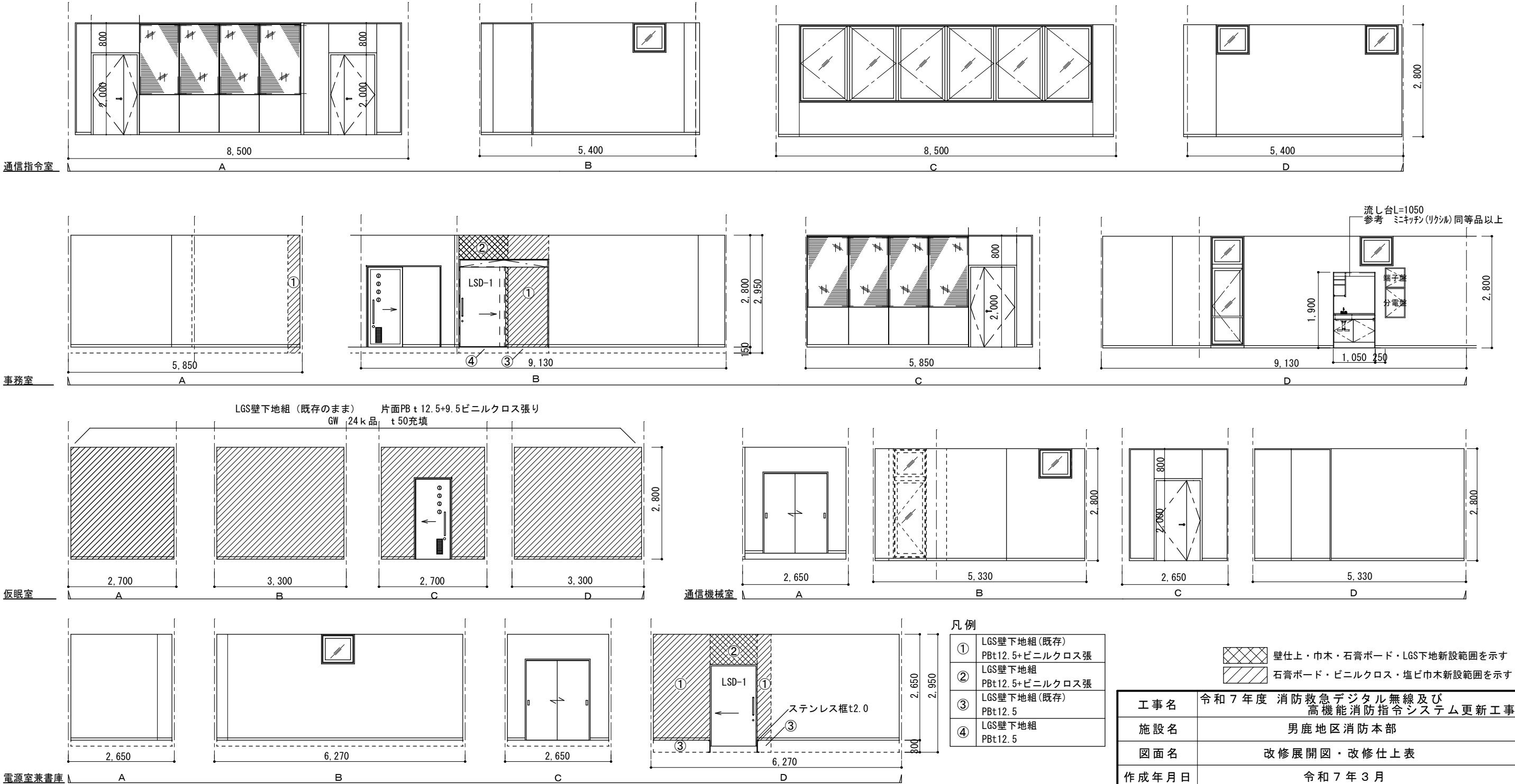
Y 2

改修天井伏図 1 : 50

※スチールパーテーション設置に先立ち、天井下地組に
野縁補強を行うこと。

工事名	令和7年度 消防救急デジタル無線及び 高機能消防指令システム更新工事		
施設名	男鹿地区消防本部		
図面名	改修天井伏図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	S=1/50	図面番号	A-09
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合		

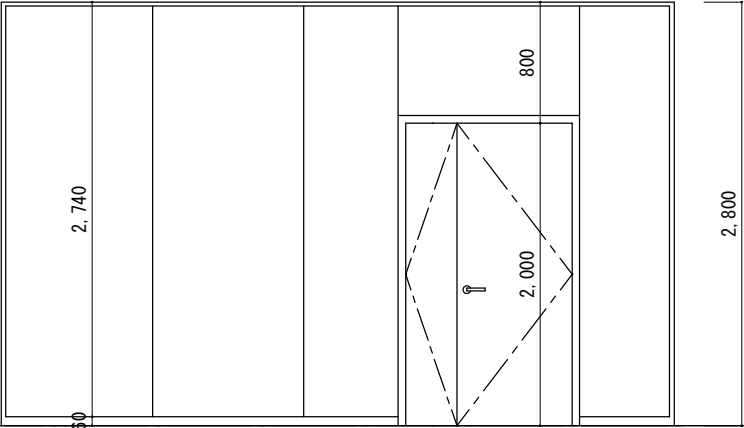
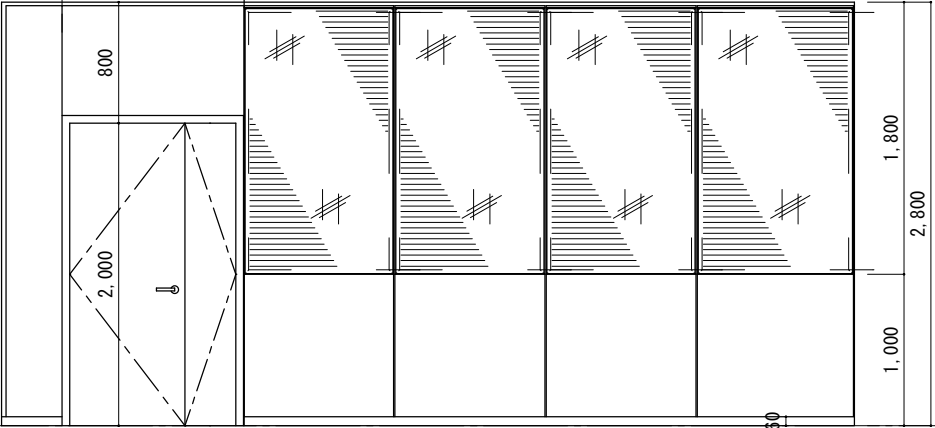
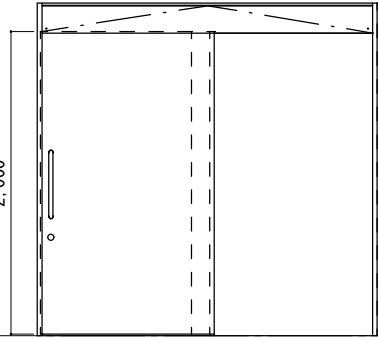
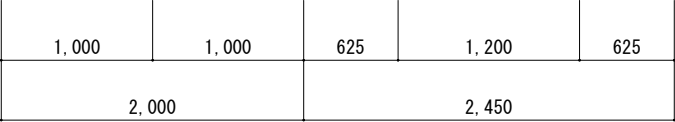
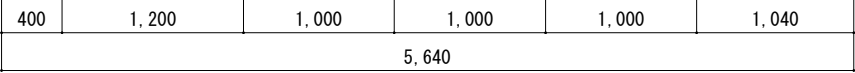
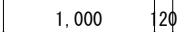
改修後室名	床	巾木	壁	天井	CH (FL+)	廻縁	備考
	改修仕上	改修仕上	改修仕上	改修仕上		改修仕上	
通信指令室	タイルカーペット t=6 既存0A707- H=150下地	ビニル巾木H=60 一部新設	既存のまま	一部PBt9.5捨て貼り岩綿吸音板t12仕上げ	2800	既存のまま	ブラインド（タチカワブラインド：横型ブラインド モノコム25高遮蔽同等品以上）
事務室	タイルカーペット t=6 既存0A707- H=150下地	ビニル巾木H=60 一部新設	一部LGS65+PB t 12.5下地ビニルクロス張り 一部PB t 12.5下地ビニルクロス張り	一部PBt9.5捨て貼り岩綿吸音板t12仕上げ	2800	塩ビ製一部新設	
通信機械室	タイルカーペット t=6 既存0A707- H=150下地	既存のまま	既存のまま	一部PBt9.5捨て貼り岩綿吸音板t12仕上げ	2800	既存のまま	
電源室兼書庫	タイルカーペット t=6 下地調整0A707- H=300	ビニル巾木H=60	一部LGS65+PB t 12.5下地ビニルクロス張り 一部PB t 12.5下地ビニルクロス張り	既存のまま	2650	塩ビ製一部新設	0Aフロアー：H=300(耐荷重3,000kN／㎡) 0Aフロアー用スロープ
仮眠室	タイルカーペット t=6 既存0A707- H=150下地	ビニル巾木H=60 一部新設	片面PB t 12.5+9.5下地ビニルクロス張り GW 24kg品 t 50mm充填	既存のまま	2800	塩ビ製一部新設	



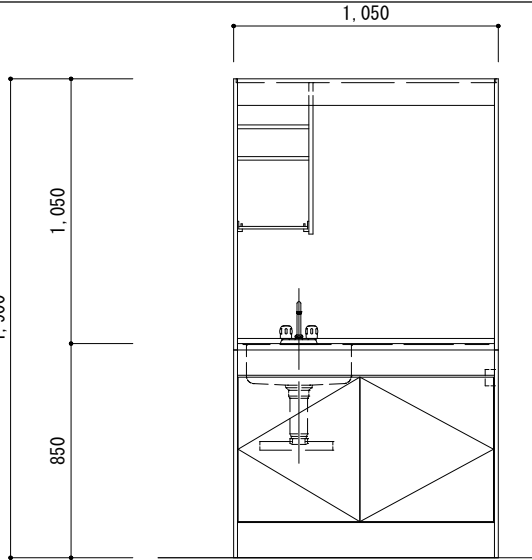
改修展開図 1 : 100

工事名	令和7年度 消防救急デジタル無線及び 高機能消防指令システム更新工事		
施設名	男鹿地区消防本部		
図面名	改修展開図・改修仕上表		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	S=1/100	図面番号	A-10
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合		

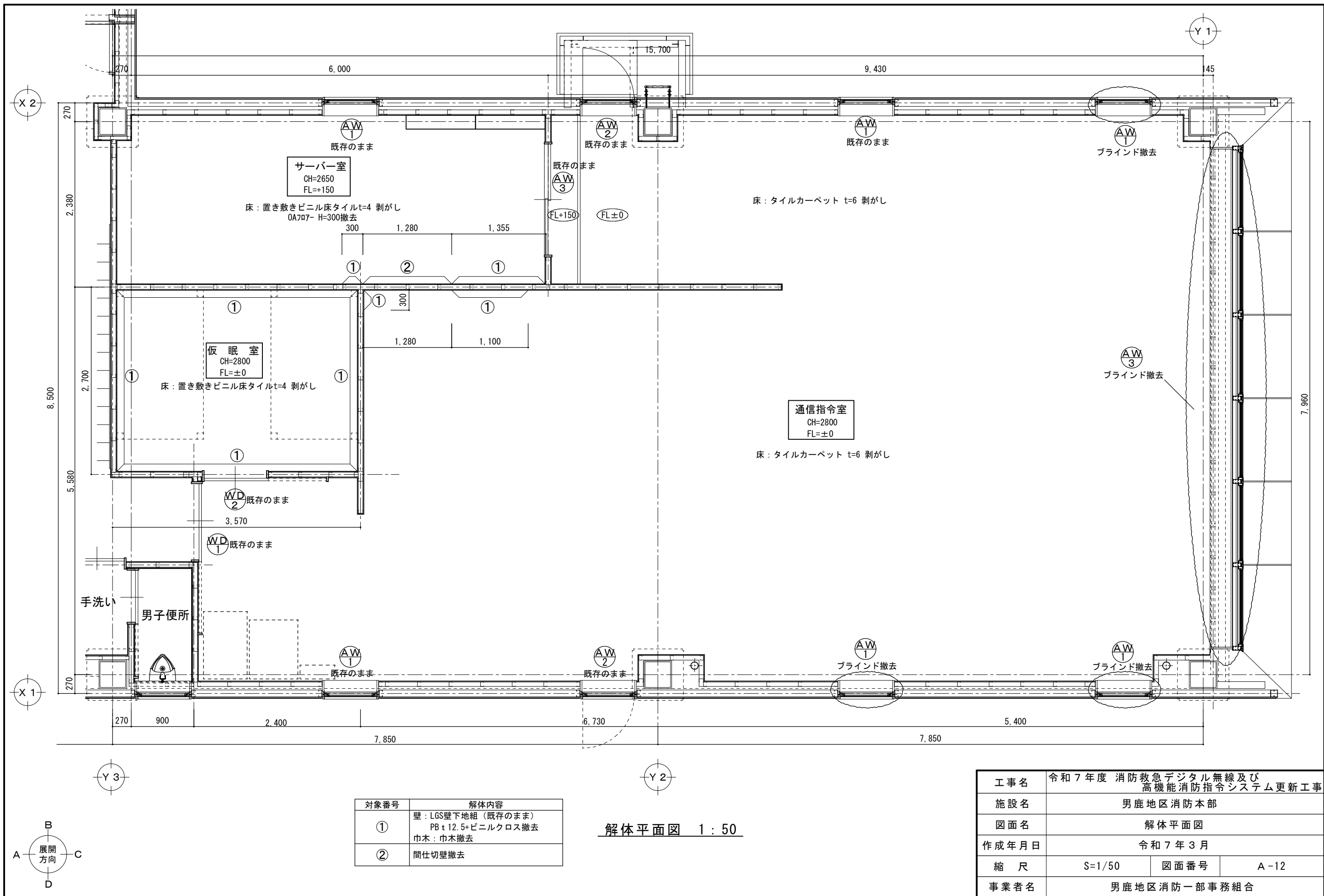
改修建具表 1/50

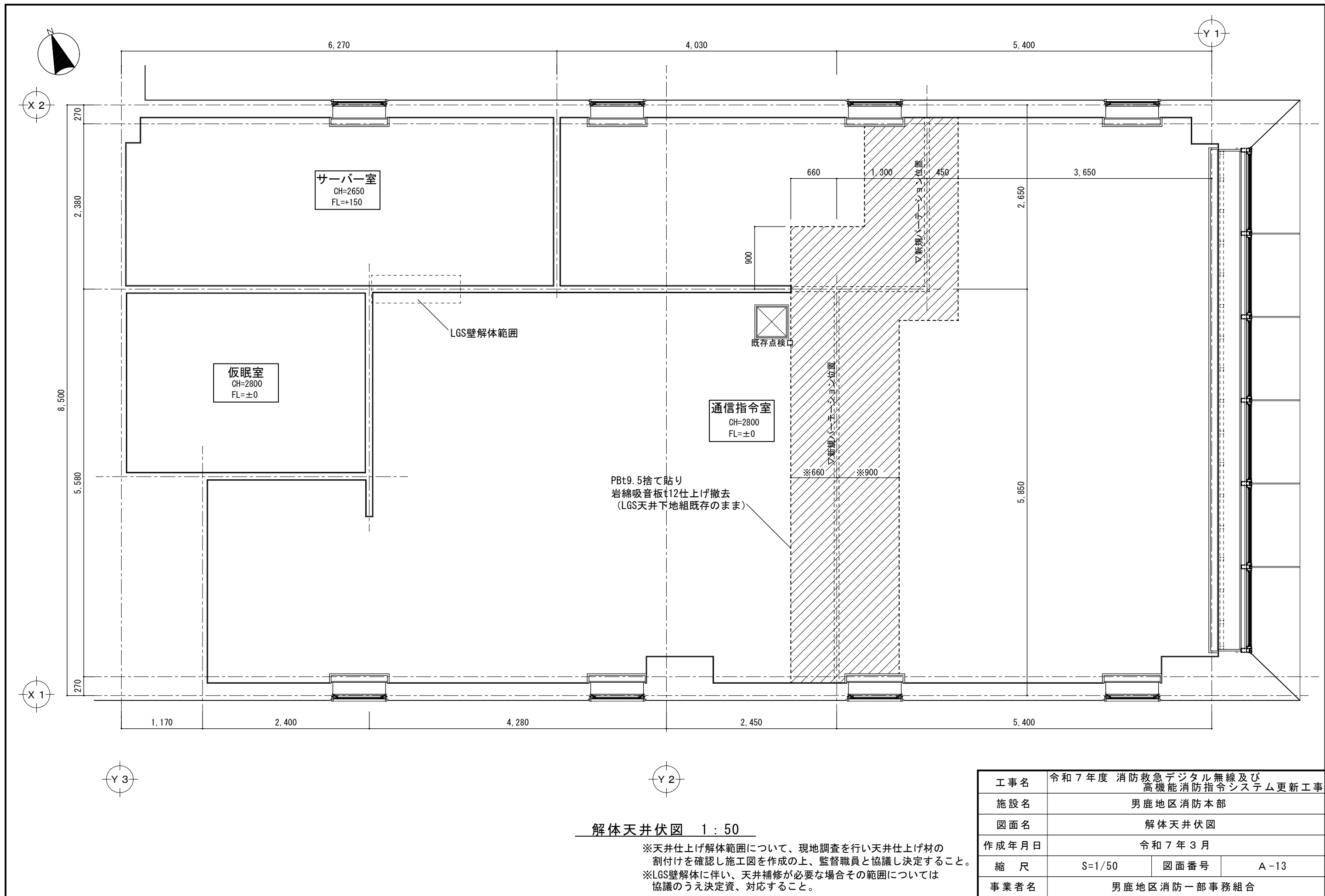
符号	場所	数量	P1	通信機械室	1	P2	通信指令室	1	LSD1	電源室兼書庫
姿 図										
										
			スチール製間仕切りパネル 全面パネル・遮音仕様		スチール製間仕切りパネル 腰上ダブルガラス・ブラインド内蔵パネル		片引きハンガーフラッシュ戸			
			親子ドア・ランマパネル		一部全面パネル（W400部） 親子ドア・ランマパネル					
			7 0		7 0		223(枠見込)			
			—		F8		—			
			焼付塗装		焼付塗装		焼付塗装			
			レバーハンドル シリンダー錠 付属金物一式		レバーハンドル シリンダー錠 付属金物一式		引き戸クローザー・シリンダー錠		ステンレス引手L=450 付属金物一式	
			—		機能：手動羽角度調整ダイヤル付（昇降機能ナシ）					

ユニット図 1/30

ユニット	キッチン
姿 図	
	ミニキッチン W1050×D500×H1900 コンロ無 電気温水器付 〈参考品 LIXIL:ミニキッチン〉

工事名	令和7年度 消防救急デジタル無線及び 高機能消防指令システム更新工事		
施設名	男鹿地区消防本部		
図面名	改修建具表・ユニット図		
作成年月日	令和7年3月		
縮 尺	S=1/30, 50	図面番号	A-11
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合		





解体天井伏図 1 : 50

※天井仕上げ解体範囲について、現地調査を行い天井仕上げ材の割付けを確認し施工図を作成の上、監督職員と協議し決定すること。
※LGS壁解体に伴い、天井補修が必要な場合その範囲については協議のうえ決定資、対応すること。

工事名	令和7年度 消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	男鹿地区消防本部		
図面名	解体天井伏図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	S=1/50	図面番号	A-13
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合		

機械設備改修工事 特記仕様書

I. 工事概要

1. 工事場所 秋田県男鹿市船川港船川字海岸通り2号12番地7

2. 建物概要

建物名称	構造	階数			国有財産面積 延面積 (㎡)	建築基準法上の 延面積 (㎡)	消防法施行令 別表第1の区分	備考
		地上	地下	塔屋				
男鹿地区消防本部	鉄骨造	3階				180.85	第15項	

3. 工事種目 (●印のついたものが対象工事)

建物別及び屋外		工 事 種 別						
工事種目	庁 舎							
● 空気調和設備	改設一式							
○ 冷房設備								
○ 暖房設備								
○ 換気設備								
○ 排煙設備								
○ 自動制御設備								
○ 衛生器具設備								
● 給水設備	改設一式							
● 排水設備	改設一式							
○ 給湯設備								
○ 消火設備								
○ 厨房機器設備								
○ ガス設備								
○ 浄化槽設備								

4. 指定部分 ● 無し ○ 有り 範囲： 工期：令和 年 月 日

5. 設備概要 (●印の付いたものを適用する。)

方式		設備概要			
空気調和方式等	● 空気調和	[既設]	● パッケージ空調方式	[改設]	● パッケージ空調方式
	○ 温風暖房	[既設]	○ 温風暖房機	○	[改設] ○
	○ 直接暖房				
自動制御方式	[既設]	○ 電気式	○	[改設]	○ 電気式 ○ 電子式 デジタル式
給水方式	[既設]	● 水道直結方式	○ ポンプ圧送方式	○	[改設] ○ ポンプ圧送方式 ● 水道直結方式
排水方式	建物内の汚水と雑排水 [既設] ○ 分流式 ● 合流式 [改設] ○ 分流式 ● 合流式 放流先 汚水 [既設] ○ 下水道直放流 ○ 浄化槽 [改設] ○ 下水道直放流 浄化槽 雑排水 [既設] ○ 下水道直放流 ○ 側溝 ○ 浄化槽 ○ 別途樹 [改設] ○ 浄化槽				
給湯方式	[既設]	○ 局所式	○ 中央式	[改設]	○ 局所式 ○ 中央式
消火設備方式	○ 屋内消火栓設備	[既設]	○ 湿式	○	[改設] ○ 湿式 ○ 窒素
	○ スプリンクラー設備	[既設]	○ 湿式	○	[改設] ○ 湿式
ガス設備方式	○ 都市ガス (種別	高位発熱量	MJ/㎡3 (N)、低位発熱量	MJ/㎡3 (N)、供給圧力	P a)
	○ 液化石油ガス				

II. 工事仕様

1. 共通仕様

- (1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（最新版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）及び国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（最新版）」（以下、「標準図」という。）による。ただし、改修標準仕様書に記載されていない事項は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（最新版）」（以下、「標準仕様書」という。）による。
- (2) 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。
なお、電気設備工事の工事仕様は（ ）図、建築工事の工事仕様は（ ）図による。
- (3) 請負者は完了検査（中間検査を含む）の検査には、建築主事等が求める検査に必要な資料等（報告書等）を用意すること。
- (4) ㊦ 印は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（以下「グリーン購入法」という）の特定調達品目を示す。
- (5) 標準仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・品質性能・工法・検査方法等を明示している場合において、それが関係法令等（条例を含む）に抵触する場合には、関係法令の遵守（1. 1. 14）の規定を優先する。

2. 特記仕様

●印の付いたものを適用し、○印の付いたものは適用しない。

章	項目	特記事項
● 一般共通事項	● 適用基準等 ○ 概成工期 ● 電気保安技術者 ● 官公署への手続き ● 施工条件	● 秋田県電子納品要領による。 工事期間より 日前 ○ 適用する ● 適用しない 工事の着手、施工、完成に当たり、関係官公署その他の関係機関への必要な届出手続等を遅滞なく行う。 ● 下記以外は工事補足説明書による。 設備機能 工事期間中停止させない機器 ● なし ○ 有り 工事車両の駐車場 ● 構内 ○ 資機材置場 ● 構内 ○ 建設発生土（埋戻し及び盛土用）の仮置場所 ○ 構内 ○ ○ 再使用する機器類は現場内で可能な洗剤による水洗等の清掃を行う。 ○ 再使用する機器類は取外し後に、1台ごとに劣化状況を目視点検し、FF暖房機は燃焼試験を行う。 ○ 現場において再利用を図るもの（ ） ○ 発注者に引渡を要するもの（ ○ 金属類（ ○ 機器類 ○ ダクト ○ 配管 ○ その他金属類 ）） ○ 特別管理産業廃棄物（ ○ 廃石綿 ○ ） ○ 再資源化を図るもの（ ○ ○ ○ ） ○ 下記の石綿含有産業廃棄物は、関係法令に従い適切に処理を行う。 ○ 保温材（石綿入りけいそう土保温材1号） ○ たわみ継手 ○ 保温外装材（アスベストセメント） ○ 煙道用パッキン（煙道伸縮部：石綿ロープ） ○ 保温外装材（特殊石綿板） ○ 煙道用パッキン（壁貫通部：アスベスト）
	● 再使用品の清掃等 ● 発生材の処理等	

● 一般共通事項

- 配管接合材（石綿ジョイントシート） ○ ダクトパッキン（石綿テープ）
- 上記以外の発生材は、可能な限り中間処理施設等において再利用・減量化を図るものとし、処理方法等は監督職員と協議する。
- 再利用、減量化等を含めた発生材の搬出処理費は今回工事範囲外とする。
- 特定建設資材の分別解体等及び再資源化等

本工事は、特定建設資材を用いた建築物等に係る解体工事又はその施工に特定建設資材使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日法律第104号。以下「建設リサイクル法」という。）施行令又は都道府県が条例で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適切な措置を講ずることとする。

工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難しい場合監督職員と協議するものとする。

また、分別解体・再資源化の完了時に、再資源化等が完了した年月日、再資源化等をした施設の名称及び所在地、再資源化等に要した費用を書面にて監督職員に報告する。

● 分別解体等の方法

工 程	作業内容	分別解体等の方法	
		手作業	手作業、機械作業併用
● 解体工事	● 建築設備の取り外し	●	○（理由： ）
	○ 内装材等の取り外し	○	○（理由： ）
	○ 屋根ふき材の取り外し	○	○（理由： ）
	○ 外装材の取り壊し	○	○
	○ 上部構造部分の取り壊し	○	○
	○ 基礎の取り壊し	○	○
	○ 基礎ぐいの取り壊し	○	○
	○ その他（ ）	○	○

工 程	作業内容	分別解体等の方法	
		手作業	手作業、機械作業併用
○ 増築工事 ○ 修繕 ● 模様替 ○ 工作物	○ 基礎の工事	○	○
	○ 基礎ぐいの工事	○	○
	○ 上部構造部分の工事	○	○
	○ 外装の工事	○	○
	○ 屋根の工事	○	○
	● 建築設備工事	●	○
	○ 内装等の工事	○	○
	○ その他（ 外構等 ）	○	

○ 特定建設資材廃棄物の発生材の処理

特定建設資材廃棄物の種類	再資源化等をする施設の名称・住所（Km）
○ コンクリート	
○ コンクリート及び鉄から成る建設資材	
○ 木材	
○ アスファルト・コンクリート	

● 特定建設資材廃棄物以外の発生材の処理

種類	再資源化	再資源化等をする施設の名称・住所（Km）
機械類	● する ○ しない	建築工事に準ずる
	● する ○ しない	
	● する ○ しない	

○ 建築工事の部

特定建設資材廃棄物以外の発生材の処理等

- 現場において再利用を図るもの（ ）
- 発注者に引渡を要するもの（ ○ 金属類 ○ PCB含有物 ○ ）
- 特別管理産業廃棄物（ ○ 廃石綿 ○ PCB含有物 ○ ）
（施設の名称、住所（km）： ）

○ PCB含有シーリング材の処理

- 1) 工事範囲 ○ 第一次判定 ○ 第二次判定 ○ 除去処理工事

2) 第一次判定

現場においてサンプルを採取し、日本シーリング工業会で分析を行うこと。

サンプル採取部位 ○ 外壁目地 ○ 外部建具周囲目地 ○ 図示

サンプル採取数 ○ 部位毎に各1箇所 ○ 図示

3) 第二次判定

現場においてサンプルを採取し、専門試験機関で分析を行うこと。

サンプル採取部位 ○ 外壁目地 ○ 外部建具周囲目地 ○ 図示

サンプル採取数 ○ 部位毎に各1箇所 ○ 図示

4) 除去処理工事

除去処理範囲 ○ 外壁面及び外部建具周囲 ○ 図示

○ 上記以外の発生材は、可能な限り中間処理施設等において再利用・減量化を図るものとし、処理方法等は監督職員と協議する。

○ 電気設備の部

特定建設資材廃棄物以外の発生材の処理等

- 現場において再利用を図るもの（ ）
- 発注者に引渡を要するもの（ ○ 金属類 ○ 盤類 ○ 電線、ケーブル ）
- 特別管理産業廃棄物（ ○ PCB使用機器 ○ ）
- 特別管理産業廃棄物の処理方法
○ PCB使用機器は関係法令等に従い適切に処理する。
○

○ 再資源化を図るもの（ ○ 蛍光ランプ ○ ）

○ 上記以外の発生材は、可能な限り中間処理施設等において再利用・減量化を図るものとし、処理方法等は監督職員と協議する。

○ 再利用、減量化等を含めた発生材の搬出処理費は今回工事範囲外とする。

● 材料・機材の品質等

● 一般共通事項

● 環境への配慮

● 技能士の適用

● 火気の使用

- 室内空気中の
化学物質の濃度測定

材料・機材等の品質及び性能

本工事に使用する材料・機材等は設計図書に定める品質及び性能を有するもの、又は同等のものとする。
ただし、製造業者等が記載されている場合に同等品を使用する場合は、あらかじめ監督職員の承諾を受ける。

別表に示す材料・機材等を使用する場合の製造業者等は次の1）から6）すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける。

- 1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。
- 2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。
- 3) 安定的な供給が可能であること。
- 4) 法令等で定めがある場合は、その許可、認可、認定又は免許を取得していること。
- 5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
- 6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること。（なお、システムとして機能するものにあっては、システムの構築能力があり、現場での施工体制が整えられていること。）

別 表 （品質及び性能に該当する材料・機材等）

鉄鉄製ボイラー	銅製簡易ボイラー	銅製小型ボイラー
銅製ボイラー	真空式温水発生機	無圧式温水発生機
チリングユニット	直置き吸収冷水機	小形吸収冷水機ユニット
遠心冷凍機	冷 却 塔	ユニット形空気調和機
ファンヒーター及びヒートポンプユニット	パッケージ形空気調和機	コンパクト形空気調和機
ガスエンジンヒートポンプ式空気調和機	エアフィルター（パナ形、折込み形、袋形）	自動巻取形エアフィルター
電気集じん器	全熱交換器（回転形、静止形）	遠心送風機（多翼形送風機）
斜流送風機	軸流送風機	消音ボックス付送風機
楕形遠心ポンプ	水中モーター（汚水用、雑排水用、汚物用）	立形遠心ポンプ
風量ユニット（定風量・変風量）	自動制御システム	衛生器具ユニット
FRP製パナルタンク	密閉形隔膜式膨張タンク（空調用、給湯用）	パナル鋼板製パナルタンク（溶接継ぎ形、ボルト継ぎ形）
スプリンクラー消火システム	不活性ガス消火システム	泡消火システム
厨房システム	マンホールふた・弁根ふた	

化学物質を発生させる建築材料等

本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の1）から5）を満たすものとする。

- 1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上り塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
- 2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
- 3) 接着剤はフタル酸ジエチル及びフタル酸ジエチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑性剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
- 4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
- 5) 上記1）、3）及び4）の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。

設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。

ホルムアルデヒド放散量 規制対象外 の場合

該当する建築材料

- 1) J I S及びJ A SのF☆☆☆☆品
- 2) 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品
- 3) 下記表示のあるJ A S適合品
- a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用
- b. 接着剤等不使用
- c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用
- d. ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
- e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用
- f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用

ホルムアルデヒド放散量 第三種 の場合

該当する建築材料

- 1) J I S及びJ A SのF☆☆☆☆品
- 2) 建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品
- 3) 旧J I SのE0品
- 4) 旧J A SのF C0品
- 配管施工（配管工事） ○ 建築板金施工（ダクト製作及び取付け） ● 熱絶縁施工（保温工事）
- 冷凍空調調和機器施工（チリングユニット、パッケージ形空気調和機の取付け及び整備）
- 建築物内での火気の使用は原則として行わない。
- 室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、監督職員に報告する。
- 測定はパッシブ型採取機器により行う。
- 測定時期 ○ 工事着手前 ○ 施工終了時
- 測定対象室 ○ 図示 ○
- 測定箇所数 ○ 図示 ○
- （採取サンプルは、アレデヒト用1個、VOC用1個の計2個で1箇所とする。）

工事名	令和7年度 消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	男 鹿 地 区 消 防 本 部		
図面名	機 械 設 備 工 事 特 記 仕 様 書 1		
作成年月日	令 和 7 年 3 月		
縮 尺	—	図面番号	M - 01
事業者名	男 鹿 地 区 消 防 一 部 事 務 組 合		

排水設備	● 配管材料	イ) 屋内汚水配管 既設●ビニル管（V P） ○鉛管 ○排水用塩ビライニング鋼管 改設●ビニル管（V P） ○鉛管 ○コーティング鋼管 ハ) 通気管 既設○ビニル管（V P） 改設○ビニル管（V P） ○ビニル管（R F－V P）（※2） ホ) ポンプアップ排水 排水用ノンタールエポキシ塗装鋼管 図示の箇所に取り付ける。 台所流し等の床上露出部分の配管は、ビニル管（R F－V P）（※2）でもよい。 （※2：グリーン購入法における判断の基準を満たすもの）	ロ) 屋内雑排水管 既設●ビニル管（V P） ○鉛管 ○排水用塩ビライニング鋼管 改設●ビニル管（V P） ○鉛管 ○排水用塩ビライニング鋼管 ニ) 屋外汚水、雑排水管 既設○コンクリート管○ビニル管（V P） 改設○ビニル管（R F－V P）（※2） ○コンクリート管
	○ 満水試験継手 ○ 台所流し等の排水管		

● 設備概要	
空調設備	パッケージ空調機を設置する。既存空調機の冷媒ガスは引き抜き破壊処理とする。
衛生設備	流し設置に伴い給排水管を増設する。
共通	各工事に伴い不要な設備を撤去、発生材を適切に処分する。
撤去	保温材はグラスウールを使用する。厚さ、仕上げは共通仕様書に依る。
保温材	

凡例

名 称	記 号	名 称	記 号	名 称	記 号
給水管		弁・コック		散水栓	
排水管		逆止め弁		シャワー	
通気管		減圧弁		洗浄弁	
給油管		埋設弁		床上掃除口	
返油管		ストレーナ		床下掃除口	
冷媒管		Y形ストレーナ		通気金具	
ドレン管		圧力計		排水金物	
給湯管		連成圧力計		排水目皿	
返湯管		量水器		共栓付き排水金物	
LPGガス管		ボールタップ		間接排水受け	
消火管		水栓		ため樹	
		混合栓		汚水樹	
空調給気ダクト					
空調還気ダクト					
空調外気ダクト					
空調排気ダクト					
換気送気ダクト					
換気排気ダクト					

破線表示配管類、機器類は既存品を示す。

工事名	令和7年度 消防救急デジタル無線及び高機能消防指令システム更新工事		
施設名	男鹿地区消防本部		
図面名	機械設備工事 特記仕様書3		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	—	図面番号	M-03
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合		

更 新

注記：

電気容量は、見積参考とし採用製作所に変更する事。インバーター方式とする。

グリーン購入法の区分に該当する機種は、グリーン購入法基準を満たすものとする。

冷房暖房能力及び消費電力はJIS B 8616 に規定された定格条件による。()の数値は参考とする。

制御配線、屋内外連絡配線 は既存品を流用する。 ドレンアップポンプ等の配線は本工事に含む。 室内外機設置用下地補強は必要に応じて行う事。

機器符号	機 器 名 称	機 器 仕 様		電気容量(参考)			台数	設 置 場 所	架台・基礎	備 考
				相	電圧:V	容量:KW				
ac-1	空冷ヒートポンプエアコン インバータ室外機 耐塩害仕様	形式	壁掛型 寒冷地用仕様 シングル	1	100	0.53	1	仮眠室	ステンレス製室外機銅製壁掛け架台（防振付） 亜鉛溶融メッキ（耐塩）製防雪吹出フード付 室外機SUS製ドレンパン付	既設冷媒管 6.4/9.5 使用 冷媒ガスR32 参考品番 MSZ-NXV2525E-W
		冷房能力	2.5 KW			(冷房定格)				
		暖房能力	2.8 KW			0.625				
		付属品	ワイヤレスリモコン ・ホルダー他			(暖房定格)				
		圧縮機	650W							
ac-2	空冷ヒートポンプパッケージ空調機 インバータ室外機 耐重塩害仕様	形式	壁掛型 シングル	3	200	1.26	1	通信機器室	ステンレス製室外機銅製壁掛け架台（防振付） 亜鉛溶融メッキ（耐塩）製防雪吹出ガイド付 室外機SUS製ドレンパン付	既設冷媒管 6.4/12.7 使用 冷媒ガスR32 参考品番 PKZ-ZRMP50LL4 室外機重量 45Kg
		冷房能力	4.5 kW			(冷房定格)				
		暖房能力	5.0 kW			1.42				
		付属品	ワイヤレスリモコン ・ホルダー他			(暖房定格)				
		圧縮機	0.8 kW							
ac-3	空冷ヒートポンプパッケージ空調機 インバータ室外機 耐重塩害仕様	形式	天吊露出型 寒冷地用仕様 シングル	3	200	4.87	1 1	通信指令室 事務室	ステンレス製室外機銅製壁掛け架台（防振付） 亜鉛溶融メッキ（耐塩）製防雪吹出フード付 室外機SUS製ドレンパン付 室内機既存支持材流用	既設冷媒管 9.5/15.9 使用 冷媒ガスR32 参考品番 PCZ-HRMP160K4 ドレンアップPAC-SJ84DM 室外機重量 113Kg
		冷房能力	14KW			(冷房定格)				
		暖房能力	16KW			4.65				
		付属品	ドレンアップメカ、ワイヤードリモコン他			(暖房定格)				
		圧縮機	3.1 KW							
						ブレーカ 40A				

既設撤去

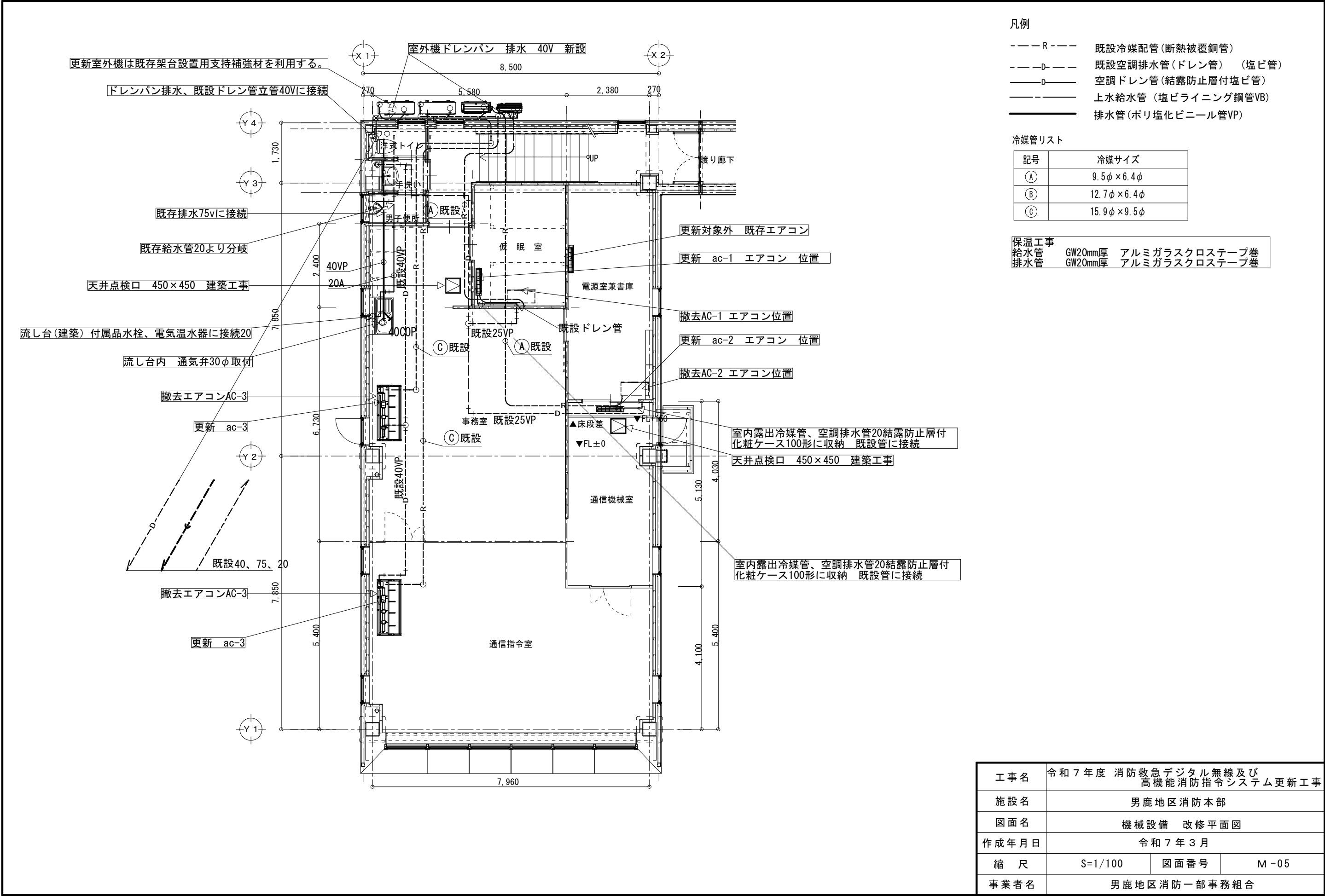
注記：

撤去品適切に処分すること。冷媒ガスは回収破壊処分とする。

制御配線、屋内外連絡配線 は更新時流用する。

機器符号	機 器 名 称	機 器 仕 様		電気容量(参考)			台数	設 置 場 所	架台・基礎	備 考
				相	電圧:V	容量:KW				
AC-1	空冷ヒートポンプエアコン	形式	壁掛型 寒冷地用仕様 シングル	1	200	0.485	1	仮眠室	亜鉛溶融メッキ室外機銅製壁掛け架台	既設冷媒管 6.4/9.5 冷媒フロンR-410A 1Kg 三菱電機製
		冷房能力	2.5 KW			(冷房定格)				
		暖房能力	2.8 KW			2.88				
		付属品	ワイヤレスリモコン ・ホルダー他			(暖房定格)				
		圧縮機	750 W							
AC-2	空冷ヒートポンプパッケージ空調機	形式	壁掛型 シングル	3	200	1.44	1	サーバー室	亜鉛溶融メッキ室外機銅製壁掛け架台	既設冷媒管 6.4/12.7 冷媒フロンR-410A 2.4Kg 三菱電機製
		冷房能力	4.5 kW			(冷房定格)				
		暖房能力	5.0 kW			1.62				
		付属品	ワイヤレスリモコン ・ホルダー他			(暖房定格)				
		圧縮機	0.9 kW							
AC-3	空冷ヒートポンプパッケージ空調機	形式	天吊露出型 寒冷地用仕様 シングル	3	200	4.07	2	通信指令室	亜鉛溶融メッキ室外機銅製壁掛け架台	既設冷媒管 9.5/15.9 冷媒フロンR-410A 4.9Kg 三菱電機製
		冷房能力	14KW			(冷房定格)				
		暖房能力	16KW			6.24				
		付属品	ドレンアップメカ、ワイヤードリモコン他			(暖房定格)				
		圧縮機	4.2 KW							
		耐重塩害仕様								

工事名	令和7年度 消防救急デジタル無線及び 高機能消防指令システム更新工事		
施設名	男鹿地区消防本部		
図面名	機器表		
作成年月日	令和7年3月		
縮 尺	－	図面番号	M-04
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合		



- 凡例
- R --- 既設冷媒配管(断熱被覆銅管)
 - D --- 既設空調排水管(ドレン管) (塩ビ管)
 - D --- 空調ドレン管(結露防止層付塩ビ管)
 - VB --- 上水給水管 (塩ビライニング鋼管VB)
 - VP --- 排水管(ポリ塩化ビニール管VP)

冷媒管リスト

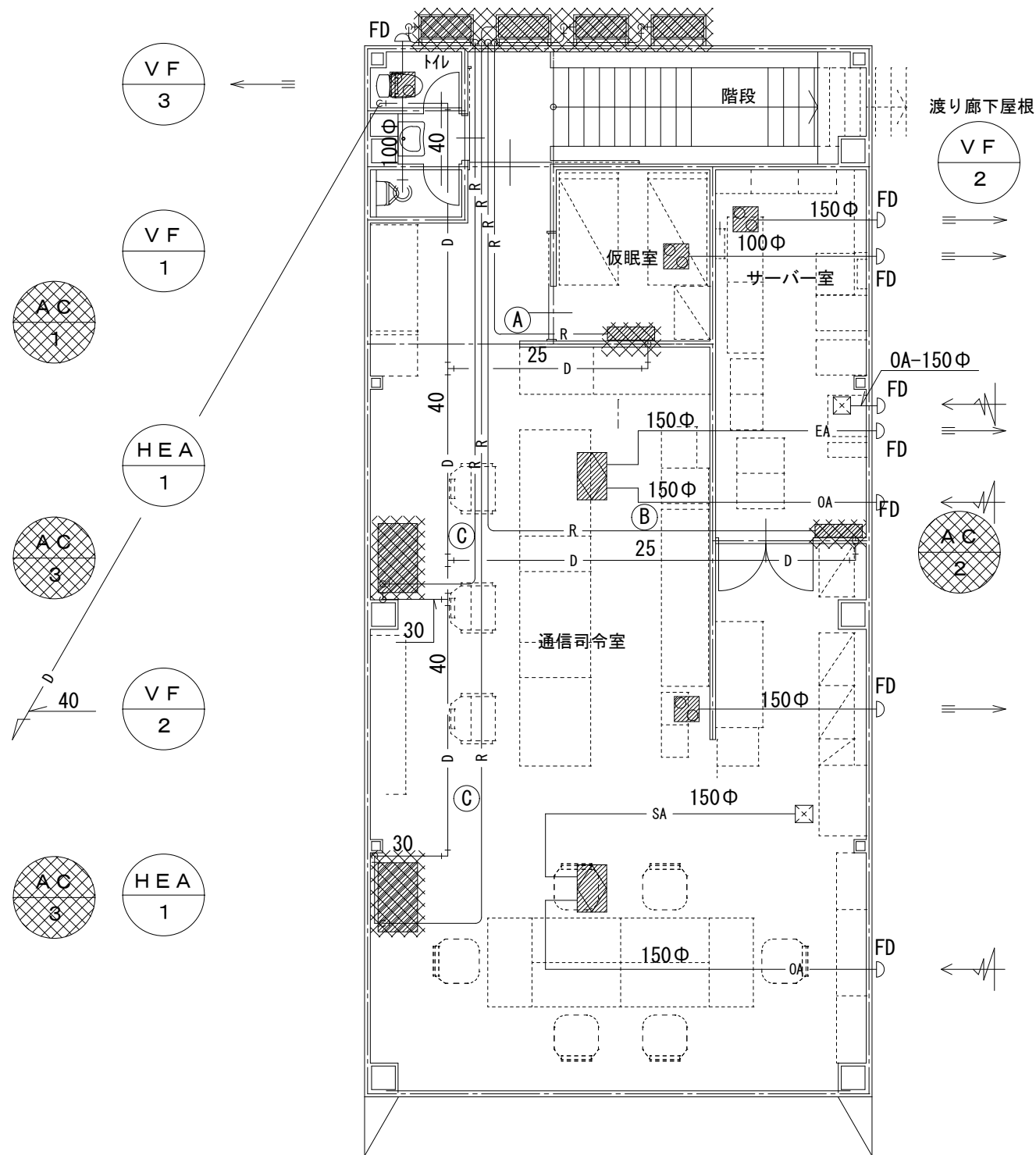
記号	冷媒サイズ
Ⓐ	9.5φ×6.4φ
Ⓑ	12.7φ×6.4φ
Ⓒ	15.9φ×9.5φ

保温工事

給水管	GW20mm厚	アルミガラスクロステープ巻
排水管	GW20mm厚	アルミガラスクロステープ巻

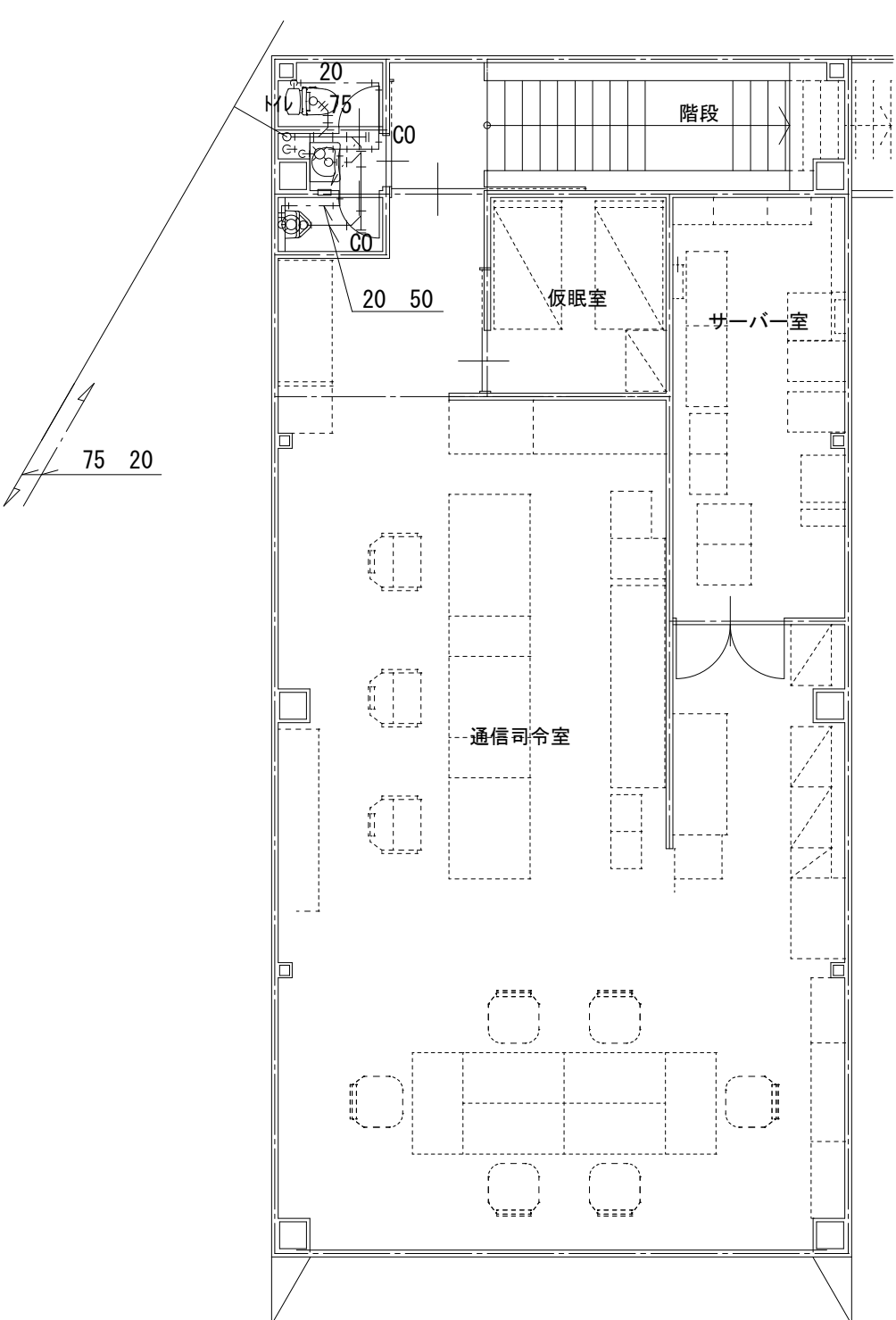
工事名	令和7年度 消防救急デジタル無線及び 高機能消防指令システム更新工事		
施設名	男鹿地区消防本部		
図面名	機械設備 改修平面図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	S=1/100	図面番号	M-05
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合		

空調設備平面図 S=1/100



注記  撤去機器を示す。

給排水設備 平面図 S=1/100



工事名	令和7年度 消防救急デジタル無線及び 高機能消防指令システム更新工事		
施設名	男鹿地区消防本部		
図面名	機械設備 既存図		
作成年月日	令和7年3月		
縮尺	S=1/100	図面番号	M-06
事業者名	男鹿地区消防一部事務組合		